

# 宿横手三波川遺跡 西横手遺跡群

主要地方道前橋・長湍線地方特定道路整備事業に  
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002

群 馬 県

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 宿横手三波川遺跡 西横手遺跡群

主要地方道前橋・長湍線地方特定道路整備事業に  
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002

群 馬 県  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団





## 序

「宿横手三波川遺跡・西横手遺跡群」は、主要地方道前橋・長瀬線地方特定道路整備事業に伴い発掘調査された高崎市宿横手町と西横手町にかけて所在する遺跡の発掘調査報告書です。発掘調査は平成8年度から平成10年度にかけて行い、平成13年度から平成14年度にかけて整理事業を群馬県から委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が行いました。

発掘調査を行った二遺跡は、前橋台地のほぼ中央に位置し、「坂東太郎」の呼称で知られる利根川がすぐ東脇を流れています。発掘調査では、この利根川の変流に伴う洪水層やそれ以降の度重なる洪水層を確認しました。また群馬県を代表する浅間山や榛名山の噴火火山灰層や泥流層など多くの災害層を確認しました。この地域が群馬県内でも数多く自然災害に見舞われた地域だということがわかりました。そして、この災害層の下から古墳時代前期以降、近世まで営々と営まれた水田や畠などの農耕遺構が発見され、それぞれの時代の農業の様子が明らかにされ、我々に災害から復旧にかけた当時の人々の努力を伝えてくれます。

これらを盛り込んだ本報告書は、考古学研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をお持ちの県民の皆様の研究にも大いに役立つものと確信しております。

最後になりますが、群馬県土木部、群馬県教育委員会文化スポーツ部文化財保護課、高崎市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り心から感謝の意を表すと共に、発掘調査に携わった作業員の方々の労をねぎらい序とします。

平成15年3月26日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 小野 宇三郎



## 例 言

1. 本書は、主要地方道前橋・長沼線地方特定道路整備事業に伴い事前調査された「宿横手三波川遺跡・西横手遺跡群」の発掘調査報告書である。
2. 遺跡は、群馬県高崎市宿横手町内及び同市西横手町地内に所在する。
3. 事業主体 群馬県土木部
4. 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 宿横手三波川遺跡・西横手遺跡群 平成8年11月1日～平成10年3月31日
6. 調査組織 理事長 小寺弘之、菅野清 常務理事 菅野清 事務局長 原田恒弘、赤山容造  
管理部長 鎌果実、渡辺健 調査研究第1部長 赤山容造 調査研究第2部長 神保衛史  
総務課長 小溝淳、坂本敏夫 調査研究第1課長 平野進一 調査研究第6課長 右島和夫、佐藤明人  
総務課員 井上 剛、国定均、笠原秀樹、小山建夫、須田朋子、吉田有光、宮崎忠司、柳岡良宏、岡島伸昌  
非常勤嘱託員 大澤友治 事務補助員 吉田恵子、並木綾子、今井もと子、松井美智代、内山桂子、星野美智子、羽鳥京子、菅原淑子、山口陽子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、本地友美、狩野真子、松下次男、浅見宣記、山本正司、吉田茂、若田誠  
発掘調査担当（平成8年度）女屋和志雄、南雲芳明、内田敬久（平成9年度）谷藤保彦、壘 伸明、南雲芳明、安藤剛志 嘱託員 勢藤 力（平成10年度）大江正行、安藤剛志、茂木 剛
7. 整理主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
8. 整理期間 平成13年4月1日から平成15年3月31日
9. 整理組織 理事長 小野宇三郎 常務理事 吉田 豊、赤山容造 事務局長 赤山容造  
事業局長 神保衛史 管理部長 住谷進、萩原利通 調査研究部長 能登健、中 隆之  
総務課長 坂本敏夫、大島信夫、植原恒夫 資料整理課長 西田健彦 課員 笠原秀樹、小山建夫、高橋房雄、須田朋子、吉田有光、森下弘美、片岡徳雄、田中賢一  
事務補助員 吉田恵子、並木綾子、今井もと子、内山桂子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、松下次男、吉田茂、若田誠、藤原正義  
整理担当 齋藤利昭 遺物写真撮影 佐藤元彦 整理嘱託員 土橋まり子 整理補助員 阿部和子、大野容子、掛川智子、高橋裕美、田中のふ子、長岡美和子、小村浩一、高橋初美、藤井文江、横倉知子、新井雅子、儘田澄子
10. 本書の執筆 遺物観察は大江正行が行い、一部齋藤が行った。骨の鑑定分析については、橋崎修一郎が行った。それ以外の本文執筆及び編集を齋藤が行った。
11. 記録保存図 1/20の縮尺を基本として作図した。広範な図は空中写真測量等を行い（株）測研、技研測量設計（株）、（株）横田調査設計等に委託した。また基準測量も同様に業者委託を行った。
12. 記録写真 遺構写真は発掘調査担当者が行い、遺跡全景は空中写真撮影や高所作業車を用いた。
13. 鑑定分析 石材鑑定は飯島静夫氏（群馬地質研究会）にお願いし、樹種鑑定を（株）パレオ・ラボ、自然科学分析を（株）古環境研究所、バリノ・サーヴェイ（株）に委託した。また、遺構・遺物のトレースを株式会社測研に委託した。
14. 本遺跡の出土遺物及び図面写真等の資料は一括して群馬県埋蔵文化財センターに保管してある。

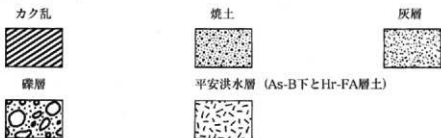
## 凡 例

1. 挿図中に使用した方位は、座標北を表している。座標系は、国家座標第IX系である。
2. 遺構断面実測図、等高線に記した数値は標高を表し、単位は、mを用いた。
3. 遺構名称は、調査時の番号を尊重した。また本文中（第2章）では、節毎に調査面単位で報告を行う。調査面の名称は遺跡及び調査区で異なる。
4. 遺構・遺物の実測図の縮尺は原則として下記の通りとし、各図にスケールを入れた。  
 遺構 掘立柱建物（平面図・断面図）1：80 土坑（平面図・断面図）1：40  
 溝（平面図）1：100、1：150、1：200、（断面図）1：50  
 水田（平面図）1：100、1：200、（断面図）1：50  
 その他の遺構については、逐一縮尺率を示した。  
 遺物 土器1：3、1：4、石器1：2、古銭1：1、土製品1：2
5. 遺構の方位は、座標北を基準に傾きを計測した。東に傾いた場合N-○°-Eと表記した。
6. 本書では、テフラの呼称として下記の略語を用いる。

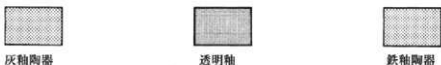
テフラ等の名称	略 語	給 源	年 代	トーン
浅間A軽石	As-A	浅間山	1783(天明3)年	
浅間Bテフラ	As-B	浅間山	1108(天仁元)年	
榛名ニツ岳伊香保テフラ	Hr-FP	榛名山	6世紀中葉	
榛名ニツ岳渋川テフラ	Hr-FA	榛名山	6世紀初頭	
浅間C軽石	As-C	浅間山	4世紀初頭	

7. 本書の図版に使用したスクリーントーンは、次のことを示す。下記以外は図版毎に凡例を示す。

(1) 遺構図スクリーントーン



(2) 遺物図スクリーントーン



8. 水田面積の計測は、畦畔の下端で求め、プランメーターで3回計測し、その平均値を採用した。

# 目 次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

図版目次

第1章 発掘調査の概要	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	3
第3節 発掘調査の方法	6
第4節 遺跡の立地と歴史的環境	8
第5節 基本土層	12
第II章 宿横手三波川遺跡の調査	15
第1節 調査の経過	15
第2節 A区の検出遺構	16
第3節 B区の検出遺構	55
第4節 C区の検出遺構	64
第5節 D区の検出遺構	127
第6節 E区の検出遺構	200
第III章 西横手遺跡群の調査	
第1節 調査の経過	281
第2節 A区の検出遺構	281
第3節 B区の検出遺構	349
第4節 C区の検出遺構	392
第5節 堤防下の検出遺構	408
第IV章 まとめ	
1 利根川の変遷と砂質土の堆積	413
2 西横手遺跡群B区11号溝と中島堰	415
第V章 自然科学分析	
1 宿横手三波川遺跡及び西横手遺跡群出土人骨	416
2 宿横手三波川遺跡及び西横手遺跡群出土獣骨	420
3 宿横手三波川遺跡及び西横手遺跡群出土木製品の樹種	428

# 挿図目次

第1図	道路位置図	1	宿橋手三波川遺跡C区	
第2図	道路位置と近隣道路	2	第58図	第1面全体図
第3図	発掘調査年度経過図	3	第59図	第1面区画(1)
第4図	調査区割図	7	第60図	第1面区画横断面
第5図	地層図	8	第61図	第1面区画内耕作痕(1)
第6図	周辺道路の分布	10	第62図	第1面区画内耕作痕(2)
第7図	基本土層模式図	12	第63図	第1面区画出土遺物
第8図	地点別基本土層図	13	第64図	第1面溝(1)
<b>宿橋手三波川遺跡A区</b>			第65図	第1面溝(2)
第9図	第1面全体図	17	第66図	第1面溝(3)及びび区画耕作痕
第10図	第1面区画(1)	18	第67図	第1面区画及び溝断面
第11図	第1面区画横断面(1)	19	第68図	第1面溝出土遺物(1)
第12図	第1面区画(2)	20	第69図	第1面溝出土遺物(2)
第13図	第1面区画横断面(2)	21	第70図	第1面土坑
第14図	第1面区画(3)	21	第71図	第1面遺構外出土遺物(1)
第15図	第1面遺構外出土遺物	22	第72図	第2面全体図
第16図	第2面全体図	24	第73図	第2面水田(1)
第17図	第2面2号溝・畦畔	25	第74図	第2面水田(2)
第18図	第2面2号溝・原状遺構	26	第75図	第2面水田水口
第19図	第2面島状遺構横断面	27	第76図	第2面10号溝
第20図	第2面溝・遺構外出土遺物	27	第77図	第2面溝及びサツタ状遺構
第21図	第3面土坑(1)	28	第78図	第2面土坑
第22図	第3面土坑(2)	29	第79図	第2面9号溝・遺構外出土遺物
第23図	第3面土坑(3)	30	第80図	第3面1号擬立柱建物
第24図	第3面全体図	31	第81図	第3面全体図
第25図	第3面水田(1)	33	第82図	第3面4号土坑
第26図	第3面水田(2)	34	第83図	第3面土坑(1)
第27図	第3面水田(3)	35	第84図	第3面土坑(2)
第28図	第3面水田(4)	36	第85図	第3面土坑(3)
第29図	第4面全体図	38	第86図	第4面全体図
第30図	第4面水田・溝	39	第87図	第4面水田(1)
第31図	第4面溝(1)	40	第88図	第4面水田横断面(1)
第32図	第4面溝断面	41	第89図	第4面水田(2)
第33図	第4面11号溝出土遺物	41	第90図	第4面水田横断面(2)
第34図	第4面土坑(1)	42	第91図	第4面水田(3)
第35図	第4面土坑(2)	43	第92図	第4面出土遺物
第36図	第4面遺構外出土遺物	43	第93図	第5面全体図
第37図	第5面全体図	45	第94図	第5面水田
第38図	第5面溝(1)	46	第95図	第5面19号溝
第39図	第5面溝(2)・断面	47	第96図	第5面土坑
第40図	第5面溝(3)	48	第97図	第5面遺構外出土遺物
第41図	第5面溝(4)・断面	49	第98図	第5面全体図
第42図	第5面溝(5)	50	第99図	第6面水田(1)
第43図	第5面溝(6)	51	第100図	第6面水田横断面(1)
第44図	第5面溝出土遺物(1)	51	第101図	第6面水田(2)
第45図	第5面溝出土遺物(2)	52	第102図	第6面水田横断面(2)
第46図	第5面土坑(1)	53	第103図	第6面25号土坑
第47図	第5面土坑(2)	54	第104図	第6面遺構外出土遺物
<b>宿橋手三波川遺跡B区</b>			第105図	第7面全体図
第48図	第1面遺構外出土遺物	55	第106図	第7面溝(1)
第49図	第1面全体図	56	第107図	第7面溝断面
第50図	第1面区画横断面	57	第108図	第7面溝(2)
第51図	第2面遺構外出土遺物	57	第109図	第7面溝(3)
第52図	第2面全体図	58	第110図	第7面溝(4)
第53図	第2面水田横断面	59	第111図	第7面溝(5)
第54図	第3面土坑	61	第112図	第7面27号溝・水路出土遺物
第55図	第3面全体図	62	第113図	第7面土坑
第56図	第4面土坑	63	第114図	第7面遺構外出土遺物
第57図	第4面全体図	63	第115図	第7面下層トレンチ出土遺物(1)
			第116図	第7面下層トレンチ出土遺物(2)

### 宿横手三波川道跡D区

第117図	D-1区第1面遺構外出土遺物	127
第118図	第1面全体図	129
第119図	D-1区第1面区画及穴溝	131
第120図	D-1区第1面溝	132
第121図	D-1区第1面3号灰接ぎ穴	133
第122図	D-1区第1面溝出土遺物	134
第123図	D-2区第1面3号灰接ぎ穴出土遺物	135
第124図	D-2区第1面1号、2号溝列	136
第125図	D-2区第1面灰接ぎ穴	136
第126図	D-2区第1面溝、区接ぎ穴、溝列	137
第127図	D-2区第1面2号溝出土遺物	138
第128図	D-2区第1面遺構外出土遺物	138
第129図	D-2区第2面-1全体図	139
第130図	D-2区第2面溝	140
第131図	D-2区第2面-1溝、遺構外出土遺物	142
第132図	D-2区第2面-1水田	143
第133図	D-2区第2面-2 1号水田跡	144
第134図	D-2区第2面-2 土坑(1)	145
第135図	D-2区第2面-2 土坑(2)及び出土遺物	146
第136図	D-2区第2面-2 溝	147
第137図	D-2区第2面-2 水田	148
第138図	第3面-1全体図	149
第139図	D-1区第3面-1溝	152
第140図	D-1区第3面-1横断図	153
第141図	D-2区第3面-1 10号溝出土遺物	153
第142図	D-2区第3面-1溝	154
第143図	D-2区第3面-1 土坑(1)	155
第144図	D-2区第3面-1 土坑(2)及び出土遺物	156
第145図	D-1区第3面-1 遺構外出土遺物	156
第146図	第3面-2 道路遺構	157
第147図	第3面-2 全体図	159
第148図	第3面-2 D-1区、D-2区土坑(1)	163
第149図	第3面-2 D-2区土坑(2)	164
第150図	第3面-2 遺構外出土遺物	164
第151図	第4面全体図	165
第152図	D-1区第4面水田(1)	168
第153図	D-1区第4面水田(2)	169
第154図	D-1区第4面水田(3)	170
第155図	D-1区第4面水田水口(1)	171
第156図	D-1区第4面水田水口(2)	172
第157図	D-1区第4面水田水口(3)	173
第158図	D-2区第4面水田(1)	173
第159図	D-2区第4面水田(2)	174
第160図	D-2区第4面遺構外出土遺物	175
第161図	D-2区第5面全体図	176
第162図	D-2区第5面水田	177
第163図	D-2区第5面畦、溝断面	177
第164図	D-2区第5面遺構外出土遺物	178
第165図	D-1区第6面全体図	179
第166図	D-1区第6面水田	181
第167図	D-2区第6面水田	182
第168図	第6面遺構外出土遺物	183
第169図	第7面全体図	185
第170図	D-1区第7面溝(1)	187
第171図	D-1区第7面溝(2)	188
第172図	D-1区第7面溝(3)	189
第173図	D-2区第7面水田及穴溝	190
第174図	D-2区第7面溝	191
第175図	第7面土坑(D-1、2区)	192
第176図	D-2区第7面32号溝出土遺物	192
第177図	D-1区第7面遺構外出土遺物	192

第178図	第8面全体図	193
第179図	D-1区第8面溝	196
第180図	D-2区第8面溝(1)	197
第181図	D-2区第8面溝(2)	198
第182図	D-2区第8面42号溝断面図	199
第183図	D-2区第8面土坑	199
宿横手三波川道跡E区		
第184図	第1面-1全体図	201
第185図	E-1区第1面-1 近世屋敷(1)	202
第186図	E-1区第1面-1 近世屋敷(2)	203
第187図	E-1区第1面-1 近世屋敷出土遺物	203
第188図	E-2区第1面-1 溝(1)、道路遺構	205
第189図	E-2区第1面-1 土層断面	206
第190図	E-2区第1面-1 溝(2)	206
第191図	E-2区第1面-1 溝断面、溝出土遺物(1)	207
第192図	E-2区第1面-1 溝出土遺物(2)	208
第193図	E-2区第1面-1 水田内出土遺物	209
第194図	E-2区第1面-1 土坑(1)	210
第195図	E-2区第1面-1 土坑断面	211
第196図	E-2区第1面-1 土坑(2)、土坑出土遺物	212
第197図	E-2区第1面-1 土坑出土遺物	213
第198図	第1面-2全体図	215
第199図	E-1区第1面-2 溝	216
第200図	E-1区第1面-2 土坑(1)	218
第201図	E-1区第1面-2 土坑(2)	219
第202図	E-1区第1面-2 土坑(3)	220
第203図	E-1区第1面-2 土坑及び出土遺物	221
第204図	E-2区第1面-2 溝	223
第205図	E-2区第1面-2 溝断面図	225
第206図	E-2区第1面-2 溝出土遺物	226
第207図	E-2区第1面-2 区画、溝	227
第208図	E-2区第1面-2 水田、区画出土遺物	228
第209図	E-2区第1面-2 1号墓坑	229
第210図	E-2区第1面-2 井戸及び2号井戸出土遺物(1)	230
第211図	E-2区第1面-2 2号井戸出土遺物(2)	231
第212図	E-2区第1面-2 土坑(1)	232
第213図	E-2区第1面-2 土坑(2)	233
第214図	E-2区第1面-2 1号竪立柱建物	234
第215図	E-2区第1面-2 遺構外出土遺物(1)	234
第216図	E-2区第1面-2 遺構外出土遺物(2)	235
第217図	第2面-1全体図	237
第218図	E-1区第2面-1 溝	238
第219図	E-1区第2面-1 6号土坑及び出土遺物	239
第220図	E-1区第2面-1 土坑	240
第221図	E-2区第2面-1 畦溝、溝断面	241
第222図	E-2区第2面-1 溝	242
第223図	E-2区第2面-1 土坑	243
第224図	E-2区第2面-1 溝及び遺構外出土遺物	243
第225図	E-2区第2面-2 全体図	244
第226図	E-2区第2面-2 2号道路、畦溝、溝	245
第227図	E-2区第2面-2 断面	246
第228図	E-2区第2面-2 溝、水田	247
第229図	E-2区第2面-2 土坑	248
第230図	E-2区第2面-2 出土遺物	248
第231図	第3面全体図	249
第232図	第3面遺構外出土遺物	250
第233図	第3面水田(1)	251
第234図	第3面水田(2)	252
第235図	第3面水田横断面	253
第236図	第3面水田水口	254
第237図	E-2区第4面出土遺物	255
第238図	第4面全体図	256

第239回	第4面水田横断図(1)	260
第240回	第4面水田	261
第241回	第4面水田横断図(2)	263
第242回	第4面水田横断図(3)	264
第243回	第5面全体図	266
第244回	E-1区第5面水田(1)	267
第245回	E-2区第5面水田(2)	268
第246回	E-2区第5面水田横断図	269
第247回	第5面遺構外出土遺物	269
第248回	第6面遺構外出土遺物	270
第249回	第6面全体図	271
第250回	E-1区第6面水田(1)	272
第251回	E-2区第6面水田(2)	273
第252回	E-2区第6面水田横断図	274
第253回	E-2区第6面溝	274
第254回	E-1区第7面全体図	275
第255回	E-1区第7面水田・溝	276
第256回	E-1区第8面32号溝出土遺物	277
第257回	第8面全体図	278
第258回	第8面溝	279
第259回	E-2区第8面56号溝	280
<b>西換手遺跡群A区</b>		
第260回	第1面全体図	282
第261回	第1面溝(1)	283
第262回	第1面溝断面	284
第263回	第1面溝(2)	285
第264回	第1面溝断面及び溝出土遺物(1)	286
第265回	第1面溝出土遺物(2)	287
第266回	第1面溝出土遺物(3)	288
第267回	第1面池状遺構	290
第268回	第1面池状遺構出土遺物	291
第269回	第1面1号暗渠及び出土遺物(1)	291
第270回	第1面1号暗渠出土遺物(2)	292
第271回	第1面土坑(1)	293
第272回	第1面土坑(2)	294
第273回	第1面土坑(3)・土坑出土遺物(1)	295
第274回	第1面土坑出土遺物(2)	296
第275回	第1面1号井戸	297
第276回	第1面1号井戸横断図	298
第277回	第1面2号井戸	299
第278回	第1面井戸(1)	300
第279回	第1面井戸(2)	301
第280回	第1面井戸横断図	302
第281回	第1面7号井戸・井戸出土遺物(1)	303
第282回	第1面井戸出土遺物(2)	304
第283回	第1面井戸出土遺物(3)	305
第284回	第1面井戸出土遺物(4)	306
第285回	第1面井戸出土遺物(5)	307
第286回	第1面井戸出土遺物(6)	308
第287回	第1面井戸出土遺物(7)	309
第288回	第1面1号竪穴状遺構	310
第289回	第1面1号竪穴状遺構及び出土遺物	311
第290回	第1面サク状遺構	312
第291回	第1面遺構外出土遺物(1)	312
第292回	第1面遺構外出土遺物(2)	313
第293回	第2面全体図	315
第294回	第2面溝(1)	316
第295回	第2面溝(2)	317
第296回	第2面溝(3)	318
第297回	第2面溝出土遺物(1)	319
第298回	第2面溝出土遺物(2)	320
第299回	第2面土坑(1)	321

第300回	第2面土坑(2)	322
第301回	第2面土坑(3)	323
第302回	第2面土坑(4)・土坑出土遺物	324
第303回	第2面1号水溝墓	325
第304回	第2面井戸(1)	326
第305回	第2面井戸(2)	327
第306回	第2面井戸(3)	328
第307回	第2面井戸出土遺物	329
第308回	第2面1号竪立柱建物・群列	330
第309回	第2面ビツ出土遺物	331
第310回	第2面遺構外出土遺物	331
第311回	第3面全体図	332
第312回	第3面水田	333
第313回	第4面全体図	334
第314回	第4面溝	335
第315回	第4面土坑(1)・土坑出土遺物	336
第316回	第4面土坑(2)	337
第317回	第5面全体図	338
第318回	第5面水田	339
第319回	第5面水田部分図	341
第320回	第6面全体図	343
第321回	第6面水田	344
第322回	第7面全体図	345
第323回	第7面溝	346
第324回	第7面遺構外出土遺物	346
第325回	第8面溝出土遺物	347
第326回	第8面全体図	347
第327回	第8面溝	348
<b>西換手遺跡群B区</b>		
第328回	第1面全体図	349
第329回	第1面灰塚穴	350
第330回	第1面溝出土遺物	350
第331回	第1面溝及び暗渠状遺構	351
第332回	第1面土坑(1)	352
第333回	第1面土坑(2)・土坑出土遺物	353
第334回	第1面2号井戸	353
第335回	第1面1号・3号井戸	354
第336回	第1面井戸出土遺物(1)	355
第337回	第1面井戸出土遺物(2)	356
第338回	第1面遺構外出土遺物	357
第339回	第2面全体図	358
第340回	第2面3号溝	359
第341回	第2面溝(1)	359
第342回	第2面溝(2)	360
第343回	第2面溝(3)	361
第344回	第2面溝出土遺物	361
第345回	第2面土坑・土坑出土遺物	362
第346回	第2面井戸(1)	363
第347回	第2面井戸(2)・井戸出土遺物	364
第348回	第2面遺構外出土遺物	365
第349回	第3面全体図	366
第350回	第3面溝	367
第351回	第3面溝出土遺物	368
第352回	第3面1号群列	369
第353回	竪立柱総物配置図	369
第354回	1号竪立柱建物	370
第355回	2号竪立柱建物	370
第356回	3号竪立柱建物	371
第357回	4号竪立柱建物	371
第358回	5号竪立柱建物	372
第359回	第3面土坑	372
第360回	第3面井戸(1)	373



第361图	第3面并戸(2)……………	374
第362图	第3面并戸(3)・并戸出土遺物(1)……………	375
第363图	第3面并戸出土遺物(2)……………	376
第364图	第3面并戸出土遺物(3)……………	377
第365图	第3面并戸出土遺物(4)・遺構外出土遺物……………	378
第366图	第4面15号溝……………	379
第367图	第4面全体図……………	379
第368图	第4面溝……………	380
第369图	第5面全体図・溝出土遺物……………	381
第370图	第5面溝……………	382
第371图	第5面土坑・土坑出土遺物……………	383
第372图	第5面土坑状遺構・遺構外出土遺物……………	384
第373图	第6面全体図……………	385
第374图	第6面水田……………	386
第375图	第7面全体図……………	387
第376图	第7面水田……………	388
第377图	第8面全体図……………	389
第378图	第8面溝……………	390
第379图	第9面溝……………	390
第380图	第9面遺構外出土遺物……………	391
第381图	第9面全体図……………	391
<b>西横手遺跡群C区</b>		
第382图	第1面全体図……………	392
第383图	第1面土坑(1)……………	393
第384图	第1面土坑(2)・土坑出土遺物……………	394

第385图	第1面并戸(1)……………	395
第386图	第1面并戸(2)……………	396
第387图	第1面并戸(3)……………	397
第388图	第1面并戸出土遺物……………	398
第389图	第1面溝及び溝出土遺物(1)……………	399
第390图	第1面溝出土遺物(2)……………	400
第391图	第1面1号孤立柱建物……………	400
第392图	第1面溝構外出土遺物……………	401
第393图	第2面全体図……………	402
第394图	第2面水田横断図……………	403
第395图	第3面全体図……………	403
第396图	第3面水田横断図……………	404
第397图	第4面全体図……………	404
第398图	第4面水田横断図・遺構外出土遺物……………	405
第399图	第5面全体図・遺構外出土遺物……………	405
第400图	水田北端図……………	406
<b>西横手遺跡群壁防下</b>		
第401图	第1面遺構断面……………	408
第402图	第1面全体図……………	409
第403图	1号溝出土遺物……………	410
第404图	第2面全体図……………	411
第405图	第3面全体図……………	412
第406图	遺跡附近と利根川……………	414
第407图	B区11号溝出土の水木炭……………	415

## 付図目次

付図1

## 表目次

表1	周辺道路一覧……………	11
<b>宿横手三波川遺跡A区</b>		
表2	第1面区画計測一覧……………	17
表3	第2面溝計測一覧……………	23
表4	第3面土坑計測一覧……………	28
表5	第3面水田計測一覧……………	32
表6	第4面溝計測一覧……………	37
表7	第4面土坑計測一覧……………	42
表8	第5面溝計測一覧……………	44
表9	第5面土坑計測一覧……………	53
<b>宿横手三波川遺跡B区</b>		
表10	第1面区画計測一覧……………	56
表11	第2面水田計測一覧……………	57
表12	第3面土坑計測一覧……………	60
表13	第3面水田計測一覧……………	60
表14	第4面8号土坑計測一覧……………	63
<b>宿横手三波川遺跡C区</b>		
表15	第1面区画計測一覧……………	67
表16	第1面溝計測一覧……………	76
表17	第1面1号土坑計測一覧……………	79
表18	第2面水田計測一覧……………	80
表19	第2面溝計測一覧……………	85
表20	第2面土坑計測一覧……………	87
表21	第3面土坑計測一覧……………	90
表22	第4面水田計測一覧……………	97
表23	第4面溝計測一覧……………	101
表24	第5面溝計測一覧……………	104
表25	第5面水田計測一覧……………	104
表26	第6面25号土坑計測一覧……………	105
表27	第6面水田計測一覧……………	108
表28	第6面25号土坑計測一覧……………	113
表29	第7面溝計測一覧……………	123
表30	第7面土坑計測一覧……………	124
<b>宿横手三波川遺跡D区</b>		
表31	D-1区第1面溝計測一覧……………	128
表32	D-2区第1面溝計測一覧……………	135
表33	D-2区第1面溝計測一覧……………	141
表34	D-2区第2面-1 水田計測一覧……………	142
表35	D-2区第2面-1 水田計測一覧……………	145
表36	D-2区第3面-1 溝計測一覧……………	149
表37	D-1区第3面-1 溝計測一覧……………	151
表38	D-2区第3面土坑計測一覧……………	155
表39	第3面-2 溝計測一覧……………	161
表40	第3面-2 溝計測一覧……………	162
表41	D-2区第3面-2 土坑計測一覧……………	162
表42	第4面水田計測一覧……………	167
表43	D-2区第5面水田計測一覧……………	176
表44	D-1区第6面水田計測一覧……………	181
表45	D-1区第7面溝計測一覧……………	183
表46	D-2区第7面水田計測一覧……………	184
表47	D-2区第7面溝計測一覧……………	185
表48	D-1区第7面3号土坑計測一覧……………	192
表49	D-2区第7面土坑計測一覧……………	192
表50	D-2区第8面水田計測一覧……………	195
表51	D-1区第8面溝計測一覧……………	195
表52	D-2区第8面溝計測一覧……………	199
表53	D-2区第8面土坑計測一覧……………	199
表54	D-2区第8面土坑計測一覧……………	206
<b>宿横手三波川遺跡E区</b>		
表55	E-2区第1面-1 水田計測一覧……………	209

表55	E-2区第1面-1 土坑計測一覽	209
表57	E-2区第1面-1 土坑計測一覽	217
表58	E-1区第1面-2 土坑計測一覽	218
表59	E-2区第1面-2 溝計測一覽	226
表60	E-2区第1面-2 溝計測一覽	227
表61	E-2区第1面-2 井戸計測一覽	230
表62	E-2区第1面-2 井戸計測一覽	232
表63	E-2区第1面-2 井戸計測一覽	236
表64	E-1区第2面-1 土坑計測一覽	240
表65	E-2区第2面-1 溝計測一覽	241
表66	E-2区第2面-1 溝計測一覽	243
表67	E-2区第2面-1 溝計測一覽	246
表68	E-2区第2面-2 水田計測一覽	247
表69	E-2区第2面-2 27号土坑計測一覽	248
表70	第3面水田計測一覽	250
表71	E-1区第3面溝計測一覽	250
表72	E-2区第4面溝計測一覽	255
表73	第4面水田計測一覽	257
表74	第5面水田計測一覽	265
表75	E-2区第5面溝計測一覽	265
表76	E-2区第6面溝計測一覽	270
表77	E-1区第7面溝計測一覽	275
表78	第8面溝計測一覽	277
<b>西横手遺跡群B区</b>		
表79	第1面溝計測一覽	282
表80	第1面土坑計測一覽	283
表81	第1面井戸計測一覽	297
表82	第2面溝計測一覽	315
表83	第2面土坑計測一覽	321
表84	第2面井戸計測一覽	326
表85	第3面溝計測一覽	332
表86	第3面水田計測一覽	333

表87	第4面溝計測一覽	334
表88	第4面土坑計測一覽	336
表89	第5面水田計測一覽	338
表90	第6面水田計測一覽	343
表91	第7面溝計測一覽	345
表92	第8面溝計測一覽	347
<b>西横手遺跡群B区</b>		
表93	第1面溝計測一覽	350
表94	第1面土坑計測一覽	352
表95	第1面井戸計測一覽	353
表96	第2面溝計測一覽	359
表97	第2面土坑計測一覽	362
表98	第2面井戸計測一覽	363
表99	第3面溝計測一覽	366
表100	第3面土坑計測一覽	372
表101	第3面井戸計測一覽	373
表102	第4面溝計測一覽	379
表103	第5面溝計測一覽	380
表104	第5面土坑計測一覽	381
表105	第6面水田計測一覽	385
表106	第7面水田計測一覽	387
表107	第8面溝計測一覽	389
表108	第9面溝計測一覽	391
<b>西横手遺跡群C区</b>		
表109	第1面土坑計測一覽	393
表110	第1面井戸計測一覽	396
表111	第1面溝計測一覽	399
表112	第2面水田計測一覽	406
表113	第3面水田計測一覽	406
表114	第4面水田計測一覽	407
表115	第2面水田計測一覽	411
表116	第3面水田計測一覽	412

## 図版目次

### 宿横手三波川遺跡A区

P.L.1.1.	A区第1面全景
2.	A区第2面全景
P.L.2.1.	A区第3面全景
2.	A区第4面全景
P.L.3.1.	A区第5面全景
2.	A区第1面近景
3.	A区第1面耕作痕
4.	A区第2面1号溝
5.	A区第2面1号溝断面
P.L.4.1.	A区第2面2号溝
2.	A区第2面ピット群
3.	A区第2面耕作痕
4.	A区第2面畜状遺構
5~8.	A区第3面土坑(1号~4号)
P.L.5.1~12.	A区第3面土坑及び断面(1号~10号)
P.L.6.1~12.	A区第3面土坑及び断面(9号~16号)
P.L.7.1~5.	A区第3面土坑及び断面(17号、18号、27号)
6.	A区第3面近景
7.	A区第3面水田畦畔水口
8.	A区第4面水田近景
9.	A区第4面水田区画
P.L.8.1~12.	A区第4面土坑及び断面(19号~24号)
P.L.9.1~12.	A区第4面土坑及び断面(25号~32号)
P.L.10.1~7.	A区第4面土坑及び断面(32号~35号)

8~12.	A区第4面溝及び断面(3号、4号、7号)
P.L.11.1~11.	A区第4面溝及び断面(6号~20号)
P.L.12.1~11.	A区第5面土坑及び断面(37号~43号)
P.L.13.1~5.	A区第5面土坑及び断面(43号~48号)
6.	A区第4面19、20号溝
7~9.	A区第5面土坑断面(45号、47号、48号)
10.	A区第4面21号溝断面
11、12.	A区第5面溝断面(22号、34号)
P.L.14.1~12.	A区第5面溝及び断面(22号~33号)
P.L.15.1~12.	A区第5面溝及び断面(29号~37号、44号、53号)
P.L.16.1~12.	A区第5面溝及び断面(39号~47号、52号)
P.L.17.1~8.	A区第5面溝及び遺物出土状況(48号~55号)
<b>宿横手三波川遺跡B区</b>	
P.L.18.1.	B区第1面全景
2.	B区第2面全景
P.L.19.1.	B区第3面全景
2.	B区第4面全景
P.L.20.1.	B区第1面耕作痕
2.	B区第1面耕作痕
3.	B区第2面北卑断面
4.	B区第3面近景
5.	B区第3面近景
6.	B区第3面水路遺構
7.	B区第3面1号土坑
8.	B区第3面2号土坑

P L21. 1～10. B区第3面土坑及び断面(3号～7号)

- 11. B区第4面近景
- 12. B区第4面8号土坑

**宿橋手三波川遺跡C区**

P L22. 1. C区第1面全景

- 2. C区第2面全景

P L23. 1. C区第4面全景

- 2. C区第5面全景

P L24. 1. C区第6面全景

- 2. C区第7面全景

P L25. 1～11. C区第1面溝、断面、遺物出土状況(1号～7号)

P L26. 1～5. C区第1面溝、遺物出土状況(5号～8号)

- 6. C区第1面1号土坑
- 7. C区第1面1号土坑断面
- 8. C区第2面近景

P L27. 1～4. C区第2面水田(畦畔、水口、断面)

- 5. C区第2面畝状遺構
- 6～9. C区第2面溝(10号～13号)

P L28. 1～8. C区第2面溝及び断面(10号～16号)

- 9～12. C区第2面土坑(2号～5号)

P L29. 1～12. C区第3面土坑及び断面(2号～12号)

P L30. 1～12. C区第3面土坑及び断面(8号～18号)

P L31. 1～7. C区第2面、3面土坑及び断面(17号～29号)

- 8～12. C区第3面1号竪立柱建物
- 13. C区第4面全景
- 14. C区第4面全景

P L32. 1. C区第4面円形障壁部

- 2～10. C区第4面水田(検出状況、畦畔、水口、断面)
- 11～12. C区第4面17号溝断面

P L33. 1. 2. C区第5面水田

- 3. 4. C区第5面溝(19号、20号)
- 5. 6. C区第5面土坑(21号、22号)
- 7. C区第5面19号溝断面
- 8～11. C区第5面土坑断面(21号～24号)

P L34. 1. 2. C区第6面土坑(23号、24号)

- 3～8. C区第6面水田(大畑畔、FA貫入、牛脚痕)

P L35. 1～3. C区第6面大畑畔断面

- 4. C区第7面28号土坑断面
- 5. C区第6面25号土坑断面
- 6. C区第6面25号土坑、28号ピット
- 7～12. C区第7面上層溝(22号～28号)

P L36. 1. C区第6面21号溝断面

- 2～14. C区第7面溝及び断面(21号～31号)

P L37. 1～12. C区第7面溝、断面、遺物出土状況(32号～43号)

P L38. 1. 2. C区第7面土坑(2号、28号)

- 3～8. C区第7面土坑トレンチ遺物出土状況

**宿橋手三波川遺跡D区**

P L39. 1. D-1区第1面全景

- 2. D-1区第3面-1 全景

P L40. 1. D-1区第4面全景

- 2. D-2区第4面全景

P L41. 1. D-1区第7面全景

- 2. D-1区第8面全景

P L42. 1. D-1区第1面遠景

- 2. D-1区第1面近景
- 3. D-1区第1面耕具痕
- 4. D-1区第1面北隣耕具痕
- 5. 7～9. D-1区第1面1号灰掻き穴及び断面
- 6. D-1区第1面1号溝
- 10～12. D-1区第1面溝断面(1号～3号)

P L43. 1～8. D-1区第1面溝(1号～8号)

P L44. 1. D-2区第1面1号溝列

2. D-2区第1面畦畔

- 3～6. D-2区第1面灰掻き穴(1号～7号)

7. 8. D-2区第1面溝(2号、3号)

P L45. 1～3. D-2区第1面溝断面(2号、3号、6号)

- 4. D-2区第2面-1 全景

5. D-2区第2面-1 溝及び畦畔状遺構

6. D-2区第2面-1 8号溝

7. D-2区第2面-1 還元面硬砂状況

8. D-2区第2面-2 調査区北全景

9. D-2区第2面-2 1号水溜め

P L46. 1～8. D-2区第2面-2 土坑(1号～8号)

P L47. 1～5. D-1区第3面-1 溝(9号～12号)

- 6. D-1区第3面-1 畝状遺構

7. 8. D-1区第3面-2 土坑(1号、2号)

P L48. 1～8. D-2区第3面 土坑及び断面(9号～14号)

P L49. 1～3. D-2区第3面-2 土坑(15号～17号)

- 4. D-2区第3面-2 道路遺構

5. D-2区第3面-2 1号水輪

6. 7. D-2区第3面-2 道路遺構検出状況

P L50. 1. D-2区第3面-2 15号溝

- 2. 3. D-2区第3面-2 畦畔断面

4～8. D-2区第3面-2 土坑(19号～22号)

9. D-1区第4面検出状況

10. D-1区第4面2号水田水口

P L51. 1～6. D区第4面道路遺構(遠景、振り方)

P L52. 1. D-2区第4面道路遺構西壁

- 2. 3. D-1区第4面畦畔断面

4. 5. D-1区第4面東壁、水田(水口断面、遠景)

6. D-2区第4面道路遺構

7. 8. D-1区第4面田面検出状況

9. D-1区第5面水田

10. D-1区第5面遺物出土状況

P L53. 1. 2. D-2区第5面水田

- 3. D-2区第6面全景

4. D-2区第6面小區水田

5. D-1区第7面全景

6. D-1区第7面大畑畔

7. D-1区第7面牛脚跡

P L54. 1～5. D-1区第7面溝及び断面(13号～17号)

- 6. D-1区第7面3号土坑

7. D-2区第7面全景

8. D-2区第7面水田近景

P L55. 1. 2. D-2区第7面土坑(23号、24号)

3～10. D-2区第7面溝(19号～28号)

P L56. 1～3. D-2区第7面溝、大畑畔(29号～32号)

- 4. D-1区第7面24号溝

5～9. D-1区第8面溝(19号～23号)

10. D-2区第8面34号溝

P L57. 1～7. D-2区第8面溝(33号～41号)

- 8～10. D-2区第8面土坑(25号～27号)

**宿橋手三波川遺跡E区**

P L58. 1. E-1区第1面-1 全景

- 2. E-2区第2面-2 全景

P L59. 1. E-1区第3面全景

- 2. E-2区第3面全景

P L60. 1. E-1区第4面全景

- 2. E-2区第4面全景

P L61. 1. E-1区第5面全景

- 2. E-2区第5面全景

P L62. 1. E-2区第2面-2 全景

- 2. E-2区第6面全景

P L63. 1～4. E-1区第1面-1 堀

- 5.E-1区第1面-1 透景
- PL64. 1.E-2区第1面-1 全景  
2~8.E-2区第1面-1 溝及び断面(1号~7号)
- PL65. 1~4.E-2区第1面-1 土坑(4号、12号~14号)  
5~8.E-1区第1面-2 土坑及び断面(1号、2号)
- PL66. 1~7.E-1区第1面-2 土坑及び断面(3号~10号)  
8.E-1区第1面-2 1号、2号溝
- PL67. 1~4.E-1区第1面-2 溝(3号~8号)  
5.E-2区第1面-2 全景  
6.E-2区第1面-2 1号離立柱建物  
7.E-2区第1面-2 3号区画  
8.E-2区第1面-2 4号区画
- PL68. 1.E-2区第1面-2 1号井戸  
2.E-2区第1面-2 2号井戸断面  
3.E-2区第1面-2 1号墓坑遺物出土状況  
4~11.E-2区第1面-2 土坑及び断面(16号~24号)
- PL69. 1~5.E-2区第1面-2 土坑(19号~23号)  
6~10.E-2区第1面-2 溝(8号~13号)
- PL70. 1~4.E-2区第1面-2 13号溝・断面・遺物出土状況  
5~8.E-2区第1面-2 溝(14号~18号)
- PL71. 1~7.E-2区第1面-2 溝群(19号~33号)  
8.E-2区第1面-2 25号土坑  
9.E-2区第2面-1 39号溝
- PL72. 1~8.E-1区第2面-1 溝(10号~19号)  
9・10.E-1区第2面-1 土坑(11号、12号)
- PL73. 1.E-1区第2面-1 13号土坑  
2~4.E-2区第2面-1 溝(43号、45号、46号)  
5.E-1区第3面水田  
6.E-1区第3面畦畔(11号、3号)
- PL74. 1・2.E-2区第3面畦畔  
3.E-1区第4面水田  
4.E-1区第4面2号大畦畔  
5.E-1区第4面基本土層(南側)  
6.E-1区第4面基本土層(北側)  
7.E-2区第4面全景  
8.E-2区第4面水田
- PL75. 1.E-2区第4面大畦畔  
2.E-2区第4面水田近景  
3.E-2区第4面49号溝  
4.E-2区第4面大畦畔断面  
5.E-1区第5面水田  
6.E-1区第5面1号大畦畔  
7・8.E-2区第5面全景
- PL76. 1.E-2区第5面50号、51号溝  
2.E-2区第5面遺物出土状況  
3.E-2区第6面全景  
4.E-1区第6面大畦畔全景  
5・6.E-2区第6面溝(52号、53号)  
7.E-1区第6面2号大畦畔遺物出土状況  
8.E-1区第7面全景  
9.E-1区第7面畦畔状遺構
- PL77. 1・2.E-1区第7面溝(30号~32号)  
3.E-1区第8面全景  
4~6.E-1区第8面溝・断面(32号~34号)  
7.E-2区第8面全景  
8.E-1区第8面石蔵出土状況
- PL78. 宿禰手三波川遺跡A~C区出土遺物
- PL79. 宿禰手三波川遺跡C区出土遺物
- PL80. 宿禰手三波川遺跡C区出土遺物
- PL81. 宿禰手三波川遺跡C区出土遺物
- PL82. 宿禰手三波川遺跡D-1・D-2区出土遺物
- PL83. 宿禰手三波川遺跡E-1区出土遺物

- PL84. 宿禰手三波川遺跡E-1・E-2区出土遺物
- PL85. 宿禰手三波川遺跡E-2区出土遺物
- PL86. 宿禰手三波川遺跡E-2区出土遺物

#### 西横手遺跡群A区

- PL87. 1.A区第1面全景  
2.A区第2面全景
- PL88. 1.A区第3面全景  
2.A区第4面全景
- PL89. 1~9.A区第1面溝(1号~11号)
- PL90. 1~9.A区第1面溝(12号~16号)
- PL91. 1・2.A区第1面1号畦畔  
3~6.A区第1面1号型穴状遺構・断面・遺物出土状況  
7・8.A区第1面池状遺構及び断面
- PL92. 1~8.A区第1面井戸及び断面(1号~6号)
- PL93. 1・2.A区第1面1号火葬跡及び断面  
3~8.A区第1面土坑及び遺物出土状況(1号~6号)
- PL94. 1~11.A区第1面土坑・断面・遺物出土状況(1号~10号)
- PL95. 1・2.A区第1面山伏遺構  
3.A区第1面27号ピット  
4.A区第2面溝作痕  
5.A区第2面柱穴跡  
6.A区第2面5号・6号堀列  
7.A区第2面ピット群  
8.A区第2面全景
- PL96. 1~12.A区第2面溝及び断面(17号~27号)
- PL97. 1~12.A区第2面溝及び断面(25号~36号)
- PL98. 1~9.A区第2面溝(35号~45号)
- PL99. 1~4.A区第2面溝及び断面(44号~49号)  
5.A区第2面12号土坑  
6.A区第2面50号溝  
7・8.A区第2面土坑(13号、14号)
- PL100. 1~12.A区第2面土坑及び断面(15号~21号)
- PL101. 1~12.A区第2面土坑及び断面(22号~27号)
- PL102. 1~12.A区第2面土坑及び断面(27号~34号)
- PL103. 1.A区第2面35号土坑  
2.A区第3面畦畔  
3.A区第3面大畦畔断面  
4~7.A区第3面溝(51号~54号)  
8.A区第4面38号土坑
- PL104. 1.A区第4面42号土坑  
2.A区第6面全景  
3・4.A区第4面土坑断面(42号、38号)  
5・6.A区第7面溝(55号、57号)  
7~10.A区第8面溝(58号~62号)

#### 西横手遺跡群B区

- PL105. 1.B区第1面全景  
2.B区第2面全景
- PL106. 1.B区第3面全景  
2.B区第4面全景
- PL107. 1.B区第1面全景  
2.B区第1面畦畔  
3.B区第1面畦畔  
4~10.B区第1面土坑及び断面(2号~7号)
- PL108. 1・2.B区第1面土坑(6号、7号、9号)  
3.B区第1面1号、2号溝  
4.B区第1面1号、2号灰掻き穴断面  
5.B区第1面1号、2号溝断面  
6.B区第2面作業場遺構  
7・8.B区第1面土坑及び断面(10号、11号)
- PL109. 1~12.B区第2面溝及び断面(3号~11号)
- PL110. 1.B区第2面11号溝断面  
2・3.B区第3面全景

- 4. B区第3 面馬歯出土状況
- 5・6. B区第3 面土坑(12号・13号)
- 7・8. B区第1 面3号井戸及び遺物出土状況
- P L 111. 1. B区第4 面全景
- 2. B区第4 面水田
- 3・4. B区第4 面溝(15号～17号)
- 5. B区第5 面全景
- 6～8. B区第5 面溝(18号～22号)
- P L 112. 1～6. B区第5 面溝及び断面(23号～28号)
- 7. B区第5 面14号・15号土坑
- 8. B区第6 面全景
- 9. B区第6 面近景
- P L 113. 1. B区第6 面大畦畔
- 2. B区第7 面水田近景
- 3. B区第7 面大畦畔
- 4. B区第7 面大畦畔断面
- 5～8. B区第8 面・9 面溝(27号～32号)

#### 西横手遺跡群C区

- P L 114. 1. C区第1 面全景
- 2～12. C区第1 面土坑及び断面(1号～10号)
- P L 115. 1～8. C区第1 面土坑及び遺物出土状況(6号～13号)
- P L 116. 1. C区第1 面14号土坑
- 2～6. C区第1 面井戸(1号～6号)
- 7. C区第1 面12号土坑断面
- 8～12. C区第1 面井戸断面(1号～5号)
- P L 117. 1～9. C区第1 面井戸及び断面(7号～10号)
- 10・11. C区第1 面溝(1号・3号・6号)
- P L 118. 1～7. C区第1 面溝及び断面(1号～8号)
- 8・9. C区第2 面大畦畔及び断面
- 10. C区第2 面全景
- 11. C区第2 面水田
- P L 119. 1. C区第3 面全景
- 2. C区第3 面水田近景
- 3. C区第3 面大畦畔
- 4. C区第4 面全景
- 5. C区第4 面近景
- 6. C区第4 面水田面
- 7. C区第5 面全景
- 8. C区第5 面遺物出土状況
- P L 120. 西横手遺跡群A区出土遺物
- P L 121. 西横手遺跡群A区出土遺物
- P L 122. 西横手遺跡群A区出土遺物
- P L 123. 西横手遺跡群A区出土遺物
- P L 124. 西横手遺跡群A区出土遺物
- P L 125. 西横手遺跡群A区出土遺物
- P L 126. 西横手遺跡群A区出土遺物
- P L 127. 西横手遺跡群B区出土遺物
- P L 128. 西横手遺跡群B区出土遺物
- P L 129. 西横手遺跡群B区・C区出土遺物



# 第1章 発掘調査の概要

## 第1節 発掘調査に至る経過

県道前橋長遡線は、前橋市石倉町を起基点とし埼玉県秩父郡長遡町を終点とする延長42.5kmの幹線道路であり、県庁所在地の前橋市街地と県下最大の商業都市である高崎市街地を結ぶ都市間連絡道路でもある。しかし、本路線の現道は朝夕時には慢性的な交通渋滞をきたし、その対策、加えて安全な交通環境の整備が強く望まれていた。このような状況下、前橋市膳島町から高崎市綿貫町間のバイパス整備が県土木部により計画・実施されることとなった。

建設事に伴う埋蔵文化財の発掘調査については、群馬県土木部道路建設課高崎土木事務所（以下：土木事務所）管内の高崎市上滝町から西横手町の間2.15kmについて平成8年度から平成10年度にかけて（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団（以下：事業団）が年次的に発掘調査を実施し、また県道高崎・伊勢崎線以南の区間である高崎市下滝町と高崎市綿貫町との間3.9kmについても平成8年度から引き続

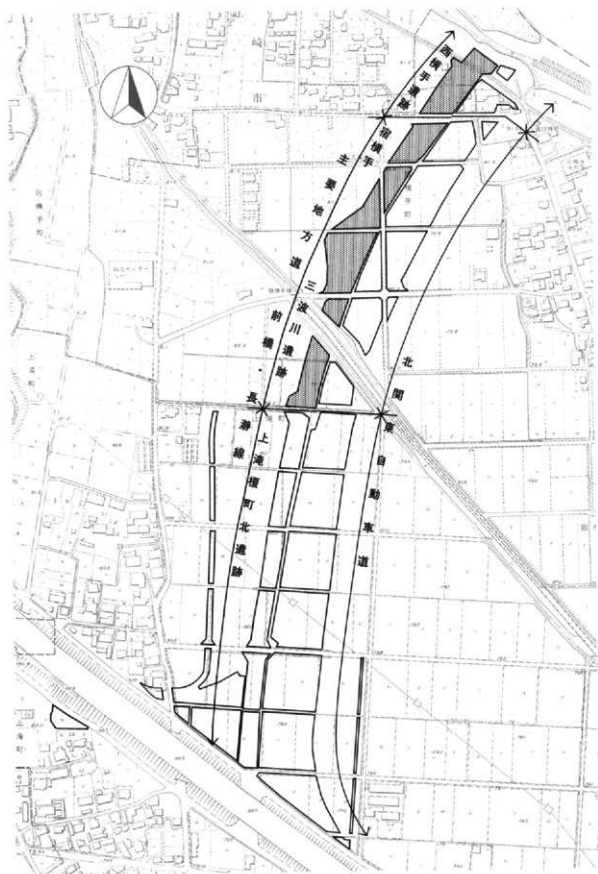
いて事業団が実施することとなった。

本道跡が所在する、高崎市西横手町から宿横手町区間の路線内用地は、先行して試掘及び本調査が実施されている東接する北関東自動車道建設関連（以下：北関東道）の宿横手三波川遺跡及び西横手遺跡群の遺構検出状況から前橋長遡線宿横手三波川から西横手町区間もまた連続する遺構の広がりを想定することができた。調査工程については、群馬県教育委員会文化スポーツ部文化財保護課（以下：保護課）との調整により、用地買収の解決した地点より随時調査に入り、部分的に土木事務所の工事優先区間がある場合には協議を行い先行調査を行うこととした。また、隣接地の北関東自動車道の工事も同時進行で進んでいるため、日本道路公団側と高崎土木事務所の工事工程との調整も必要となり、事業進行上常に高崎土木事務所・保護課・事業団・道路公団4者の調整を踏まえ発掘調査を実施した。



第1図 遺跡位置図

国土地理院 1/200,000 : 「長野・宇都宮」



第2図 遺跡位置と近隣道路



## 第2節 調査の経過

宿横手三波川遺跡及び西横手遺跡群は、高崎市東部を流下する利根川右岸部の宿横手町から西横手町にかけて所在する。路線は遺跡地南方の高崎市上滝町、更に南の綿貫町を通り、北は西横手群の東側で利根川を渡りし前橋市横手町に至る。調査対象地周辺部は圃場整備により整然と区画された水田が広がり、宿横手三波川遺跡南には本地区から玉村町一帯の利根川右岸部を潤す広域農業用水路である滝川が流下する。

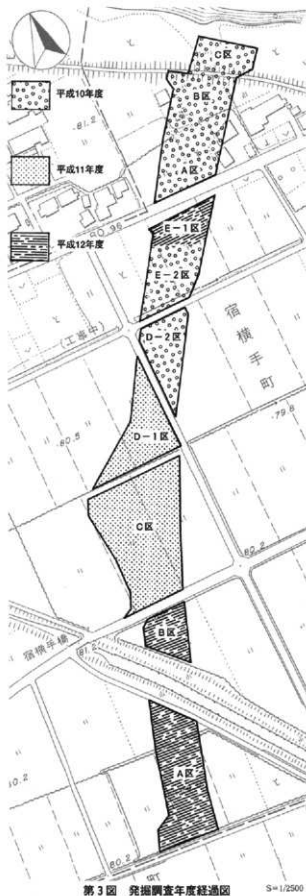
調査地は昭和40年代に圃場整備され、どの程度遺構が消失しているか未確定な部分もあったが、浅間山噴火火山灰であるAs-AやAs-Bの降灰層や榛名山南麓で見られる榛名山二ツ岳噴火による泥流層、更に利根川の変流以降の氾濫洪水層等の自然災害層が確認でき、その直下の面で遺構が検出されたことにより多面調査となった。路線全長は500m強を測り、S T No 204～232の間である。

宿横手三波川遺跡の調査は、隣接する上滝複町北遺跡と平行して行われ、平成8年11月18日からA・B区の調査に着手した。

平成9年度には本事業の調査体制が2班対応となり、1班が本格的に宿横手三波川遺跡と西横手遺跡群の調査を行うこととなった。

発掘調査に際して、この年から調査地周辺が水田地帯であるため、稲作期間の6月～10月にかけて水田への取水による湧水や漏水等により調査の進捗に影響がでることが懸念された。そのため工法や調査面・調査範囲・経費等の検討を行った結果、調査区隣接地を借り上げ水田耕作をひかえることにより、調査区内の湧水量を抑えられると判断した。調査区内の湧水については、ポンプ・アップにより対応を行うこととした。

調査は各調査区とも第1面として近世・近現代の遺構の調査から開始し、調査区及び面毎に平面図化・写真撮影等の記録を行い、平成10年度中に調査を終了させた。



## 発掘調査日誌抄

### 平成8年度(平成8年)

- 5月27日 長壽寺・北岡車道調査会議  
(原土本部・道路公団・県教育委員会・事業団)
- 6月事務所用地等の借地交渉
- 8月7日 西横手三波川遺跡(以下:三波川) 試掘
- 9月2日 西横手遺跡群(以下:西横手) 利根川河川敷  
保護課試掘
- 11月18日 三波川:A・B区表土剥ぎ開始
- 11月22日 利根川新橋橋台工事打ち合わせ  
(前橋土木・保護課・事業団・JV)
- 三波川:A区表土剥ぎ
- 12月11日 三波川:試掘開始。保護課
- 12月16日 高崎土木・公団との協議

### (平成9年)

- 1月13日 三波川:B区表土掘削
- 1月16日 三波川:A区空堀(As-A面)
- 1月20日 西横手:掘削開始
- 1月28日 三波川:B区空堀(As-A面)
- 2月3日 西横手:堤防下空堀(As-A面)
- 2月7日 西横手:A区空堀(As-A面)
- 2月14日 三波川:A・B区空堀(As-B混土面)
- 2月28日 三波川:A区空堀(As-B下面)
- 3月6日 三波川:B区空堀(As-B下面)
- 3月14日 三波川:A・B区空堀(Hr-F A面)

### 平成9年度

- 4月10日 保護課との打ち合わせ
- 4月16日 高崎土木・公団・保護課・事業団会議
- 4月25日 三波川:D区埋め戻し
- 4月30日 高崎土木・公団・事業団打ち合わせ
- 4月30日 三波川:C区調査開始
- 5月17日 三波川:D区調査開始
- 5月20日 事務所荒らし  
三波川:A区全景写真(シルト面)
- 5月30日 三波川:A区埋め戻し
- 6月11日 事務所移転
- 7月4日 三波川:D区空堀(As-A下面)
- 8月1日 三波川:C区空堀(中費褐色土上面)
- 8月19日 三波川:D区空堀(中費褐色土上面)
- 10月1日 三波川:C区空堀(As-B面)
- 10月16日 三波川:D区空堀(As-B面)
- 10月24日 三波川:C区空堀(Hr-F P面)
- 11月10日 三波川:C・D区空堀(Hr-F A面)
- 11月27日 高崎土木・公団・保護課・事業団協議
- 12月1日 概況員増員
- 12月10日 三波川:C・D区空堀(As-C混土面)
- 12月22日 三波川:C区空堀(As-C下面)

### (平成10年)

- 1月7日 西横手:B区表土剥ぎ
- 1月27日 三波川:C区終了
- 2月5日 三波川:D区、西横手:B区空堀
- 2月2日 三波川:E区表土掘削
- 2月19日 西横手:A区竹林伐採
- 3月4日 西横手:B区空堀(中費面)
- 3月5日 三波川:E区空堀(As-B面)、D区終了
- 3月16日 三波川:E区空堀(Hr-F P面)
- 3月20日 三波川:E区空堀(Hr-F A面)
- 3月26日 西横手:A区空堀(褐色土面)

### 平成10年度

- 4月9日 高崎土木・保護課・事業団打ち合わせ
- 4月28日 西横手:B区空堀(As-C混土面)
- 5月1日 三波川:E区埋め戻し
- 6月11日 三波川:A区空堀(As-B混土面)
- 7月1日 三波川:A区空堀(As-B面)
- 7月23日 三波川:A区空堀(Hr-F P面)
- 8月3日 三波川:A区全景写真(Hr-F A面)
- 8月7日 三波川:B区全景写真(Hr-F A面)
- 8月12日 三波川:A区全景写真(As-C混土面)
- 8月18日 三波川:B区全景写真(As-C混土面)
- 8月20日 三波川:A区全景写真(シルト面)
- 8月24日 三波川:B区全景写真(シルト面)
- 8月25日 三波川:A区埋め戻し
- 8月27日 三波川:B区埋め戻し
- 9月1日 三波川:D区調査開始(As-A面)
- 9月8日 三波川:D区空堀(As-A面)
- 9月11日 西横手:C区調査再開(Hr-F P配流上面)
- 10月2日 西横手:C区全景写真(Hr-F P配流上面)
- 10月5日 三波川:D区全景写真(褐色土面)
- 10月12日 西横手:C区全景写真(Hr-F P配流下面)
- 10月15日 三波川:D区全景写真(褐色土下面)
- 10月23日 西横手:C区全景写真(Hr-F A下面)
- 10月29日 三波川:D区全景写真(中費褐色土上面)
- 11月6日 西横手:C区全景写真(As-C混土上面)
- 11月10日 三波川:D区全景写真(As-B混土下面)
- 11月12日 西横手:C区全景写真(シルト面)
- 11月25日 西横手:C区埋め戻し
- 11月26日 三波川:D区全景写真(As-B下面)
- 12月3日 三波川:D区全景写真(Hr-F P下面)
- 12月10日 三波川:D区全景写真(Hr-F A下面)
- 12月18日 三波川:D区全景写真(As-C混土面)  
E区調査開始

### (平成11年)

- 1月11日 三波川:D区全景写真(シルト面)
- 1月18日 三波川:E区全景写真(As-A混土面)
- 1月19日 三波川:D区埋め戻し
- 1月28日 三波川:E区全景写真(褐色土面)
- 2月5日 三波川:E区全景写真(中費褐色土上面)
- 2月12日 三波川:E区全景写真(As-B混土面)
- 2月19日 三波川:E区空堀(As-B下面)
- 3月2日 三波川:E区空堀(Hr-F P配流下面)
- 3月5日 三波川:E区空堀(Hr-F A下面)
- 3月10日 三波川:E区空堀(As-C混土面)
- 3月17日 三波川:E区全景写真(シルト面)
- 3月19日 三波川:E区埋め戻し

宿横手三波川遺跡・西横手遺跡群調査工程表

		宿横手三波川遺跡					西横手遺跡群			
		A区	B区	C区	D区-1	D区-2	E区	A区	B区	C区
平成8年度	4月									
	5月									
	6月									
	7月									
	8月									
	9月									
	10月									
	11月	As-A								
	12月									
	1月	As-B混土	As-A							
2月	As-B下	As-B混土							As-B混土	
3月	Hr-FA シルト面	As-B下 Hr-FA シルト面								
平成9年度	4月	シルト面	最終面	表土剥						
	5月	調査終了	調査終了	As-A	表土剥					
	6月			褐色	As-A					
	7月									
	8月			As-B	褐色					
	9月				As-B					
	10月			Hr-FP	Hr-FP					
	11月			Hr-FA・ As-C	Hr-FA As-C					
	12月			シルト面	シルト面		(先行工事)			
	1月									
2月			調査終了					近世面 褐色土	近世面 褐色土 As-B混土	
3月				調査終了			近世面 中世2面 As-B混土 As-B下 Hr-FP配流 上下面 Hr-FA下	近世面 褐色土面		
平成10年度	4月						As-C混土 上下		As-B混土	
	5月									
	6月							As-B混土	下及び、	
	7月							As-B下	As-B下、	
	8月							Hr-FP配流 上下面	Hr-FP配流 上下面	
	9月							Hr-FA、	Hr-FA	
	10月					As-A、 褐色土面、中 世褐色。、		As-C混土 シルト面	As-C混土 シルト面	
	11月					As-B混、 As-B Hr-FP配流				Hr-FP配流
	12月					Hr-FA As-C混土 シルト面	As-A			Hr-FA As-C混土 シルト面
	1月						褐色土			
2月							中世褐色 As-B下 Hr-FP配流			
3月							Hr-FA As-C混土 シルト面			

## 第3節 調査の方法

### 1. 遺跡名及び調査区の設定

#### 1) 遺跡名称

利根川を渡河した路線は、高崎市宿横手町及び西横手町内を通過する。宿横手三波川遺跡と西横手遺跡群との境は間に東部幹線と呼ばれる東西に走る市道で分けた。

宿横手三波川遺跡では路線内の小字名は宿横手字村前が大半を占め、B区部分のみ三波川の小学地名が見られる。本遺跡の遺跡名称は、調査地最初の字名である宿横手町字三波川を大字・小字併記で宿横手三波川遺跡とした。

西横手遺跡群については、西横手町字川東や宿横手字村前や更に旧建設省用地の利根川河川敷から堤防まで等を含めた範囲である。

#### 2) 調査区名称

周辺部は圃場整備された水田地帯であり、整然とした区画内に道・水路が巡るため、この道・水路を調査区境として利用した。

宿横手三波川遺跡では、南境を高崎市上滝町とを画する東西方向の農道以北をA区とし、滝川や東西方向に走る道水路を調査区境として北に向かいB区・C区とし、南北道路で画されるD区についてはD区-1、D区-2と調査区名称を付した。

西横手遺跡群では、東部幹線際寄りやA区、水路を挟みB区、堤防を挟み河川敷を含めC区として調査区名称を付した。(右図参照)

### 2. グリッドの設定

調査記録に際して、国家座標を用いたグリッド設定を行い、遺構・遺物の図化を行うこととした。隣接する北関東道グリッド起点座標は、南東部上滝町内に設置した。

グリッドは一辺5m方眼を1単位として、X軸の北方向に向かってアルファベットA・B・C・・・、Y軸の東方向に数字1・2・3・・・をそれぞれ用いてグリッドを配置し、グリッド名称は南西交

点をグリッド呼称とした。(第2図参照) また、X軸方向のアルファベットは100m単位で2A・3A・・・とした。

グリッド杭・水準点杭等の測量・打設は測量会社に委託した。

### 3. 調査方法

#### (1) 地元の要望

現道から周辺の水田は出入り口や水路などが調査地に架かるため、それらの施設を残す。

#### (2) 安全対策

調査区周辺に進入・転落防止のためガードフェンスを設置した。また、調査地内への発掘作業員の移動や掘削機械の稼働等についても安全を確保できるよう対応した。

#### (3) 掘削・排土

表土掘削及び火山灰・洪水等の遺構面被覆層の除去は、調査の効率を図るため大型掘削機械で行い、排土の運搬については10tダンプとキャタピラー式のクローラーダンプを使用した。

#### (4) 測量

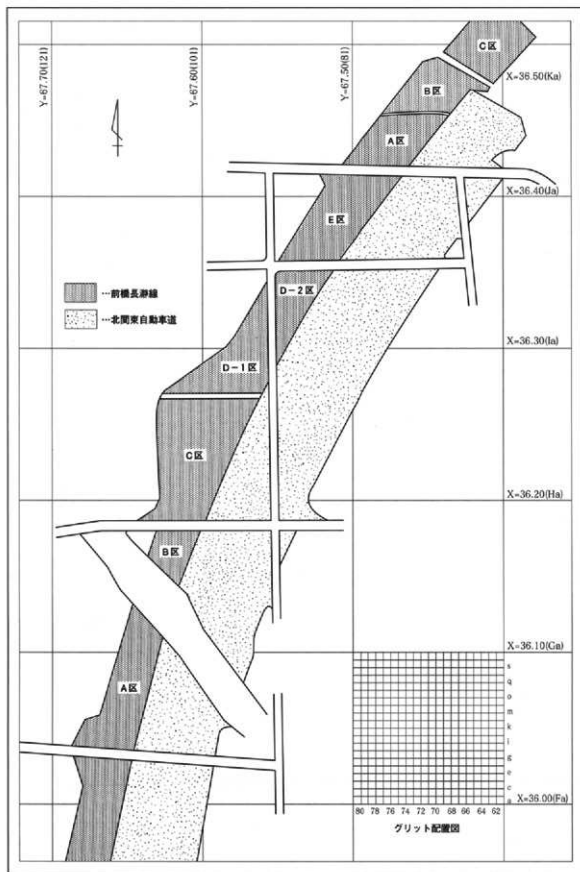
測量については、広範囲な水田遺構が主なため、業者に委託し、気球(ハルーン)による空中写真測量を実施した。他の遺構の土層断面図や平面図については、発掘作業員に指示し測量を行った。

#### (5) 写真撮影

写真撮影には、35mm版と6×7インチ版カメラの白黒とリバーサルフィルム(カラー)を使用した。全景写真撮影は、高所作業車を使用し、必要に応じて気球による空中撮影も行った。

#### (6) 自然科学分析

本遺跡の調査では、水田遺構が複数面で検出され、各水田面毎に耕土を採取し、自然科学分析(主にプラントオーバーホール分析)を業者委託し実施した。



第4図 調査区割図

## 第4節 遺跡の立地と歴史的環境

### 1. 遺跡の立地

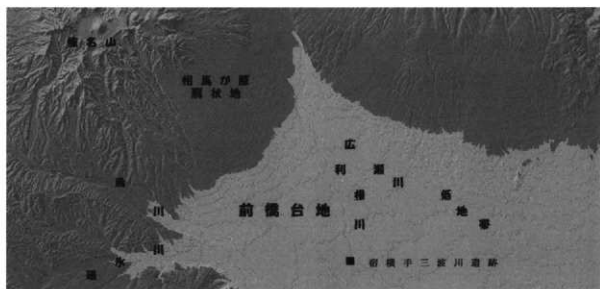
この地域からの眺望は、東から南東方向は関東平野の水田地帯が広がり、南方からは秩父山地・関東山地の山々。西方に観音山丘陵から遠く鋸の形をした妙義山、それと対照的な浅間山が霞む。北西部には榛名山の外輪山が連なり、中央部の中腹より現在陸上自衛隊の演習場に利用されている「相馬が原」と呼ばれる扇状地形が見える。北方には、昨年完成した群馬県庁舎が聳え、その奥に榛名・赤城両山の裾野が接し、その間に子持山、更に奥に谷川岳が見える。利根川はこの間を流れ下る。赤城山右奥に日光から足尾山地の山並が続く。

遺跡地は関東平野の奥部らしく三方を山で囲まれ、南東方向の開く地形であり、利根川を筆頭に各山地から流れ下った河川が集まる地域でもある。また、群馬県は火山県でもあり、現在でも噴煙を上げている浅間山や今は静かな榛名山など完新世に何度も噴火を繰り返している(第5図)、群馬県全域に火山災害を引き起こしている。

遺跡地周辺の平坦面は、「前橋台地」と呼ばれ、標高は80m前後を測り、北西榛名山方向からの緩やかな傾斜が見られる。この前橋台地は、2万数千年前の浅間山の山体崩壊による泥流堆積物(前橋泥流)

と1万数千年前の相馬が原扇状地を形成した榛名山の山体崩壊又は噴火堆積物により台地化されたと言われている。その後、榛名山方面からの緩傾斜面上を山麓より発する中小河川により土砂の流失堆積が行われ、流域に自然堤防や後背地等が形成されたと考えられている。その中には古墳時代の榛名山の噴火に伴う泥流堆積層も見られ、当地域にもその泥流の火山灰に埋もれた遺構が検出されている。

利根川は、前橋台地形成後は前橋市北部の田口町や関根町付近で赤城山南麓端部を削り込むように流れ下り、前橋市街地北東部から東方にかけて広瀬川低地帯を形成したと言われている。その後、台風などの一過性の増水により土砂の堆積や流失が繰り返されながら、中世には現在の流路に変流したと考えられている。その際に遺跡地周辺部は広範囲に埋没しているのが確認されている。この利根川は、変流後も幾度も洪水を引き起こし、1783年の天明の浅間山噴火の際にはその泥流がこの地域まで達し、多大な被害を及ぼしており、近年でも昭和22年にはキャサリン台風の直撃を受け、やはり多大な被害を被っている。



第5図 地層図

## 2. 遺跡の立地

本遺跡の周辺には、数多くの遺跡が点在している。大規模開発によるところの関越自動車道建設や先頃開通した北関東自動車道建設、区画整備事業や圃場整備事業、さらには中小規模開発が進み、これに伴う発掘調査が行われてきた。そうした周辺遺跡の概要を、各時代毎にまとめてみる。

**縄文時代** 縄文時代の遺跡は少なく井野川流域の段丘上で散見される。宿大類天神遺跡や八幡原A遺跡では前期の遺構・遺物が確認され、高崎情報団地遺跡では中期以降の遺構・遺物が確認されている。元島名遺跡(24)では後期の土坑、万相寺遺跡でも3軒の住居跡が検出されている。こうした沖積地の低台地上に位置するこれらの遺跡の存在は、今後の低台地を調査する上で貴重な情報を有している。

**弥生時代** 弥生時代の集落が数多く検出されている高崎市にあって、井野川左岸に位置する鈴ノ宮遺跡・元島名遺跡(24)、右岸の高崎情報団地遺跡・万相寺遺跡からは中期～後期の遺構・遺物が確認されている。特に鈴ノ宮遺跡では後期の住居跡26軒や方形周溝墓7基、甕棺墓1基が検出されている。右岸の万相寺遺跡では後期の住居跡12軒が検出され、高崎情報団地遺跡では方形周溝墓や住居跡が調査されている。この他にも、本遺跡の北西の関越自動車道沿線には新保遺跡や日高遺跡が、その近隣に新保田中村前遺跡等が存在している。

**古墳時代** 古墳時代の遺跡は、縄文時代・弥生時代の遺跡の数に比べ、飛躍的に増大する。特に、井野川下流域に分布する古墳は、『上毛古墳総覧』によれば、左岸部では旧京ヶ島村7基、旧滝川村8基、玉村町下郷地区1基を数え、右岸部には旧大類村柴崎地区6基、旧岩鼻村栗崎から岩鼻台新田にかけて2基、旧岩鼻村綿貫から岩鼻台にかけて22基が知られている。これらの古墳の中で本遺跡南西、井野川左岸に位置する全長91～96mの前方後方墳の元島名將軍塚古墳(26)は4世紀初頭の初期古墳である。また、南方の柴崎町蟹沢古墳(37)からは、正始元年銘三角縁神獸鏡を含む鏡4面が出土している。その

他、慈眼寺境内と周辺には12基の現存が確認でき、その中に古い様相を呈する慈眼寺1号墳(円墳、堅穴式系)や滝川村2号墳・伊勢山南古墳の50～60mクラスの後期前方後円墳が存在する。総貫町に所在する史跡綿貫観音山古墳(33)の一带も古墳群として著名である。

一方、古墳以外の遺構では、本遺跡の西側上滝遺跡(25)で古墳時代初頭の集落が確認され、鈴ノ宮遺跡でも古墳時代初頭の住居跡や前方後方型周溝墓が確認されている。さらに、下齊田滝川A遺跡(19)では方形周溝墓と集落が、滝川C遺跡(13)、上滝社宮司東遺跡(14)、下滝高井前遺跡(17)では土坑等の遺構と共に土器が出土している。井野川の右岸に位置する高崎情報団地遺跡でも、古墳時代初頭の住居跡や前方後方型周溝墓が確認され調査が成されている。蟹沢古墳の南に位置する矢中村東遺跡(41)では方形周溝墓2基、矢中村東B遺跡(42)では前方後方型の周溝墓1基と方形周溝墓2基、村東C遺跡(43)では方形周溝墓10基と円形周溝墓1基が検出されている。本遺跡の北側に位置する西横手遺跡群Ⅰ・Ⅱ(21・22)でも方形周溝墓が調査されている。さらに利根川の対岸となる前橋市横手町の横手早稲田遺跡(7)で住居跡が、横手湯田遺跡(12)では方形周溝墓が検出されている。このように、古墳時代前期の遺跡は井野川の河岸段丘上の低台地に広がっている様子が窺い知れよう。古墳時代後期の遺跡には、井野川右岸の高崎情報団地遺跡、中大類金井遺跡(27)、中大類金井分遺跡(28)、殿谷戸、旭、富士塚C、華人、吹手、峰岸、下大類遺跡(36)、綿貫遺跡(32)等で集落の調査が行われている。井野川左岸でも上滝遺跡(25)や上滝堰町北遺跡(北関東道用地内)で住居跡が調査されており、下滝天水遺跡(29)では集落の調査が行われている。

古墳時代における水田や畠等の生産遺跡の発掘調査例が近年急激に増加し、前期より水田化が図られ上滝堰町北遺跡の第8面の例が充当するものと考えられる。6世紀初めと考えられるHr-FA下水田は、多くの遺跡で確認されている。本遺跡を含め、隣接



第6図 周辺道跡の分布



する上滝榎町北遺跡、西横手遺跡群Ⅰ・Ⅱ(21・22)及び利根川対岸の前橋市横手早稲田遺跡(7)、横手湯田遺跡(12)、横手宮田遺跡(11)、亀里平塚遺跡(10)、南側に隣接する上滝五反畑遺跡(3)、下滝天水遺跡(29)で検出されている。6世紀中葉のHr-FP起因の泥流下での水田は、本遺跡を含め、上滝榎町北遺跡(4)、横手早稲田遺跡(7)、横手湯田遺跡(12)で検出されており、その範囲は現利根川流域に分布域を占めている。この泥流堆積状況から、現利根川以前にも棒名山系から流れ下る大規模な河川の存在が推測される。

奈良・平安時代 奈良・平安時代の集落は、近隣の遺跡(25)や本事業関連の下滝天水遺跡(29)、井野川右岸に位置する柳貫小林前遺跡(31)等で調査されている。その他に柳貫遺跡(32)、下大類遺跡(36)、中大類金井遺跡(27)、柴崎熊野前遺跡(39)等でも集落の調査が行われている。また、天仁元(1108)年とされる浅間山を給源とする成層テフラであるAs-Bに覆われた地域である当地一帯はAs-B下からは平安時代後期水田が実に多くの遺跡で検出されている。こうしたAs-B下の水田に対して条里制研究も盛んに進められている。

中世 中世の遺跡には、大小の城館跡や環濠屋敷跡がある。代表的な城館としては、本遺跡の南の井野川左岸部に元島名城や元島名内出がある。元島名城は元島名遺跡(24)の発掘調査で堀等が一部調査されている。上滝中屋敷では、環濠屋敷跡の一部が

調査されている。また、上滝榎町北遺跡や下滝天水遺跡(29)でも、中世館跡の一部が検出されている。

近世 この地域の近世遺構・遺跡として最も著名なものに、本遺跡内を流れる滝川がある。滝川は天狗岩用水といわれ、吉岡町付近の利根川から取水し、前橋市西部から高崎市東部を経て玉村町に至る広範囲な地域を灌漑する用水である。この天狗岩用水は、総社城主秋元長朝によって慶長7(1602)年から同9年に掘削・完成された用水であり、さらに慶長15(1610)年に幕府代官伊奈備前守忠次が滝川の江原源左衛門重久の協力を得て、植野堰用水大友塚から福島村(玉村町)までの延長工事を行なった用水で、水下村63カ村に及ぶ大用水路である。村の支配は幕府領一三カ村、旗本領一カ村、前橋藩領二三カ村、高崎藩領二八カ村となる。また、この用水からの分水堰は、一番五千石堰から二八番上之手堰まであり、滝村に二カ所の分水堰があったことが文書から知ることができ(『新編 高崎市史 資料編7』)。

一方、近年の発掘調査では、天明3(1783)年七月に大噴火した浅間山を給源とするAs-A軽石に覆われた遺構、およびその噴火に伴って発生した泥流により埋没した遺構・遺跡の調査例が急増している。特に近年、As-A泥流に埋没した遺構・遺跡が発見される例が増え西横手遺跡群Ⅰ(21)や横手南川端遺跡(12)、玉村町に所在する福島飯塚遺跡、さらには現在調査が進められ屋敷跡が検出された上福島中町遺跡等、多くの遺跡が確認されている。

表1 周辺遺跡一覧

遺跡No.	遺跡名	遺跡No.	遺跡名	遺跡No.	遺跡名	遺跡No.	遺跡名
1	宿横手三波川遺跡	13	滝川C遺跡	25	上滝遺跡	37	置沢古墳
2	西横手遺跡群	14	上地社宮河東遺跡	26	元島名町塚古墳	38	浅間山古墳
3	上滝五反畑遺跡	15	滝川B遺跡	27	中大類金井遺跡	39	柴崎熊野前遺跡
4	上滝榎町北遺跡	16	上滝西田北遺跡	28	中大類金井分遺跡	40	砂内遺跡
5	上滝日遺跡	17	下滝高井遺跡	29	下滝天水遺跡	41	矢中村東遺跡
6	横手南川端遺跡	18	下滝赤城遺跡	30	御伊勢山古墳	42	矢中村東B遺跡
7	横手早稲田遺跡	19	下谷田滝川A遺跡	31	藤貫小林前遺跡	43	村東C遺跡
8	村中遺跡	20	八幡原B遺跡	32	藤貫遺跡	44	飯玉山古墳
9	公田地尻遺跡	21	西横手遺跡群Ⅰ	33	藤貫飯音山古墳	45	中里前遺跡
10	亀里平塚遺跡	22	西横手遺跡群Ⅱ	34	普賢寺裏古墳		
11	横手宮田遺跡	23	元島名B遺跡	35	不動山古墳		
12	横手湯田遺跡	24	元島名遺跡	36	下大類遺跡		

## 第5節 基本土層

本遺跡周辺は圃場整備された水田地帯であり、調査開始時には旧地形は不明確であったが、調査進行に伴い自然災害による火山灰や洪水層が確認され、直下面から水田遺構をはじめ様々な遺構が検出され、過去の状況が見えてきた。

調査地は南北に長く、現水田面の標高は上滝町境のA区で79.6m、北側E区では80.3mを測り比高差は約0.7mと北から南に緩い傾斜が見られた。調査を進め最下層のシルト面では、A区で標高78.6m、E区で78.90mを測り、比高差は0.3mと現況より更に傾斜は緩い状況であった。

以下は本遺跡の基本的な土層である。

**第I層** 現在の耕作土。As-Aを含み旧地表Iaや鉄分凝縮層Ibに分層した。

**第II層 (黄褐色土)** 東方200mに位置する利根川変流以降の洪水層を母材とする。洪水砂の間層にシルト質土の堆積が見られIIa・IIb・IIc等に分層した。上面にAs-A廃棄用の灰掻き溝や水田・畝状遺構を調査し、下層で水田床土などが検出された。

**第III層 (暗褐色砂質土)** 変流洪水層直下に堆積し、As-Bを多量に含む暗褐色砂質土（現場呼称：B混土）である。ザラついた均一の土質であり、層厚は10～20cm程になる。この層は水田耕作土である。また、下層のAs-B直上にはAs-Bを主体とする黒褐色が見られる地点もあり、IIIb層に分層した。

**第IV層 (As-B層)** 平安時代末の天仁元年（1108年）とされている火山灰。灰や軽石のユニットは見られず、くすんだ二次堆積のような軽石層であり、層厚も全体に薄い。

**第V層 (黒褐色粘土層)** As-B下水田耕作土。非常に粘性が強く、第VI層の緑がかった灰白色粘土を母材とする。下部は黒褐色土と灰褐色土のブロック混土が見られ、耕作による攪拌と考えられる。

**第VI層 (灰白色粘土層)** 緑がかる。非常に粘性が強く細砂やシルト等の混入は見られず、沼沢地化

により形成された粘土のようである。（自然科学分析参照）層厚は均一であり10cm前後を測る。この層をVb層とした。

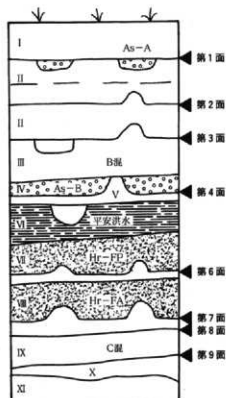
**第VII層 (明黄褐色シルト質土)** Hr-FP泥流堆積層である。FP泥流をVIIaとし、泥流中に数cm大の角閃石安山岩が見られた。また、この層に埋没した水田耕作土をVIIbとした。

**第VIII層 (褐灰色粘質土)** Hr-FA及び洪水層からなる層でありVIIIaとした。軽石はほとんど見られない。直下面に水田が検出されVIIIbとした。

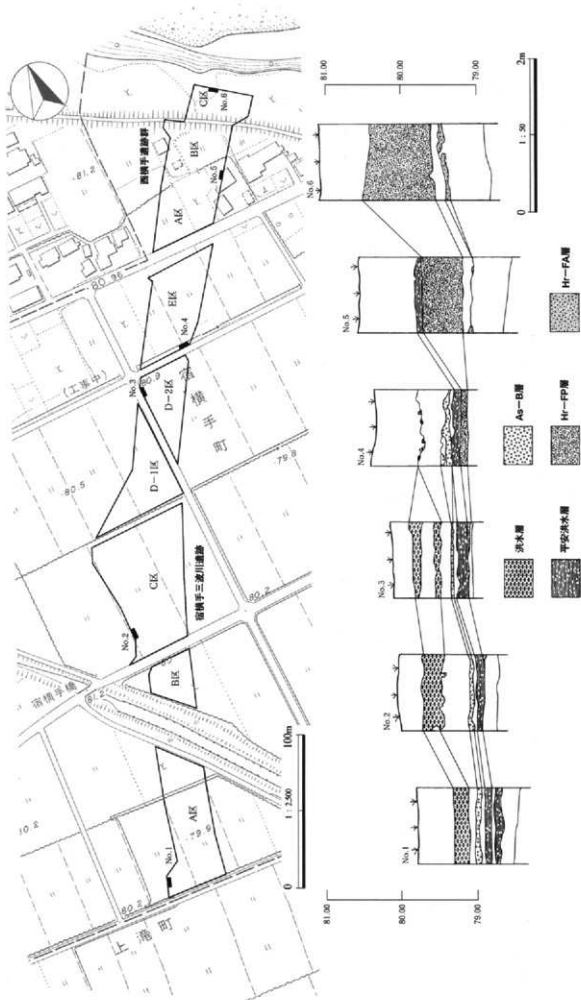
**第IX層 (黒褐色土)** 3～5ミリほどのAs-C混じりの黒色または黒褐色土（現場呼称：C混またはC黒）であり、粘性がやや強い。

**第X層 (As-C層)** 浅間山の4世紀初頭の噴火火山灰層。大半は鋪込まれ黒っぽくくすんだ軽石のみの層。面的広がりは見られない。河道等の埋没土中にレンズ状堆積で確認される程度である。

**第XI層 (黒灰褐色土)** 粘性の強い。



第7図 基本土層模式図



第 8 図 地点別基本土層図

調査区遺構検出面对照表

	宿横手三波川道跡					西横手道跡群		
	A区	B区	C区	D区	E区	A区	B区	C区
第1面	As-A混土下。区画・耕作痕	As-A混土下。区画・耕作痕	As-A混土下。区画・耕作痕、土坑、溝	As-A混土下。区画・耕作痕、土坑、溝、棚列、灰掻き穴	- 1。屋敷、道、溝、土坑 - 2。溝、区画、土坑、墓坑、井戸、掘立柱建物	As-A混土下。土坑、溝、井戸、堅穴状遺構、サク状遺構	As-A混土下。土坑、溝、井戸、灰掻き穴	土坑、井戸、溝、掘立柱建物
第2面	As-B混土上。水田、溝、畠状遺構	As-B混土上。水田、溝状遺構	As-B混土上。水田、溝、土坑	- 1。区画、溝- 2。水溜、土坑、溝	- 1。区画、溝、土坑 - 2。水田、溝	溝、掘立柱建物、火葬土坑、ピット、耕作痕	溝、井戸、土坑	Hr-FP泥流下。水田
第3面	As-B下水田、土坑	As-B下水田、土坑、水路状遺構	As-B混土土坑、掘立柱建物	- 1。溝、畦畔、畑状遺構、土坑 - 2。As-B混土下。道路、溝、土坑	As-B下水田、溝	As-B下。水田	溝、掘立柱建物、棚列、井戸	Hr-FA下。水田
第4面	Hr-FA下。水田、溝、土坑	Hr-FA下。水田、土坑	As-B下。水田、溝	As-B下。水田、溝	Hr-FP泥流下。水田	Hr-FP泥流上。溝、土坑	As-B下。溝	As-C混土中。水田
第5面	As-C混土下。溝、土坑		Hr-FP泥流下。水田、溝、土坑、サク状遺構	Hr-FP泥流下。水田、溝	Hr-FA下。水田、溝	Hr-FP泥流下。水田	Hr-FP泥流上。溝、土坑	As-C混土下。畦畔
第6面			Hr-FA下。水田、溝、土坑	Hr-FA下。水田	As-C混土中。水田、溝	Hr-FA下。水田	Hr-FP泥流下。水田	
第7面			As-C混土下。溝	As-C混土下。水田、溝	As-C混土下。水田、溝	As-C混土。水田、溝	Hr-FA下。水田、溝	
第8面				水田、溝	溝	As-C混土。溝	As-C混土。水田、溝	

## 第2章 宿横手三波川遺跡

### 第1節 遺跡の概要

本遺跡地は、現況で所々集落が島状に点在し、その間を圃場整備により整然と配された水田が広がる。この景観は、利根川対岸の前橋市横手町や本道跡に南接する高崎市上滝町から南方の佐波郡玉村町方面へと広がり、この地域で発見された遺跡の景観も類似していた。

本遺跡や近隣地域の発掘調査により地層の堆積状況や遺構の検出状況を確認したところ、この地域は自然災害に何度も見舞われた地域であることがわかった。特に利根川流域であることから、中世に始まるとされる利根川の変流以後には度重なる利根川氾濫洪水に見舞われていたことが確認され、遺跡に残る各洪水の被害は昭和22年キャサリン台風でもわかるように甚大であったこと想像できる。また、利根川氾濫洪水以外にも浅間山や榛名山の噴火火山灰に覆われていたり、噴火後の泥流が押し寄せているなどの自然災害層が確認できた。

本遺跡の検出遺構の概要は以下の通りであるが、発掘調査段階で付した各調査区毎の面呼称を優先したため調査区毎に面呼称が異なる。各面の対照表を左頁に掲載したので参照していただきたい。

表土下面を第1面として調査を行い、主に天明3年の浅間山噴火に伴うAs-Aの検出状況を基準とすることから近世以降の遺構群を検出した。As-Aは降灰後の耕作により攪拌を受けた状態で検出され、畝状の耕作痕の残る区画内にのみ動きこぼれたような軽石層の薄い堆積が見られた。この耕作痕の残る区画は散在し特にA区・C区で顕著に見られた。E区においては、地形が若干高いのか耕作痕の残る区画は検出されず、近世の屋敷廻跡などが検出された。

As-Aの下層には中世に始まる利根川の変流とその後の氾濫洪水層が見られるが、利根川から離れたA区からC区にかけては利根川の氾濫層は薄く、洪水層直下のAs-B混土上面を第2面とし中世と判断し

た。しかし、D区・E区については洪水層の堆積が厚く、洪水層中に安定面を確認でき第2面として中世から近世までの間の遺構と判断した。各区ともこの洪水層の層厚により耕作状況が異なったのか調査面検出が異なり始め面呼称がズレた。洪水層下の検出遺構は水田が主であり、D区からE区にかけては還元土や酸化土の土質の異なる面の状況から水田の畦畔痕跡を確認した。また、各調査区でこの混土層中より掘り込まれAs-B層下で検出できる土坑、掘立柱建物跡、道路遺構等が確認でき次面とした。

As-B混土下には全調査区で確認できるかなり攪拌された1108年浅間山噴火火山灰(As-B)があり、この層下を古代面とした。全調査区でAs-B下より水田を検出した。このAs-B下水田耕作土はこの地域から利根川流域に見られる洪水堆積土である灰褐色粘質土を母材としている。この洪水層下には明黄褐色シルト質の洪水堆積層が間層を挟み2層確認でき、それぞれ6世紀代の榛名山噴火に伴う泥流層である。上の洪水層は6世紀中頃のHr-FP泥流層であり、下層は6世紀初頭とされるHr-FA泥流層である。両洪水層は調査区により層高が異なる。両洪水層直下面から2m前後の極小区画水田を検出した。

この極小区画水田下層にはAs-C混じりの黒色土が堆積し、部分的に水田畦畔の痕跡を確認できた。更に下層には灰褐色粘土が堆積し、旧河道や溝が入り組んだ状態で確認できた。

## 第2節 A区の検出遺構

### 1. A区の検出面の概要

当区は遺跡南端部に位置し、上滝町の上滝榎町北遺跡と接し、北端は滝川が流下する。当区は利根川変流後の洪水堆積層は薄く、調査面数は4面と他の調査区に比して少ない。

各面の概要は以下の通りである。

第1面（近世以降） As-A降灰以降 水田

第2面（中世） 洪水下 水田・土坑群

第3面（古代） As-B降灰下 水田

第4面（古墳時代） Hr-FP泥流下 水田・溝

これらの遺構確認面間の間層中にも耕作や遺構の掘り込みなど継続的な生活の痕跡があり、掘り込み面の特定は困難であり、洪水層や火山灰層下の遺構検出面と同時調査がなされた。

### 2. 第1面の検出遺構（近世以降）

#### (1) 第1面の概要

当区でも現耕作土下から薄く面的に広がる攪拌されたAs-Aの堆積が確認出来、軽石下から周辺遺跡で見られた耕作痕の残る区画などを検出した。検出区画は20区画であり、大半の区画からは耕作痕が確認でき、耕作痕のない区画は数面であった。区画間には広狭の低い畦を検出した。溝は無い。

#### (2) 検出遺構

##### 1) 区画（第10～14区、PL3）

検出面区画数は20区画を数え、内14区画で耕作痕を確認した。全景の想定できる区画は10号～14号区画のみであり、多くは調査区外に広がる。区画形状は10号区画のような方形や14号区画のような長方形を呈する区画が大半であり、11号～13号区画のように畦畔の曲がりによる形の崩れた区画もある。

畦畔 国家座標の東西南北方向を意識されたような配置であり、調査区中央部には南北方向に伸びる平夷され高さのない大畦畔を検出した。大畦畔は下幅1.1mの規模を持つ。また、他の南北畦畔も大畦畔

と平行に直線的に通る。東西畦畔は大畦畔とは直交するが、他の東西畦畔とは直線的に通らずクランク状の配置となる。畦間は10号・11号・14号・18号区画の南北間と2号・3号区画の東西間が13mに近い値が測れる。

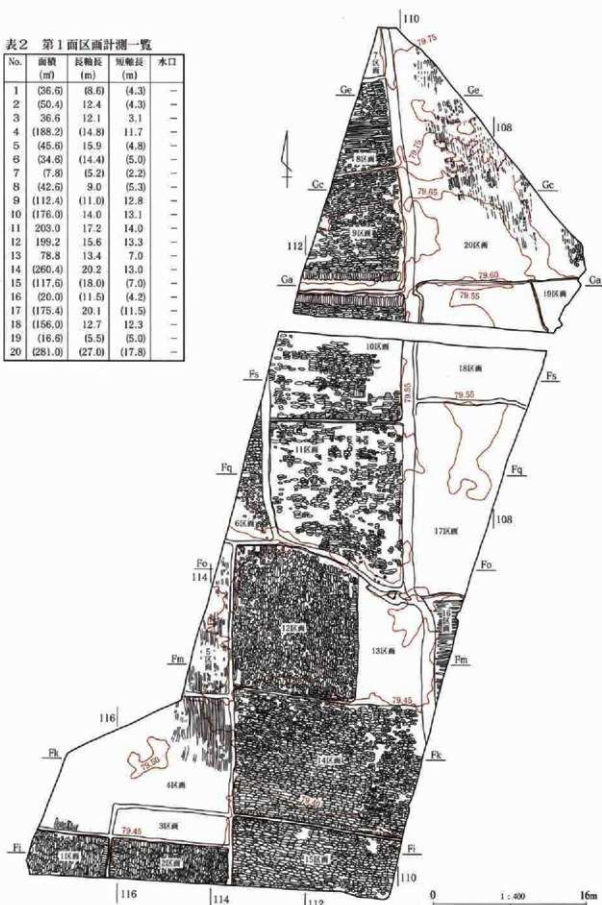
耕作痕 南北大畦畔を挟んで東西両側の区画列は耕作痕の有無がはっきりしており、西側区画列は面中に長楕円形の耕作痕が密に見られ、東側区画列には痕跡が薄い。耕作痕は全面に隙間なく長辺方向に進む傾向が見られ、残存長1m近い耕作痕もあり、鋤鎌状工具による連続する打ち下ろし作業が行われたと考えられる。また、1号・2号区画境や9号・10号区画境では、区画面中に残る耕作痕とは異なる1m程の耕作痕が畦に対し直交方向に連続する。

田面全帯に残る耕作痕は隙間無く連続し、耕作方向は交互又は2列でサク切りされ、埋没土中には二次堆積のAs-Aを主とし黄褐色砂質シルト小ブロックが含まれる。耕作痕埋没土から耕作の時期差があるとは考えられず、密接耕作痕から畝作による植え付けに伴う耕作ではなく、As-A降灰後の田起こし時の作業と考えられる。北関東自動車道の宿横手三波川遺跡発掘調査報告書で岩崎氏が述べているように「水田基底部に残された痕跡」であり、この耕作痕が明瞭なことから田起こし後の作業が中断されたか短期的な耕作の可能性が考えられる。

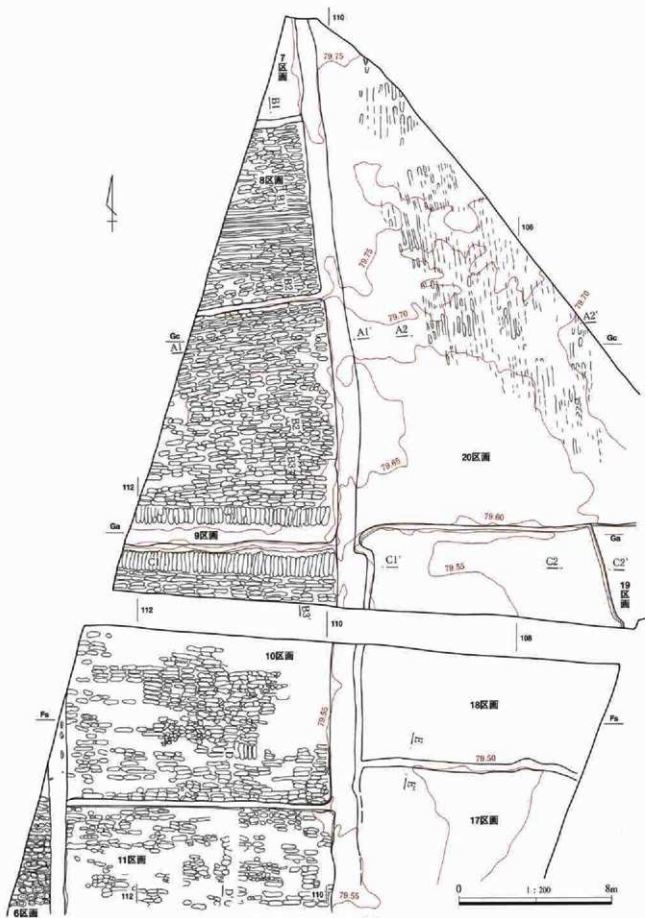
この地域の降水量は文献などから30cm前後の堆積が想定でき、この灰の除去には山に盛り上げる「灰塚」や何条もの溝を掘り埋め込む方法等が行われていたことがわかっている。今回検出された耕作痕は上記の廃棄方法で除去しきれなかったAs-Aを土中に埋め込むために行われた作業痕の可能性が考えられる。

表2 第1面区画計測一覧

No.	面積 (m)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(36.6)	(8.6)	(4.3)	—
2	(50.4)	12.4	(4.3)	—
3	36.6	12.1	3.1	—
4	(188.2)	(14.8)	11.7	—
5	(45.8)	15.9	(4.8)	—
6	(34.6)	(14.4)	(5.0)	—
7	(7.8)	(5.2)	(2.2)	—
8	(42.6)	9.0	(5.3)	—
9	(112.4)	(11.0)	12.8	—
10	(176.0)	14.0	13.1	—
11	203.0	17.2	14.0	—
12	199.2	15.6	13.3	—
13	78.8	13.4	7.0	—
14	(260.4)	20.2	13.0	—
15	(117.6)	(18.0)	(7.0)	—
16	(20.0)	(11.5)	(4.2)	—
17	(175.4)	20.1	(11.5)	—
18	(156.0)	12.7	12.3	—
19	(16.6)	(5.5)	(5.0)	—
20	(281.0)	(27.0)	(17.8)	—

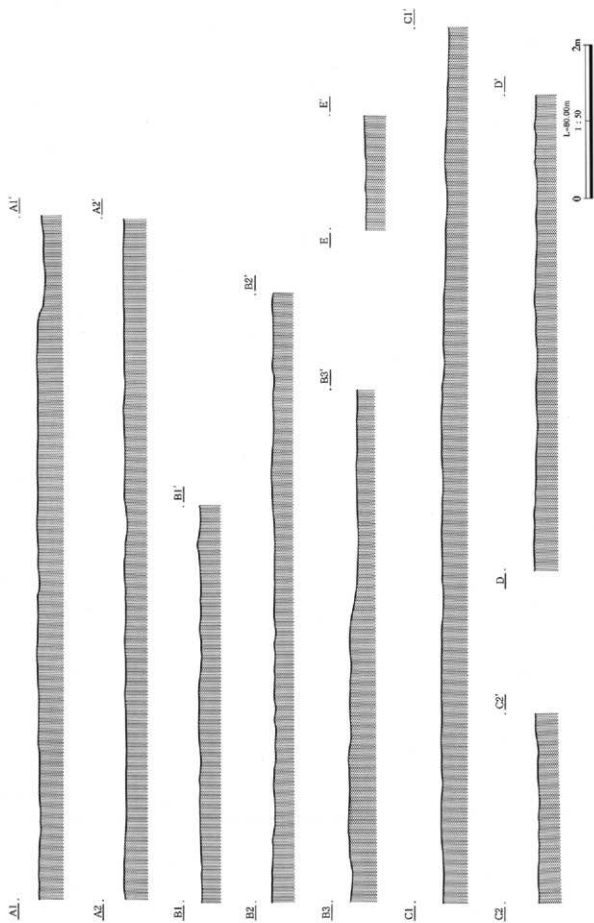


第9図 第1面全体図

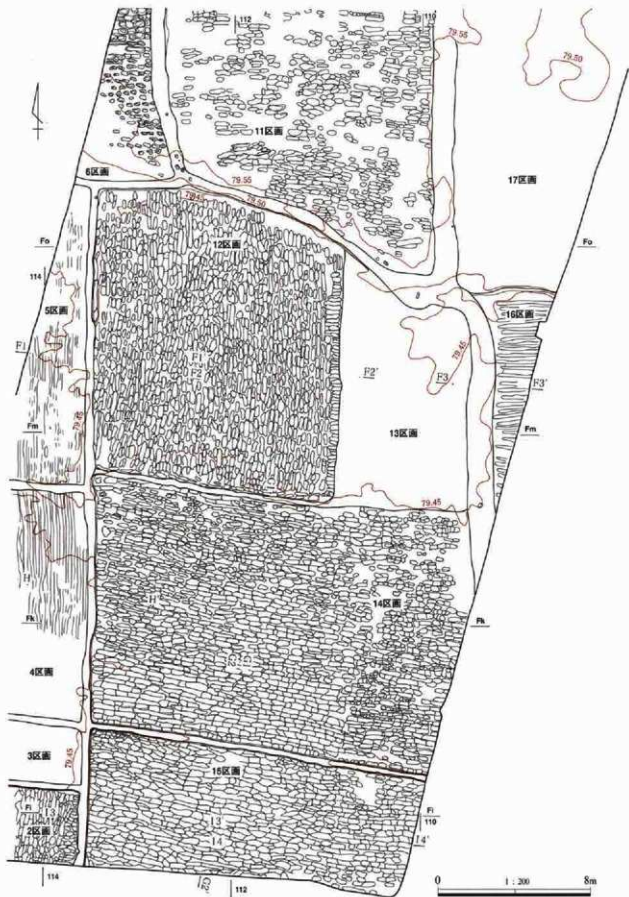


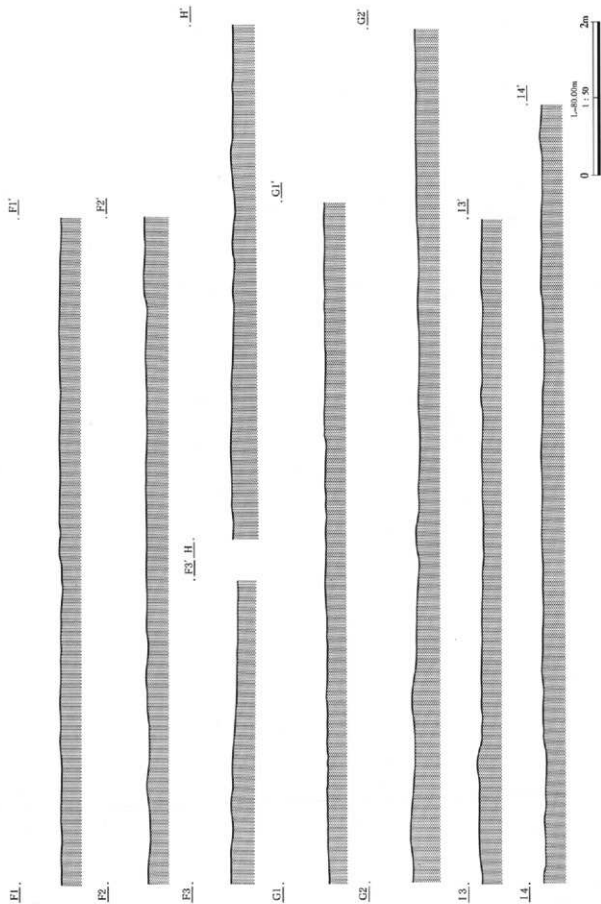
第10图 第1面区图(1)



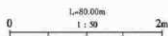
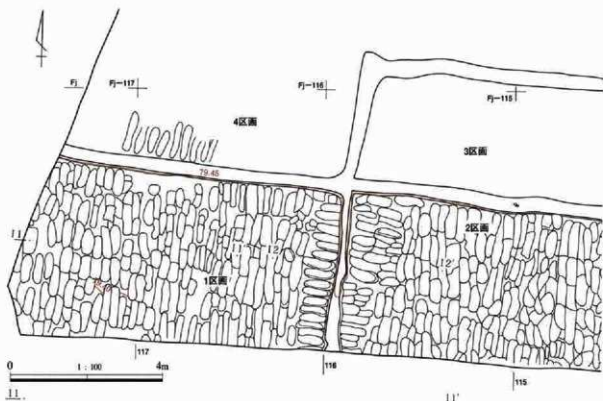


第11图 第1面区面地质图(1)





第13图 第1面区面状构造图(2)



第14図 第1面区画(3)



第15図 第1面遺構外出土遺物

第1面 遺構外出土遺物観察表(第15図、PL78)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	陶器 鉢鉢	表採 底部破片	①-②(20.0) ③(4.8)	紅物微。炒過。外面～芯 酸化。灰褐色。	外面化粧土が薄層か不明。内面に9+α条の細い押目あり。復原。16・17世紀。
2	胎物陶器 碗	フタ土 体部片	①-②- ③-	紅物見えず。締。還元気 味。暗褐色。	内外面両軸あり。割れ口消耗微。瀬戸・美濃。18世紀。
3	古銭	表採・完存	直径2.3cm,孔径0.65cm,重さ2.2g		「寛永通宝」銅主材。字部やや太い。

### 3. 第2面（中世）の検出遺構

#### (1) 第2面の概要

第1面の基盤層である明黄褐色砂質やシルト質土は利根川の洪水砂である。他の調査区ではこの層中より中・近世の遺構を検出したが、本区では遺構面は検出されなかった。この洪水層下で確認された黒褐色土は、As-Bが多量に含まれる砂質土層であり、As-Bが良く攪拌され均一に混ざっている。

検出遺構には水田畦畔状の高まりと溝2条、また調査区北の区画では浅く平行気味に並ぶ溝群を検出し、畝のサク状遺構として調査を行った。これらの検出遺構は後世の攪拌を受けたものか遺存状態は極めて悪く、確認面に残された痕跡が面として捉えられたか疑問である。

#### (2) 検出遺構

##### 1) 溝

1号溝（第17図、PL3）は、調査区中央部の大畦畔状の高まり部分で確認し、深さ3cmと浅い溝である。形状は波状にうねる。

2号溝（第18図、PL4）は、調査区北端から南に延び、中央部でL形に屈曲する。確認全長50m、南北辺で上幅2.5m・下幅1.2m、深さ22cmを測り、東西辺で2.5m、下幅2m、深さ17cmを測る。本遺構上層の第1面では同一方向に大畦畔が作られ、溝から道への変遷が考えられる。

##### 2) 水田（第17図、PL3）

僅かな高まりや段差、土質の違いにより水田畦畔として捉えたが、部分的に確認されるため水田区画として方形に連続するものではなく、水田形状は復元できなかった。

畦 調査区中央部の1号溝と重なる部分におよそ11mの長さで、幅1.2mから最大2mの持つ高まりを

確認した。周囲より数cm高く幅的には大畦の可能性が考えられ、ここから北に2条の直線的な段差を持つ畦状の痕跡を確認した。西側段差はほぼ標北方向に向き、最大4cmの高低差を示した。東側段差は2号溝方向にN-20°-Eに向き、最大10cmの高低差を持つ。また調査区中央西側において南北方向に幅50cm弱の土質の異なる直線を確認した。方位はN-2°-Wを指す。

##### 3) 畝状遺構（第18図、PL4）

調査区北、滝川際の区画において溝間60～80cmの平行する溝群を検出し、この溝群を畝のサクとして畝状遺構として調査を行った。しかし、本遺構の大半は掘り込みと呼べるほど深さはなく部分的には重複も見られるなど、後出する時期の耕作溝と考えられる。

畝状遺構は南北に通る2号溝を挟み、西側を1号畝状遺構とし、東側を2号畝状遺構とする。

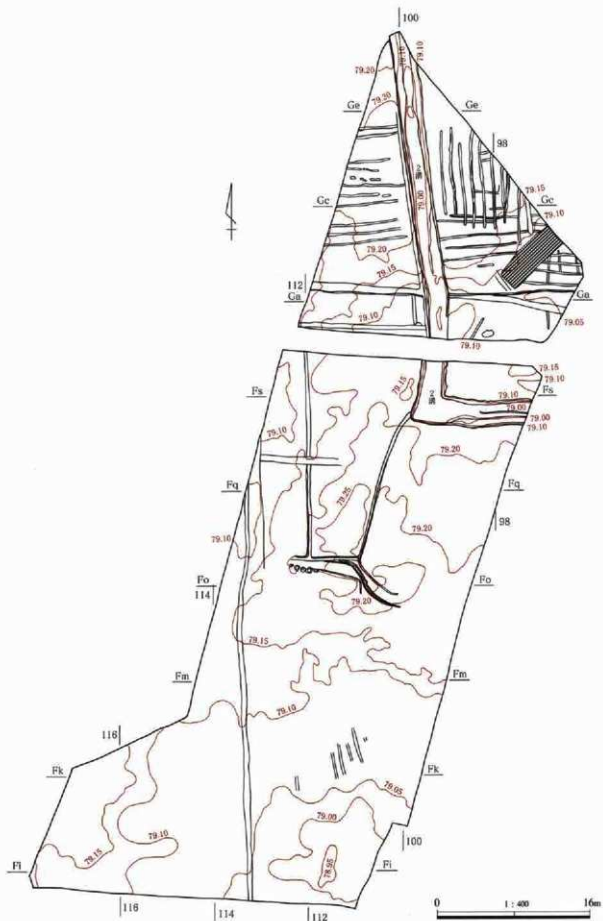
1号畝状遺構は、東西方向に60cm間隔で3条と6条の9条を検出した。サクの確認全長は最大で9m、幅は20cm前後であり、耕作痕は見られない。

2号畝状遺構は、南北方向と東西方向にサクが伸び重複が見られ一部で重複の逆転が確認できた。南北方向のサク間80～90cm、確認全長最長は約10.5m、幅20cm前後を測る。東西方向のサク間は80cm前後、確認全長最長は約14m、幅20cm前後を測る。

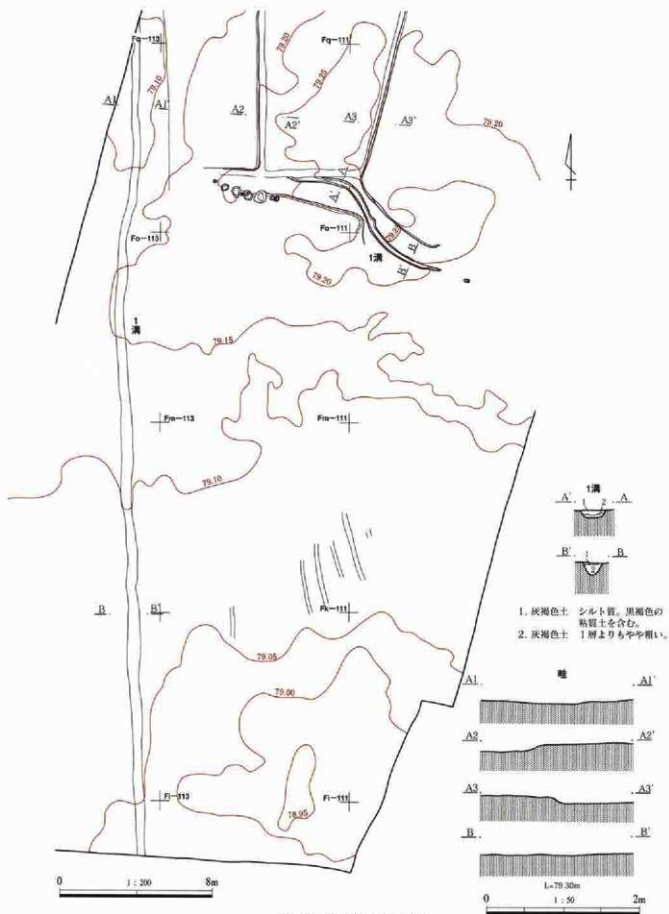
調査区南でも4条の短い長さ3m前後の畝状遺構を確認した。

表3 第2面溝計画一覧

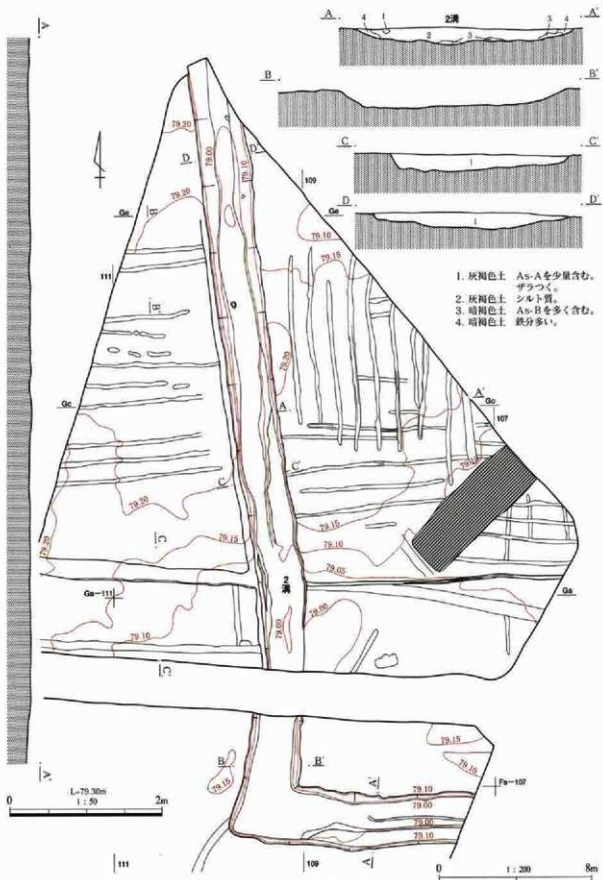
名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m・幅・深さ:cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅		深さ
1	Fo-111→Fn-110	N-60°-W	0.07	12.0	38	20	10	畦状高まり上で確認。
2	Gf-110→Fr-107	S-18°-E	0.06	50.0	270	216	22	直角に曲がる。区画間?



第16图 第2面全体图

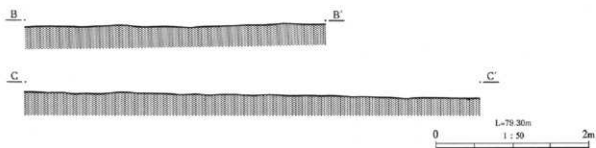


第17図 第2面1号溝・畦畔

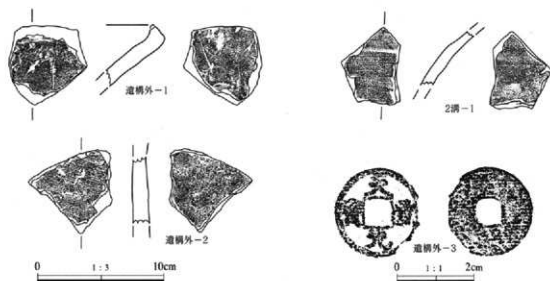


第18図 第2面2号溝・畝状遺構





第19図 第2面島状遺構横断面



第20図 第2面溝・遺構外出土遺物

第2面 2号溝・遺構外出土遺物観察表(第20図、PL78)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
2溝 1	軟質陶器 内耳痛?	フク土 頭部片	①-②- ③-	灰物含。軟。芯中性気味 内外面焼。黒褐色。	外面に灰付着。外面指圧痕。内面に横撫であり。割れ口消耗 あり。在地。17世紀。
1	軟質陶器 鉢	フク土 口縁部片	①-②- ③(5.8)	灰物含。差。外面少還元 内面同じ。芯酸化気味。 にぶい黄褐色。	指印痕不明。器面・割れ口とも消耗大。器内厚手。地方窯。 にぶい黄褐色。15世紀前。
2	焼締陶器 甕	フク土 頭部下片	①-②- ③-	黒・白色粒含。締。還元 気味。にぶい黄褐色。	内外面に割で痕。内面に指圧痕。割れ口に紐作痕あり。常滑 13~16世紀。
3	古銭	一部欠フク土	直径2.3cm,孔長0.7cm,重さ2.2g		「天聖元宝」か。薄い。初鑄1023年。北京。

#### 4. 第3面(古代)の検出遺構

##### (1) 第3面の概要

As-Bの降灰により埋没した面である。

As-Bの降灰層は灰層と軽石層に分けられるが、当地ではB混土形成時に灰層及び軽石層の大半が崩き込まれたようであり、最下層の軽石が僅かに残っている程度であった。また、残った軽石も攪拌を受

けているような状況であった。検出遺構には、水田遺構の他に溝・土坑・ピット等を検出したが、土坑・ピットについては一部に埋没土中にAs-B軽石混じりの上層土が入り、As-B降灰遺構に掘り込まれた遺構と考えられる。

(2) 検出遺構

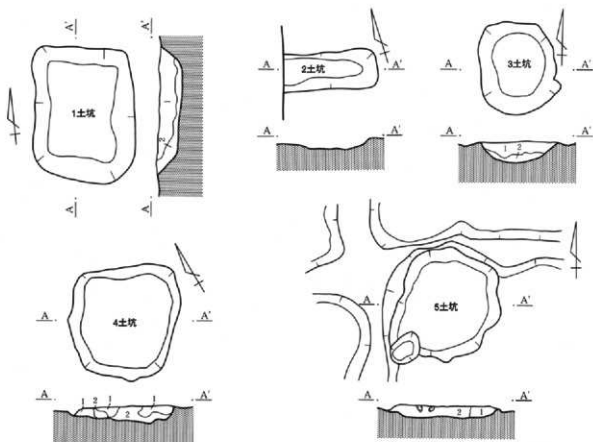
2) 土坑 (第21~23図, PL4~7)

この面から19基の土坑を検出した。この内10号土坑、11号土坑の2基を除き17基の土坑は、As-B層除去中に確認したものであるが埋没土中にB混土を含むことからAs-B降灰以降の掘り込みと考えられる。形状は長方形、楕円形、円形を呈し、規模や配置等の規則性は見られない。

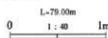
10号土坑は長辺1.03m、短辺78cmの隅丸長方形を呈し、深さ74cmを測り断面ロータ状に掘り込まれる井戸の形態である。11号土坑は最大規模を持ち長辺1.87m、短辺1.17m、形状は隅丸長方形を呈し、深さは25cmと浅い。

表4 第3面土坑計測一覧

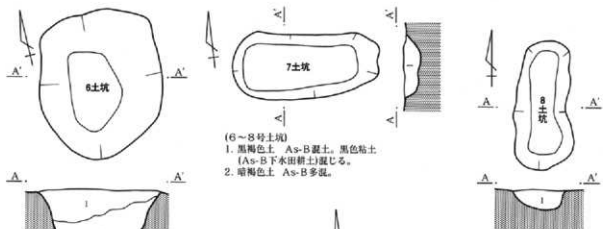
No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	方位
1	Ft-106	141	105	25	長方形	N-8°-E
2	Fs-112	(100)	39	11	不明	N-74°-W
3	Fm-113	99	80	22	円形	N-25°-W
4	F1-112	120	104	18	方形	N-31°-E
5	Fk-113	120	116	14	方形	N-3°-E
6	Fk-113	157	122	64	円形	N-15°-E
7	Fj-115	157	62	18	長方形	N-89°-E
8	Fj-116	137	47	20	長方形	N-6°-E
9	Fi-116	106	78	10	長方形	N-10°-E
10	Fh-116	103	78	74	方形	N-5°-E
11	Fi-117	187	117	60	長方形	N-83°-W
12	Fh-117	170	84	25	楕円形	N-85°-W
13	Fh-112	(172)	127	60	不明	N-1°-E
14	Fj-112	135	64	14	楕円形	N-15°-W
15	Fj-110	102	69	15	楕円形	N-78°-E
16	Fm-109	77	70	23	円形	N-55°-W
17	Fm-109	101	78	28	円形	N-24°-W
18	Fq-109	150	112	33	方形	N-2°-W
27	Fn-108	(58)	70	47	不明	N-76°-W



- (1・3~5号土坑)  
 1. 黒褐色土 As-B混土、黒色粘土(As-B下水田積土)混じる。  
 2. 暗褐色土 As-B多量。

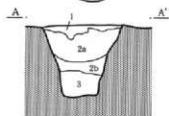
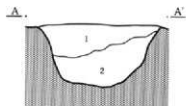


第21図 第3面土坑(1)



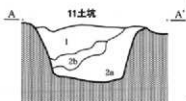
(6-8号土坑)

1. 黒褐色土 As-B多混。黒色粘土 (As-B下水田耕土)混じる。
2. 暗褐色土 As-B多混。



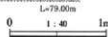
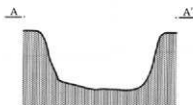
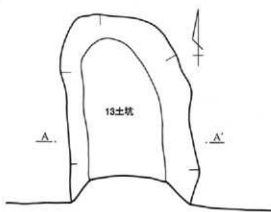
(10号土坑)

1. 暗褐色土 As-B多混。
- 2a. 暗褐色粘土と青灰色シルトブロック混土。
- 2b. 2aのブロック(5cm大)に比べて大きい。
3. 褐灰色粘質土に黒色粘土ブロック混土。

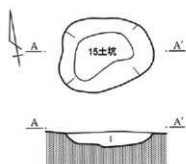
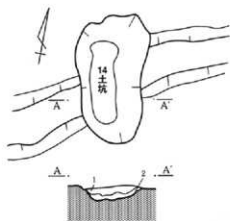


(11・12号土坑)

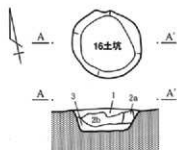
1. 暗褐色土 As-B多混。
- 2a. 暗褐色粘土と青灰色シルトブロック混土。
- 2b. 2aのブロック(5cm大)に比べて大きい。



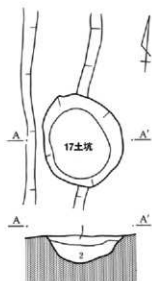
第22図 第3面土坑(2)



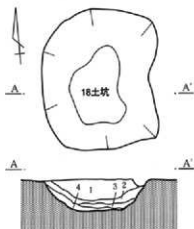
(14・15号土坑)  
 1. 黒褐色土 As-B混土。黒色粘土(As-B下水田耕土)混じる。  
 2. 暗褐色土 As-B多混。



1. 暗褐色土 As-B多混。  
 2a. 1層と同性状。中にAs-Bの薄い層。  
 2b. 褐灰色土 As-B混土。  
 3. As-B層 二次堆積。

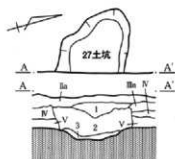


1. 黒褐色土 As-B混土。黒色粘土(As-B下水田耕土)混じる。  
 2. 暗褐色土 As-B多混。



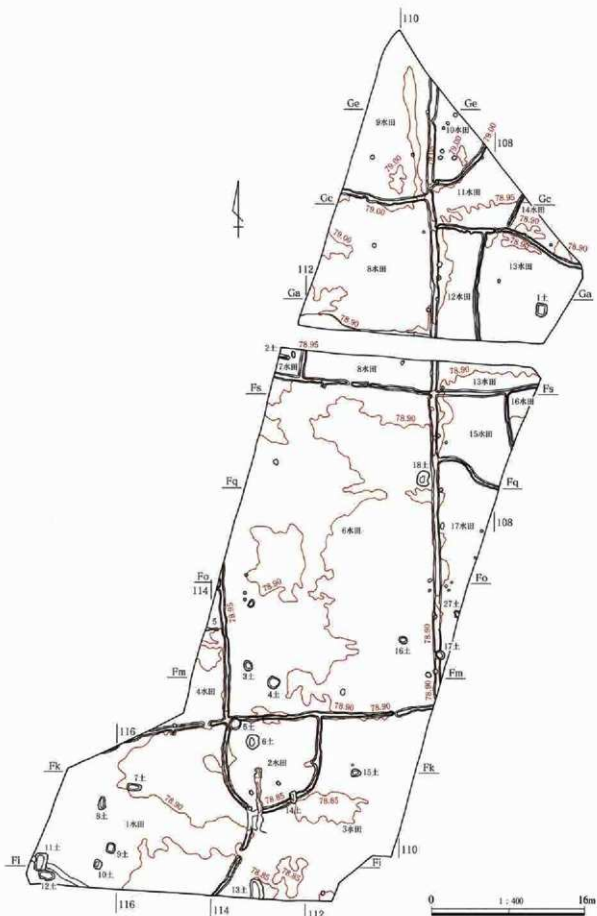
1. 褐灰色土 As-B多混。下層ブロック混じる。  
 2. 炭化物と1層の混土。  
 3. 褐灰色土とAs-B混。灰色粘質土ブロックの混土。  
 4. As-B主体に2層との混土。

L=79.00m



1. 黒褐色土 細砂質土。As-B混土。N・V層ブロック含む。  
 2. 褐灰色土 Ⅱb~Ⅴ層ブロックの混土。  
 3. 暗褐色土 粘質土。N・V層ブロックをごく少量含む。  
 \* IIa~Ⅴ層は、基本土層参照。

第23図 第3面土坑(3)



第24図 第3面全体図

## 2) 水田 (第25～28回、PL7)

水田遺構は、調査区全面に広がり17面の区画を検出したが、大半の水田は調査区外に広がり、区画全景が確認できるものは少なく、形状も矩形を呈するものは少ない。最大面積は全掘出来なかったが6号水田の694㎡、最小面積は12号水田の70㎡である。

**畦畔** 国家座標Y=-67.641ラインにのる南北畦畔は調査区を縦断し上幅約50cm、下幅約70cmの規模を持ち、高さ5cm弱の籐幹状を呈する。規模的には他の畦畔に比べ若干大きく大畦畔か。東西畦畔については国家座標X=36.091ライン付近と調査区南のX=36.055からX=36.057にかけての2カ所の畦畔が直線的に通る。畦畔規模は上幅20～30cm、下幅60～70cm、高さ5cm以下の籐幹状を呈する。

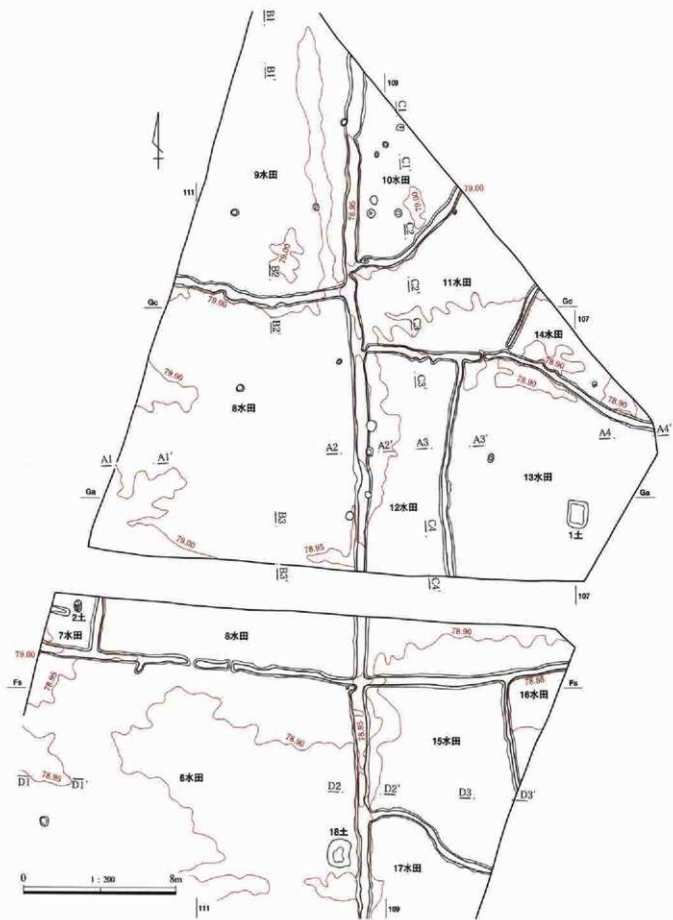
**水口** 水口位置は様々であり、1号水田→3号水田、4号水田→1号水田、5号水田→4号水田、6号水田→3号水田、8号水田→6号水田、11号水田→13号・14号水田への7カ所の水口を検出した。隅に設けられるものは5号水田→4号水田と11号水田→14号水田への2カ所であり、他の水口は中央部付近が多い。各水田への給排水は田から田への田越しにより行われていた。

**水田面** 田面には多数の浅く小さな楕円形の無数の窪みを検出したが、鋤痕などの耕作痕は確認できなかった。土質は粘性の強い黒褐色土を呈する。

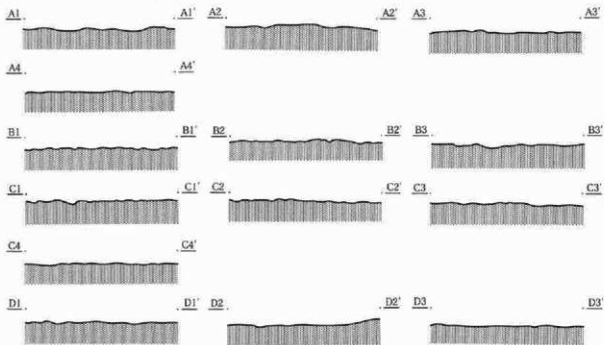
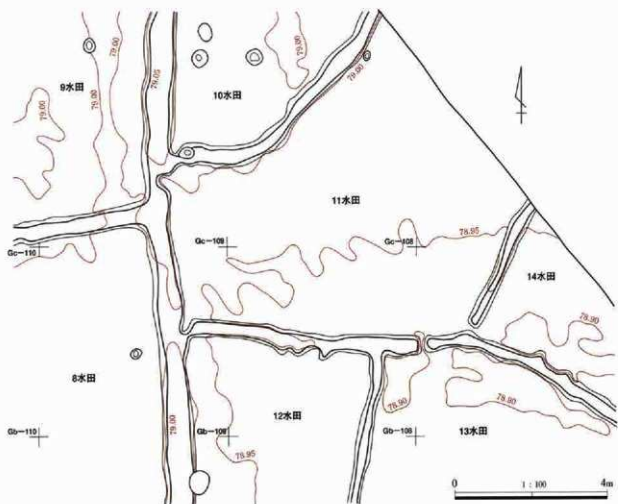
その他に田面中からは2～3cm前後の浅い溝状遺構を2条検出した。溝状遺構1は、調査区南端の1号水田内に確認全長6.8m、上幅50cm、下幅30cm、深さ3cm前後の規模を持つ。溝状遺構2は2号水田内より始まり3号水田に向かい法面が蛇行する。確認全長6.5m、平均的上幅50cmの規模を持つ。これらの溝状遺構は自然水流により削り込まれた痕跡と考えられる。

表5 第3面水田計測一覧

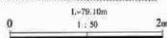
No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(306.4)	(21.4)	(17.5)	2
2	80.0	9.3	9.3	1
3	(241.6)	(19.3)	(15.7)	3
4	(34.4)	9.2	(8.0)	2
5	(4.4)	(5.0)	(1.7)	1
6	(694.4)	35.0	21.7	3
7	(6.4)	(2.8)	(2.4)	-
8	(238.4)	19.3	13.5	2
9	(105.6)	(17.5)	(8.8)	-
10	(29.6)	(9.5)	(5.1)	-
11	(51.4)	(9.5)	8.4	2
12	70.6	17.0	4.1	-
13	(126.0)	16.5	(10.9)	1
14	(14.8)	(8.4)	(3.8)	1
15	(58.8)	9.0	7.3	-
16	(7.4)	(5.0)	(3.1)	-
17	(71.0)	(22.0)	(6.4)	-



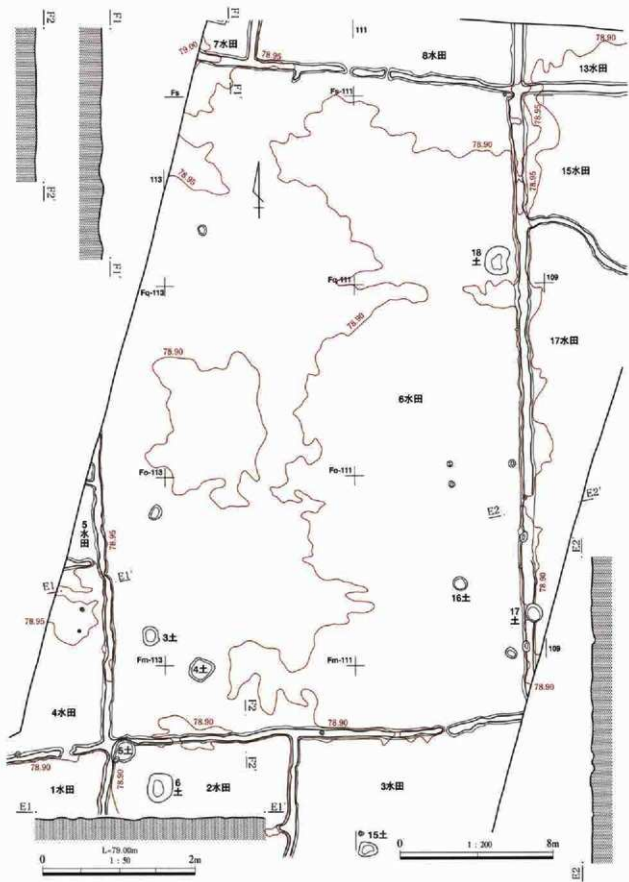
第25図 第3面水田(1)



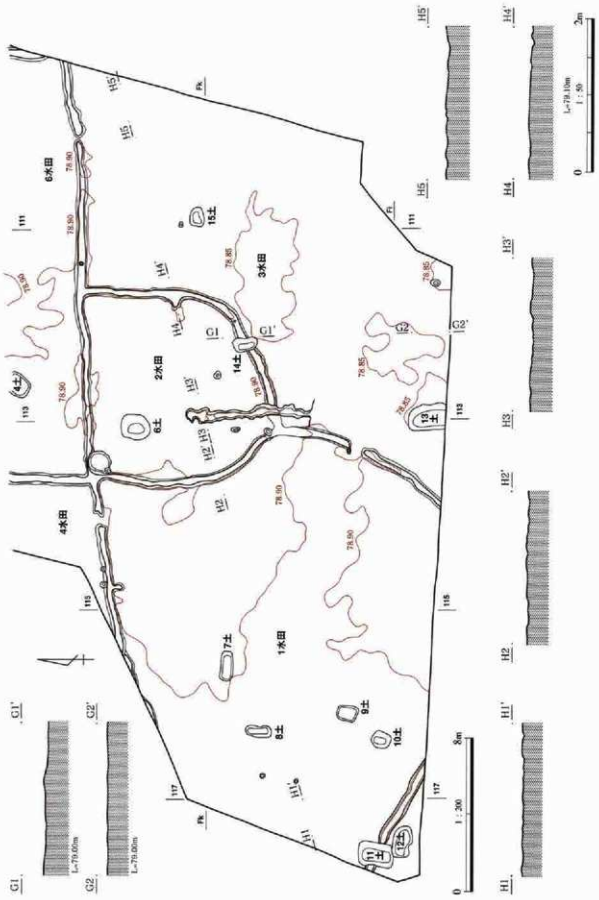
第26図 第3面水田(2)







第27図 第3面水田(3)



第28圖 第3画水田(4)

## 5. 第4面（古代）の検出遺構

### (1) 第4面の概要

As-B下水田耕作土である黒褐色粘土層は、他の調査区同様に緑がかかった灰白色粘土層を母材として耕土化されたものである。この灰白色粘土は、分析により滞水による堆積層であった。この層下に明黄褐色のHr-FAの堆積が見られ、この下より遺構を検出した。検出遺構は調査区南端部において水田遺構を確認し、調査区全体に畦畔状の高まりを散漫的に確認した。その他に溝19条、土坑17基を確認した。

### (2) 検出遺構

#### 1) 水田遺構（第30図、PL7）

調査区南端部のX=36.045ライン付近に僅かに低い部分が見られた。この窪みの下層面では河道や溝が集中して検出され、その影響で本面は沈んだ状況となった。畦畔はこの低位部の両脇を囲む形で東西方向に検出され、中央部に南北方向に仕切る2条の畦畔を検出した。唯一検出できた1区画分だけの水田面積はおよそ4㎡程であった。他の畦畔は、田面を削り込むような段差や連続しない高まりなど水田形状を復元できる明確な畦畔として検出できず、大半は後世の攪拌を受け消失してしまったと考えられる。

#### 2) 溝（第30～32図、PL10・11）

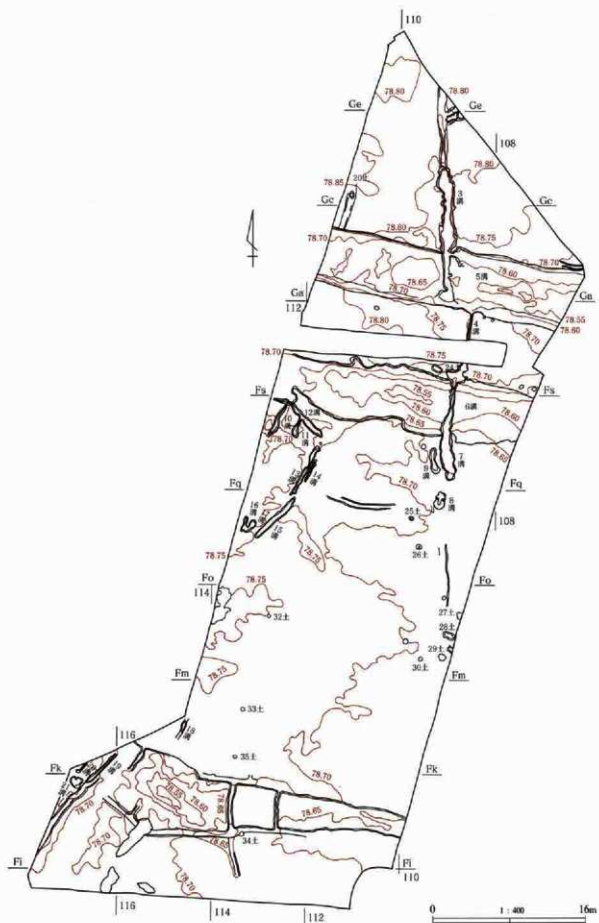
本面で検出された溝は、下層面で検出された河道の埋没途中の窪みや一時的な流水による開削など人為的というより自然流路的な溝が多い。

3号溝（第31図、PL10）及び7号溝（第31図、PL11）はY=-67.640ライン方向に伸び、自然流水の乱流により法面が削り込まれたような形状を示し、同一溝と考えられる。また、土坑状の短い8号溝（第30図、PL11）も3号・7号溝と同一溝と考えられる3号溝は同方向に伸びる水田畦畔を削り込み、5号溝上（第31図）を掘り込む。また、7号溝も6号溝（第31図、PL11）を掘り込む。

5号溝・6号溝は調査区北寄りN-65°-Wの東西方向に横断する。両溝下層には同位置同方向に31号溝・47号溝が検出され、両溝の埋没途中の状態と考えられる。10号から12号溝（第31図、PL11）は、6号溝に流れ込むような樹枝状に重なり合う状態であり、自然流水による開削痕と考えられ、16号溝や17号溝（第31図、PL11）も同様と考えられる。13号溝から15号溝（第31図、PL11）及び19号溝から21号溝（第30図、PL11）は短く通水目的の溝とは考えづらく、自然流水痕又は耕作痕の可能性が考えられる。

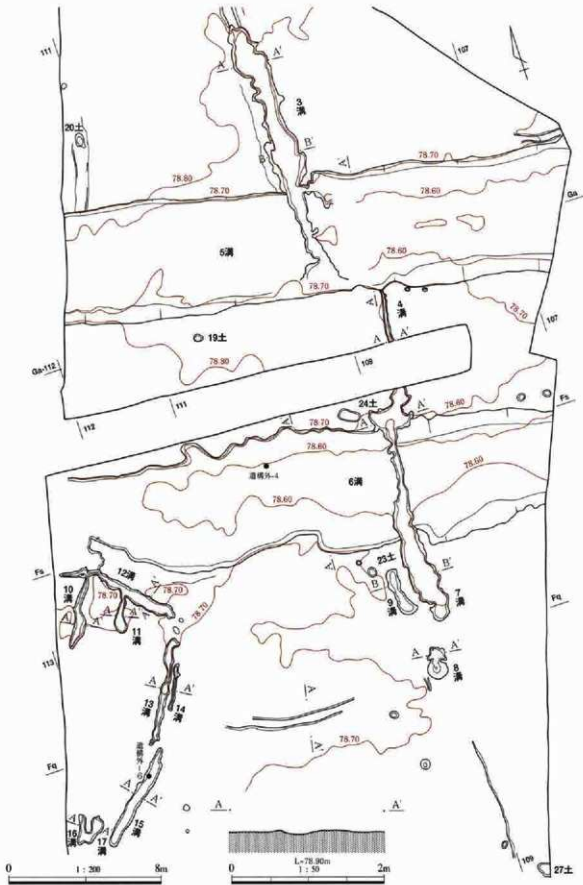
表6 第4面溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長・幅・深さ cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅		深さ
3	Gc-109→Ga-109	S-0°	0.03	14.2	182	156	13	5号溝と重複。自然流路？
4	Ff-108	N-6°-E	0	2.8	26	7	8	5号溝と重複。7号溝と重なる。
5	Ga-111→Ff-106	N-78°-W	0.14	26.2	614	562	10	6号溝と併走。3号溝と重複。
6	Fs-112→Fr-107	N-76°-W	0.11	25.8	678	654	20	5号溝と併走。7号溝に切られる。
7	Fs-108→Fq-108	S-0°	0.06	12.4	142	126	17	6号溝と重複。自然流路？
8	Fp-109	N-13°-E	0	1.7	88	78	13	凹形凹状を呈する。
9	Fq-109	N-8°-W	0	2.5	70	29	5	7号溝と併走する短い溝。
10	Fr-112	N-30°-E	0.03	4.0	53	23	10	短かい12号溝から分岐する。平行。
11	Fr-112	N-15°-E	0	2.0	38	24	9	
12	Fr-112→Fr-111	N-43°-W	0.01	4.6	68	44	12	
13	Fp-112→Fq-111	S-30°-W	0.02	5.7	48	34	5	延長上に15溝あり。同一溝？
14	Fq-111	N-26°-E	0	2.5	16	2	4	13号溝と併走する短かい溝
15	Fp-113→Fp-112	S-45°-W	0.01	5.7	54	42	11	13号溝と同一溝？
16	Fp-113	N-22°-E	0	1.5	22	18	10	凹状の小さな溝。
17	Fp-113	N-32°-E	0	1.6	42	30	14	
18	Fk-114→Ff-114	S-25°-W	0.08	2.2	46	26	6	短い溝。
19	Fk-116→Ff-116	N-45°-E	0.08	4.5	50	34	7	大畦状の高まりの上の溝。
20	Fk-116	N-43°-E	0	1.6	18	10	3	短い溝。
21	Ff-116→Fk-116	N-0°	0	1.2	104	86	5	楕円形状の溝。



第29图 第4面全体图





第31圖 第4面溝 (1)



(3号溝)

1. 暗褐色土 砂質土。粘質土ブロックを少量含む。
2. 暗褐色土 砂質土・粘質土ブロックを多く含む。
3. 灰褐色土 砂質土。粘質土ブロックを少量含む。
4. 褐色土 砂質土。粘質土ブロックを少量含む。

(4号溝)

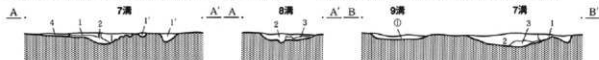
1. 褐色土 粘質土(シルトに近い)。微細砂を多く含む。
2. 褐色土 粘質土。微細砂を多く含む。
3. 褐色土 粘質土。粘質土ブロック・微細砂を多く含む。



(5・6号溝)

- 1a 灰褐色土 シルト質土。微細砂を多く含む。白色粒子を多く含む。
- 1b 灰褐色土 シルト質土。1a層より細砂を多く含む。
2. 灰褐色土 シルト質土。微細砂を多く含む。
3. 灰褐色土 粘質土。2層を多く含む。粘質土ブロックを若干含む。

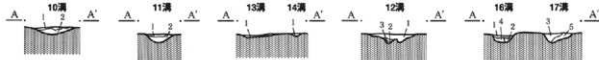
4. にぶい褐色土 シルト質土。
5. 灰褐色土 粘質土。シルトを少量含む。
6. 褐色土 微細砂質土。シルトを多く含む。粘質土を少量含む。
7. 黒褐色土 粘質土。粘質土が全体を占めている。
8. にぶい褐色土 シルト質土。(地山)シルトを多く含む。



1. 黒褐色土 細砂質土。粘質土ブロックを多く含む。
- 1' 黒褐色土 細砂質土。粘質土。シルトを少量含む。
2. 灰褐色土 細砂質土。粘質土。シルトブロック、微細砂を多く含む。

3. 灰褐色土 シルト質土。シルト多い。
4. 黒褐色土 粘質土。シルト。細砂との混土。粘質土が全体を占めている。

① 黒褐色土 粘質土。微細砂との混土。



(10・11・13～15号溝)

1. 黒褐色土 粗砂を多く含む。
2. 黒褐色土 1層とシルトとの混土。A-Cを少量含む。

(12号溝)

1. 灰褐色土 細砂質土。
2. 褐色土 微細砂質土。
3. 黒褐色土 砂質土。

(16・17号溝)

1. 黒褐色土 砂質土。シルト混土。
2. 黒色土 砂質土と粘質土の混土。
3. 黒色土 粗砂多い。
4. 褐色土 粘質土。シルトを少量含む。
5. 黒褐色土 シルトが全体を占める。

第32図 第4面溝断面



第33図 第4面11号溝出土遺物

第4面 11号溝出土遺物観察表(第33図)

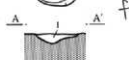
No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	焼締陶器 甕	フク土 胴部片	①-②- ③-	黒・白胎物含。餅。還元 気味。灰褐色。	外面に白・褐色の自然釉がゆかり。下方に浅い沈線2条。内面に指痕。割れ口に継作痕あり。常滑。13～16世紀。
2	須恵器 鉢	フク土 胴部片	①-②- ③-	砂粒含。並。	内面斜位の節目。(5条+α)あり。

### 3) 土坑 (第34・35図、PL.8~10)

調査区全体に散漫的に17基の土坑を検出した。27号土坑は、埋没土中にAs-Bが混じり2面から3面の間に掘り込まれた土坑である。また26号・33号・34号土坑は、円形を呈し、埋没土中にはHr-FAの小塊が混入し、Hr-FA降灰以降に掘られた土坑である。上記の4基の土坑を除き13基の土坑は、大半が円形楕円形を呈し、隅丸長方形を呈する土坑が見られる。掘り込みは10cmに満たないものが多い。

表7 第4面土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	方位角
19	Ft-110	47	36	11	円形	N-10°-E
20	Gc-111	80	20	11	楕円形	N-12°-W
21	Fs-107	45	38	9	円形	N-5°-W
22	Fs-107	45	32	7	円形	N-70°-W
23	Fq-109	55	48	12	円形	N-15°-W
24	Fs-109	120	55	8	隅丸長方形	N-71°-W
25	Fp-109	48	37	8	円形	N-52°-E
26	Fo-109	52	50	28	円形	N-15°-E
28	Fm-108	120	55	11	長方形	N-69°-W
29	Fm-108	(60)	44	28	不明	N-60°-W
30	Fm-109	73	50	10	楕円形	N-41°-W
31	Fq-111	43	14	11	楕円形	N-26°-W
32	Fn-112	39	32	9	円形	N-14°-E
33	Fi-113	39	35	7	円形	N-24°-E
34	Fi-113	24	22	11	円形	N-83°-E
35	Fk-113	31	25	8	楕円形	N-2°-E



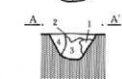
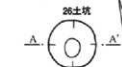
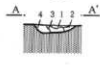
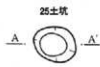
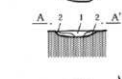
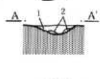
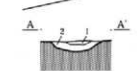
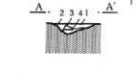
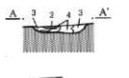
(19号土坑)  
1. 黒褐色粘質土 シルト・粗砂との混土。



(20号土坑)  
1. にぶい褐色土 粘質土、粘質土ブロック・粗砂を少量含む。鉄分多い。  
2. 褐色土 粘質土。1層より粘性強。



(21・22号土坑)  
1. 褐灰色土 粘質土。As-C・FPを多く含む。  
2. 黒褐色土 粘質土と粗砂との混土。



L=78.80m  
0 1:40 1m

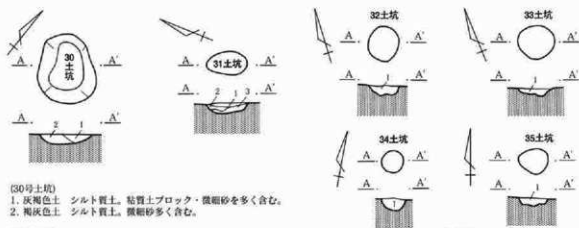
(23~26号土坑)  
1. 褐灰色土 粘質土(シルトに近い)。シルトを少量。鉄分多い。  
2. 褐灰色土 シルト質土。微細砂を多く含む。鉄分多い。  
3. 褐灰色土 シルト質土(粘質土に近い)。微細砂を少量含む。  
4. 褐灰色土 砂質土。粘質土ブロックを多く含む。鉄分多い。

(28号土坑)  
1. 黒褐色土 シルト質土。粗砂を少量含む。白色小粒多く含む。  
2. 黒褐色土 シルト質土(粘質土に近い)。微細砂ブロックを少量含む。

(29号土坑)  
1. 黒色土 As-B下水田耕土ブロック。  
2. 褐灰色土 白色粒子・微細砂ブロックを少量含む。  
3. 褐灰色土 粘質土。  
4. 黒褐色土 粘質土。微細砂を少量含む。

第34図 第4面土坑(1)





(30号土坑)

1. 灰褐色土 シルト質土。粘質土ブロック・微細砂を多く含む。
2. 灰褐色土 シルト質土。微細砂多く含む。

(31号土坑)

1. 灰褐色土 微細砂質土(シルト近い)。粗砂粒若干含む。
2. 灰褐色土 微細砂質土(シルト近い)。1層より粘性あり、シルトに近い。
3. 黒褐色土 シルト質土。シルトの凝土。

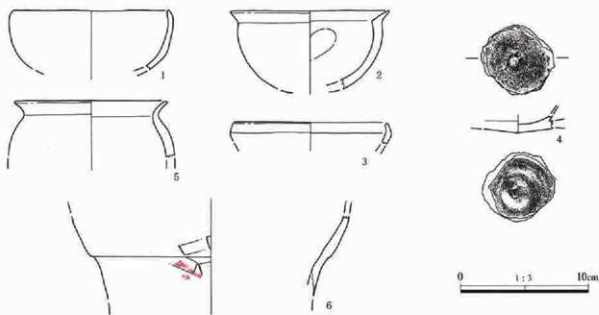
L=78.90m

0 1:40 1m

(32~35号土坑)

1. 灰褐色土 微細砂質土(シルト近い)。粘質土ブロックφ1~3cm大を少量。粗砂粒を少量含む。

第35図 第4面土坑(2)



第36図 第4面遺構外出土遺物

第4面 遺構外出土遺物観察表(第36図、PL78)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(m)①口径 ②底径③高さ	胎土・構成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	土師器 環	Fo-113	①(12.2)②— ③(4.6)	赤褐小粒。細砂粒含。 酸化。良。にふい橙色。	口縁部横撫で。
2	土師器 環	Fj-114	①(12.6)②— ③(6.1)	赤褐小粒皮に含む。砂粒 含。酸化良。明赤褐色	外：口縁部外反。横撫で。胴部鈍削り。
3	土師器 環	Fo-110	①(12.0)②— ③(1.6)	灰物含。乾。軟。芯還元 外面酸化。橙色。	内：撫で。 シルト質。口縁部横撫で。割れ口。器表面消粒。磨削。8~9世紀前半。
4	須恵器 蓋	Fs-110	①—②— ③(1.1)	灰物多。重。砂粒含。 綿。還元。良。灰色。	砂を多く含む胎土。有蓋短頸壺の蓋を思わせる。撫み部の接合面あり。割れ口シャープ。黒南西毛窯。8世紀。
5	土師器 小型短頸壺	Fj-112	①(12.0)②— ③(4.2)	灰物含。並。酸化。 にふい赤褐色。	外面上方横撫で。内面横撫で。外面下方深い凹削り。割れ口消粒酸。原内。6世紀。
6	土師器 壺	Fp-112	①—②— ③—	灰物含。軟。中性〜酸化 僅か傾く。にふい黄橙色	薄手。内外面に赤色塗彩あり。割れ口消粒大。内外面のハゼ剥落大。古墳前期。

## 6. 第5面（古墳時代）の検出遺構

### (1) 第5面の概要

第4面の褐色土面を掘り下げ暗褐色のシルト面において最終面の調査を行った。検出遺構は、溝を中心として、土坑・風倒木痕を検出した。

### (2) 検出遺構

#### 1) 溝（第38～44図、PL13～17）

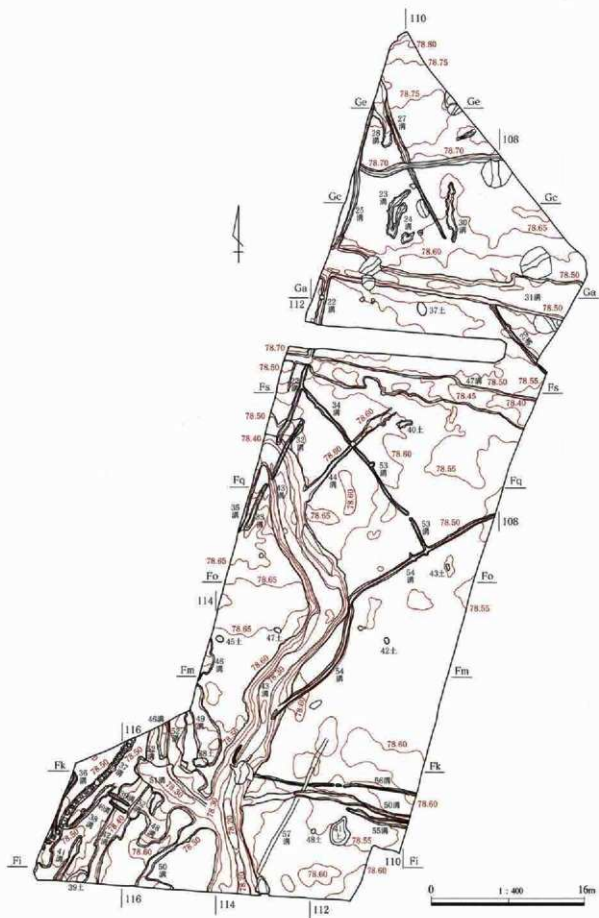
調査区中央付近より南に大きく蛇行する自然流路状の43号溝が上滝町北道跡へと流下する。またこの43号溝へは22号・41号・51号溝などが流れ込む。調査区南端では特に溝が集中し、42号・48号・49号・51号・52号溝などは上幅1m以上の規模の大きな溝であり自然流路と考えられる。

調査区北半には22号・26号・27号・29号・34号・53号・54号溝のように直線的な溝が検出でき、27号溝と29号溝や34号溝と53号溝等は一連の溝と考えられ、水田などの区画溝の可能性がある。

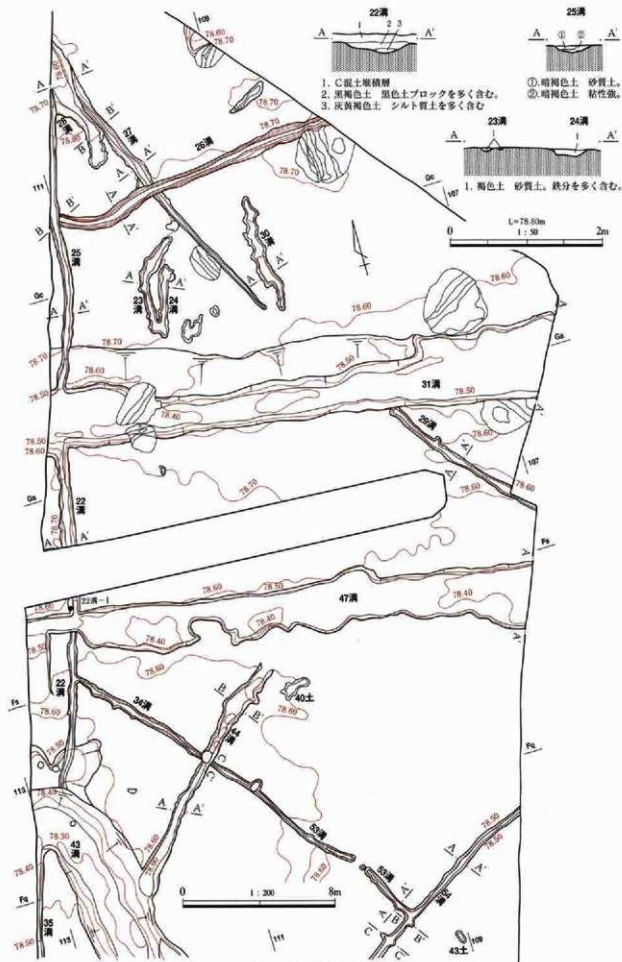
調査区南西端の37号溝では、溝内に50cm前後の楕円形の土坑状窪みが続いて検出された。この窪みは内からは道路遺構下層面にできる波板状圧痕の可能性が高い。37号溝上層の第4面では上幅30cm、下幅60cm、高さ8cmほどの畦畔が同一方向で若干ずれて検出されており、この道下の凹凸面の可能性が高い。

表8 第5面溝計画一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m,幅・深さ:cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅 深さ		
22	Ga-111→Fr-112	N-15°-E	0.06	15.4	30	14	24	31号溝と43号溝をつなぐ溝。延長上に25号溝あり。
23	Gb-110→Gc-109	S-23°-W	0.06	5.5	42	20	5	24号溝と合流する短い溝。
24	Gb-110→Gb-109	S-21°-W	0.06	3.8	50	30	10	23号溝と合流する短い溝。
25	Gc-110→Gb-111	N-15°-E	0.12	16.0	48	24	27	27号溝が分岐し、31号溝に入る溝。22号溝の延長。
26	Gc-110→Gc-108	N-84°-W	0.03	15.5	80	32	28	27号溝を切り、25号溝に接する。
27	Gc-110→Gb-109	N-26°-W	0.05	16.6	71	27	7	26号溝に切られ、流路延長上に29号溝あり。
28	Gb-110→Gc-110	S-12°-E	0.15	6.0	90	58	15	27号溝と接する短い溝。
29	Fs-107→Ft-108	S-37°-E	0.01	9.1	40	24	4	31号溝と接し、27号溝の延長上にある。
30	Gc-109→Gb-108	S-0°	0.01	6.3	72	42	7	自然に削り込まれたように蛇行する短い溝。
31	Ga-111→Ft-106	N-80°-W	0.08	26.1	440	370	23	第4面5号溝下層。掘り方か?
32	Fr-112→Fq-112	S-24°-W	0.08	7.2	20	8	8	43・45号溝を切る。33号溝は延長上にある。
33	Fp-113→Fq-112	S-27°-W	0.06	5.3	32	20	8	43・45号溝を切る。32号溝は延長上にある。
34	Fq-111→Fs-112	S-42°-E	0.05	7.8	28	12	7	22号溝から分岐し、44号溝を境に53号溝となる。
35	Fp-113→Fq-113	S-22°-W	0.16	7.4	10	8	1	43号溝より分岐し、調査区際を南流する。
36	Fk-117→Ft-117	N-17°-E	0.03	7.0	24	12	3	調査区南西端で検出。37号溝と合流する。
37	Fi-117→Fk-115	S-43°-W	0.10	16.7	80	48	10	溝内にはほぼ等間隔で、楕円形の窪みが連続する。
38	Fi-117→Fj-116	S-45°-W	0.03	6.8	38	20	7	37号溝と合流する。
39	Fj-116→Fj-115	N-55°-W	0.13	2.8	30	14	10	調査区南。
40	Fj-116→Fj-115	N-50°-W	0.11	2.2	20	10	9	
41	Fi-116→Fh-117	N-26°-E	0.04	5.2	54	36	14	調査区南西端の短い溝。
42	Fh-116→Fj-115	S-26°-W	0.05	12.4	138	132	19	52号溝より流れ、51号溝と分岐して流れる。
43	Fr-112→Fh-113	N-5°-E	0.16	51.3	274	204	31	調査区内を蛇行し流れ下る。自然流路。
44	Fp-112→Fr-110	S-47°-W	0.10	13.0	60	40	16	35・53号溝と重なる。
45	Fr-112	N-21°-E	0.07	2.7	40	22	15	43号溝の法面を掘り込む。
46	Fk-115→Ft-115	N-0°	0.18	3.8	110	60	45	52号溝内底面から検出された。
47	Fs-112→Fr-107	N-78°-W	0.13	26.8	350	310	26	第4面6号溝下層掘り方?
48	Fj-114→Ft-115	N-30°-E	0.02	5.9	250	200	16	51号溝と分岐する溝。
49	Fi-114→Fk-113	N-10°-W	0.05	6.9	290	270	16	幅広の短い溝。
50	Fj-113→Fj-109	S-75°-W	0.12	32.3	190	110	6	調査区を東西に弧状に横断する。
51	Fk-115→Fj-114	N-46°-W	0.01	9.3	290	224	24	42・48・50号溝に分岐する。
52	Fi-114→Ft-116	N-23°-E	0.07	13.3	420	110	11	調査区外より伸び、51号溝に入る。
53	Fq-111→Fo-109	N-35°-W	0.12	13.2	46	26	11	54号溝とT字形に直交する。
54	Fp-108→Ft-112	N-48°-E	0.10	31.0	60	36	12	53号溝とT字形に直交する。
55	Fj-111→Ft-109	N-75°-W	0.08	6.7	46	22	19	50号溝に併走する。
56	Fj-109→Fj-113	S-84°-E	0.01	18.0	26	10	6	調査区を東西に横断する。



第37图 第5面全体图



第38図 第5面溝 (1)



1. 黒褐色土 黒色土ブロックを含む。  
2. 黒褐色土 1層に砂質土が混入。

3. 黒褐色土 白色軽石粒を多く含む。炭化物を微量に含む。  
4. 黒褐色土 白色軽石粒を多く含む。シルト質土を微量に含む。  
5. 黒褐色土 5層よりシルト質土を多く含む。  
6. 黒褐色土

(27号溝)

- ①. 暗褐色土 砂質土。白色軽石を多く含む。  
②. 暗褐色土 シルト質土を微量に含む。  
③. 黒褐色土 砂質土を含む。  
④. 灰褐色土 砂質土。黒色土が微量に混入。  
⑤. 黒褐色土 砂質土に黒色土がブロック状に混入。



1. 黒褐色土 砂質土を含む。



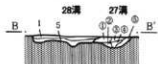
1. 褐色土 砂質土。鉄分を多く含む。

31溝



(28号溝)

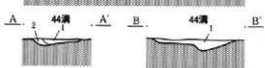
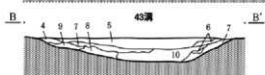
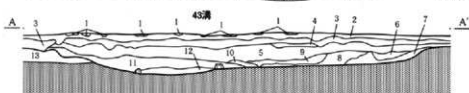
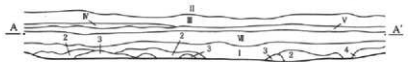
1. 黒褐色土 黒色土ブロックが混入。砂質土を含む。粘性あり。しまりあり。  
2. 黒褐色土 1層に砂質土を含む。  
3. 黒褐色土 シルト質土を微量に含む。  
4. 黒褐色土 炭化物が微量に混入。  
5. 暗褐色土 砂質土を多量に含む。



(31号溝車壁)

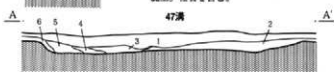
\*II~VIII層は、基本土層参照。

1. にぶい褐色土 粘質土。砂質土をブロック状に含む。軽石を僅かに含む。  
2. にぶい褐色土 色調暗め。1層に褐灰色土ブロック混入。  
3. 褐色土 砂質土。鉄分を微量含む。粘性ややあり。  
4. 褐灰色土 シルト質土。暗褐色土が微量混入。鉄分を含む。



(44号溝)

1. 灰黄褐色土 砂質土・軽石を含む。シルト質土ブロック混入。  
2. 褐灰色土 黒色土・シルト質土の混入。軽石を含む。

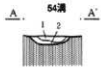


(47号溝)

1. 褐色土 砂質土。鉄分を含む。粘質土を微量に含む。  
2. にぶい褐色土 砂質土と粘質土の混入。黒色土粒を含む。  
3. 暗褐色土 砂質土に粘質土ブロックが混入。  
4. 灰黄褐色土 シルト質土。黒色土ブロックを含む。  
5. 褐灰色土 シルト質土。砂質土が微量に混入。  
6. 褐灰色土 シルト質土。砂質土。黒色土ブロック混入。

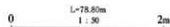
(43号溝)

1. FA堆積層 2. FA下水田耕作土  
3. 褐色土 砂質土。鉄分を含む。下方にマンガン粒混入。  
4. 黒褐色土 3層に黒色粘質土が混入。  
5. 黒色土 鉄分凝結が見られる。軽石を微量に含む。  
6. 褐灰色土 粘質土。砂質土・黒色土を微量に含む。  
7. 灰褐色土 粘質土にシルト質土がブロック状に混入。黒色土が微量に混入。  
8. 灰褐色土 粘質土と砂質土の混入。  
9. 褐灰色土 粘質土に砂質土がブロック状に混入。黒色土ブロックが少量混入。  
10. 褐色土 砂質土。鉄分を多量に含む。 11. 黒褐色土 12. 暗赤褐色土 砂質土。鉄分を多量に含む。炭化物を微量に含む。  
13. 灰黄褐色土 地山の一部。シルト質土に黒色土ブロック混入。

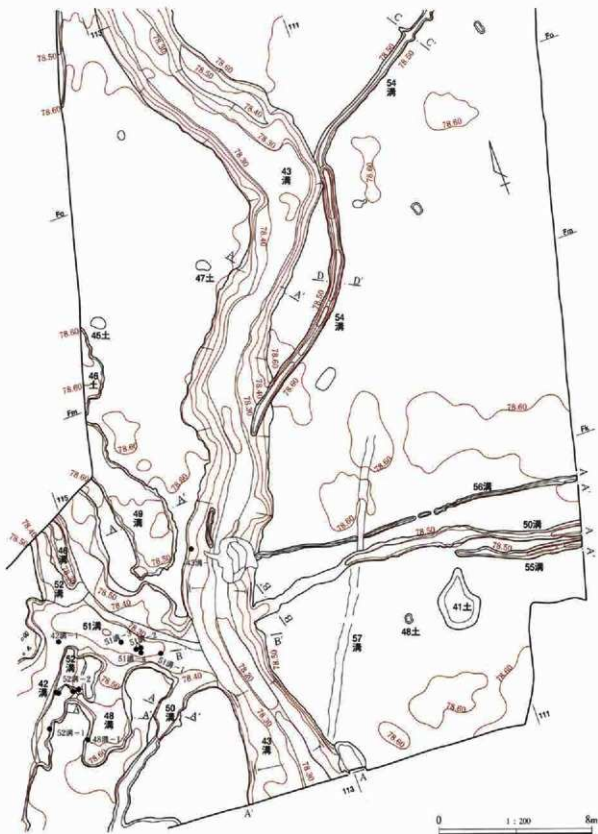


(53・54号溝)

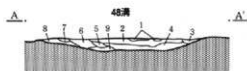
1. 暗褐色土 砂質土を含む。  
2. 灰黄褐色土 シルト質土ブロックを含む。  
3. 褐灰色土 シルト質土と砂質土の混入。  
4. 褐灰色土 3層より砂質土が多い。



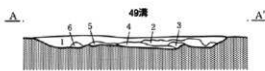
第39図 第5面溝(2) - 断面



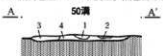
第40図 第5面溝 (3)



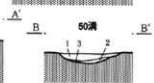
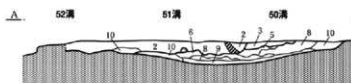
1. 褐色土 砂質土。
2. 黒褐色土 粘質土。砂質土が微量に混入。
3. 暗褐色土 砂質土。粘質土を微量に含む。軽石を微量に含む。
4. 黒褐色土 シルト質土と粘質土(黒色土)の混入。砂質土を微量に含む。
5. 褐色土 シルト質土。砂質土がブロック状に混入。
6. 暗褐色土 砂質土を含む。下方にシルト質土がブロック状に混入。
7. 灰褐色土 粘質土と粘質土が混入。
8. 灰褐色土 砂質土とシルト質土の混入。
9. 灰黄褐色土 シルト質土。



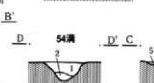
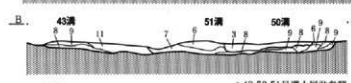
1. 黒褐色土 黒色土ブロックと砂質土の混入。
2. 暗褐色土 砂質土に黒色土がブロック状に混入。
3. 灰黄褐色土 シルト質土。砂質土を多く含む。
4. 灰黄褐色土 砂質土。
5. 灰黄褐色土 砂質土。黒色土ブロック混入。
6. 黒褐色土 シルト質土。黒色土と砂質土が混入。



1. 褐色土 シルト質土。黒色土がブロック状に混入。
2. 赤褐色土 砂質土。
3. 褐色土 砂質土とシルト質土の混入。
4. 褐色土 シルト質土。黒色土がブロック状に混入。



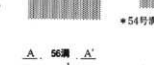
1. 褐色土 シルト質土。黒色土がブロック状に混入。
2. 赤褐色土 砂質土。
3. 褐色土 砂質土とシルト質土の混入。
4. 褐色土 シルト質土。黒色土がブロック状に混入。



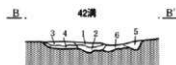
1. 暗褐色土 砂質土。鉄分を含む。



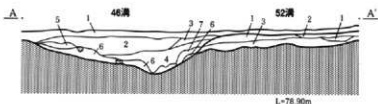
- ※43,50,51号溝土層註参照。
1. 黒褐色土 砂質土。マンガン酸を少量含む。
  2. 黒褐色土 粘質土。微細砂粒を微量に含む。
  3. 黒褐色土 砂質土と粘質土の混入。
  4. 灰黄褐色土 シルト質土。黒色土を微量に含む。



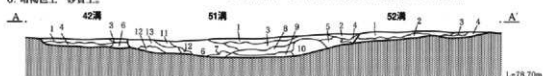
※54号溝 S P A-A'土層註参照。



1. 黒褐色土 砂質土を微量に含む。
2. 暗赤褐色土 砂質土。鉄分を多量に含む。
3. 黒褐色土 軽石を含む。
4. 褐色土 黒色土を微量に含む。
5. 灰褐色土 砂質土。粘質土を微量に含む。
6. 暗褐色土 砂質土。



- (46号溝)
1. F A 下耕作土
  2. 褐色土 黒色土と砂質土の混入。
  3. 黒褐色土 粘質土と砂質土がブロック状に混入。
  4. 黒褐色土 黒色土と砂質土を微量に含む。
  5. 黒褐色土 シルト質土と砂質土と異色ブロック混入。
  6. 褐色土 シルト質土。砂質土を微量に含む。
  7. 黒褐色土 砂質土に黒色土ブロック混入。
- ※52号溝土層註参照。



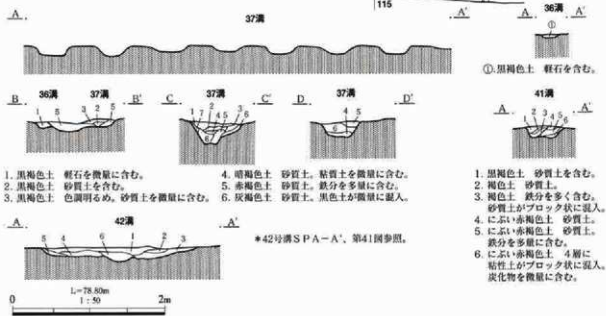
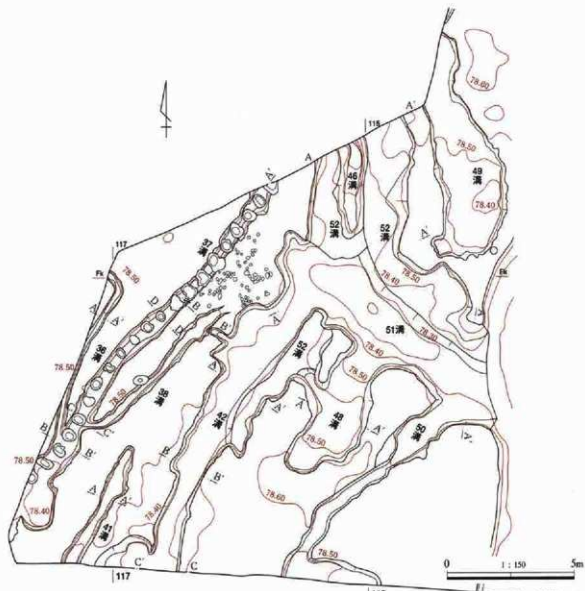
※42号溝土層註参照。

- (51号溝)
1. 黒褐色土 砂質土がブロック状に混入。
  2. 黒褐色土 粘質土と砂質土の混入。
  3. 黒褐色土 I層に軽石を含む。
  4. 褐色土 シルト質土と砂質土の混入。黒色土を微量に含む。
  5. 黒褐色土 砂質土を微量に含む。シルト質土ブロック混入。
  6. 黒褐色土 粘質土と砂質土の混入。軽石を含む。
  7. 褐色土 シルト質土。黒色土ブロック混入。
  8. 黒色土 粘質土。軽石を含む。

9. 褐色土 シルト質土。
  10. 黒褐色土 砂質土。シルト質ブロック混入。
  11. 黒褐色土 粘質土。砂質土ブロック混入。軽石を含む。
  12. 褐色土 シルト質土ブロック。
  13. 黒褐色土 砂質土が多く混入。
- (52号溝)
1. 赤褐色土 砂質土を多量に含む。土層を多く含む。
  2. 褐色土 シルト質土。砂質土を含む。
  3. 赤褐色土 砂質土とシルト質土の混入。色調暗め。
  4. 黒褐色土 粘質土とシルト質土の混入。

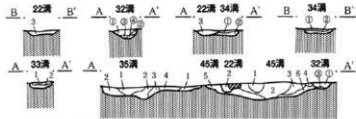
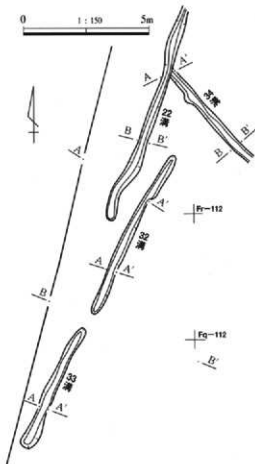
第41図 第5面溝(4)・断面

0 L=78.80m 1:50 2m



第42図 第5面溝 (5)





●22号溝、第38回参照。

(32号溝)

- ①. 灰黄褐色土 砂質土を含む。
- ②. 褐灰色土 黒色土を含む。
- ③. 褐灰色土 シルト質土。黒色土を微量に含む。
- ④. にぶい黄褐色土 砂質土。黒色土を微量に含む。

(33号溝)

1. にぶい赤褐色土 砂質土を多く含む。
2. 暗褐色土 シルト質土を多く含む。黒色土を微量に含む。

(34号溝)

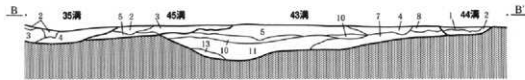
- ①. 黒褐色土 粘質土。砂質土を微量に含む。
- ②. 褐灰色土 シルト質土と砂質土の混入。

(35号溝)

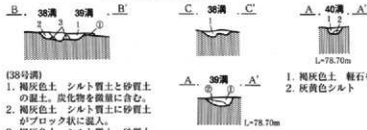
1. にぶい赤褐色土 砂質土。
2. 黒色土 砂質土を含む。炭化物を微量に含む。
3. 褐灰色土 シルト質土ブロック混入。
4. 灰黄褐色土 砂質土を含む。

(45号溝)

1. 黒褐色土 砂質土を含む。
2. 黒褐色土 1層よりも砂質土の割合が少ない。
3. 灰黄褐色土 砂質土を含む。黒色土ブロック混入。
4. 黒褐色土 鉄分を多く含む。
5. 褐灰色土 シルト質土。炭化物が微量に混入。
6. にぶい黄褐色土 シルト質土、砂質土。黒色土ブロックが混入。



●43・44号溝、第39回参照。



(38号溝)

1. 褐灰色土 シルト質土と砂質土の混入。炭化物を微量に含む。
2. 褐灰色土 シルト質土に砂質土がブロック状に混入。
3. 褐灰色土 シルト質土、砂質土が微量に混入。

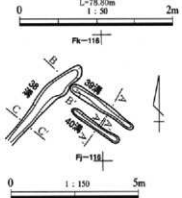
①. 褐灰色土 軽石を含む。

- ②. 黒褐色土 土質細かく粘性帯びる。

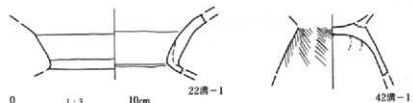
φ2~3mmの軽石微量に含む。

(40号溝)

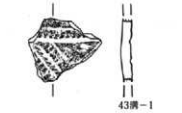
1. 褐灰色土 軽石を含む。
2. 灰黄色シルト

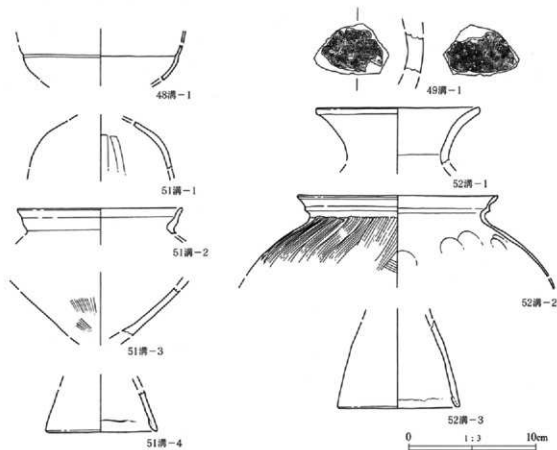


第43図 第5面溝 (6)



第44図 第5面溝出土遺物 (1)





第45図 第5面溝出土遺物(2)

第5面 溝出土遺物観察表(第44・45図、PL78)

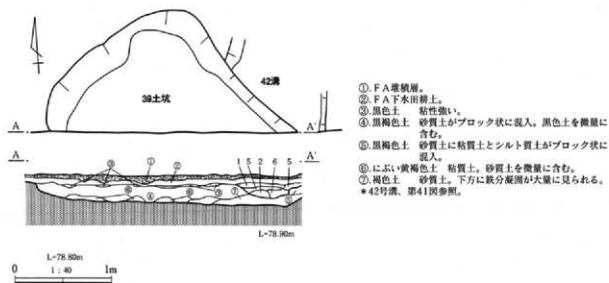
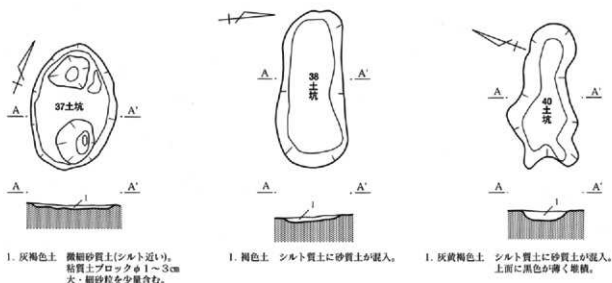
No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
22溝 1	土師器 壺	+5 胴部片	①-②- ③-	灰物含。並。にぶい黄褐色。	器面酸化気味。芯は黒色燻気味。内外面に横溝で見られるが器面荒れる。割れ口消耗少ない。古墳時代前期。
42溝 1	土師器 台付甕	+11 台部 1/3	①-②- ③(3.9)	灰物含。並。にぶい黄褐色。灰色。	器面中性～酸化気味。芯燻～還元気味。外面に目の大ききな粗毛目。内面最上部まで指の圧痕。内外底面に砂の付着は不明瞭。割れ口消耗大。古墳時代前期。
43溝 1	縄文土器 深鉢	+7 体部片	①-②- ③-	片岩。灰物含。センイ含。酸化。明褐色。	外面に沈線2条と面文あり。内面消耗大。割れ口消耗あり。縄文時代前期。
48溝 1	土師器 杯	+3 体部片	①-②- ③-	細砂粒灰物含。並。橙色。	器面中性～酸化気味。芯還元～酸化気味。内外面に浅い段部と凹みあり。割れ口と器面消耗大。古墳時代。
49溝 1	梳締陶器 甕	フク土 体部片	①-②- ③-	灰物含。軽。締。還元気味。	外面に自然釉。内面に指圧痕あり。割れ口にブク見える。胎土は軽く非常滑。東海地方産。13～16世紀。
51溝 1	土師器 1 形	-1 破片	①-②- ③-	細砂粒含。並。にぶい黄褐色。	外：磨耗。 内：指押さえ。底面微で。古墳時代。
51溝 2	土師器 台付甕	+6 口縁部片	①(13.0)②- ③(2.1)	灰白色。	外：口縁部上段薄く僅かに外反。下段肥厚。古墳時代前期。
51溝 3	土師器 台付甕	+2 破片	①-②- ③(3.5)	にぶい黄褐色。	外：斜位刷毛目。 内：輝付着。古墳時代前期。
51溝 4	土師器 台付甕	+2 台部片	①-②(脚(5.8) ③(3.3)	細砂粒含。やや軟。にぶい黄褐色。	外：磨で。 内：端部折り返し。古墳時代前期。
52溝 1	土師器 壺	-1 口～胴部片	①(12.8)②- ③(4.4)	灰物含。軟。中性～弱酸化。浅黄褐色。	割れ口消耗大。器面も荒れ整形不明瞭。内外面口縁部横溝で5世紀。古墳時代。
52溝 2	土師器 台付甕	+1 口～胴部 1/2	①(15.8)②- ③(6.3)	砂粒混入。酸化良好。にぶい黄褐色。	外：口縁部上段大きく外反し。下段横に凹く。後シャープ。胴部。左下がりの刷毛目。内：口縁部横溝で。下段強い磨で断面取付状。胴部指圧痕。微で。古墳時代前期。
52溝 3	土師器 台付甕	-1 台部 1/3	①-②(8.5) ③(7.0)	黒・白色灰物含。軟。酸化気味。にぶい黄褐色。	二次焼熱内外にあり。外面に浅い刷毛目僅かに残る。台部端折り返し。器面・割れ口消耗。外面微で。内面指面圧痕。微で。端部折り返し。古墳時代前期。

2) 土坑 (第46・47図, PL12・13)

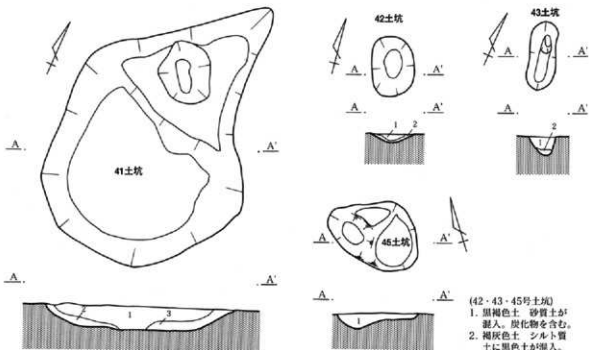
調査区に散在する11基の土坑を検出した。規模や形状もバラツキ、1mを超える隅丸長方形の土坑や径40cm程の円形の土坑などがある。埋設土は、黒褐色土やシルト質土に砂質土の混土が主体。

表9 第5面土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
37	Ft-109	130	90	3	楕円形	N-22°-W
38	Fk-114	164	61	6	隅丸長方形	N-87°-W
39	Fh-116	(158)	(147)	33	不明	N-36°-W
40	Fr-110	156	44	9	不定形	N-83°-E
41	Fi-111	319	130	26	不定形	N-17°-E
42	Fm-110	61	45	9	楕円形	N-15°-W
43	Fo-109	74	28	18	楕円形	N-11°-W
45	Fm-113	102	64	16	楕円形	N-40°-W
46	Fm-114	(465)	(34)	21	不定形	N-15°-E
47	Fm-112	39	30	11	円形	N-37°-E
48	Fi-111	42	35	18	円形	N-1°-E

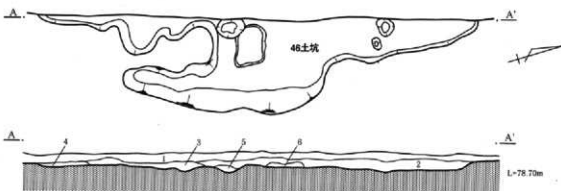


第46図 第5面土坑(1)

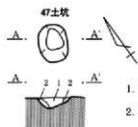


1. 黒褐色土 砂質土を微量に含む。炭化物が微量に混入。粘性あり。しまりあり。
2. 褐灰色土 色調暗め。3層に砂質土を含む。
3. 褐灰色土 シルト質土。黒色土炭化を微量に含む。

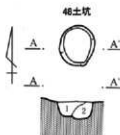
- (42・43・45号土坑)
1. 黒褐色土 砂質土が混入。炭化物を含む。
  2. 褐灰色土 シルト質土に黒色土が混入。



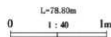
1. F A下層作土。
2. 黒褐色土 砂質土。粘質土を微量に含む。
3. 黒褐色土 粘質土。砂質土を含む。
4. 灰黄褐色土 シルト質土。砂質土を微量に含む。
5. 黒褐色土 3層よりも砂質土を多く含む。
6. 黒褐色土 砂質土。



1. 黒褐色土 砂質土が混入。炭化物を含む。
2. 褐灰色土 シルト質土に黒色土が混入。



1. 黒褐色土 砂質土が混入。炭化物を含む。
2. 褐灰色土 シルト質土に黒色土が混入。



第47図 第5面土坑(2)

### 第3節 B区の検出遺構

#### 1. B区の検出面の概要

B区は滝川左岸部に位置し、台形状の調査区である。他の調査区同様圃場整備が行われているが、カット面は少なく耕作土下からの調査を行った。各面は、洪水層や火山灰に被覆され面の確認は容易であった。また、洪水層中にも一時的な安定期も存在したであろうが、継続的な耕作により攪拌される部分が多く遺構として残りは悪い。

本調査区でも各面間の途中で掘り込まれた遺構について下層面で確認される場合があり、その遺構については調査時の検出面と同じ面で記述する。

各面の概要は以下の通りである。

第1面 (近世以降) 区画

第2面 (中世) 水田

第3面 (古代) As-B降灰下 水田

第4面 (古墳時代) Hr-FA泥流下 水田

#### 2. 第1面の検出遺構 (近世以降)

##### (1) 第1面の概要

現在の耕作土下で検出できた面である。東壁では20cmの耕作土下に10cm弱のAs-Aを多量に含む層を確認し、西壁では耕作土下30cmでAs-Aの薄い面的な広がりを確認した。これらAs-A下層より調査区全体に7枚の区画を検出した。また、数枚の区画の中に耕作痕が確認できた。



第48図 第1面遺構外出土遺物

第1面 遺構外出土遺物観察表(第48図、PL78)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	磁器, 染付 そば壺口	フク土	①-②- ③(3.5)	磁物なし。締。還元。 灰色。	外面に青磁輪, 内面白磁輪と染付施文あり。肥前系。18世紀。
2	陶器 染付碗	フク土 口縁部片	①-②- ③(3.3)	磁物なし。締。還元。 灰白色。	外面に染付施文あり。全体に透明釉。陶磁染付。割れ口シャープ。肥前系。18世紀。
3	磁器, 白磁 壺口	フク土	①-②- ③(3.5)	磁物なし。締。還元。 灰白色。	内外面に白磁輪。割れ口少し消耗。白磁輪は字模風。肥前系。18・19世紀。
4	石 鏡石?	フク土 剥片	長(2.3)cm, 幅(1.8)cm, 厚(0.7)cm, 重(2.7)g 石材: 瑪瑙(玉髄)。		図表面の稜部には、小打痕がたくさん生じ、外形をなす割れ口はそれが少ない。そのため鏡石としては疑似である。なお濃いオレンジ色は加熱角色に見える。

#### (2) 検出遺構

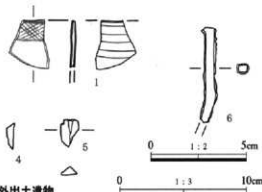
##### 1) 区画 (第49・50図、PL20)

区画は7面検出できたが、ほとんどの区画は調査区外に広がり全景を推定できる区画は4号・6号・8号区画のみであった。耕作土は、洪水層と考えられる黄褐色砂質土やシルト質土である。

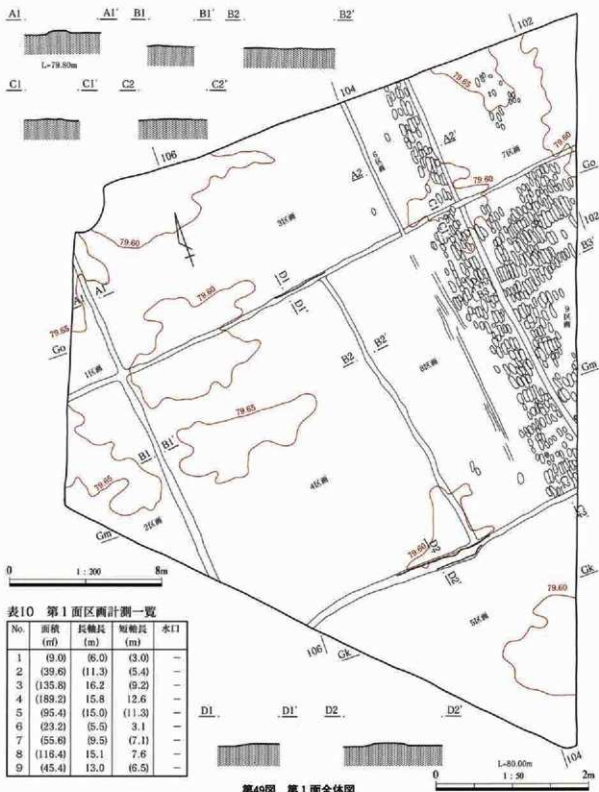
畦畔 部分的に3cm前後の高まりが見られるが全体的に水田面との高低差はほとんどなく、僅かに痕跡として幅20cm前後の色調の違いなどで確認した。南北畦畔走行はN-5°-Wに向き、南北方向に遡る畦畔間の距離はおおよそ100mを測り、東西畦畔間はおおよそ80mを測る。畦畔同士はほぼ直交する。

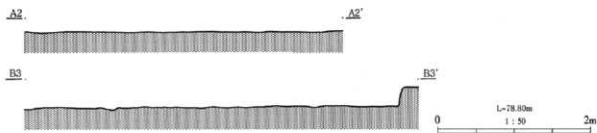
耕作痕 6号~9号区画で検出した。南北方向に長軸を持ち、重複しながら連続する。規模は平均幅20cm、長さ70cm前後が多く見られ、最長1mを超えるものもある。耕作具については、痕跡が長いことから上滝五反畑遺跡のような「エンガ」が用いられた耕作が行われたと考えられる。

水口 本調査区では検出できなかった。



5	石 フタ土 測片	長(2.2)cm,幅(1.4)cm,厚0.7cm,重(1.7)g 石材:珪瑁(玉璣)	図表面の後部には、小打痕がたくさん生じ、外形をなす溝れ口にはそれが少ない。そのため磁石としては類似である。なお浅いオレンジ色は加熱発色に見える。
6	鉄製品 釘	フタ土 長(5.0)cm,幅(1.0)cm,厚0.8cm,重(3.9)g	下方調査時以降の欠損。茶紫色。全体に曲がりがあり使用釘粗鉄。錆の層状剥落があり、粗鉄。15世紀以降。





第50図 第1面区画横断面

### 3. 第2面の検出遺構 (中世)

#### (1) 第2面の概要

第2面の被覆層は、第1面の耕作土を含め利根川変流後の洪水層であるにふい黄褐色砂質土の堆積が見られた。第2面はこの黄褐色洪水層を除去し、黒褐色砂質土の面的広がりを確認した。この黒褐色砂質土はAs-Bを勘込んで生成されており、現場ではB混土と呼んでいた。

検出遺構は、水田と溝である。

#### (2) 検出遺構

##### 1) 水田 (第52・53図、PL20)

As-B混じりの黒褐色土を水田耕作土とした水田遺構であり、完結する水田区画は見られず調査区外に広がる。

畦畔 畦畔は南北方向に3条と東西方向にクランクした2条の畦畔を確認した。畦畔の明瞭な高まりは

東側南北畦畔の北端と、東南隅の交差点のみであり大半は痕跡からの復元である。

畦畔走向は、国家座標に近似し、東側南北畦畔で $Y = -67.612$ ラインにのる。

耕作痕・水口 検出されなかった。

##### 2) 溝状遺構 (第52図、PL20)

中央を東西に横断する上幅1.6mの溝1条とその溝に西端で直交する溝1条、北端から南東端に $N-35^{\circ}-W$ 方向に3.3mの幅で平行する2条の溝を検出した。これらの溝は畦畔を掘り込むことから、水田耕作以降に開削された溝と考えられる。

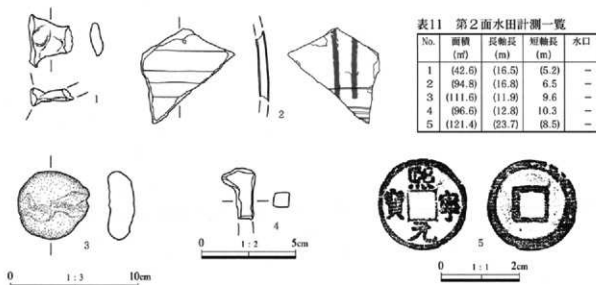


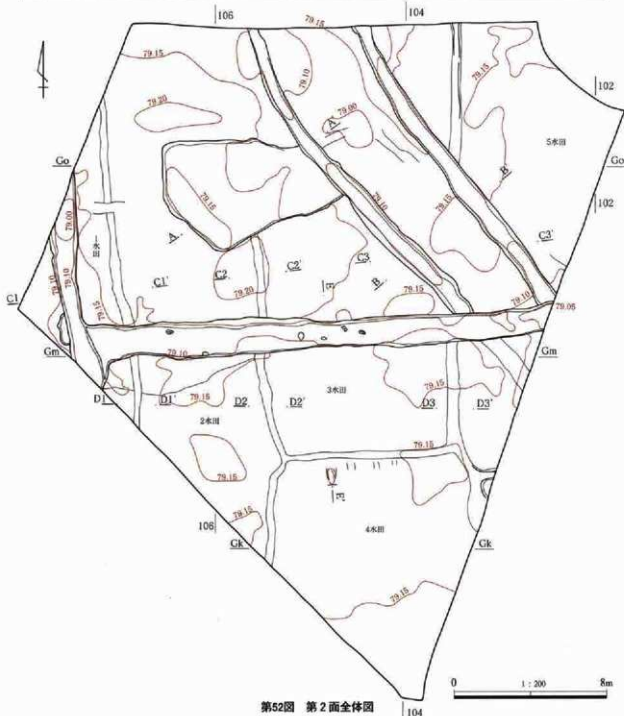
表11 第2面水田計測一覧

No.	面積 (m <sup>2</sup> )	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(42.6)	(16.5)	(5.2)	-
2	(94.8)	(16.8)	6.5	-
3	(111.5)	(11.9)	9.6	-
4	(96.6)	(12.8)	10.3	-
5	(121.4)	(23.7)	(8.5)	-

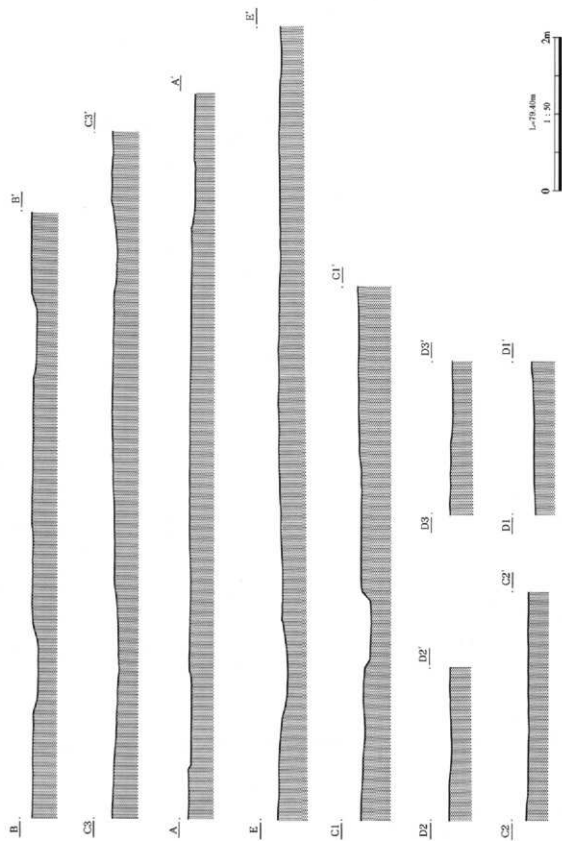
第51図 第2面遺構外出土遺物

第2面 遺構外出土遺物観察表(第51図、PL.78)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(m)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	軟質陶器 内耳浅溝	フク土 耳部片	①-②- ③-	胎物少。軽。硬。芯焼〜 酸化。外面焼。灰褐色。	耳部片で割れ口消耗少。小泉焼? 18世紀。
2	陶器 鉄輪裏	フク土 破片	①-②- ③-	胎物少。重。硬。還元。 オリープ褐色。	内面に鉄輪。外面に鉄輪と上方から鉄皿輪の掛け直しあり。 割れ口消耗少。産不明。18・19世紀。
3	石製品 石垂?	フク土 ほぼ完形	長さ(5.6)cm, 幅(5.3)cm, 厚さ(2.1)cm 重さ(35.0)g	石材: ニツ岳軽石	自然円縁の表・裏を研磨。表面の上・下に打ち欠き痕と溝状 の研磨あり。
4	鉄製品 釘	フク土 破片	長(2.7)cm, 幅1.8cm, 厚0.8cm, 重(10.8)g		下方調査時以降の欠損。茶紫色。大形和釘。釘の層状断面が あり。和鉄。19世紀以前。
5	古銭	1号通・完存	直径2.4cm, 孔長0.65cm, 重さ2.9g	フク土	「照寧元宝」背文字なし。肉厚良。初鑄1068年。北宋。







第53図 第2面水田横断面

#### 4. 第3面（古代）の検出遺構

##### (1) 第3面の概要

As-Bの降灰により埋没した面。As-B層は15cm前後を測り部分的にアッシュが残る。他の地区でB混土形成時に灰層及び軽石層の大半が崩さ込まれている状況とは異なり遺構の残りは良好であった。

検出遺構では、水田区画と水田内を給排水目と考えられる浅い溝状遺構と土坑を確認した。土坑については、畦を切る状態で確認し埋没土中には上層のAs-B混じりの黒褐色土が堆積していることから、As-B降灰以降から第2面水田耕作以前に掘り込まれたと考えられる。

##### (2) 検出遺構

###### 1) 土坑（第54図、PL20・21）

7基の土坑を検出した。各土坑内には前述のようにAs-B混じりの黒褐色土の堆積が見られ、As-B降灰後に掘り込まれている。方位は座標北に向き、隅丸長方形形状を呈するなど共通性が見られる。

表12 第3面土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
1	Gn-105	235	88	35	長方形	N-7°-E
2	G1-105	64	58	11	円形	N-55°-E
3	G1-105	320	86	57	長方形	N-4°-W
4	Gk-104	223	90	71	長方形	N-0°
5	G1-107	(95)	(114)	62	長方形	N-0°
6	Go-107	99	66	18	長方形	N-28°-E
7	Gn-105	56	34	7	楕円形	N-18°-W

表13 第3面水田計測一覧

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(257.8)	(26.8)	(14.0)	3
2	(121.6)	(21.2)	6.5	5
3	(107.8)	15.1	(9.5)	3
4	(104.0)	(13.6)	(11.2)	1
5	(57.8)	(7.5)	8.8	1
6	(13.4)	(7.5)	(3.0)	-

###### 2) 水田（第55図、PL20）

As-Bの堆積状況から明瞭な水田区画を期待したが、畦畔の高さは2~4cmと低く薄い台形状を呈するだらけた畦畔であり、土圧により潰れたものか。水田区画は6枚検出したが、水田区画はやはり調査区内で完結する区画はなく、調査区外に広がる。耕作土は10cm弱の厚みを持ち、下層の灰黄褐色小ブロックを含む粘性の強い黒褐色土である。

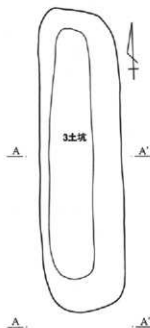
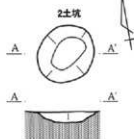
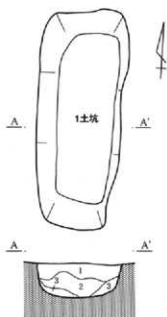
畦畔 調査区中央部の南北畦畔は、国家座標Y=-67.621ライン上にのり直線的に通る。また2号水田と4号水田を画する東西畦畔はX=36.156ライン上を通り、本面の畦畔走行は国家座標配置に近似する方向に設けられている。畦畔配置はあみだくじ状に配される。畦畔規模は上幅30cm前後、下幅60cm前後を測り、大畦畔は検出されなかった。

耕作痕 各水田面内に無数の楕円形を呈する浅い小孔が確認できたが、植物腐植痕か獣足痕か耕作痕かは不明である。

水口 2号水田を区画する東西両側の南北畦畔中の隅ではなく途中に2~3カ所確認した。水流は1号→2号水田、2号→3号水田へのかけ流しと考えられる。

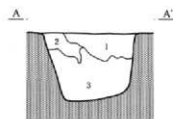
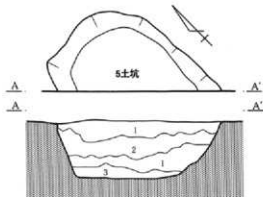
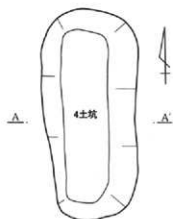
###### 3) 水路状遺構（第55図、PL20）

5号水田→3号水田内をN-10°-Wに斜行する区画を無視した水路状遺構を検出した。確認全長22m、上幅70cm、下幅25cm、深さ4cm前後の規模を持ち、断面形は丸底状を呈する。被覆層はAs-Bが堆積し、水田面と同時存在である。本遺構は、対岸の横手早稲田遺跡において同時期の水田内で確認されており、脇に排土が盛り上げられ人為的に掘られた痕跡と理解できる。機能については、下流水田への水回し用に掘られたものと判断した。



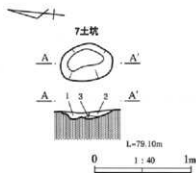
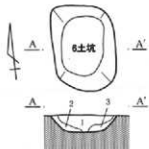
(1～3号土坑)

1. 黒褐色土 As-B 凝粒、FA・As-B 下水田耕土ブロック凝り、一括埋土。
2. 暗褐色土 1層同様下層土のブロック凝り。
3. 暗褐色土 1層同様下層土のブロック凝り。

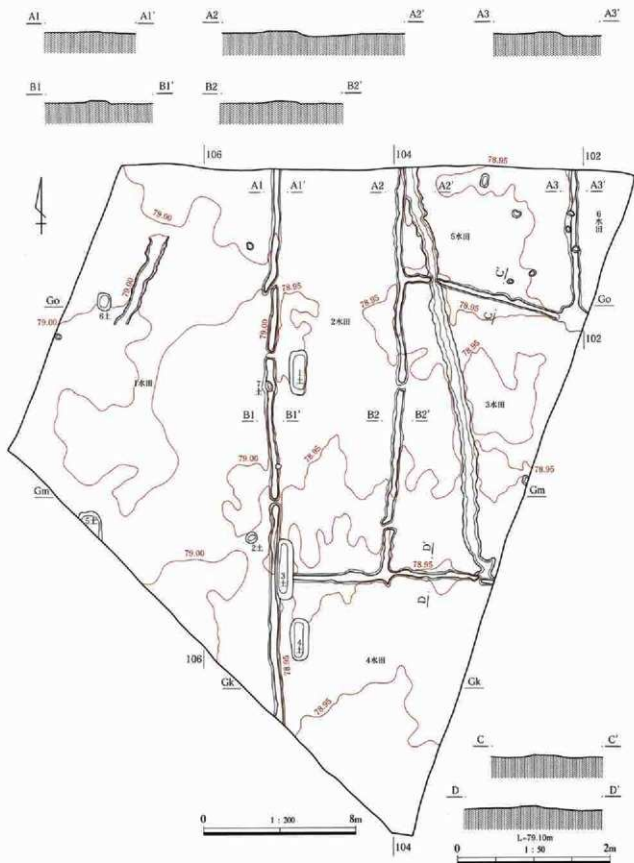


(4～7号土坑)

1. 黒褐色土 As-B 凝粒、FA・As-B 下水田耕土ブロック凝り、一括埋土。
2. 暗褐色土 1層同様下層土のブロック凝り。
3. 暗褐色土 1層同様下層土のブロック凝り。



第54図 第3面土坑



第55图 第3面全体图

## 5. 第4面の検出遺構

### (1) 第4面の概要 (古墳時代)

As-B地下水田耕作土下には15cm前後の厚みで灰黄褐色の平安洪水層と呼ぶ洪水起源の堆積層と攪拌されたHr-FA層が堆積する。この下層に粘性の強いAs-C混じりの黒褐色土面を確認し、調査を行った。この黒褐色土層は厚さ2~4cmと薄い。

検出遺構には、調査区北東寄りでは1条の薄い畦畔状の高まりを確認し、土坑1基を確認した。

### (2) 検出遺構

#### 1) 畦畔状遺構 (第57図、PL21)

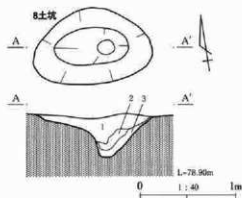
区画は検出できず、調査区北東寄りのX=36.177・Y=-67.615から方位N-10°-Wの傾きでX=36.155・Y=-67.610方向に1条の畦畔状の高まりを検出したのみであった。確認全長約22m、上幅30cm前後・下幅60cm前後、高さ2cm前後の規模を持つ薄い高まりである。

表14 第4面8号土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	方位
8	Gk-103	127	65	42	楕円形	N-87°-W

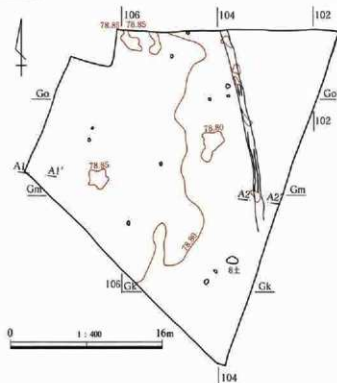
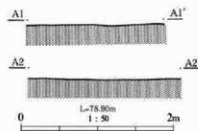
#### 2) 8号土坑 (第57図、PL21)

調査区南寄りで検出し、楕円形状を呈する土坑である。ビット状に片側に寄った部分が42cmほど掘り込まれる。埋没土中には平安洪水層の灰色粘質土と黒褐色粘質土が互層に堆積する。



1. 灰色粘質土の上面に3層の黒褐色粘質土が混入。
2. 1層中でも黒褐色粘質土が多い部分。
3. 黒褐色粘質土。強粘。此分混入。人為的な埋没か？

第56図 第4面土坑



第57図 第4面全体図

## 第4節 C区の検出遺構

### 1. C区の検出面の概要

当区においても洪水や火山灰等を確認し、それらの下面より遺構を検出した。埋没面は6面を数え各面の検出遺構の概要は以下の通りである。

第1面（近世以降）As-A降灰後の水田及び溝。

第2面（中世）水田・土坑。（洪水埋没、As-B混じり）

第3面（古代）As-B降灰下 水田

第4面（古墳時代）Hr-FP泥流下 水田

第5面（古墳時代）Hr-FA泥流下 水田

第6面（古墳時代）As-C降灰後 溝群

第7面（古墳時代以前）溝群

これらの遺構確認面間にも継続的な人為的痕跡が認められる。また、各面の検出遺構中には、上層被覆層を含む遺構もあり検出面上層からの掘り込みと考えられるが、構築面が後世の掘削により特定できない遺構もある。本報告書の掲載は、遺構埋没土を優先させ掲載した。

### 2. 第1面（近世以降）の検出遺構

#### (1) 第1面の概要

圃場整備により上層はかなり覆乱を受けているものと考えられたが、現在の耕作土下でAs-Aの広がりを確認でき、他の調査区同様第1面とした。

検出遺構は、傾斜方向に流下する溝や耕作痕の有無が見られる区画、そして土坑1基を検出した。溝の中には圃場整備直前まで継続使用されたものもある。

#### (2) 検出遺構

##### 1) 区画（第59～62図、PL22）

区画は、A区同様耕作痕を残す区画と平坦面だけの2種類の区画が検出できた。区画の配置は、下層のAs-B下面で検出された国家座標に乗るような東西南北方向に整然と配置された条里地割りの痕跡は踏襲されず、地形傾斜に沿うような配置であった。

区画の形状は不定形であり、多くは調査区外に広がる。耕作痕を残す区画が耕作痕の無い区画を挟むような配置で、耕作痕を残す区画11枚と痕跡のない区画6枚を確認した。

耕作痕の埋没土中もA区と同様であり、この地域で同じような作業が行われたと考えられる。

耕作痕を持つ各区画の状況は以下の通りである。

1区画 1号溝南にあり、区画形状は不定形を呈し調査区外に伸びる。耕作痕は他の区画耕作痕に比べ不明瞭であり、細長い溝状の耕作痕を検出した。耕作痕の走行は東西方向に切られる。

2区画 区画は調査区外に広がり、形状は不定形。

3区画とを画する境部分は直線的であり、際には直交方向に切られる耕作痕がある。その他点在する耕作痕は2号溝に平行に切られる。

3区画 区画形状は長方形を呈し、長辺約20m、短辺約13mを測る。耕作痕は全面で検出でき、耕作痕の走行は主に短辺方向に切られる。境界際耕作痕は、直交方向に切られる。

4区画 区画は調査区外に広がり、区画形状は扇が張るような形状を呈する。全面に耕作痕を検出した。耕作痕の走行は隣接区画境と平行に切れ、本区画では3方向の耕作痕を確認した。また区画境際の耕作痕は他区画同様直交方向に切られる。

5区画 区画は調査区外に広がり、区画形状は菱形が想定できる。耕作痕は全面で検出でき、6区画との境に平行に切られる。

6区画 区画形状は不定形を呈し、長辺12m、短辺8mを測る。耕作痕は全面で検出でき、5区画境の畦方向と平行に切れ、畦際は直交方向に切られる。

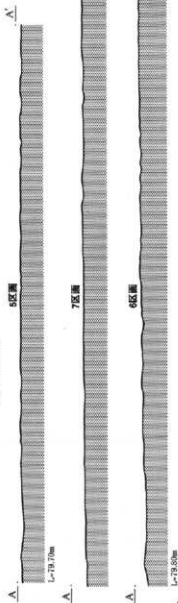
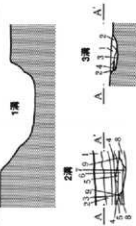
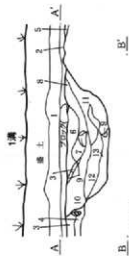
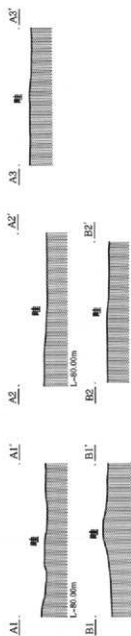
7区画 調査区外に広がり、確認区画形状は三角形を呈する。耕作痕は全面で検出でき、4区画境と直交方向と湾曲方向の2方向に切られる。

8区画 区画形状は長方形を呈し、長辺約20m、短辺約14mを測る。耕作痕は全面で検出でき、長辺方向に切られる。









- (3区画)
1. 灰褐色土 砂質土を含む、礫石をごく微量を含む。
  2. 灰褐色土 1層より粘性強い。
  3. 1. 及び、灰褐色土 砂質土を含む。該分層が多量に見られる。しりやし。
  4. 1. 及び、灰褐色土 固形砂で、シルト層を帯びる。
- (1号溝)
1. 黒褐色土 粘土。
  2. 褐色土 A5-Aを含む、粘土層(鉄分比別)。
  3. 褐色土 A5-A、灰褐色土(岡山)を少量含む。
  4. 暗黄灰色土 A5-Aを多く含む。
  5. A5-A二次堆積層
  6. 褐色土 黄褐色土、褐色土をプロット状に多量に含む。
  7. 黒褐色土 A5-Aを多量に含む。
  8. 黒褐色土 A5-A小石を含む。
  9. 灰褐色土 A5-Aを多く含む。
  10. 灰褐色土 灰褐色土を粒状に含む。
  11. 褐色土 褐色土(岡山)を多く含む。
  12. 褐色土 10層に属するがマツコ粒のためにやや褐色味帯びる。
  13. 褐色土 11層に属するが地山土の量少ない、A5-A層かに含む。
- (2号溝)
1. 黒褐色土 粘土。
  2. 褐色土 A5-Aを含む。

- (3区画)
1. 灰褐色土 砂質土を含む、礫石をごく微量を含む。
  2. 灰褐色土 1層より粘性強い。
  3. 1. 及び、灰褐色土 砂質土を含む。該分層が多量に見られる。しりやし。
  4. 1. 及び、灰褐色土 固形砂で、シルト層を帯びる。

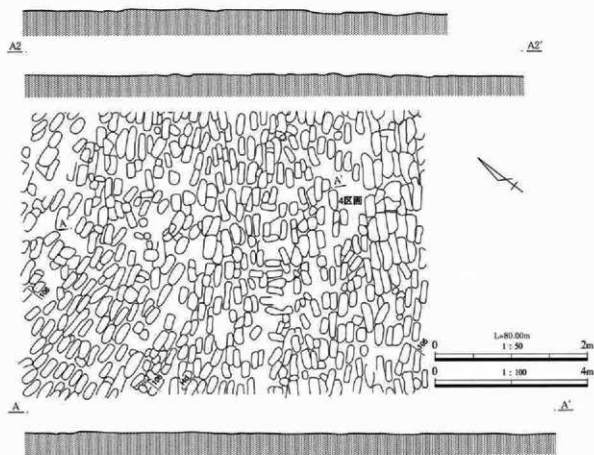
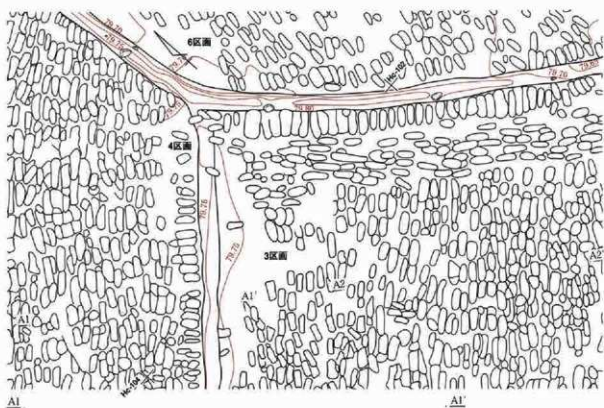
- (1号溝)
1. 黒褐色土 粘土。
  2. 褐色土 A5-Aを含む、粘土層(鉄分比別)。
  3. 褐色土 A5-A、灰褐色土(岡山)を少量含む。
  4. 暗黄灰色土 A5-Aを多く含む。
  5. A5-A二次堆積層
  6. 褐色土 黄褐色土、褐色土をプロット状に多量に含む。
  7. 黒褐色土 A5-Aを多量に含む。
  8. 黒褐色土 A5-A小石を含む。
  9. 灰褐色土 A5-Aを多く含む。
  10. 灰褐色土 灰褐色土を粒状に含む。
  11. 褐色土 褐色土(岡山)を多く含む。
  12. 褐色土 10層に属するがマツコ粒のためにやや褐色味帯びる。
  13. 褐色土 11層に属するが地山土の量少ない、A5-A層かに含む。

- (2号溝)
1. 黒褐色土 粘土。
  2. 褐色土 A5-Aを含む。

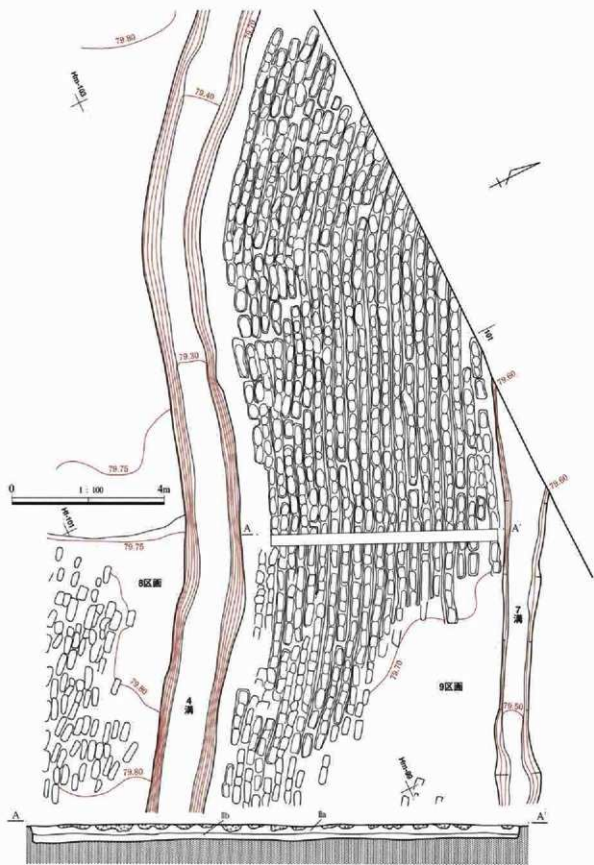
表15 第1区画計測一覧

No.	面積 (㎡)	長幅長 (m)	短幅長 (m)	水口
1	(390.2)	(27.0)	(18.1)	-
2	(75.2)	(16.9)	(7.1)	-
3	273.6	18.9	14.1	-
4	(390.2)	(24.3)	21.0	-
5	(55.8)	(7.0)	7.8	1
6	107.2	7.4	8.9	1
7	(149.4)	19.3	(11.3)	-
8	276.8	30.7	13.7	-
9	(210.8)	(25.0)	7.0	-
10	41.6	8.5	5.2	-
11	(28.4)	(6.2)	4.7	-

第60図 第1区画横断面



第61图 第1面区画内耕作图(1)



\* IIa・IIbは、基本土層参照。

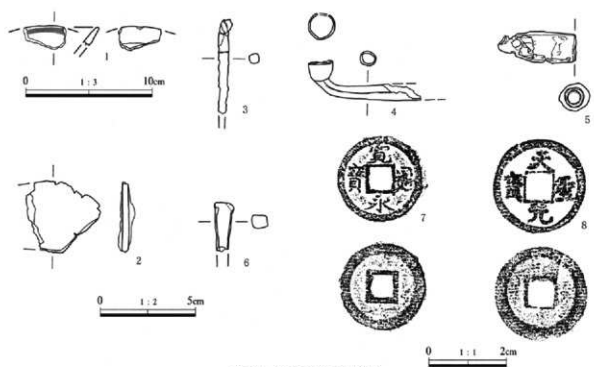
第62図 第1面区画内耕作痕(2)

L=79.90m  
1:50

9区画 4号溝と7号溝に挟まれた幅約8m程の細長い区画で調査区外に広がる。耕作痕は全面で検出し、走行は長辺方向に向く。耕作痕の形態は他の区画と異なり、畝さき切り状の短く深い痕跡であり、さく間も僅かではあるが空きが見られる。耕作痕断面では10cm程の深さに掘り込まれる痕跡もあるが6cm前後が多く、右下がりの断面痕跡が多く見られる。

10区画 9区画同様溝に囲まれた区画であり、長辺約8m、短辺約6mを測る長方形を呈する。耕作痕は全面で検出でき、形態は9区画同様である。

11区画 4号・5号・6号溝に囲まれた区画内であり、調査区外に広がる。耕作痕は全面で検出し、4号溝と平行に切られる。



第63図 第1面区画出土遺物

第1面 区画出土遺物観察表(第63図、PL80)

No.	遺物 種類 形状	出土位置 残存	法量①②③ ①口径 ②底径 ③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	陶器 鉄胎皿	1区画 口縁部片	①-②- ③-	胎物見えず、軽。締。 中性。	内外面志野焼。内面鉄胎。外面に轆轤目一帯。割れ口酒純 夫。17世紀。美濃。
2	鉄製品 不明	1区画	長(3.9)cm,幅(3.8)cm,厚(0.9)cm,重(11.6)g		図左側は調査時以降の欠損。茶紫色。クラック割れあり錆跡 か?全面にクラック状に錆ヒビあり。時期不明。
3	鉄製品 釘?	4区画	長(5.0)cm,幅0.6cm,厚0.5cm,重(1.9)g		調査時以降の欠損あり。古代鉄か和鉄か不明。茶紫色錆横断 面は丸みを帯び釘ではない場合もあり得る。
4	銅製品 煙管	6区画 煙首部	長さ(8.0)cm,煙首径0.8cm,火皿径0.9cm 重(4.7)g		調査時以降の欠損あり。銅主材。火皿は大形・薄作り煙部に 銅鍍層あり。厚くやや下手。無文。17・18世紀。
5	銅製品 煙管	7区画 煙首部	長さ(4.2)cm,煙首径1.7cm,重(4.7)g		調査時以降の欠損あり。銅主材。煙字の竹残存。火皿は薄作 銅化のため銅鍍層見え。17・18世紀。
6	鉄製品 釘	9区画	長(2.6)cm,幅1.0cm,厚0.7cm,重(2.7)g		先端調査時以降欠損。錆ぶくれあり。少赤紫色のため被熱 か?頭部折り返しの和釘。和鉄。15世紀以降。
7	古銭	10区画・完存	直径2.3cm,孔長0.6cm,重(2.2)g		「寛永通宝」背文字なし。やや薄い。
8	古銭	表揮・完存	直径2.5cm,孔長0.7cm,重(3.3)g		銅主材。「天聖元宝」中・中肉厚。初鑄1023年。北宋。

## 2) 溝

本区の溝は8条検出された。溝の流下方向は地形傾斜に沿うようなN-30°~45°-Wに向く。溝中には近年の圃場整備直前まで機能していたものが大半であり、開削時期については下層洪水層安定以降と考えられる。検出された溝と区画境には明瞭な高まりは見られないが、区画との間に空白部分があることやこの空白部分に耕作痕は直交方向に切られていることなどから、畦畔状の仕切が存在したと考えられる。

### 1号溝 (第64図、PL25)

調査区南端部を緩やかなS字状に蛇行しながら約15cmの高低差で流下する。断面形状は丸底状を呈し、埋没土中層以上にAs-A混じりの堆積土が見られ、開削はAs-A降下以前と考えられる。

### 2号溝 (第64図、PL25)

調査区南端の2区画内で検出し、東西方向に直線的に調査区外に伸び掘り込みは10cmと浅く、1号溝と接する部分で消失する。褐灰色の埋没土中にはAs-Aが含まれる。

### 3号溝 (第64図、PL25)

1区画内を南北方向に伸び、掘り込みは10cmと浅く2号溝同様南端が消失する。埋没土は黄褐色気味の砂質土を含み、As-Aは1層中に僅かに含まれている。

### 4号溝 (第65・66図、PL25)

調査区北寄りのD区境で検出し、8区画と9区画を画す。埋没土上層からビニール袋が出土しており圃場整備直前まで使われた溝である。走行はN-63°-Wの方向にほぼ直線的に伸び、5号・7号溝とは平行気味に走り、6号・8号溝とは直交する。高低差は約10cmと緩やかな傾斜を持つ。断面観察では3回の掘り返しの痕跡が見られた。また6号溝との交差部分で長辺3.5mの長方形に約5cmの落ち込みとなり、礫群が出土している。

### 5号溝 (第65・66図、PL26)

調査区北端で検出し、11区画の北を画し、6号溝から直交方向に調査区外に伸びる。6号溝との交差

部には礫群が出土し、高低差は見られず分岐部分と考えられる。深さは30cm前後を測り、中央部が若干盛り上がる。埋没土中層以上にAs-Aを含む暗褐色土が堆積し、下層は地山崩落土主体となる。

### 6号溝 (第65・66図、PL26)

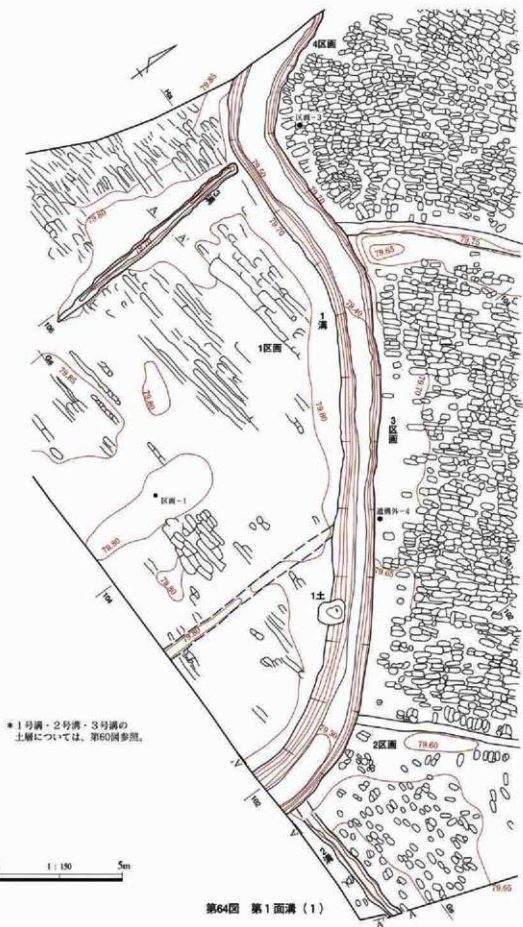
調査区北端で検出し、10区画の東を画し、4号溝と直交し約10cmの高低差で調査区外に伸びる。4号溝とは交差部分で高低差は見られず合流部分と考えられる。断面丸底状を呈し、40cmと掘り込みは深い。埋没土上層にはビニール類が多く出土し圃場整備直前まで使用されていた溝と考えられる。

### 7号溝 (第65・66図、PL26)

調査区北端で検出し、4号溝と平行気味に走り9・10区画の北を画す。東端で6号溝より底面レベルで2~3cmの高さで段差を持ち重なる。最終埋没土は中央部に見られる水流堆積によるAs-A主体の層であり、6号溝のように現代まで継続使用はされていない。高低差は11cm程あり、緩やかな傾斜を持つ。断面形は逆台形状を呈し、中央部やや窪む。

### 8号溝 (第65・66図、PL26)

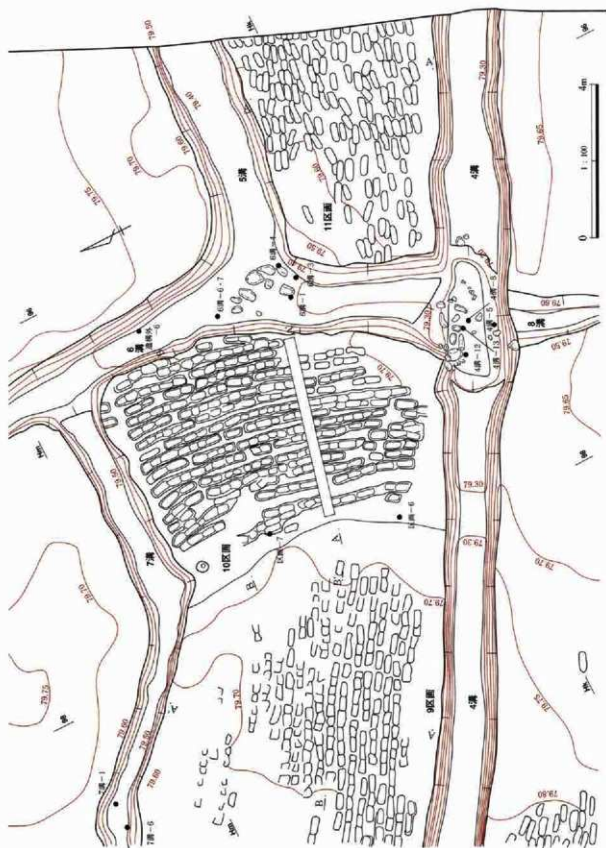
調査区北寄り、8区画の東を画し、4号溝を挟んで6号溝の延長方向に伸び4号溝と直交する。4号溝とは底面レベルで40cm前後と高く南端は消失する。埋没土中にはAs-Aを多量に含み、断面逆台形状を呈し、掘り込みは10cmと浅い。



第64図 第1面溝 (1)







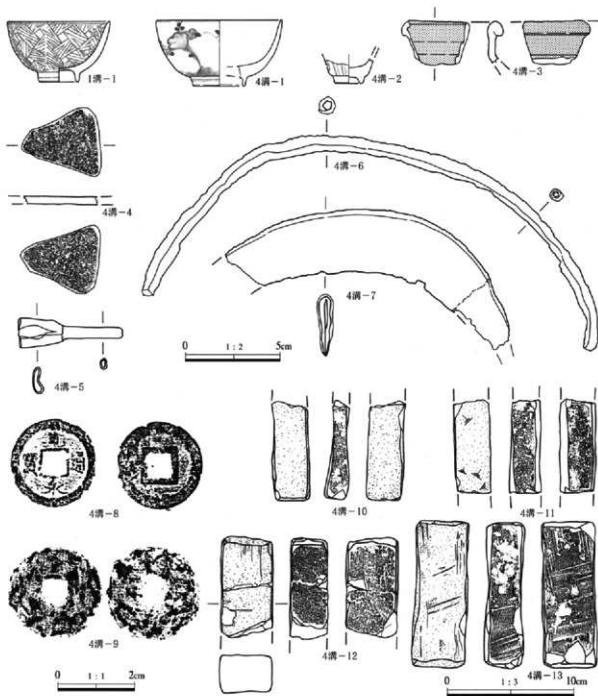
第66図 第1面溝 (3) 及びC区画耕作排水



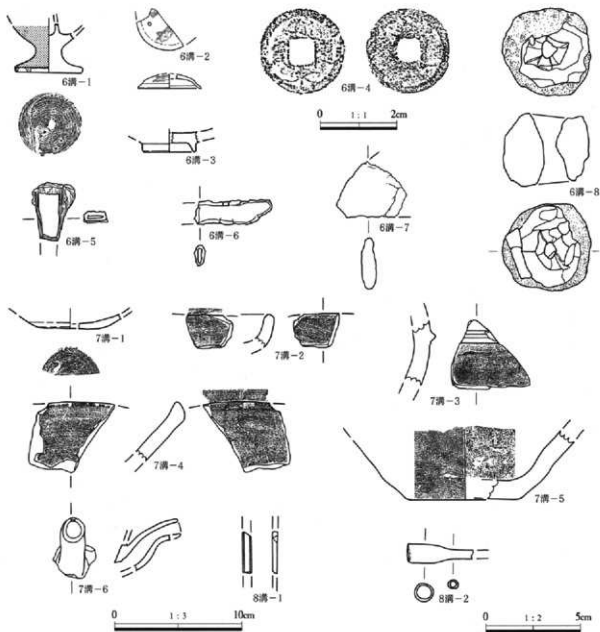


表16 第1面溝計測一覧

名称	位置		比高 (m)	規模(長・幅・深さ・cm)				備考
	方向(上流→下流)	方位		縦断全長	上幅	下幅	深さ	
1	Ha-106→Gr-102	N-54°-W	0.15	31.1	218	82	61	S字状に能行する。中層まで埋没後にAs-A降伏受ける。東西方向に直線的に伸びる。南北方向に直線的に伸びる。7号溝と併走し、9区画・10区画を挟む。現代まで使用。6号溝と合流。4号溝と併走し、11区画を挟む。4・7・5号溝と合流。分岐。4号溝と併走。D-1区2号溝の延長。4号溝と直交。8区画と画する。末端消失。
2	Gr-100→Gr-101	N-85°-E	0.04	5.8	50	20	10	
3	Gs-105→Ha-106	S-6°-E	0.08	9.3	50	22	10	
4	Hn-103→Hj-95	N-63°-W	0.10	44.7	173	98	55	
5	Hk-96→Hl-95	N-96°-W	0.10	5.8	198	135	31	
6	Hn-96→Hj-96	S-8°-W	0.10	19.0	114	48	37	
7	Hn-100→Hl-96	N-68°-W	0.11	21.2	122	90	19	
8	Hj-97→Hh-97	N-15°-E	0.01	13.0	110	48	14	



第68図 第1面溝出土遺物(1)



第69図 第1面溝出土遺物(2)

第1面 溝出土遺物観察表(第68・69図、PL78・79)

No.	器種 器形	出土位置 残存	寸法(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1溝	磁器	フタ土	①8.1②3.1	磁物見えず。重。締。	ヘロ蓋で変形で変形矢方スリ文細く。割れ口シャープ。19世紀後半。肥前系。
1溝	染付小瓶	1/2	③4.8	還元。	
4溝	磁器	フタ土	①(10.0)②(2.0)	磁物見えず。重。締。	山梨須で梅花本文を細く。白磁は淡青白かかる。内面使用傷ほとんど見えず。割れ口シャープ。18世紀後半。肥前系。
1溝	染付小瓶	1/3	③5.2	還元。	
4溝	磁器	フタ土	①-②(2.2)	磁物見えず。重。締。	肉厚。外面比飯4条単位で3区画細文。各間に染付施文。
2溝	染付箸口	底部分片	③(2.0)	還元。	白磁釉孔濁する。割れ口消耗あり。19世紀前半。伊万里系。
4溝	陶器	フタ土	①-②-	磁物見えず。重。締。	口縁上端使用磨耗あり。割れ口消耗あり。内外面暗褐色釉。
3溝	鉄胎漆(耳)	口縁部分片	③-	酸化気味から還元へ。	胎。耳重か? 独光沢鈍。15~18世紀。因摩か胎成が不明。
4溝	軟質陶器	フタ土	①-②-	黒・白色磁物含。軽。軟。	全体消耗大で、表・裏面不明。内耳浅鈍。19世紀~20世紀前半。小泉焼?
4溝	焙烙	底部分片	③-	中性。灰白色。	
4溝	銅製品	±0	長さ5.5cm, 羅字鋼径(1.4)cm		銅主材。樽口で吸口端側は鋳造か。羅字側筒部には銅継目あり。無文らしい。17・18世紀。
5溝	燗甕	吸口部完存	口径約10.6cm, 重さ5.8g		

4講 6	鉄製品 出子?	フク土	長(33.0)cm,幅1.0cm,厚0.9cm,重(33.8)g	片先端調査時以降欠損。錆ぶくれ少。赤錆色板金を丸めたるしき。鋸道接合らしい箇所あり。和・洋鉄か不明。錆などの出子か。中世以降。
4講 7	鉄製品 鏝	フク土	長(15.0)cm,幅3.4cm,厚0.9cm,重(70.4)g	欠損旧時。錆ぶくれ大。赤錆色基部に本質らしい精変化あり。寒を有する。粗鉄か?中世以降。
4講8	古銭	宍存,±0	直径2.3cm,孔長0.7cm,重さ1.6g	副主材。「寛永通宝」肉厚。細字銘の新寛永初鋳1626年。
4講9	古銭	宍存,フク土	直径2.4cm,孔長0.6cm,重さ2.2g	主材不明。全面鉄錆状で覆字跡不明。方形孔。鏝われ。
4講 10	石製品 砥石	フク土 2/3	長(7.8)cm,幅2.9cm,厚2.8cm,重(61.4)g  石材:砥沢石	手持砥。砥沢砥。中砥鉄。片小口旧時欠損。小口と両側面に磨目跡タガネ磨目あり。使用は表裏の2面。手グセは右利き。消耗少。19世紀
4講 11	石製品 砥石	フク土 2/3	長(7.4)cm,幅2.9cm,厚(2.3)cm,重(87.0)g	手持砥。中砥鉄。使用は。両表面のみ。両側面旧時欠損。他3面は浅い磨目を残す。消耗あり。
4講 12	石製品 砥石	±0 1/4~1/5	長(8.0)cm,幅4.0cm,厚3.0cm,重(170.7)g  石材:流紋岩	砥沢砥。中砥鉄。手持砥。片小口旧時欠損。片小口調査時欠損。使用両表面が磨目を残す浅い使用ほか3面使用。消耗少。
4講 13	石製品 砥石	±0 宍存	長(11.5)cm,幅4.3cm,厚3.1cm,重290.0g  石材:流紋岩	小日向?両側面と裏面と両小口に磨痕跡あり。使用は左側面の1面のみ。きめ細かく、やや硬く、中砥鉄でありながら上質。消耗少。19世紀後半~20世紀。
6講 1	陶器 鉄軸 ひょうそく	+2 1/2	①-②(5.2) ③(4.2)	磁物見えず。重。締。還元。
6講 2	磁器 染付蓋	フク土 1/3	①(5.0)②- ③(1.1)	磁物見えず。重。締。還元。
6講 3	陶器 軸	±0 底部片	①-②(4.0) ③(1.7)	磁物見えず。重。締。還元。
6講4	古銭	宍存,+3	直径2.3cm,孔長0.6cm,重さ2.1g	副主材。「寛永通宝」肉厚。やや太字。初鋳1626年。
6講 5	鉄製品 釘?	フク土	長(3.1)cm,幅2.3cm,厚0.6cm,重(6.5)g	茶黒紫色。扁平な和釘か?両側面に倒一致。正木質残存跡の磨痕跡あり和鉄。15世紀以降。
6講 6	鉄製品 刀子	-4	長(4.2)cm,幅1.3cm,厚0.6cm,重(4.1)g	調査時以降の欠損あり。クタク状の磨痕あり。片切状刃部で刀部はなく葉片?古代鉄。赤黒紫黒。古代~14世紀。
6講7	鉄製品,鏝?	破片,-4	長(3.7)cm,幅(2.9)cm,厚0.8cm,重(9.2)g	クタク状磨痕あり。錆など鈍鉄の破片。鈍鉄。茶紫色錆部分的に自然面あり。他は両面。穿孔は両方。全体消耗少ない。用途不明。軽。黒色。
6講 8	石製品 有孔円柱状	フク土 ほぼ完形	長5.7cm,幅7.0cm,厚3.3cm,重200.0g  石材:粗粒輝石安山岩	内面に磨痕。外面体部下方向磨痕磨目あり。底面右回転糸切り後磨整形。割れ口消耗少。18・19世紀。産不明。
7講 1	鉄軸陶器 灯火皿	±0 低~体部片	①-②(4.0) ③(1.0)	磁物見えず。重。締。還元。灰色(外)黒褐色(内)
7講 2	軟質陶器 焙烙	フク土 ①-②- ③-	①-②- ③-	白・黒磁物含。軽。並。弱酸化。にふい褐色。
7講 3	軟質陶器 火鉢	フク土 体部片	①-②- ③-	白・黒磁物含。軽。並。弱酸化から還元。灰色。
7講 4	軟質陶器 鉢	フク土 口縁部片	①-②- ③-	白・黒磁物少。重。硬。還元。灰色。
7講 5	軟質陶器 鉢	フク土 底部片	①-②(9.0) ③(4.6)	白・黒磁物含。重。硬。弱酸化。
7講 6	陶器 蒸留器?	+3 注口部片	①-②- ③-	磁物見えず。重。締。還元。黄褐色。
8講 1	銅器 箸	フク土 破片	長(3.3)cm,幅7.0cm,厚0.4cm,重(3.0)g	ベッコウにしては重い。両端とも旧時欠損であるが、因上方は旧時両面整形磨あり。磨面は縦方向に磨状に酸化あり割れ口消耗あり。19世紀?
8講 2	銅製品 煙管	フク土 吸口部	長さ(3.4)cm,縦字直径(1.0)cm 口内径(0.5)cm,重さ(1.7)g	調査時以降の小損あり。副主材。側面に縦線面あり。薄存無文か。17~19世紀。

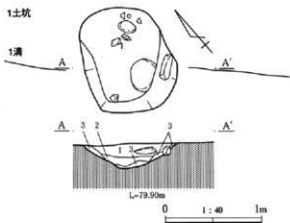
### 3) 土坑

#### 1号土坑 (第70図、PL26)

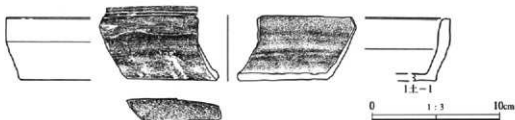
1号溝下流側の右岸立ち上がりで溝を掘り込む形で検出された。隅丸長方形が想定でき、長辺(1.1)m、短辺92cm、深さ26cmの規模を持つ。断面丸底状を呈し、礫・土器片が出土している。埋没土はAs-Bを多量に含み、地山黄褐色シルトを含む。

表17 第1面1号土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
1	Gs-102	110	92	26	隅丸長方形	N-6°-W



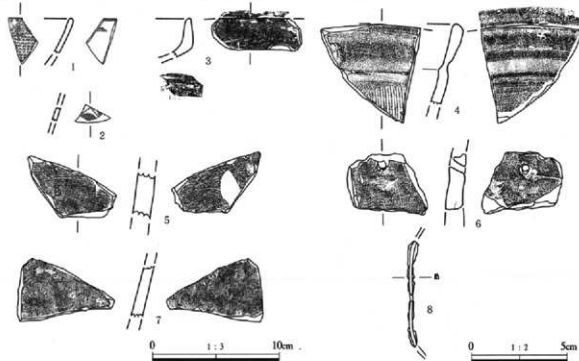
1. 黒褐色土 灰色。As-Aを含む。地山の黄褐色土を含む。
2. 黒褐色土 As-Aを多量に含む。As-Aをより多く含む。地山の黄褐色土を粒状に含む。
3. 褐色土 地山の黄褐色土主体で2層小ブロック含む。



第70図 第1面土坑

第1面 1号土坑出土遺物観察表(第70図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	軟質陶器 内耳浅碗	±0 口一底部片	①(35.0)②(33.0) ③(5.1)	白・黒紙物含。靨。並。 焼還元から中性。灰白色	体部外面に接合痕1ヶ所。下方から底面に型肌様。底面外砂 付着。割れ口消耗少。18世紀。小泉扱。



第71図 第1面遺構外出土遺物(1)

第1面 遺構外出土遺物観察表(第71図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	磁器 染付碗	フタ土 口縁部片	①-②- ③-	磁物見えず。重。締。還元。	内面型紙印刷。ベロ藍施文。釉光沢強。割れ口シャープ。19世紀後半。瀬戸?
2	磁器 染付小皿?	Hh-99 体部片	①-②- ③-	磁物見えず。重。締。還元。	外面に丸文などを染付施文。白磁釉は白。割れ口シャープ。19世紀。肥前系。
3	軟質陶器 焙烙	Hh-106 口縁部片	①-②- ③-	白・黒鉛物含。重。酸化。明赤褐色。	口縁部の内外面横溝であり。外面下方に僅かに煤付着。割れ口消耗大。19世紀後半。泉内。
4	軟輪陶器 腰鉢	Gt-103 口縁部片	①-②- ③-	磁物見えず。軽。締。中性。暗褐色。	内外面に鉄粒。内面8+α葉の節目あり。割れ口消耗少。17・18世紀。美濃。
5	軟質陶器 腰鉢	Ha-99 破片	①-②- ③-	砂粒・白色灰物含。還元。灰色。	輪轆整形。
6	軟質陶器 火鉢	Hb-101 体部片	①-②- ③-	白・黒鉛物含。やや重。硬。酸化。明褐色。	内外面溝で痕。内側から外面へ焼成前穿孔あり。外面孔部付近小割れ。使用時か。割れ口消耗少。14・15世紀。腰背山。
7	焼締陶器 甕	Hl-96 破片	①-②- ③-	白・黒鉛物含。重。締。還元から酸化へ。褐色。	外面工具痕。内面擦痕あり。割れ口消耗あり。14・15世紀。常滑。
8	鉄製品 銚金・金網?	Hl-102		長(5.7)cm, 幅(0.6)cm, 厚0.3cm, 重(1.0)g	調査時以降の欠損あり。地鉄見える。表土遺物か? 洋鉄。19世紀~現代。

## 3. 第2面(中世)の検出遺構

## (1) 第2面の概要

第1面の耕作土を含めその下層には厚さ約60cm前後を測る利根川の支流からの氾濫洪水層である明黄褐色砂質土やシルト質土が堆積している。この洪水層中にも幾つかの文化層的な面を断面観察できたが、唯一面的な広がりを出てきたのはこの褐灰色土面であった。また、この褐灰色土下にはAs-Bが攪拌され、均質な砂質土層として堆積している黒褐色土層がある。洪水層からAs-Bまでの間は継続的に耕作が行われたと考えられ、漸次層的土地の変化が見られる。As-B下面で検出できた土坑などは埋没土中に、この漸次層的土地堆積土を含み、途中からの掘り込みと考えられる。

第2面では、国家座標軸に沿う畦畔に区切られた水田遺構を11面と畝状遺構1地点と溝7条・土坑・ピット等を検出した。

## (2) 検出遺構

## 1) 水田(第73~75図、PL26~28)

11枚の水田を検出したが、3号・6号~8号水田についてのみ水田形状が想定できるが、他の区画については調査区外に伸びるため不明である。水田形状については、2号~4号水田について規模の大きな方形を呈し、5号~8号水田では規模の小さい南

北方向に長い長方形を呈するなど2種類の形態に大きく分けられた。水田耕作土は、洪水層を脇込んだ灰黄褐色の粘質土であり、下層には砂質の洪水層とAs-B混じりの砂質土の堆積が見られるなど保水性に乏しい土質であった。

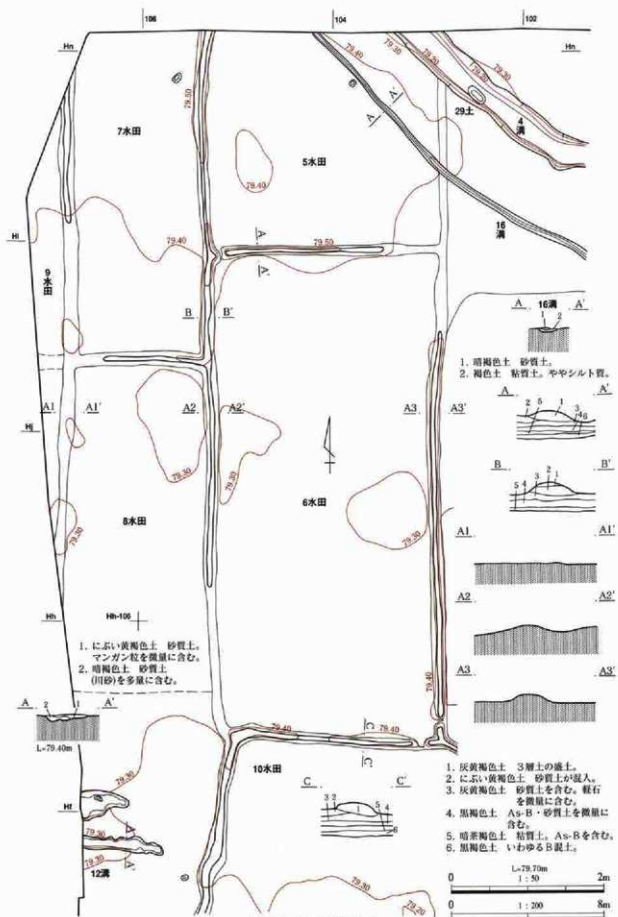
畦畔走向は、国家座標の東西南北方向にほぼ一致し、N-3°-Wに傾く。また、畦畔配置には、直交する畦畔は無く、「あみだくじ」状に配置されている。畦畔は、上幅20cm、下幅60cm前後、高さ10~15cmが平均的であり、明瞭な畦畔を検出した。

水口は畦畔交点部分に設置され、北から南・西から東への水回しを基本としている。5号水田→6号水田→3号水田と10号水田→4号水田へと水田から水田への懸け流しである。

表18 第2面水田計測一覧

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(349.2)	(38.0)	(18.3)	-
2	(400.2)	26.3	(13.9)	-
3	(759.6)	29.3	27.2	2
4	(544.0)	(35.0)	(22.1)	2
5	(137.2)	(11.4)	12.0	1
6	282.0	25.6	11.0	3
7	(109.2)	(16.9)	6.4	-
8	(205.0)	(28.0)	7.0	-
9	(25.0)	(22.8)	1.8	-
10	(109.0)	14.2	(8.0)	2
11	(654.0)	(33.2)	20.0	-
12	(36.0)	(10.7)	7.0	-





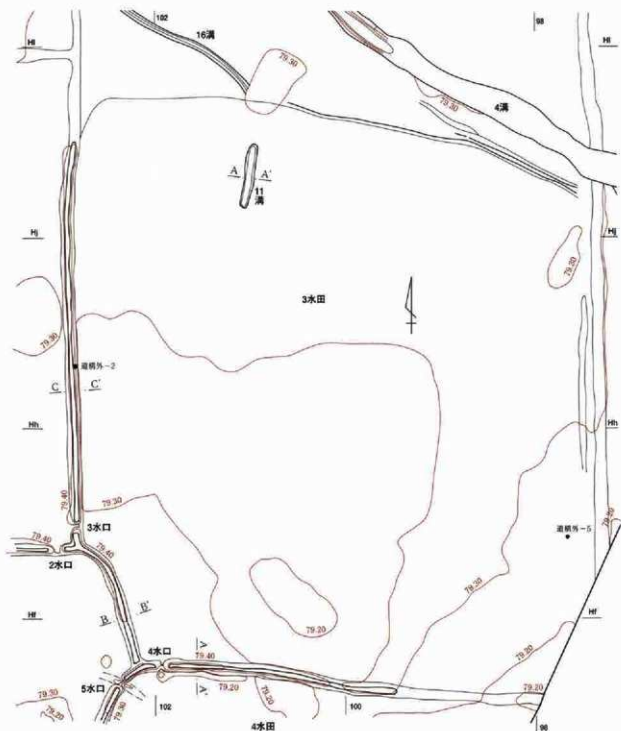
1. にぶい黄褐色土 砂質土。マンガン粒を微量に含む。
2. 暗褐色土 砂質土 (川砂)を多量に含む。

1. 暗褐色土 砂質土。
2. 褐色土 粘質土。ややシルト質。

1. 灰黄褐色土 3層土の盛土。
2. にぶい灰褐色土 砂質土が混入。
3. 灰黄褐色土 砂質土を含む。軽石を微量に含む。
4. 黒褐色土 A-S-B・砂質土を微量に含む。
5. 暗褐色土 粘質土。A-S-Bを含む。
6. 黒褐色土 いわゆるB混土。

第73図 第2面水田(1)





1. 灰黄褐色土 砂質土。  
鉄分・軽石を少量に  
含む。



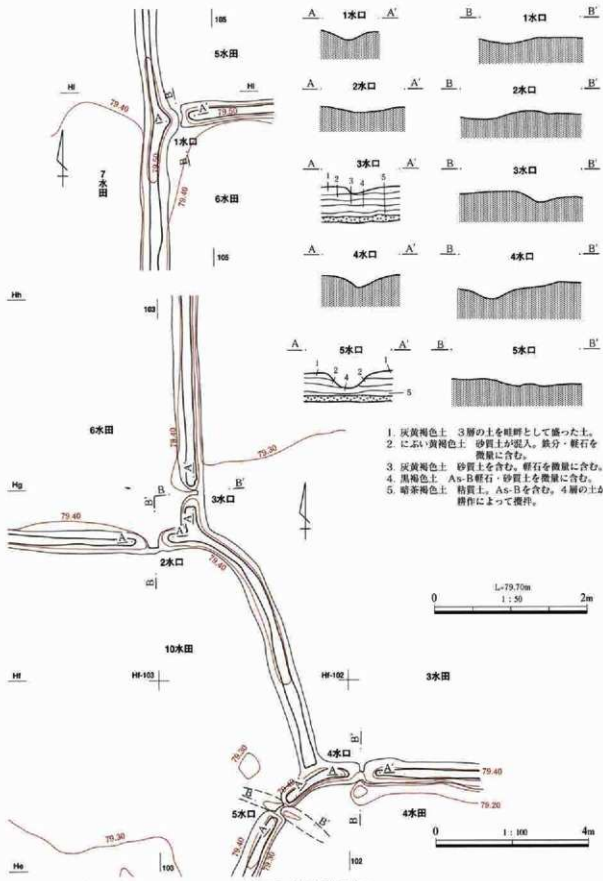
\* 1~6層は、断面も割りA・B・C土層註参照。



0 1:200 8m

L=79.50m  
0 1:50 2m

第74図 第2面水田(2)



第75図 第2面水田水口

## 2) 溝

9号溝(第77図)は、調査区北寄りで10区画の9区画寄りの欄の下層で検出し、7号溝から分岐し区画を避けながら4号溝とを繋ぐように逆S字状を呈する。7号溝側から4号溝側にかけて高低差は9cmを測り、両溝底面より若干高い。4号溝との合流部寄りでキセルが出土している。

10号溝(第76図、PL27)は、調査区南端でN-4'-Wのほぼ国家座標に沿う方向に直線的に伸びる溝である。埋没土は水田被覆層と同じ洪水層と考えられる灰黄褐色砂質土であり、東端に畦畔を伴うことから給排水水路と考えられる。11号溝(第74図、PL27)は、3号水田内北寄りで、3.5m程の短く、浅いばみ状の溝である。埋没土は10号溝と同じである。12号溝(第73図、PL27)は、調査区中央西壁で調査区外に伸びる東西方向の溝である。埋没土下層には川砂を多量に含む暗褐色土の堆積が見られた。13号溝(第72図、PL27)は、10号水田内で検出した6.4m程の浅い溝である。14号溝(第77図、PL28)は、16号溝端部と近接し、4号溝から発するような溝である。15号溝とは併走する。15号溝(第77図、PL28)は、調査区北東寄り1号水田内で検出し、14号溝と併走する。東端部は調査区外に伸びる。埋没土は川砂を含む。

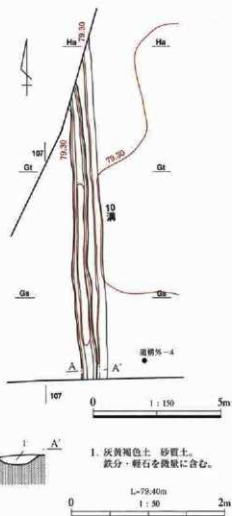
## 16号溝(第73・74・77図、PL28)

調査区北端から始まり5号・2号水田内を斜行する。4cmと掘り込みは浅く、暗褐色や褐色の砂質土により埋没している。

## 3) サク状遺構(第77図、PL27)

調査時では畑状平行溝として調査を行ったが本稿ではサク状遺構として扱う。

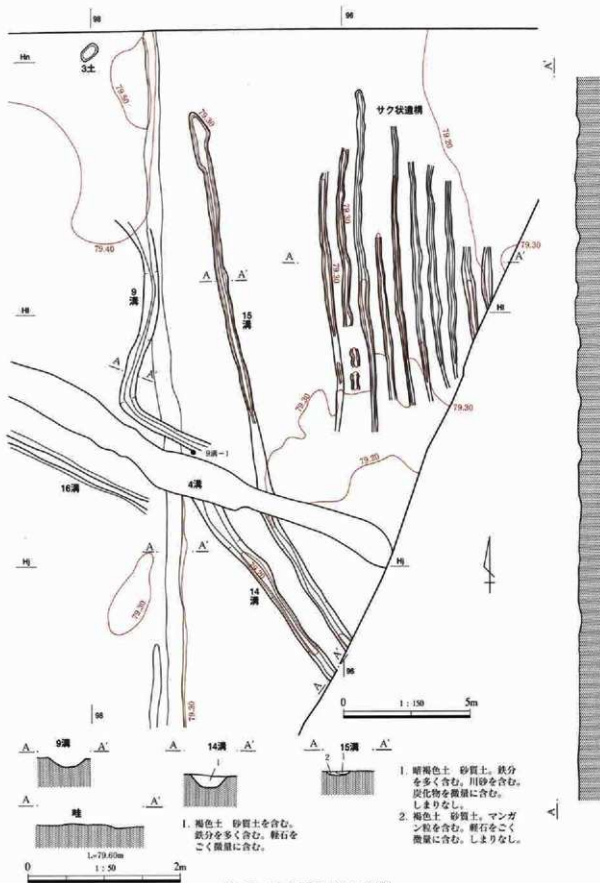
調査区北東端部のHi・k-94・95グリッド内で検出した。最長サクは長さ7m弱を測る。溝間は40~50cmを測り、2cm前後の浅い掘り込みを持つ。埋没土は砂質のにぶい黄褐色土である。



第76図 第2面10号溝

表19 第2面溝計画一覧

名称	位置		方位	比高(m)	規模(長:m, 幅・深さ:cm)				備考
	方向(上端→下端)				溝部全長	上幅	下幅	深さ	
9	Hi-98	-Hj-97	N-15°-W	0.09	10.9	50	12	13	1面と2面の中間層での掘り込みか? S字状の短い溝。
10	Gi-106	-Gr-106	N-4°-W	0.04	10.8	58	30	11	南西端で検出。南北に直線的な溝。畦畔併走。
11	Hj-100	-Hj-101	N-12°-E	0	3.5	52	34	7	3号水田内で検出。短い溝。
12	He-105	-He-106	S-83°-E	0.03	4.3	64	42	7	8号水田内で検出。調査区外に伸びる。
13	He-103	-Hd-104	S-35°-E	0.05	6.4	18	4	7	10号水田内で検出。浅い溝。
14	Hj-97	-Hi-96	N-36°-W	0.14	8.5	50	18	6	4号溝から分岐。15号溝と併走。
15	Hi-97	-Hi-95	N-16°-W	0.10	22.5	48	24	6	1号水田内。湾曲しながら南流。
16	Hm-104	-Hk-101	N-52°-W	0.04	21.0	30	13	4	5号水田から2号水田、3号水田を掘り込む。



第77図 第2面溝及びサク状遺構

#### 4) 土坑

##### 2号土坑 (第78図, PL28)

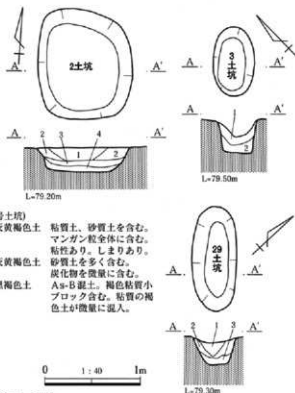
調査区南端のGs-105グリッド内で検出し、長辺1.16m、短辺96cm、深さ26cmの規模を持つやや歪んだ隅丸長方形形状を呈する。埋没土は、洪水砂に似たにぶい黄褐色砂質土を全体に含み、下層は地山土のAs-B混土ブロックの入り混じった層である。

##### 3号土坑 (第78図, PL28)

調査区北端の2号水田内にあり、グリッドはHn-97である。楕円形状を呈し、長辺73cm、短辺44cm、深さ35cmを測る。埋没土は地山土のAs-B混土ブロックの入り混じった層である。

表20 第2面土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
2	Gs-105	116	96	26	隅丸長方形	N-0°
3	Hn-97	73	44	35	楕円形	N-42°-E
29	Hm-102	120	48	30	楕円形	N-49°-W



##### (2号土坑)

1. にぶい黄褐色土 砂質土。粘性なし。
2. にぶい黄褐色土 砂質土。粘性ややあり。
3. にぶい黄褐色土 砂質土。As-B軽混土。ブロックを斑点状に含む。
4. にぶい黄褐色土 砂質土。粘質土を含む。粘性あり。

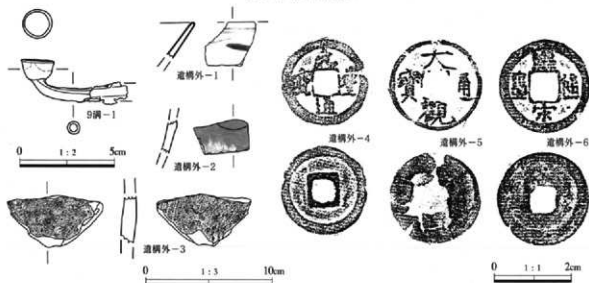
##### (3号土坑)

1. にぶい黄褐色土 暗褐色土と褐色土の混土。
2. 褐色土 粘質土。マンガン粒を全体に含む。粘性あり。しまりあり。

##### (29号土坑)

1. 灰黄褐色土 粘質土、砂質土を含む。マンガン粒全体に含む。粘性あり。しまりあり。砂質土を多く含む。灰化層を微量に含む。
2. 灰黄褐色土 粘質土を多く含む。As-B混土。褐色粘質土が微量に混入。
3. 黒褐色土

第78図 第2面土坑



第79図 第2面9号溝・遺構外出土遺物

第2面 9号溝・遺構外出土遺物観察表(第79図、PL80)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
9溝	銅製品	±0	長さ(5.6)cm, 厚前径0.6cm, 火面径1.7cm 重さ(5.3)g		調査時以降の欠損あり。銅主材。薄作。火皿大きい。無文。側部に銅面あり。17・18世紀。
1	陶器 陶胎焼付碗	フタ上 口縁部片	①-②- ③-	胎物見えず。重。締。還元。	外面に染付陶文あり。割れ口消耗少。18世紀前半。肥前系。
2	鉄胎陶器 碗	Hh-102 体部片	①-②- ③-	胎物見えず。重。締。還元。胎土白、黒色。	内外面に黒色の鉄胎。軸光沢強い。割れ口消耗少。17・18世紀? 国産?
3	焼締陶器 甕	フタ上 体部片	①-②- ③-	白・黒胎物合。重。締。還元から酸化へ。	外面顔目と印文あり。内面推痕。割れ口消耗あり。外面は灰褐色。内面は暗灰黄色。14・15世紀。常滑。
4	古銭	Gr-106, 欠存	直径2.3cm, 孔長0.6cm, 重さ2.2g		「元豊通宝」背文字なし。初鋳1078年。北宋。
5	古銭	Hf-97, 一基欠	直径2.4cm, 孔長-, 重さ1.2g		調査以降小穴。「大観通宝」縁部依い。初鋳1107年。北宋。
6	古銭	Hf-104, 欠存	直径2.5cm, 孔長0.7cm, 重さ2.8g		銅主材。「皇宋通宝」やや肉厚。初鋳1039年。北宋。

#### 4. 第3面(古代)の検出遺構

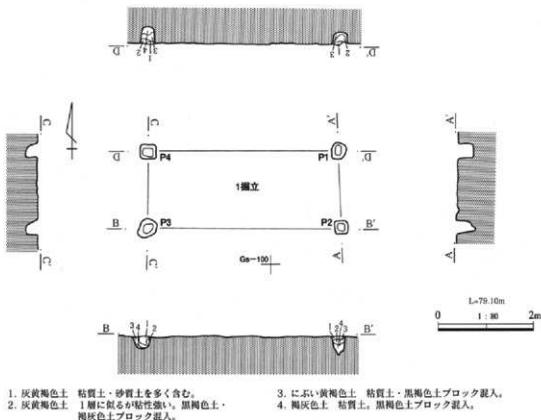
##### (1) 第3面の概要

As-Bにより埋没した面を検出中に、上層のAs-B混土の黒褐色土を埋没土中に持つ掘立柱建物跡、土坑・ピット等を確認した。これらの遺構掘り込み面は不明であるが、As-B降灰以前の遺構として面を分けた。

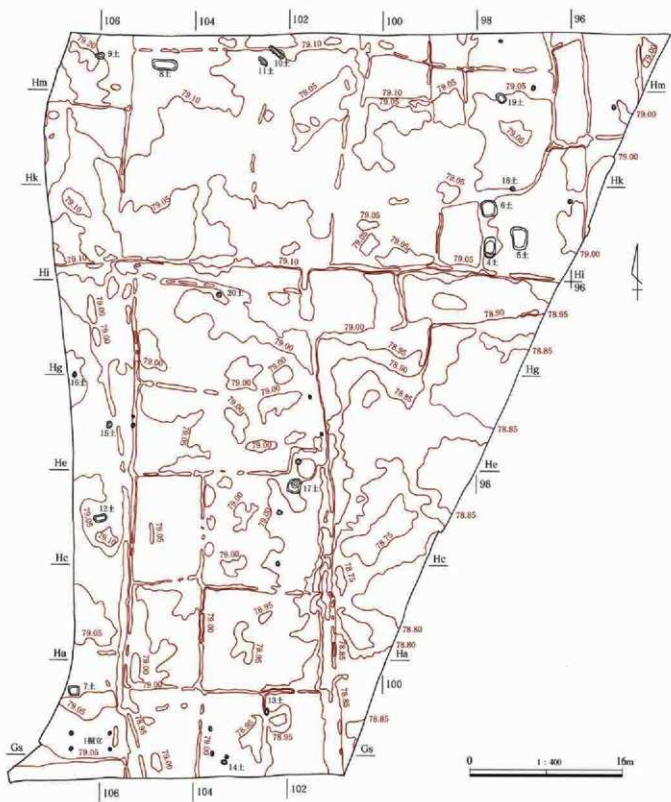
##### (2) 検出遺構

##### 1) 1号掘立柱建物跡(第80図、PL31)

調査区南端のGs-105・106グリッド内で検出された。規模は桁行き4m(1間)×梁間1.9m(1間)の長方形を呈する。柱穴は1辺30cm前後の隅丸方形を呈し、深さ23cm前後を測る。棟方向はE-O'に向き、国家座標に一致する。



第80図 第3面1号掘立柱建物



第01图 第3面全体图

## 2) 土坑 (第82~85図, PL28~31)

埋没土は、As-B混土を主体とした層であるが、上層の水田耕土中では確認できなかったことから、As-B降灰以降のAs-B混土形成時から2面水田埋没以前の間に掘られ込まれた土坑群と考えられる。また、掘り込み面についてはその後の水田耕作等の継続的な作業により、消失したと考えられる。

これらの土坑は4号~6号土坑のように近接して検出される土坑は希であり、全体に散在して検出されている。

形状は、隅丸長方形や方形を呈する土坑が多く、次いで小円形や楕円形を呈する土坑が多い。隅丸長方形及び方形を呈する土坑に4号・5号・8号・12号・19号土坑があり、4号・5号・8号土坑については長辺が2mを越える規模の大きい土坑である。

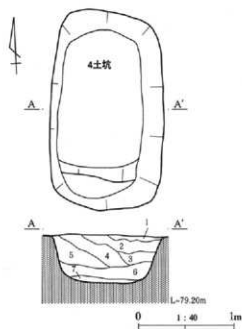
方形を呈する土坑には6号・7号・17号土坑があり1辺1mを越える。17号土坑については、テラス状の段を持ち北寄りに径80cmの円形の掘り込みがあり、断面ロート状を呈する。深さは80cmと深いことから、井戸の可能性が考えられる。

上記の四角形の土坑については軸方向が国家座標に近似する値であることに類似性が認められる。小規模土坑は、13号~16号・18号・20号土坑等があ

り、円形もしくは楕円形を呈し掘り込みが浅く、ピットとも考えられる。楕円形を呈する土坑に9号土坑がある。

10号・11号土坑については、溝状の長円形を呈し、底面の凹凸から耕作痕と考えられる。

土坑の深浅については、掘り込み面の位置に關係すると考えられ、深いものほどAs-B降灰時期に近く、浅いものほど中世水田に近い時期に掘り込まれた可能性がある。また、埋没土中に見られるAs-B混土以外のブロックは、As-B下水田耕作土の黒色粘質土とその下層の灰白色粘土さらに下層のHr-FA層等が見られた。各ブロックは入り乱れた状況であり、掘削後の短期間で人為的に埋め戻されたと考えられる。



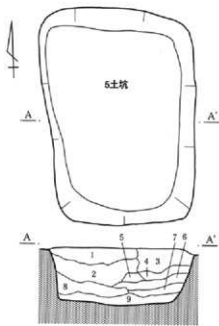
1. ぶい黄褐色土 粘質土。砂質土・軽石を含む。
2. ぶい黄褐色土 粘性强い。砂質土はブロック状に混入。
3. ぶい黄褐色土 強粘性。
4. 灰黄褐色土 粘質土。黒色土・黒褐色土ブロック混入。
5. 灰黄褐色土 粘質土。黒褐色土・暗褐色土ブロック混入。
6. 褐灰色土 粘質土。一部にこぶし大の明褐色土ブロック混入。
7. 黒褐色土 砂質土と粘質土の混土。As-B混土を含む。

表21 第3面土坑計測一覧

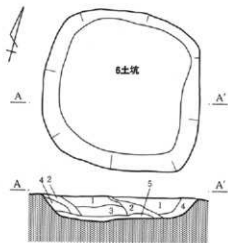
No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
4	Hl-97	213	115	51	隅丸長方形	N-1°-W
5	Hj-96	228	150	60	隅丸長方形	N-1°-W
6	Hj-97	167	165	28	隅丸方形	N-13°-W
7	Gi-106	110	97	20	方形	N-0°
8	Hm-104	259	84	27	隅丸長方形	N-87°-W
9	Hm-105	91	57	28	楕円形	N-75°-W
10	Hm-102	180	29	11	長方形	N-50°-W
11	Hm-102	102	35	15	隅丸長方形	N-49°-W
12	Hd-105	130	66	23	隅丸長方形	N-75°-E
13	Cs-102	62	34	12	不定形	N-0°
14	Gr-103	53	33	7	楕円形	N-89°-E
15	Hf-105	63	36	26	隅丸長方形	N-11°-E
16	Hg-106	50	39	12	楕円形	N-18°-W
17	Hd-101	145	140	80	方形	N-0°
18	Hk-97	46	39	10	楕円形	N-80°-W
19	Hi-97	101	78	8	隅丸方形	N-37°-W
20	Hh-103	46	46	11	円形	N-15°-W

第82図 第3面4号土坑



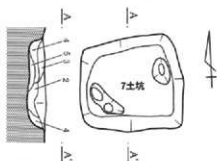


1. 灰黄褐色土 粘質土。砂質土。暗褐色土がブロック状に混入。
2. 灰黄褐色土 1層に似るが褐灰色土ブロック混入。
3. にぶい黄褐色土 砂質土に粘質土がブロック状に混入(黒褐色土ブロック)。
4. にぶい黄褐色土 粘質土・砂質土・褐灰色土ブロック混入。
5. 褐灰色土 粘質土がブロック状に単独。軽石を微量に含む。
6. にぶい黄褐色土 シルト質土。砂質土を含む。黒褐色土ブロックが微量に混入。
7. 黒褐色土 強粘質土。As-B軽石を微量に含む。灰褐色土ブロック混入。
8. 灰黄褐色土 粘質土。黒褐色土ブロック混入。
9. 褐灰色土 粘質土。褐灰色土・砂質土ブロック混入。



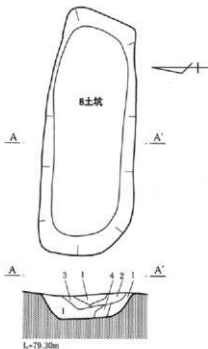
1. 灰黄褐色土 主体は、中世褐灰色土面の耕作土。
2. 灰黄褐色土 灰色土大ブロック及び下層ブロック含む。
3. 灰黄褐色土
4. 黒褐色土
5. 黒褐色土

\* 全体に下層のAs-B・As-B下水田耕作土・FP・FA下水田耕作土ブロックなどが入り混じり粒径で分解一括埋土。



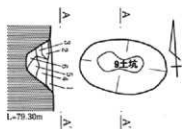
1. にぶい黄褐色土 砂質土・黒褐色土ブロック混入。粘質土を含む。
2. 褐色土 砂質土・粘質土を多く含む。
3. 灰黄褐色土 粘質土に砂質土(川砂)が混入。
4. 灰黄褐色土 色調暗め。いわゆる川砂。
5. 暗褐色土 粘質土・砂質土を少量含む。

L=79.20m  
0 1:40 1m

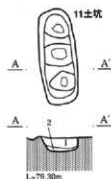


1. 黄灰色土 As-B水田耕作土下の灰色土主体で、B下水田耕作土をブロック状に含む。As-Bを少量含む。
2. 黄灰色土 灰色土主体でAs-Bを多く含む。
3. 黄灰色土 As-B主体で灰色土を少量含む、ブロック状にも少量含む。As-B水田耕作土を微量に含みブロック状にも少量含む。
4. 灰色土 下位に灰色土主体。上位はAs-B水田耕作土主体で黄褐色土を少量含む。

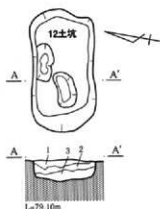
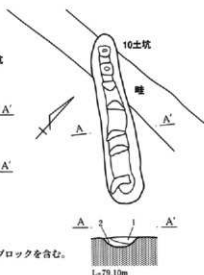
第83図 第3面土坑(1)



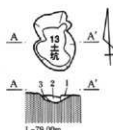
1. 褐灰色土 As-Bを含む。下層土ブロックを含む。
2. 褐灰色土 As-B主体。
3. 黒色土 As-B混土。
4. 褐灰色土 下層土ブロックを含む。
5. 黒褐色土 下層土ブロックを含む。
6. 灰色土 下層土ブロックを含む。



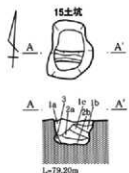
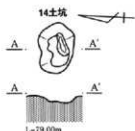
- (10・11号土坑)
1. にふい黄褐色土 下層土ブロックを含む。
  2. As-B二次堆積層



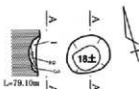
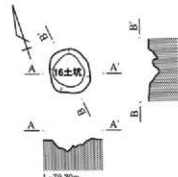
1. 灰色土 As-Bに灰褐色土を含み、灰色土ブロックを多く含む。
2. 灰褐色土 As-Bの混合層。
3. As-Bの二次堆積層 As-B主体で黄褐色土、灰色土を粒状に多く含む。



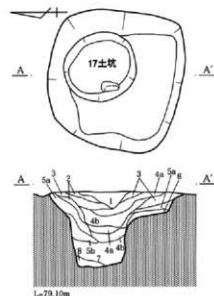
1. As-Bの二次堆積層
2. 暗褐色土 As-B主体でB水田耕作土を多く含む。
3. 黒色土 As-B水田耕作土に少量As-Bを含む。



- 1a. 褐灰色土 As-B、砂粒を少量含む。
- 1b. 褐灰色土 As-B、砂粒を1a層より多く含む。
- 1c. 褐灰色土 砂粒を1a層よりやや多く含む。
- 2a. 褐灰色土 黄褐色土少量含む。
- 2b. 褐灰色土 2a層に似るが色調やや沈む。
3. 褐灰色土 As-B主体。二次堆積層。



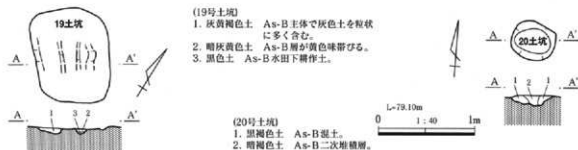
1. にふい黄褐色土 夾雑物をほとんど含まない。
2. 黄灰色土 砂粒、As-Bを微量に含む。
3. 灰色砂質土 細粒砂主体で粗粒砂を含む。As-Bを含む。



1. 灰黄褐色土 As-Bを少量含む。下層土ブロック含む。
2. 灰黄褐色土 粒状、ブロック状の含有が微量。
3. 灰黄褐色土 下層土ブロック含む。
- 4a. 褐灰色土 色調暗い。下層土ブロック含む。
- 4b. 褐灰色土 4a層主体と同等にやや粘性を帯びる。
- 5a. 褐灰色土 As-B混土。下層土ブロック含む。
- 5b. 黒褐色土 砂粒、As-Bを多量に含む。土質は細かい。
6. 褐灰色土 夾雑物ほとんど含まない。
7. 黄灰色土 黒色土・黒褐色土・灰色土ブロックを含む。
8. 黄灰色土 褐灰色土主体だがAs-B、砂粒を多く含む。

第84図 第3面土坑(2)

0 1:40 1m



第85図 第3圓土坑(3)

## 5. 第4面(古代)の検出遺構

### (1) 第4面の概要

As-Bにより埋没した面である。本区のAs-B層の堆積は上部のアッシュである灰層は無くなっているが10cm前後の軽石層が残し、水田の遺存状態は良好であった。

この面で検出された遺構は、36面の水田と水田内を縦断する水路状の遺構である。

### (2) 検出遺構

#### 1) 水田(第87~91図、PL31・32)

As-B層は灰層から軽石層にかけて大半が踏み込まれており、畦畔以外の面でも1cmにも満たない場所もあった。

畦畔の残りは良好であり36面の水田区画を検出し、畦畔配置は条里地割りを意識し東西南北方向に配置されている。その中でも国家座標値X=36.240ラインに近接する東西畦畔は、大畦畔と呼べるほどの規模ではないが唯一直線的に通る畦畔であり、公的な境を意識された畦畔と考えられ、この畦畔を境に南北で水田配置方向の違いが分けられる。

北側の水田形態は、南北方向に長い長方形を基本とし、18号水田は293㎡で調査区内でも最大面積を測る。しかし、4号~16号水田にかけては何らかの制約を受けて水田形状に歪みが見られ、11号水田や13号水田では25㎡以下と小規模である。

南側の水田形態は、東西方向に長い長方形を認識し、21号・22号水田を除き四角形の企画性が伺え

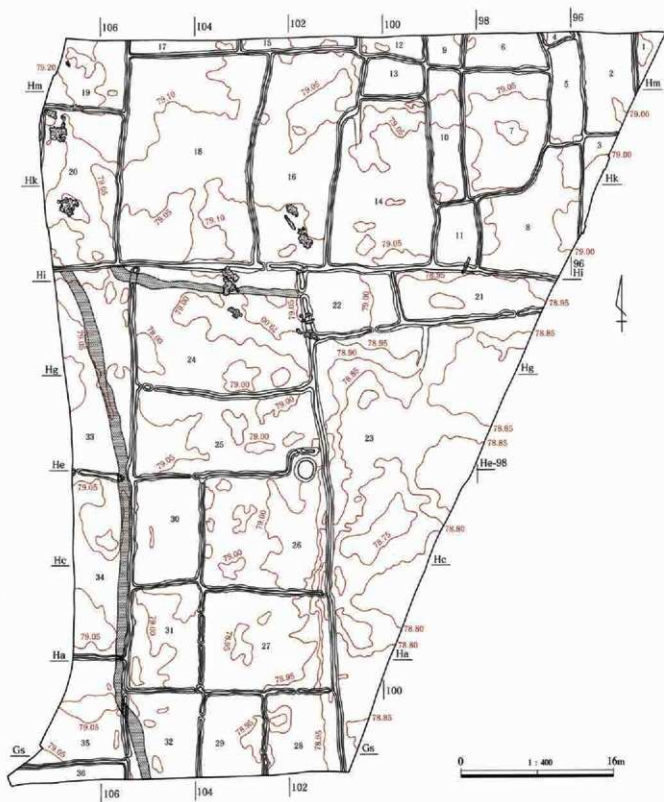
る。その中で南北畦畔2条は、直線的でありその中を東西畦畔で大小に区画している。この中で26号水田には東西3.2m、南北2.2m程の張り出し部があり、その中に円形を呈する島状の高まりを検出した。島状の高まりの規模は、上円径約1.8m、下円径約2.2m、高さ9cm程の断面台形を呈する。この施設の機能については不明である。

また、23号水田とした区画は広範な面積であり水田としての機能を有していたか不明である

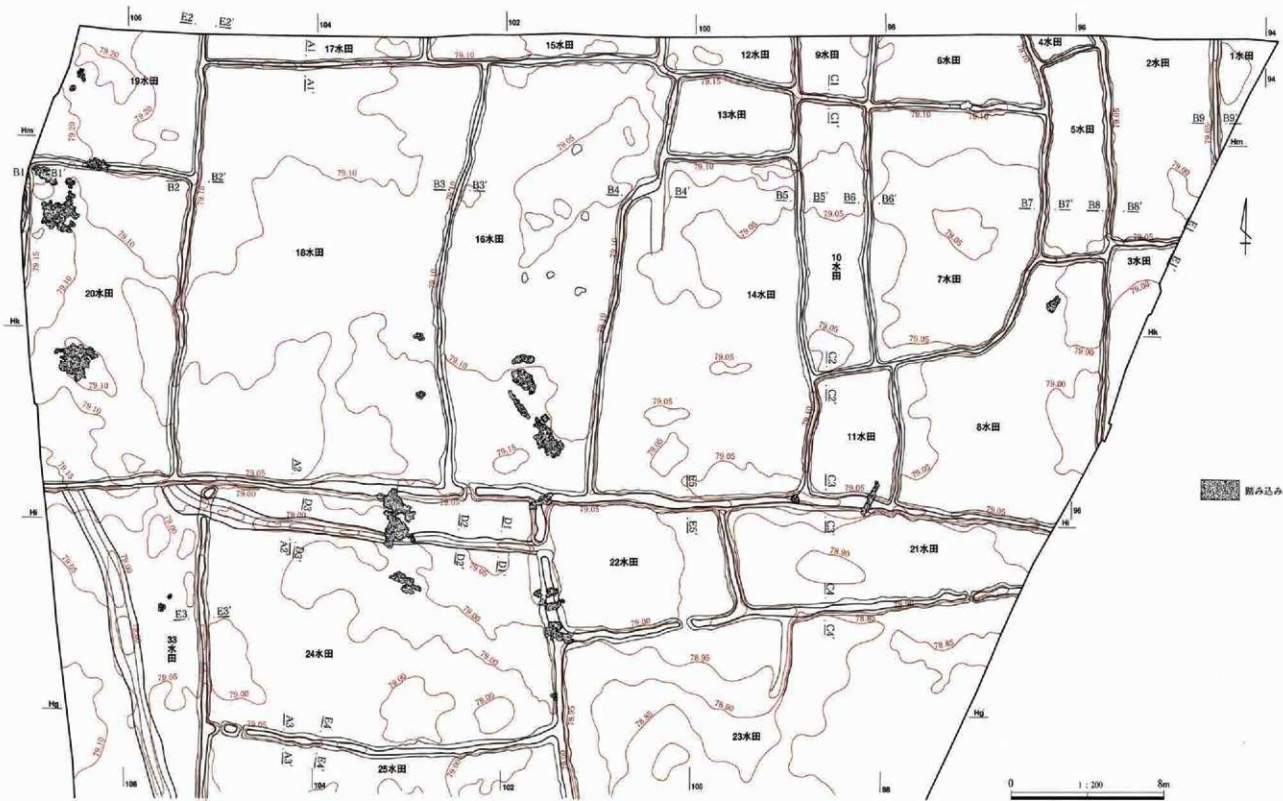
調査区内には給水目的の水路は検出されず、水田から水田への懸け流し灌漑を行っている。また、水田内には斜行する水路状遺構を検出した。水路状遺構は、33号水田区画内を斜行し34号・35号水田では畦畔際を通り、32号水田内へと移行する。もう一本はやはり33号水田から24号水田内を通り22号水田へ至る。水路の規模は上幅約90cm、下幅約30cm、浅い窪み状を呈する。

この水路状遺構は、利根川対岸の横手早稲田遺跡等でも確認されており、下水田への給水目的で掘るといふより、押し込まれた水路状の遺構と考えられる。

水田耕作土の層厚は4~10cm前後であり、夾雑物の少ない均質な強粘性の黒色土であり、直下の洪水堆積層と考えられる緑がかった灰白色粘土を踏み込み耕土化している。

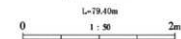
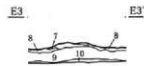
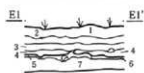
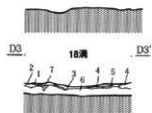
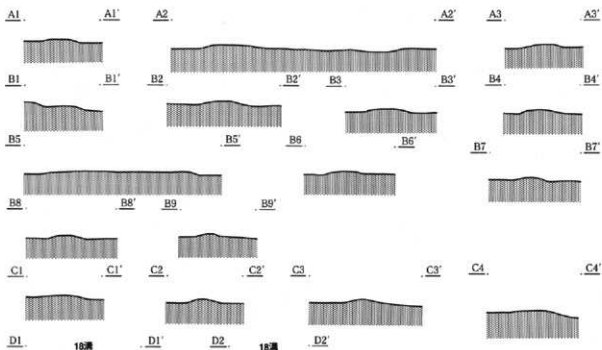


第86図 第4面全体図



第87图 第4面水田 (1)





(18号溝)

1. 灰褐色土 灰色土(鉄分で褐色味強い)に黒色土を少量含む。
2. 褐灰色土 灰色土をブロック状にも多量に含む。
3. 褐灰色土 1層土に灰色土を含み、粒状に微量に含む。
4. 黒色土 灰色土を含む。
5. 黒色土 4層に似るが灰色土含有さらに少ない。
6. 灰色土 粘性強くしまり良い。白色軽石多く含む。マンガン粒上位に多く含む。
7. 褐灰色土 淡い黒色土に灰色土をブロック状に多量に含む。

(断面ち割り E1~E5)

1. 明褐色土 中世水田耕作土。As-Bを少量含む。鉄分凝固でやや褐色味帯びる。
2. 灰褐色土 鉄分凝固多く暗褐色味強い。As-Bを1層より多く含む。
3. 褐灰色土 色調明るく灰色味帯びる。
4. 黒褐色土 As-Bを多量に含む。
5. As-B純層
6. 黒色土 As-B水田耕作土。
7. 黒色土 As-B水田耕作土。灰色土(9層)を粒状、ブロック状に多く含む。
8. 灰色土 黒褐色粘質土と灰色粘質土との混土層。
9. 灰色土 粘性強い。
10. 褐灰色土 粘性帯び白色細粒を微量含む。
11. 黒色土 粘性強い。
12. 暗灰色土 鉄分凝固みられる。

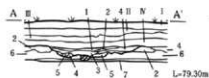
表22 第4面水田計測一覧

No.	面積 (m <sup>2</sup> )	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(9.2)	(5.8)	3.0	—
2	(51.2)	(10.6)	5.1	—
3	(15.0)	(10.0)	(3.1)	—
4	(2.8)	(1.8)	2.7	—
5	30.0	10.5	2.6	—
6	(29.2)	(3.8)	7.6	—
7	102.2	13.1	6.7	—
8	(103.2)	13.5	4.0	—
9	(11.0)	(3.3)	3.2	—
10	43.2	14.2	2.7	—
11	24.8	6.7	3.5	—
12	(12.6)	2.4	5.4	—
13	22.2	6.4	2.9	—
14	166.4	17.6	6.7	—
15	(14.2)	(1.3)	12.0	—
16	188.2	21.9	6.8	1
17	(14.4)	(1.4)	11.2	—
18	293.4	21.2	12.9	—
19	(52.2)	(7.1)	(8.4)	—
20	(122.2)	16.5	7.9	—
21	(66.4)	(16.9)	2.9	1
22	53.8	8.9	5.4	2
23	(523.6)	(45.3)	(23.5)	2
24	223.0	18.3	11.8	5
25	182.2	19.8	5.7	4
26	158.6	14.4	3.1	2
27	134.8	13.6	9.5	6
28	(62.2)	(8.4)	7.3	3
29	(55.2)	(8.6)	6.0	2
30	73.6	11.1	6.5	1
31	75.6	11.1	6.7	4
32	(66.8)	8.9	7.1	4
33	(150.0)	22.0	5.6	3
34	(109.4)	19.0	5.8	2
35	(78.6)	(10.7)	10.6	2
36	(20.0)	(12.4)	1.6	—

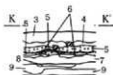
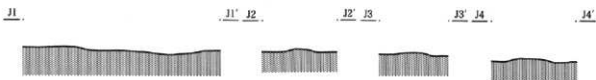
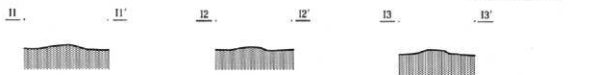
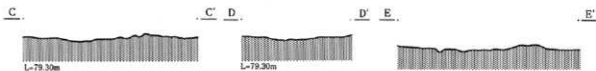
第88図 第4面水田横断面(1)







1. 黒色土 粘性強くしまり良い、白色細粒含む。灰色土を粒状・ブロック状に少量含む。
  2. 褐灰色土 灰色土をブロック状にも多量に含む。
  3. 褐灰色土 1層土に灰色土を含み、粒状に微量含む。
  4. 黒色土 灰色土を含む。
  5. 黒色土 4層に似るが、灰色土含有さらに少ない。
  6. 灰色土
  7. 黒褐色土
- \* 1~4層は、基本土層参照。

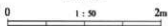


1. 明褐色土 水田耕作土。As-Bを少量含む。鉄分凝固で中・暗褐色味帯びる。
2. 灰褐色土 鉄分凝固多く暗褐色味強い。As-Bを1層より多く含む。
3. 褐灰色土 色調明るく灰色味帯びる。
4. 黒褐色土 As-Bを多量に含む。

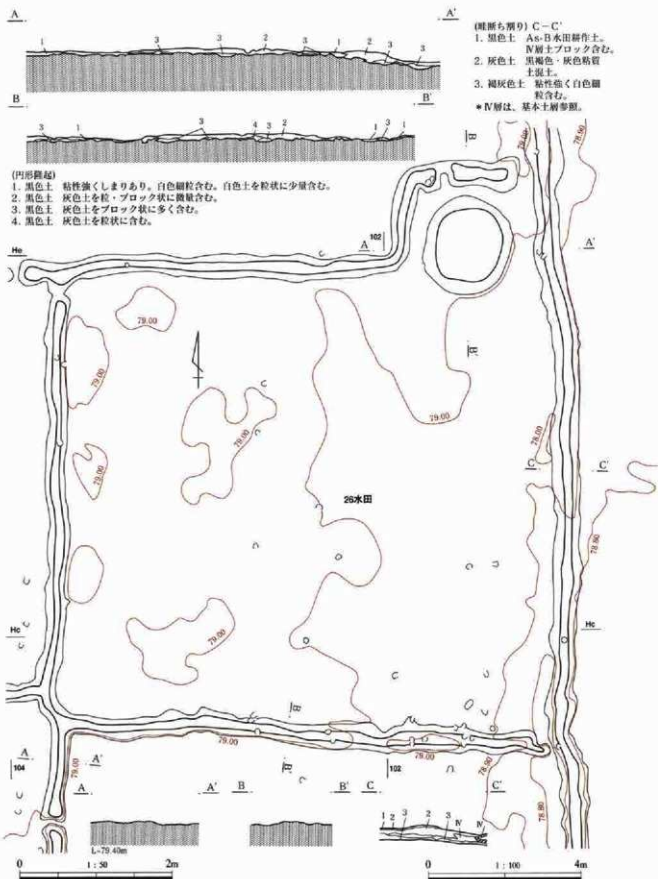
5. 黒色土 As-B水田耕作土。灰色土(9層)を粒状・ブロック状に多く含む。
6. 灰色土 黒褐色粘質土と灰色粘質土との混土層。

7. 灰色土 粘性強い。
8. 褐灰色土 粘性帯び白色細粒を微量含む。
9. 黒褐色土 As-C含む。

L=79.40m



第90図 第4面水田横断面(2)



第91図 第4面水田(3)

表23 第4面溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長・幅・深さ・cm) 確認全長   上幅   下幅   深さ	備考
17	Hi-106→Gr-105	N-8°-W	0.11	55.0   77   24   5	33号水田から発し、浅い溝状を呈する。南北畦畔を南流。
18	Hh-101→Hi-105	S-82°-E	0.07	20.0   70   25   15	20号水田から24号水田内を横断し、22号水田へつながら浅い溝。



第92図 第4面出土遺物

第4面 出土遺物観察表(第92図、PL80)

No.	器 種 器 形	出土位置 残 存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
水田 1	土師質土器 かわらけ	Hg-100 1/2	①φ8②φ6 ③2.5	白・黒灰物含。軟。酸 性。橙色。	底面に轆轤石回転の赤切痕あり。内面底に浅い轆轤目、割れ 口・器面の耗あり。少シト質。10世紀後半～11世紀前半。 西毛。
水田 2	須恵器 罎	フク土 底部片	①-②(5.0) ③(1.3)	細砂粒・赤褐色粒含。酸 性。黄。褐色。	轆轤整形。付高台。
17溝 1	須恵器 埴	-1 破片	①-②(8.0) ③(2.0)	砂粒含。並。灰白色。	轆轤整形。器表面磨耗。

## 6. 第5面(古墳時代)の検出遺構

## (1) 第5面の概要

As-B下水田耕作土下には発掘調査時に平安洪水層と呼んでいた緑がかかった灰黄褐色粘土層の堆積を確認した。層厚は厚いところで20cm、薄いところで10cm前後の堆積が見られた。その下層より明黄褐色のHr-FP層または泥流層を部分的に調査区内で確認した。

このHr-FP層下の精査を行ったところ、極小区画水田の痕跡を確認し、溝・土坑や平行溝も同一面で見出したが、土坑・溝については埋没土中に灰色粘土層ブロックを含むことからHr-FP層または泥流層堆積後から所謂平安洪水層堆積時又は堆積以降に掘られた遺構である。

## (2) 検出遺構

## 1) 水田遺構 (第94・95図、PL33)

Hr-FP直下の水田としては、3mの極小区画水田が一般的であり各地で検出されている。当区でも3m前後の極小区画水田の畦畔の痕跡が見られ、また大畦畔が寸断された状況が検出された。

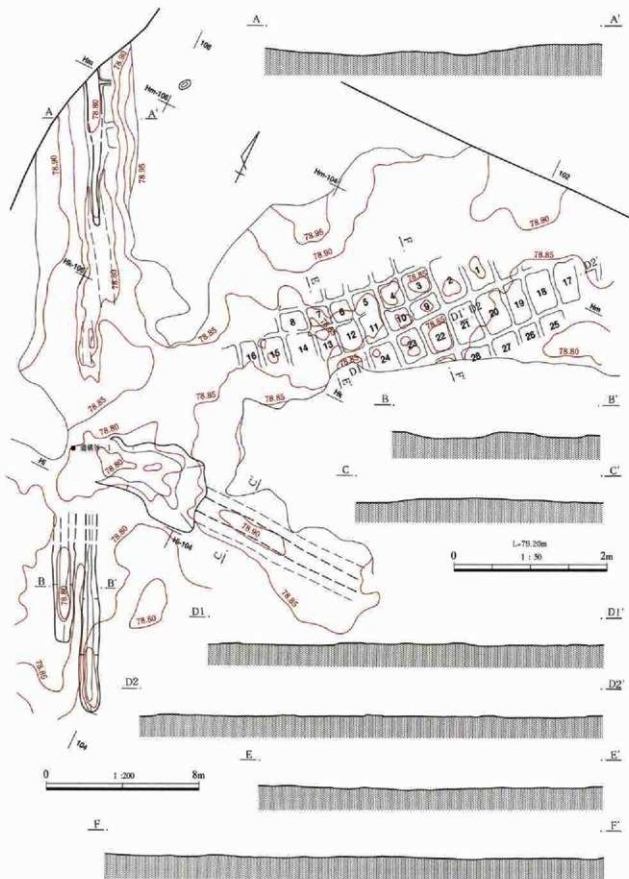
## 2) 溝 (第95図、PL33)

19号と20号溝の2条の溝を検出した。いずれもAs-下水田耕作土から灰白色粘土層を除去した段階で確認している。埋没土には上記の通り所謂平安洪水層を含み、Hr-FP泥流等の洪水堆積以降の遺構である。19号溝はHr-FP下極小区画水田を掘り込み、途中途切れながら調査区外に伸びる。

## 3) サク状遺構

調査区南端で検出された。2m程の長さで近接する筋状の窪みである。機能・用途不明遺構である。





第94図 第5面水田

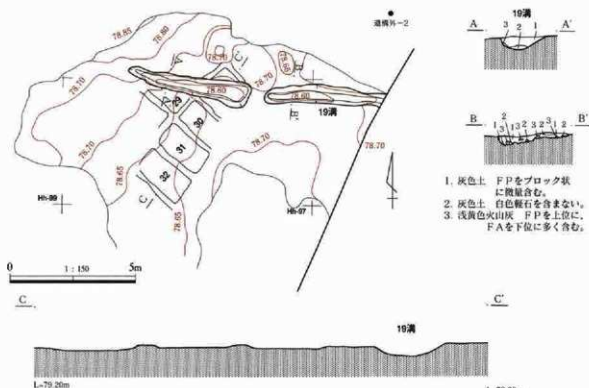


表24 第5面溝計画一覧

名称	位置	方位	比高 (m)	規模(長:m・幅・深:m)			備考	
				確認全長	上幅	下幅 深さ		
19	Hh-98 → Hl-98	S-82°-E	0.15	10.5	85	30	17	水田内を南西方向に掘削される。掘り方面の検出か?
	Hh-100	N-60°-E	—	6.0	40	—	—	僅かに凹む程度。

表25 第5面水田計画一覧

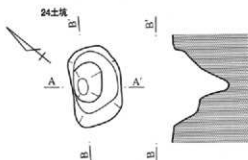
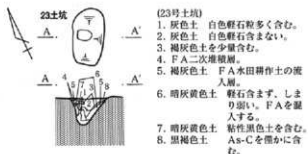
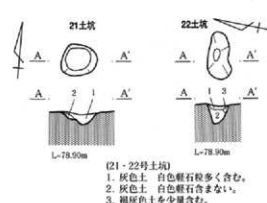
No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(1.8)	(1.4)	1.3	—
2	(3.2)	2.4	1.4	—
3	1.9	1.4	1.2	—
4	1.7	1.5	1.2	—
5	(1.6)	1.2	1.1	—
6	1.1	1.0	0.9	—
7	1.2	1.1	0.9	—
8	(1.3)	1.3	0.9	—
9	1.5	1.5	0.8	—
10	1.3	1.2	0.8	—
11	(1.7)	1.5	1.0	—
12	1.9	1.6	1.1	—
13	(1.9)	1.5	1.0	—
14	(2.4)	(1.7)	1.3	—
15	(2.0)	(1.5)	1.1	—
16	(1.2)	(1.4)	0.8	—
17	(2.5)	2.1	1.0	—
18	2.6	2.1	1.2	—
19	2.2	2.2	0.9	—
20	2.9	2.1	1.3	—
21	2.6	2.1	1.3	—
22	2.4	1.8	1.3	—
23	2.0	1.6	1.2	—
24	(1.7)	(1.5)	1.3	—
25	(0.9)	(0.9)	1.2	—
26	(0.9)	(0.9)	0.9	—
27	(1.2)	(0.9)	1.3	—
28	(0.8)	(0.6)	1.4	—
29	(1.0)	(1.5)	(0.9)	—
30	(1.9)	(1.8)	0.9	—
31	2.0	2.0	1.0	—
32	(2.5)	(2.1)	1.0	—

#### 4) 土坑 (第96図、PL33・34)

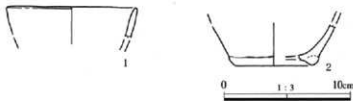
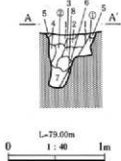
21号~24号土坑の4基を検出した。4基とも所謂平安洪水層ブロックを含む。20号・21号土坑は円形を呈し、10cm程の掘り込みを持ち、23号土坑は長円形を呈し、掘り込みは30cmと深く、24号土坑は更に楕円形を呈し、掘り込みは55cmと深い。平面形と深さから柱穴の可能性も考えられる。

表26 第5面土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	方位
21	Hm-100	40	30	13	円形	N-63°-E
22	H1-96	49	23	20	楕円形	N-76°-E
23	Hm-105	60	33	29	楕円形	N-30°-E
24	Hf-106	87	52	58	楕円形	N-60°-E



第96図 第5面土坑



第97図 第5面遺構外出土遺物

第5面 遺構外出土遺物観察表(第97図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法層(cm)①口径 ②破存③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	土師器 坏	H1-105 口縁部片	①(10.4)②一 ③(2.3)	細砂粒含。酸化。褐色。	口縁部狭張で。
2	須恵器 碗	H1-96 胴~底部片	①~②(6.0) ③(3.2)	砂粒混。中性焼。並。 灰褐色。	縦軸整形。高台部貼付。

## 7. 第6面（古墳時代）の検出遺構

### (1) 第6面の概要

Hr-FP層下水田耕作土を掘り下げHr-FA層を確認した。本面より旧流路の痕跡と微高地との微地形の起伏が明瞭となり、Hr-FA層は調査区北と下層で検出した蛇行する旧流路の部分で確認できた。このHr-FA層下からは、極小区画水田及び大畦畔と土坑1基、溝1条を検出した。

### (2) 検出遺構

#### 1) 水田遺構（第99～102図、PL34）

Hr-FA直下の水田は3m程度の極小区画水田が一般的であり、隣接調査区と同様な状況で微高地や旧流路跡の低位部等で264面検出した。調査区北端の水田畦畔の遺存状況は悪く、下端の痕跡のみが確認できただけであった。水田の軸方向は、北西から南東方向の地形傾斜方向に向き、N-75°-Wを示す。水田形状は、傾斜方向に僅かに長い長方形を呈し、面積は3m前後の極小区画水田が主体であった。

また、調査区中央を北西方向から南東方向に蛇行する旧流路痕の低位部には、上幅40cm、下幅80cm、高さ20cm程の規模を持つ大畦畔を検出した。ただこの地区の水田区画は他の水田区画に比べ軸方向が長い形状であり、Hr-FP下水田に見られる形状に似ている。

Hr-FA下水田耕作土は、夾雑物の少ない黒灰色の粘性の強いシルト質土である。厚さは3cm前後と薄く、下層にはAs-C混じりの黒褐色土が堆積する。流路から南西部にかけて、水田耕作土中に古墳時代後期の土器片が出土している。

#### 2) 溝

##### 21号溝（第101図）

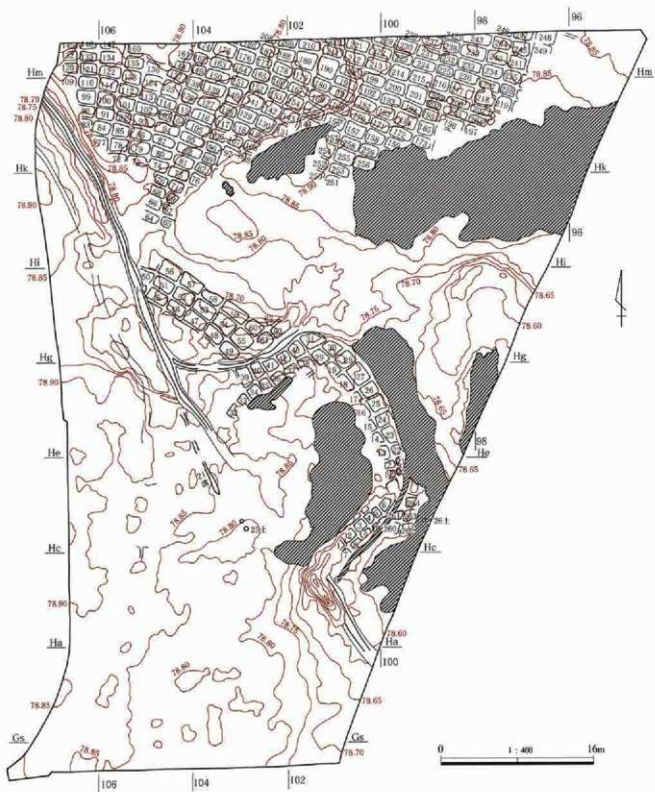
調査区中央で検出した途切れ途切れの短い溝である。埋没土の観察で本面上からの掘り込みとも考えられる。

表27 第6面水田計測一覧

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口	26	22	1.6	1.3	-	54	3.7	2.4	1.4	-
1	(0.9)	(0.9)	0.8	-	27	3.9	2.2	1.6	-	55	3.7	2.2	1.7	-
2	1.3	1.4	1.0	-	28	2.7	1.8	1.4	-	56	3.7	2.3	1.5	-
3	1.1	1.2	0.9	1	29	1.8	1.6	1.1	-	57	3.2	2.5	1.3	-
4	0.8	1.0	0.9	-	30	2.2	1.6	1.1	-	58	(2.7)	2.2	(1.1)	-
5	0.8	1.1	0.6	-	31	2.8	2.2	1.7	-	59	3.6	2.9	1.2	-
6	1.1	1.5	0.8	-	32	(1.2)	1.4	(0.9)	-	60	2.3	1.7	1.3	-
7	(0.8)	(0.8)	(0.6)	-	33	(1.2)	(1.1)	0.9	-	61	(1.7)	(1.3)	1.2	-
8	(0.9)	1.3	(0.8)	-	34	(1.7)	(1.1)	1.4	-	62	(0.4)	(1.4)	(0.6)	-
9	(0.8)	1.1	(0.7)	1	35	(1.0)	(1.2)	1.4	-	63	(2.7)	(2.3)	1.2	-
10	(0.3)	(0.3)	0.6	-	36	(1.6)	(1.0)	1.4	-	64	(1.7)	(1.8)	0.9	-
11	(0.8)	(1.1)	0.6	-	37	(1.6)	(1.2)	1.3	-	65	(1.3)	(1.3)	1.1	-
12	(0.7)	(0.9)	0.6	-	38	(2.4)	1.8	1.5	-	66	(1.7)	(1.5)	(1.0)	-
13	(1.2)	1.6	(0.9)	-	39	(2.3)	2.1	1.3	-	67	(1.3)	(1.2)	0.9	-
14	(0.8)	1.1	(0.7)	-	40	1.8	1.6	1.1	-	68	1.4	1.7	0.9	-
15	(0.9)	1.3	(0.9)	-	41	1.7	1.3	1.1	-	69	1.1	1.0	0.9	-
16	(0.7)	1.5	(0.9)	-	42	1.4	1.3	1.1	-	70	1.1	1.5	0.9	-
17	(0.7)	(0.9)	1.1	-	43	2.2	1.7	1.4	-	71	1.9	1.5	1.1	-
18	(2.0)	1.9	0.9	-	44	(0.3)	(0.4)	(0.9)	-	72	(1.4)	(1.9)	(0.6)	-
19	(1.5)	1.5	(1.0)	-	45	2.5	2.2	1.1	-	73	(2.1)	2.1	1.0	1
20	(0.5)	(0.6)	0.8	-	46	2.1	1.9	1.1	-	74	2.3	2.1	1.0	1
21	(0.5)	(0.7)	0.9	-	47	3.2	2.4	1.2	-	75	2.3	2.1	1.0	-
22	(0.9)	(0.9)	0.8	-	48	2.5	2.2	1.1	-	76	(1.9)	(1.7)	1.1	-
23	(2.2)	1.8	(1.0)	-	49	2.5	2.1	1.3	-	77	(2.3)	(1.2)	(1.5)	-
24	2.2	1.7	1.1	-	50	(1.6)	(1.6)	(1.0)	-	78	2.3	1.3	1.1	-
25	2.7	1.6	1.5	-	51	2.5	2.2	1.2	-	79	2.7	2.1	1.2	-
					52	3.1	2.2	1.3	-	80	2.2	2.2	0.8	-
					53	3.4	2.4	1.3	-	81	2.2	2.2	1.0	-

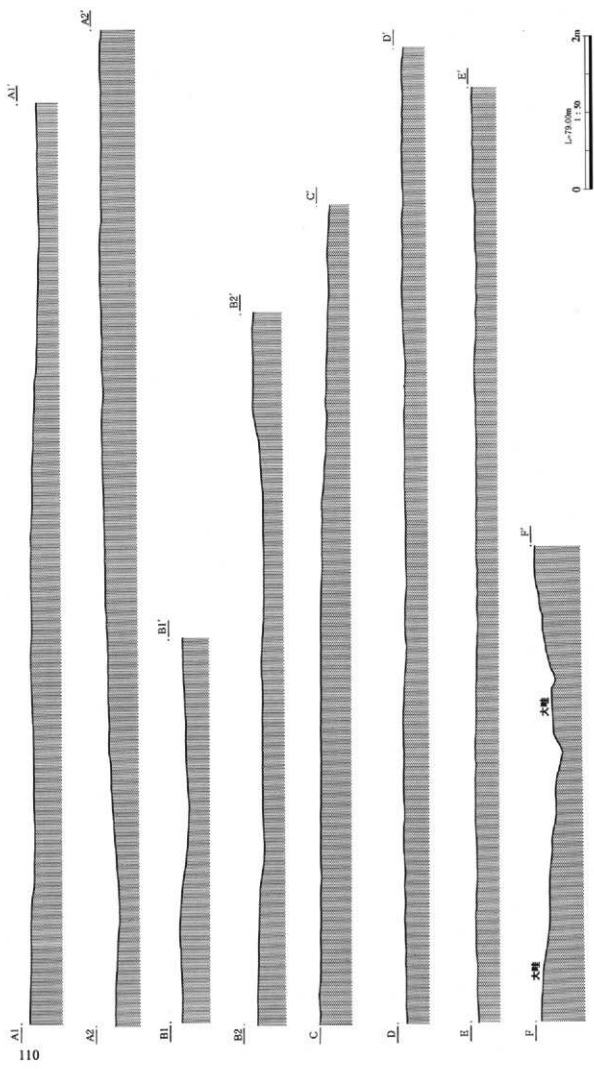


82	1.5	1.7	0.9	-	145	(0.8)	(1.2)	(0.6)	-	208	(0.5)	(1.2)	(0.4)	-
83	(0.7)	(1.0)	(1.0)	-	146	(1.2)	1.7	(0.5)	-	209	(1.4)	(1.7)	(0.8)	-
84	2.2	1.9	1.1	-	147	(1.6)	2.6	(0.5)	-	210	(2.3)	2.2	0.9	-
85	2.3	1.3	1.1	-	148	(2.0)	2.2	0.8	-	211	2.0	2.0	0.9	-
86	2.5	2.2	1.0	-	149	1.1	1.3	0.9	-	212	2.5	2.1	1.1	-
87	2.4	2.5	0.9	-	150	2.4	2.4	1.0	-	213	3.4	2.5	1.2	-
88	2.7	2.8	1.0	-	151	1.8	1.7	0.8	-	214	2.6	2.0	1.3	-
89	1.4	1.4	1.0	-	152	2.1	1.7	1.1	-	215	3.2	2.3	1.3	-
90	(2.0)	(1.8)	1.2	-	153	2.2	1.8	1.1	-	216	2.2	1.6	1.3	-
91	2.2	2.0	1.1	-	154	2.3	1.7	1.2	-	217	3.4	2.5	1.2	-
92	1.8	1.6	1.1	-	155	2.7	2.2	1.1	-	218	(2.8)	2.1	1.3	-
93	2.5	2.3	1.0	-	156	(2.8)	2.2	(1.2)	-	219	(2.2)	1.6	1.5	-
94	2.5	2.6	0.9	-	157	2.8	2.0	1.3	-	220	(1.5)	2.1	(0.8)	-
95	2.4	2.7	0.8	-	158	2.6	1.9	1.1	-	221	(2.6)	(2.4)	1.1	-
96	1.3	1.6	0.9	1	159	(1.9)	(1.8)	(1.1)	-	222	2.3	2.3	1.0	-
97	(2.2)	1.9	(0.7)	1	160	(1.7)	(1.6)	(1.0)	-	223	1.8	1.9	0.9	-
98	(0.9)	(1.0)	(0.7)	-	161	(1.0)	(1.1)	1.0	-	224	2.8	2.4	1.0	-
99	2.8	2.0	1.4	-	162	1.4	1.5	0.9	-	225	1.7	1.6	0.9	-
100	2.8	1.8	1.3	-	163	2.2	2.2	0.9	-	226	2.7	2.5	1.0	-
101	2.4	1.9	1.2	-	164	(1.8)	(1.6)	0.9	-	227	(2.4)	2.2	1.0	-
102	2.5	2.2	1.0	-	165	2.0	1.9	1.0	-	228	1.7	1.5	1.0	-
103	1.5	1.5	1.0	-	166	1.7	1.7	0.8	-	229	(1.8)	(2.1)	(1.1)	-
104	1.1	1.1	0.8	-	167	2.1	2.0	1.0	-	230	2.7	2.0	1.2	-
105	2.7	2.5	1.0	-	168	2.6	2.2	1.2	-	231	2.6	2.4	1.0	-
106	(1.8)	1.6	1.1	-	169	2.5	2.1	1.1	-	232	1.8	1.3	0.9	-
107	(1.7)	1.6	1.0	-	170	2.2	2.2	1.0	-	233	2.6	2.4	1.0	-
108	(1.7)	(1.5)	1.0	-	171	2.1	2.0	1.1	-	234	2.5	2.1	1.2	-
109	(1.2)	(1.5)	(0.9)	-	172	2.6	2.3	1.0	-	235	1.9	1.7	1.1	-
110	2.5	1.9	1.2	-	173	(2.1)	1.9	1.0	-	236	(0.6)	(1.6)	0.5	-
111	2.5	1.9	1.2	-	174	(1.3)	1.5	(1.0)	-	237	(2.3)	2.1	1.1	-
112	2.3	2.0	0.9	-	175	(3.2)	2.2	1.3	-	238	2.0	1.7	1.1	-
113	(1.8)	(1.8)	1.0	-	176	2.4	1.9	1.2	-	239	3.4	2.7	1.2	-
114	1.8	2.0	0.9	-	177	1.7	1.6	1.0	-	240	2.6	2.0	1.3	-
115	1.5	1.4	1.1	-	178	2.4	1.9	1.1	-	241	2.2	1.8	1.2	-
116	2.8	2.5	1.1	-	179	2.1	1.9	1.1	-	242	(0.7)	1.6	(0.5)	-
117	2.1	1.7	1.2	-	180	2.3	2.0	1.0	-	243	(3.0)	3.0	1.2	-
118	2.0	1.7	1.1	-	181	2.8	2.5	1.0	-	244	1.9	1.8	1.1	-
119	(2.0)	(1.9)	1.0	-	182	2.7	2.3	1.0	-	245	2.3	1.8	1.1	-
120	(1.5)	(1.6)	1.0	-	183	2.4	1.9	1.0	-	246	(0.3)	(1.4)	0.3	-
121	2.1	1.7	1.2	-	184	2.9	2.2	1.2	-	247	(1.5)	1.9	(0.8)	-
122	2.4	2.3	1.0	-	185	1.9	1.5	1.3	-	248	(2.4)	(2.1)	(1.2)	-
123	2.5	2.0	1.2	-	186	(1.5)	1.9	0.7	-	249	(2.5)	1.9	(1.5)	-
124	(3.1)	(1.8)	1.5	-	187	1.7	1.4	1.0	-	250	(0.3)	(0.9)	(0.6)	-
125	3.0	2.0	1.5	-	188	2.0	1.8	1.1	-	251	(0.9)	(1.3)	(0.7)	-
126	2.0	1.6	1.1	-	189	3.4	2.2	1.6	-	252	(1.5)	(1.1)	1.1	-
127	2.5	2.2	1.1	-	190	4.4	2.1	1.9	-	253	2.2	2.1	0.9	-
128	1.8	1.7	1.0	-	191	2.1	2.4	0.8	-	254	(1.4)	(1.0)	1.3	-
129	2.5	1.9	1.2	-	192	2.6	2.2	1.0	-	255	3.2	2.0	1.6	-
130	2.6	2.0	1.4	-	193	2.4	2.1	1.0	-	256	(3.0)	2.1	(1.4)	-
131	(1.8)	(1.1)	1.5	-	194	2.2	2.2	0.9	-	257	(1.2)	(1.0)	(1.1)	-
132	(1.2)	(1.5)	1.0	-	195	1.7	1.6	1.0	-	258	2.2	2.0	1.1	-
133	1.7	1.7	0.9	-	196	(3.1)	2.6	1.2	-	259	2.5	2.0	1.1	-
134	(3.0)	2.2	1.2	-	197	(0.7)	(0.8)	(0.9)	-	260	(0.7)	(0.7)	(1.1)	-
135	(2.4)	1.9	1.1	-	198	2.3	2.3	1.0	-	261	(0.7)	(1.0)	0.6	-
136	(1.7)	(1.9)	0.8	-	199	2.7	2.3	1.1	-	262	(1.4)	(1.1)	(1.1)	-
137	1.7	2.1	0.8	-	200	2.8	2.0	1.2	-	263	(1.3)	(1.0)	1.1	-
138	2.0	1.6	1.1	-	201	3.6	2.2	1.5	-	264	(1.4)	(1.1)	0.8	-
139	2.9	2.3	1.2	-	202	1.3	1.6	0.7	-					
140	2.3	1.6	1.4	-	203	2.3	2.5	0.8	-					
141	3.0	2.1	1.3	-	204	1.5	1.9	0.8	-					
142	2.5	1.8	1.3	-	205	1.5	1.7	0.7	-					
143	(2.7)	1.9	1.5	-	206	2.1	2.5	0.8	-					
144	(2.2)	(1.9)	(1.2)	-	207	1.6	2.0	0.8	-					

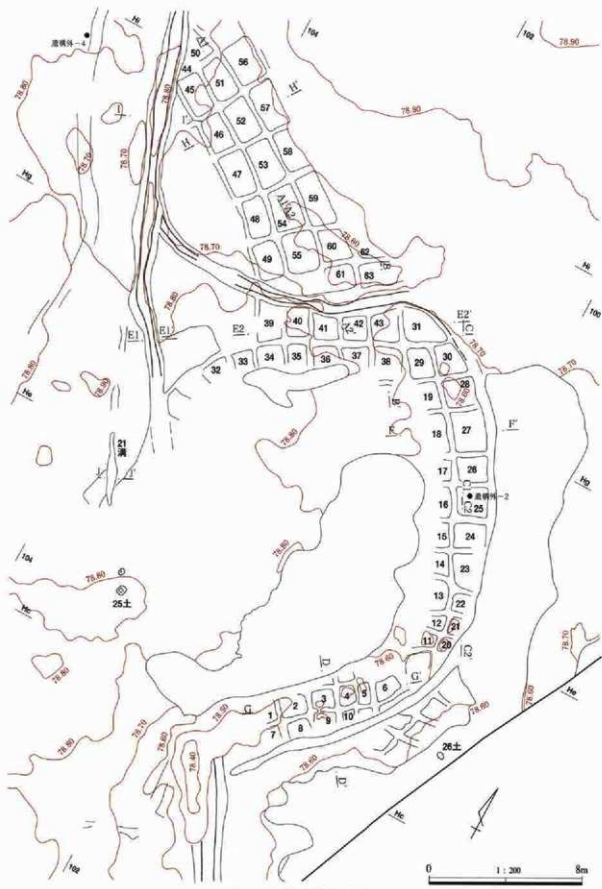


第06図 第6面全体図

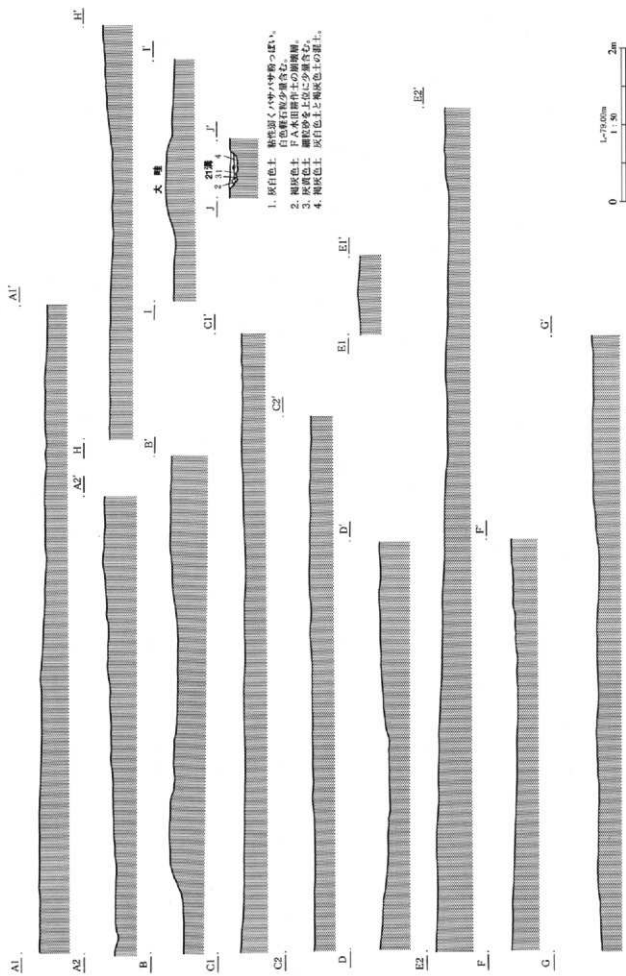




第100図 第6面水田横断面(1)



第101图 第6面水田(2)



新102図 第6面水田横断面(2)

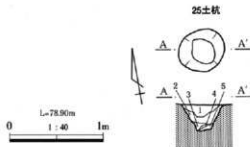
### 3) 土坑

#### 25号土坑 (第103図、PL35)

調査区はば中央部21号溝の南延長上で検出した。  
径に対し掘り込みが深くピット状を呈する。

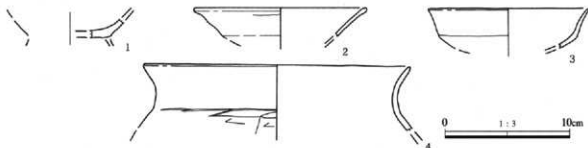
表28 第6面25号土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
25	Hc-102	47	45	28	円形	N-S1°W



1. 灰色土 白色軽石粒多く含む。
2. 灰黄色土 As-C混土を軽石に少量含む。
3. 灰白色土 白色軽石含まない。
4. 灰白色土 黒色土を多量に含む。
5. 灰白色土 黒色土を含む。

第103図 第6面25号土坑



第104図 第6面遺構外出土遺物

第6面 遺構外出土遺物観察表(第104図、PL80)

No.	器 種 形	出土位置 残 存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・製形技法、器形の特徴
1	須恵器 杯	Hk-106 底部片	①-②- ③(1.5)	砂粒含。中性磁。並。 灰色。	甕輪形。高台部貼付後割着。
2	須恵器 杯	Hf-100 口縁部片	①(13.8)②- ③(1.8)	微砂粒含。且。黄灰色。	甕輪形。口唇部肥厚。
3	土師器 杯	Hi-100 口縁部片	①(12.5)②- ③(3.2)	細砂・赤色粒含。並。明 赤褐色。	口縁部横張で。胴部との境に弱い段。
4	土師器 甕	Hi-105 口縁部片	①(21.0)②- ③(5.0)	砂粒含。酸化。並。 褐色。	口縁部から頸部横張で。頸部僅かにコノ字。胴上部横位段削り。

### 8. 第7面 (古墳時代以前) の検出遺構

#### (1) 第7面の概要

Hr-FA水田耕作土下よりAs-C混じりの黒色土を確認し、面調査を開始したが微高地との起伏差が大きくAs-C混土の厚みもまちまちであるなど検出面の確定や遺構検出に苦労した。また、第6面の低位部下層より蛇行する旧流路を検出した。

検出遺構は旧流路に流れ込む溝が主体であった。

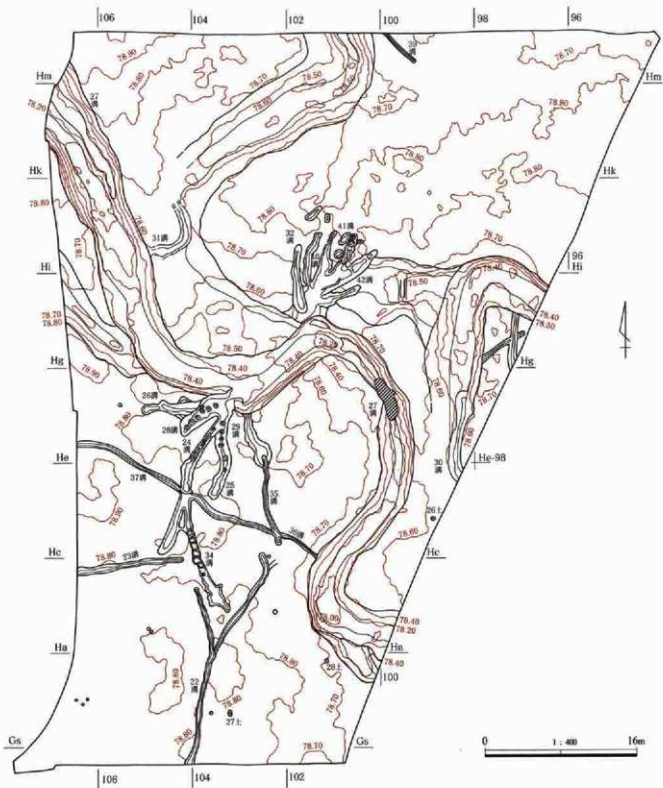
#### (2) 検出遺構

##### 1) 溝

本面で検出した溝群はAs-C混じりの黒色土を

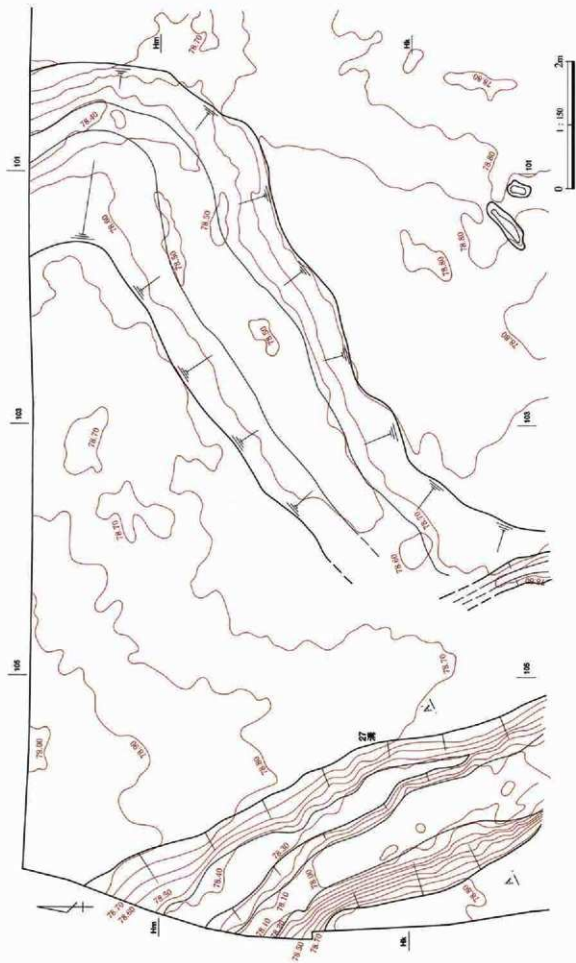
確認面としているが、堆積土が薄く下層のシルト質土面が露出する部分もあり、埋没途中の段階で溝番号を付し、下層面と同一溝を再度別番号で処理する場合もあり下層面と一括して掲載した。

本面で検出した溝群は、規模が大きく調査区を斜行しながら中央部で大きく蛇行する旧流路と考えられる27号溝 (第106~109図、PL36) を中心に、この旧流路の乱流やこれに流れ込む溝群が主である。27号溝に流れ込む溝群には、人指状に合流する24号溝 (第108図、PL35)、25号溝 (第108図、PL35)、26号溝 (第108図)、28号溝 (第108図、PL35)、29号溝 (第108図、PL36)、34号溝 (第111図、PL37)

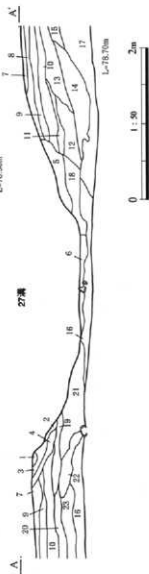
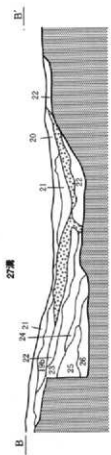
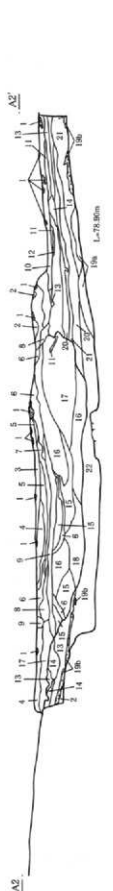


第105図 第7面全体図





第106圖 第7面溝(1)

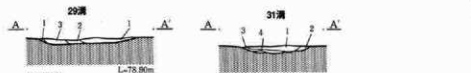


(27溝) SPA2-SPA2' (北-南), SPB-SPB'

1. FA層 FAと本出露作土の混土。
2. 黒灰色土 水田耕作土。
3. 黒灰色土 水田耕作土。
4. 黒灰色土 砂を多く含む。
5. 灰色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
6. 黒灰色土 砂石をより多く含む。砂粒を多量に含む。
7. 黒灰色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
8. 黒灰色土 砂石をより多く含む。砂粒を多量に含む。
9. 黒灰色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
10. 黒灰色土 砂石をより多く含む。砂粒を多量に含む。
11. 黒灰色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
12. 黒灰色土 砂石をより多く含む。砂粒を多量に含む。
13. 黒灰色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
14. 黒灰色土 砂石をより多く含む。砂粒を多量に含む。
15. 黒灰色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
16. 黒灰色土 砂石をより多く含む。砂粒を多量に含む。
17. 黒灰色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
18. 黒灰色土 砂石をより多く含む。砂粒を多量に含む。
- 19a 灰白色砂 黒土との互層の箇所あり。
- 19b As-C層 二次堆積物。
- 20 黒色土 加味砂。
- 21 黒色土 シルト質。自然崩壊が顕著で互層となる部分あり。
- 22 黒色土 粘性強い。灰化物を含む。細かな小石を含む。
- 23 黒色土 砂粒をより多く含む。砂粒を多量に含む。
- 24 黒色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
- 25 黒色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
- 26 黒色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。

(27溝) SPA-A' (南-北)

1. 黒色土 白色層を含む。
2. 黒色土 As-Cを少量含む。
3. 黒色土 細砂を含む。
4. 黒色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
5. 黒色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
6. 黒色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
7. 黒色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
8. 黒色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
9. 黒色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
10. 黒色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
11. 黒色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
12. 黒色土 土質細かい、粘性弱く、土質硬い。
13. 黒色土 砂粒をより多く含む。
14. 黒色土 砂粒をより多く含む。
15. 黒色土 砂粒をより多く含む。
16. 黒色土 砂粒をより多く含む。
17. 黒色土 砂粒をより多く含む。
18. 黒色土 砂粒をより多く含む。
19. 黒色土 砂粒をより多く含む。
20. 黒色土 砂粒をより多く含む。
21. 黒色土 砂粒をより多く含む。
22. 黒色土 砂粒をより多く含む。
23. 黒色土 砂粒をより多く含む。

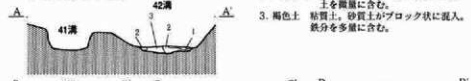


- (29号溝)  
 1. にぶい黄褐色土 粘質土。細砂質土混入。  
 2. 暗褐色土 粘質土。砂質土ブロック状に混入。  
 3. 黒褐色土 粘質土。砂質土が塊状に混入。

- (41号溝)  
 1. 黒褐色土 粘質土。軽石を多く含み。  
 2. 暗褐色土 粘質土。軽石を含む。  
 3. 暗褐色土 粘質土。軽石を含む。

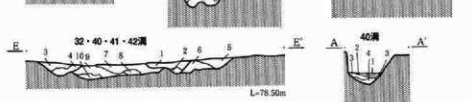
- (31号溝)  
 1. にぶい黄褐色土 粘質土。黒色土混入。  
 2. 黒色土 粘質土。黒色土粒を含む。  
 3. 黒褐色土 粘質土。C層土。  
 4. 暗褐色土ブロック状。

- (42号溝)  
 1. 褐色土 粘質土。鉄分を多く含む。  
 2. 灰褐色土 粘質土がブロック状に塊状。砂質土を層状に含む。  
 3. 褐色土 粘質土。砂質土がブロック状に混入。鉄分を多量に含む。



- (41号溝)  
 1. にぶい黄褐色土 粘質土。水成堆積。  
 2. にぶい黄褐色土 粘質土。砂質土がブロック状に混入。  
 3. 黒褐色土 粘質土。砂質土が多く混入。軽石を含む。  
 4. 黒褐色土 粘質土。砂質土が多く混入。軽石を含む。  
 5. 暗褐色土 粘質土。砂質土がブロック状に混入。  
 6. 灰褐色土 シルト質土と軽石の混入。軽石を含む。  
 7. にぶい黄褐色土 粘質土。水成堆積。  
 8. にぶい黄褐色土 粘質土。鉄分層が見られる。  
 9. にぶい黄褐色土 粘質土。黒色土を含む。  
 10. 黒褐色土 粘質土。砂質土が混入。暗褐色土がブロック状に混入。

- (40号溝)  
 1. 暗褐色土 粘質土。砂質土を多く含む。  
 2. にぶい黄褐色土 粘質土。砂質土。軽石を全体に含む。  
 3. 暗褐色土 粘質土。粘質土ブロック混入。  
 4. 暗褐色土 粘質土。砂質土がブロック状に混入。



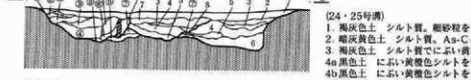
- (32・40～42号溝) S P A-A' (西一東)  
 1. にぶい黄褐色土 粘質土。水成堆積。  
 2. にぶい黄褐色土 粘質土。砂質土がブロック状に混入。  
 3. 黒褐色土 粘質土。砂質土が多く混入。軽石を含む。  
 4. 黒褐色土 粘質土。砂質土が多く混入。軽石を含む。  
 5. 暗褐色土 粘質土。砂質土がブロック状に混入。  
 6. 灰褐色土 シルト質土と軽石の混入。軽石を含む。  
 7. にぶい黄褐色土 粘質土。水成堆積。  
 8. にぶい黄褐色土 粘質土。鉄分層が見られる。  
 9. にぶい黄褐色土 粘質土。黒色土を含む。  
 10. 黒褐色土 粘質土。砂質土が混入。暗褐色土がブロック状に混入。

- (24・25号溝)  
 1. 黒褐色土 シルト質。細砂粒を含む。  
 2. 黒褐色土 シルト質。As-Cと砂粒を少量含む。  
 3. 黒褐色土 シルト質でにぶい黄褐色土を含む。  
 4. 黒褐色土 にぶい黄褐色土を含む。  
 4a 黒褐色土 にぶい黄褐色土を含む。  
 4b 黒褐色土 にぶい黄褐色土を含む。  
 5. 灰褐色土 灰白色細砂粒をラミナ状に含む。  
 6. 灰褐色土 粗粒砂主体。  
 7. 灰褐色土 粗粒砂主体。シルトブロック含む。  
 8. 灰褐色土 粗粒砂主体。  
 9. 黒褐色土 灰白色を少量含む。ブロック状にも含む。  
 10. 灰褐色土 灰白色をブロック状に含む。  
 11. 黒褐色土 灰白色をブロック状に含む。  
 12. 黒褐色土 灰白色を少量含む。ブロック状にも含む。  
 13. 灰褐色土 灰白色をブロック状に含む。  
 14. 灰褐色土 粗粒砂主体。  
 15. 黒褐色土 As-Cを集中して多量に含む。  
 16. 黒褐色土 灰白色を少量含む。ブロック状にも含む。  
 17. 黒褐色土 砂粒を含む。  
 18. 黒褐色土 粗粒砂主体。  
 19. 黒褐色土 粗粒砂主体。  
 20. 黒褐色土 粗粒砂主体。  
 21. 黒褐色土 粗粒砂主体。  
 22. 灰褐色土 粗粒砂主体。  
 23. 黒褐色土 粗粒砂主体。  
 24. 黒褐色土 粗粒砂主体。  
 25. 灰褐色土 粗粒砂主体。  
 26. 黒褐色土 粗粒砂主体。



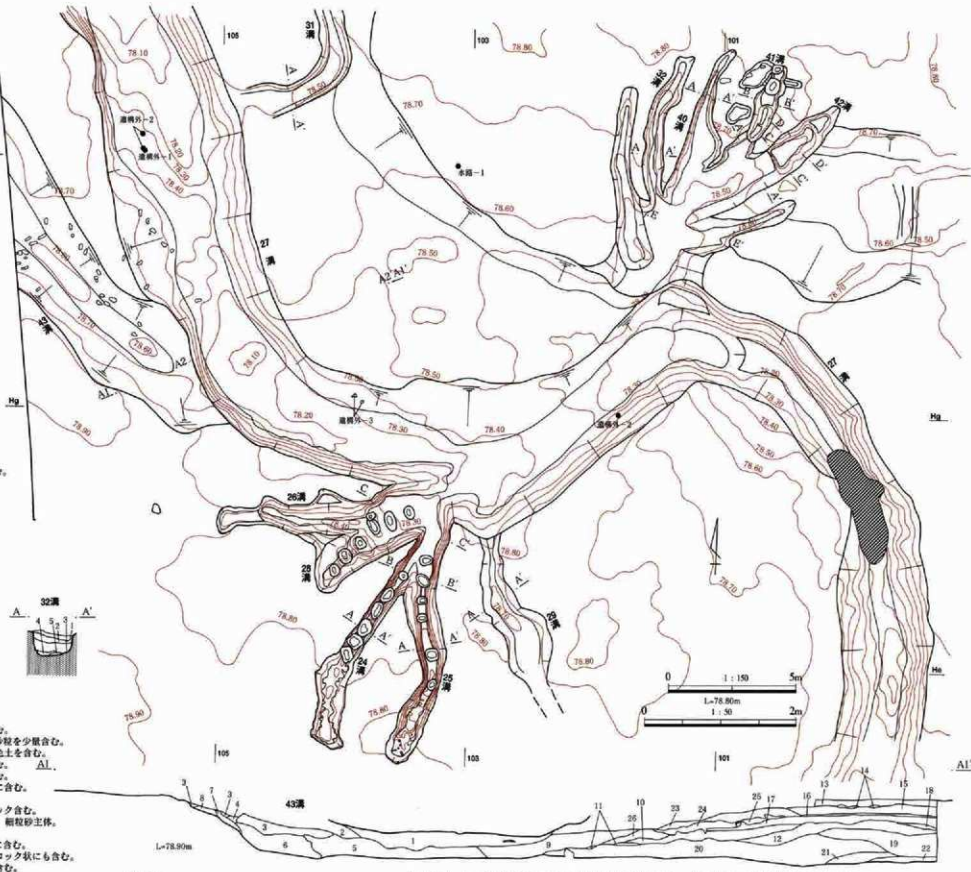
- (26号溝)  
 ① 黒色土 As-Cを多量に含む。  
 ② 黒色土 シルト質。As-C多い。  
 ③ 黒褐色土 黒褐色土。灰白色シルトをブロック状少量含む。  
 ④ 灰褐色土 灰白色細砂粒をラミナ状に含む。  
 ⑤ 灰褐色土 粗粒砂主体。  
 ⑥ 黒褐色土 粗山の灰白色シルトを含んで色調が中赤い。  
 ⑦ 黒褐色土 黒色土をブロック状に含む。暗褐色土を多く含む。

- (24・25号溝)  
 1. 黒褐色土 シルト質でにぶい黄褐色土を含む。  
 2. 黒褐色土 にぶい黄褐色土を含む。  
 3. 灰褐色土 粗粒砂主体。  
 4. 灰褐色土 粗粒砂主体。シルトブロック含む。  
 5. 暗褐色土 粘質土。砂質土がブロック状に混入。  
 6. 暗褐色土 粘質土。砂質土が多く混入。軽石を含む。  
 7. 灰褐色土 灰白色細砂粒をラミナ状に含む。  
 8. 暗灰褐色土 シルト質。As-Cと砂粒を少量含む。灰色味強い。



- (25・28号溝)  
 1. 黒褐色土 シルト質でにぶい黄褐色土を含む。  
 2. 黒褐色土 にぶい黄褐色土を含む。  
 3. 灰褐色土 粗粒砂主体。  
 4. 灰褐色土 粗粒砂主体。シルトブロック含む。  
 5. 暗褐色土 粘質土。砂質土がブロック状に混入。  
 6. 暗褐色土 粘質土。砂質土が多く混入。軽石を含む。  
 7. 灰褐色土 灰白色細砂粒をラミナ状に含む。  
 8. 暗灰褐色土 シルト質。As-Cと砂粒を少量含む。灰色味強い。

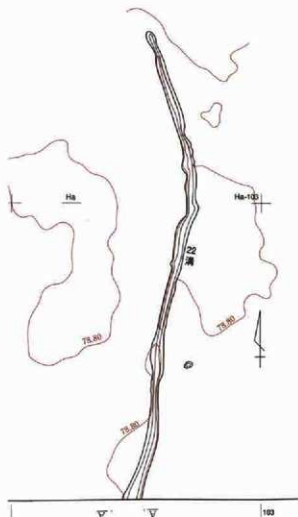
- (24・25号溝)  
 1. 暗褐色土 シルト質。細砂粒を含む。  
 2. 黒褐色土 シルト質。As-Cと砂粒を少量含む。  
 3. 黒褐色土 シルト質でにぶい黄褐色土を含む。  
 4. 黒褐色土 にぶい黄褐色土を含む。  
 4a 黒褐色土 にぶい黄褐色土を含む。  
 4b 黒褐色土 にぶい黄褐色土を含む。  
 5. 灰褐色土 灰白色細砂粒をラミナ状に含む。  
 6. 灰褐色土 粗粒砂主体。  
 7. 灰褐色土 粗粒砂主体。シルトブロック含む。  
 8. 灰褐色土 粗粒砂主体。  
 9. 黒褐色土 灰白色を少量含む。ブロック状にも含む。  
 10. 灰褐色土 灰白色をブロック状に含む。  
 11. 黒褐色土 灰白色をブロック状に含む。  
 12. 黒褐色土 灰白色を少量含む。ブロック状にも含む。  
 13. 灰褐色土 灰白色をブロック状に含む。  
 14. 灰褐色土 粗粒砂主体。  
 15. 黒褐色土 As-Cを集中して多量に含む。  
 16. 黒褐色土 灰白色を少量含む。ブロック状にも含む。  
 17. 黒褐色土 砂粒を含む。  
 18. 黒褐色土 粗粒砂主体。  
 19. 黒褐色土 粗粒砂主体。  
 20. 黒褐色土 粗粒砂主体。  
 21. 黒褐色土 粗粒砂主体。  
 22. 灰褐色土 粗粒砂主体。  
 23. 黒褐色土 粗粒砂主体。  
 24. 黒褐色土 粗粒砂主体。  
 25. 灰褐色土 粗粒砂主体。  
 26. 黒褐色土 粗粒砂主体。



- (43号溝)  
 1. 暗灰褐色土 黒色土ブロック状に含む。As-Cを少量含む。  
 2. 黒色土 上層のAs-C層との間の厚層のAs-Cを少量含む。  
 3. 黒色土 2層より厚味薄い。As-Cを少量含む。  
 4. 灰褐色土 褐色味弱する。  
 5. 黒色土 粘性強い。にぶい黄褐色土粒・炭化物粒を少量含む。  
 6. 黒色土 粘性強い。にぶい黄褐色土粒を含む。  
 7. 黒褐色土 シルトに混るが砂粒を含む。  
 8. 黒色土 As-Cを多く含む。にぶい黄褐色土粒を下層に含む。  
 9. 黒色土 As-C多く含む。細砂粒が互層。ラミナ状に含む。  
 10. 黒色土 As-C層に互層。ラミナ状にも少量含む。  
 11. 灰赤土 砂粒に白色粒と10層土を含む。  
 12. 黒色土 粗粒砂を互層。ラミナ状に含む。  
 13. 黒色土 As-Cを細粒で含む。  
 14. 黒色土 砂粒。As-C粗粒を多量に含む。  
 15. 黒色土 As-C粗粒。砂粒を薄層含む。炭化物の薄層含む。  
 16. As-C層  
 17. 黒色土 にぶい黄褐色土を微量含む。炭化物の薄層含む。  
 18. 黒色土 砂粒を薄層で混るに含む。  
 19. 黒色土 粗粒砂を含む。互層。ラミナ状にも少量含む。  
 20. オリーブ色土 薄層の互層。ラミナ状にも含む。  
 21. オリーブ色土 互層。ラミナ状に含む。  
 22. 灰赤色 粗粒砂層。キメ悪い。  
 23. 黒色土 粗粒砂を含む。As-C粗粒を少量含む。  
 24. 黒色土 褐色味弱する。粗粒砂を多量に含む。As-C少量含む。  
 25. 灰赤土 砂粒。As-Cと粗粒砂主体をラミナ状にも少量含む。  
 26. 黒色土 As-C、砂粒を多く含む。一部ラミナ状となる。粘性あり。

第106図 第7面圖 (2)



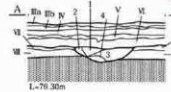
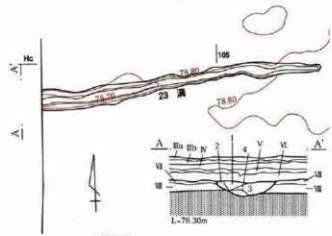


(22号溝)

1. 灰色土 白色軽石を少量含む。
2. 褐灰色土 粘性弱びる。(F A 下木腐土)
3. 黒褐色土 As-C を含み、西側では特に多く含む。
4. 褐灰色土 粘性弱びて白色軽石を少量含む。
5. 灰黄褐色土 鉄分凝固著しい。As-C 多く含む。
6. 灰黄褐色土 褐灰色土ブロック含む。
7. 黒色土 やや粘性弱び As-C を含み、鉄分凝固。
8. 黒褐色土 シルト質、鉄分凝固多量。
9. 灰色土 シルト質で黒色シルトをブロック状に少量含む。
10. 黒色土 黒色シルトに灰白色・浅黄色シルトをブロック状に含む。

(27号溝)

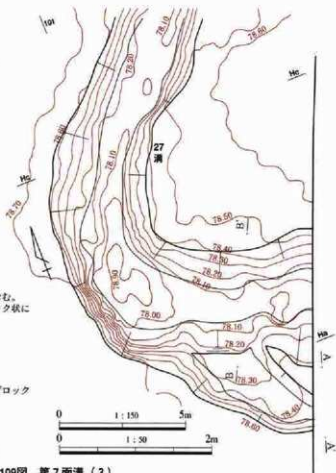
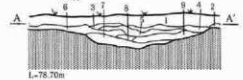
1. 灰黄褐色土 粘質土。平安津水層。
2. 暗褐色土 C 泥土。鉄分凝固。
3. 灰黄褐色土 シルト質土。軽石を微量に含む。
4. にぶい黄褐色土 粘質土。軽石を微量に含む。
5. にぶい黄褐色土 砂質土・粘質土の混土。黒色土がブロック状に混入。
6. 褐色土 粘質土に砂質土がブロック状に混入。
7. 褐色土 粘質土・砂質土・軽石・鉄分を多く含む。
8. 灰黄褐色土 粘質土・砂質土がブロック状に混入。
9. 褐灰色土 粘質土・砂質土を多く含む。軽石を含む。



(23号溝)

1. 褐灰色土 As-C を少量含む。にぶい黄褐色土を少量含む。横シマ状にも少量含む。
  2. 褐灰色土 As-C を多量に含む。
  3. 褐灰色土 As-C を少量含む。にぶい黄褐色土(Hr-F A)を横シマ状にも少量含む。
  4. 褐灰色土 As-C・砂粒を多量に含む。ブロック状にも含む。
- ★ 断面a~d層は、基本土層参照。

(27号溝)



第109図 第7面溝 (3)

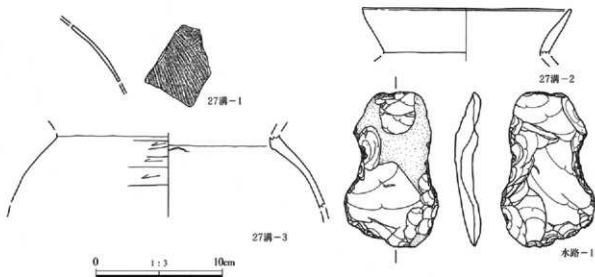












第112図 第7面27号溝・水路出土遺物

第7面 27号溝・水路出土遺物観察表(第112図、PL80)

No.	遺物 種類	出土位置 遺物 存在	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法。器形の特徴(外面-外、内面-内)
1	土師器 甕 台付甕	フク土 肩部片	①-②- ③-	砂粒含。酸化。良。にふ い黄褐色。	外：左上がり刷毛目。肩部が左下がり刷毛目。
2	土師器 甕	-5 口縁部片	①(16.4)②- ③(3.5)	砂粒多。並。にふい黄褐 色。	口縁部傾微。内面口唇部強い微でにより、僅かに内溝。
3	土師器 甕	フク土 頸~腹部片	①-②- ③(5.4)	砂粒多含(片岩粒微)含。 酸化。良。にふい黄褐色。	外：胴上部傾微直削り。 内：直で。
水路	石製 打棒	Hh-103 完形	長12.1cm,幅7.4cm,厚1.8cm,重180.0g 石材：硬質凝灰岩		分製型。

表29 第7面溝計測一覧

名称	位置		方位	比高 (m)	規模(長:m,幅・深さ:cm)			備考
	方向(上流→下流)				確認全長	上幅	下幅	
21	Hd-103→He-104	S-25°-E	0.05	9.4	44	-	10	
22	Hb-103→Gr-103	N-4°-E	0.08	18.8	80	40	23	Y字形に合流する溝。延長上に35号溝がある。
23	Hb-104→Hb-106	N-83°-E	0.06	11.4	80	20	18	東西方向に遊み、34号溝付近で消失。22号溝に振り込み似る。
24	Hd-104→He-103	S-24°-W	0.30	8.0	67	35	33	上流側に34号溝があり、25号溝などと人指状を呈する。
25	Hd-103→He-103	S-9°-W	0.50	9.3	120	28	40	24号溝と同じ形態。底面小ビット連続する。
26	Hf-104→Hf-103	S-87°-W	0.40	6.4	100	15	35	24・25号溝と同じ形態。
27	Hm-106→Ha-99	N-33°-W	0.20	92.0	55	17	80	43号溝と重なる。大きく蛇行し旧流路的な規模を有する。
28	He-104→Hf-103	S-51°-W	0.30	5.7	220	150	38	
29	Hd-102→He-102	S-20°-E	0.02	7.4	140	65	8	24・25号溝などと同じ形態。
30	Hd-98→Hb-96	S-25°-W	0.27	28.5	42	21	8	旧流路的な溝。
31	Hj-104→Hi-104	N-30°-E	0.04	8.0	100	50	9	27号溝の流路中段的なテラス面で検出した。両曲する溝。
32	Hi-101→Hb-101	N-11°-E	0.25	3.0	77	17	18	C下面下層。人指状溝群の1条。
33	Gf-100→Ha-100	S-38°-E	0.11	4.7	150	50	39	
34	Ha-103→He-104	S-22°-E	0.02	12.5	80	50	10	24号溝延長上。底面連続する小ビット。
35	He-102→He-102	S-7°-E	0.03	9.6	34	20	6	29号溝端部から。22号溝へすり寄る。
36	Hd-103→Hc-101	N-64°-W	0.02	15.0	53	28	10	やや直線的な溝。
37	Hf-104→He-106	S-68°-E	0.01	12.0	36	14	7	やや直線的な溝。24・34号溝分断。
38	Hf-104→Hb-102	N-80°-W	0.20	10.2	80	38	16	26号溝と重なる。
39	Hm-99	N-47°-W	-	4.5	26	8	8	
40	Hi-100→Hb-101	N-19°-E	0.21	16.0	43	25	15	C前面溝下層。人指状の溝群。僅かに底面小ビットあり。
41	Hi-100	N-22°-E	0.20	4.4	53	15	15	C前面溝下層。人指状の溝群。僅かに底面小ビットあり。
42	Hi-100→Hb-101	N-55°-E	0.21	7.0	70	46	5	C前面溝下層。人指状の溝群。僅かに底面小ビットあり。

## 2) 土坑 (第113図)

調査区南寄りて散在する26号土坑・27号土坑・28号土坑の3基の土坑を検出した。各土坑とも円形を呈し、掘り込みが浅く、埋没土中にはAs-Cを含む。近隣には若干小規模のピットが散在する。

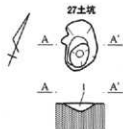
表30 第7面土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	方位
26	Hc-98	42	30	10	楕円形	N-81°-E
27	Gs-103	53	34	8	楕円形	N-22°-W
28	Gt-101	48	39	14	楕円形	N-25°-W



(26号土坑)

1. 灰色土 含有物含まない。
2. 灰色土 白色軽石粒を含む。
3. 灰色土 白色軽石粒を微量に含む。
4. 灰色土 白色軽石粒を微量に含む。
5. 灰色土 白色軽石粒を微量に含む。

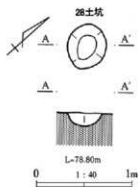


(27号土坑)

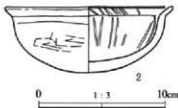
1. 灰色砂質土 As-C混。

(28号土坑)

1. 黒褐色土 粘質土。軽石を微量に含む。



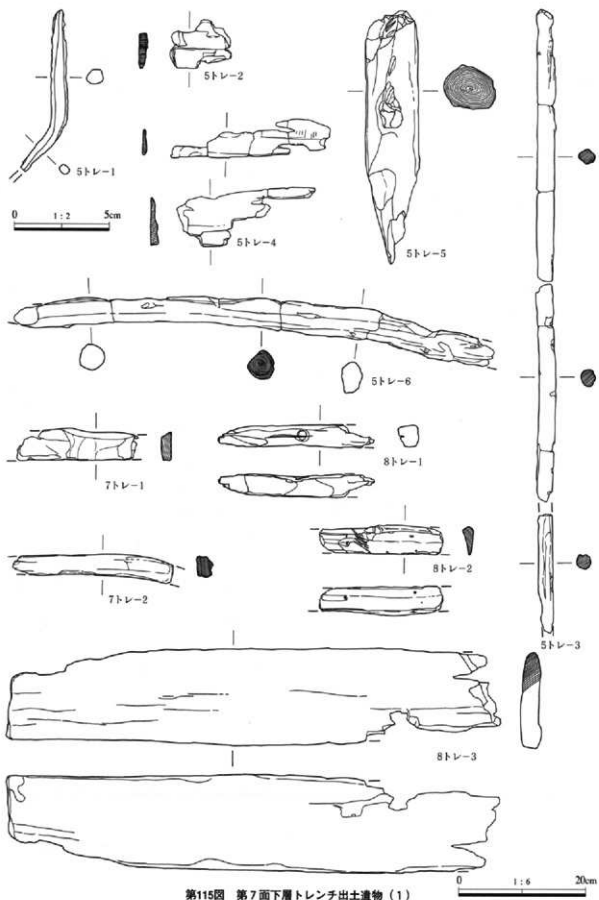
第113図 第7面土坑



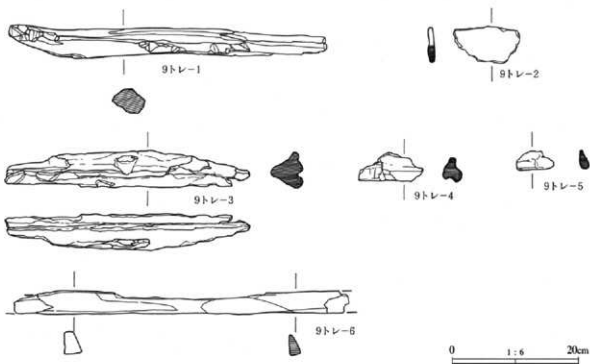
第114図 第7面遺構外出土遺物

第7面 遺構外出土遺物観察表(第114図、PL80)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴 (外面-外, 内面-内)
1	土師器 坏	Hg-103 1/2	①(13.2)②- ③(5.8)	砂粒含。酸化。良。 棕色。	口縁部内斜。肩部やや受け気味。横撫で後内面磨き? 外: 胴部丸磨り。内: 胴部撫で後放射状磨き。
2	土師器 坏	Hg-101, Hg-105 1/2	①(13.2)②- ③5.2	砂粒含。酸化。良。 棕色。	口縁部内斜。肩部やや受け気味。横撫で後内面磨き? 外: 胴部丸磨り。内: 胴部撫で後放射状磨き。
3	土師器 鉢	Ht-105 3/4	①10.1②- ③8.1	細砂粒含。酸化。並。 浅黄色。	口縁部横撫で。外: 球形胴。直筒。丸底。 内: 撫で。底部迄まで直残る。



第115図 第7面下層トレンチ出土遺物(1)



第116図 第7面下層トレンチ出土遺物(2)

第7面 下層トレンチ出土遺物観察表(第115・116図、PL80・81)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①長さ②幅③厚さ④重さ(g)	成・整形技法、器形の特徴
5トレ1	鉄製品 鏃	Hg-100・101 近完存	①8.5②0.9③7.5④(9.4)	鉄製。錆ぶくれ少。赤紫色酸を伸ばしたか。和鉄。具残存。錆のため被蝕あり。中性以降。
5トレ2	木	破片,Hg-100・101	①(9.7)②(6.7)③1.3	端部。
5トレ3	木製品	Hg-100・101	①(42.5)②(2.6)③2.3	
5トレ4	木製品	Hg-100・101	①(21.8)②(7.5)③1.2	
5トレ5	木製品	Hg-100・101	①(39.6)②(8.3)③7.3	
5トレ6	木	破片,Hg-100・101	①76.0②(4.5)③4.0	棒状を呈し、片側先端部一部加工。杭?
7トレ1	木製品	Hg-103	①(18.9)②(4.5)③2.5	
7トレ2	木製品	Hg-103	①(25.3)②(3.4)③2.5	
8トレ1	木製品・杭	下部片,Hg-104	①(24.7)②(3.6)③3.9	角柱状を呈し、打込部三角錐形に加工。
8トレ2	木製品	Hg-104	①(19.5)②(4.5)③(1.8)	
8トレ3	木製品	Hg-104	①(77.6)②(15.0)③3.3	
9トレ1	木製品・杭	Hi-106	①(50.1)②(4.6)③5.1	角柱状を呈し、打込部三角錐形に加工。
9トレ2	木製品	Hi-106	①(10.6)②(5.8)③1.1	
9トレ3	木	破片,Hi-106	①(38.6)②(6.6)③(5.2)	三角柱状の木片。中央部に3×1.5mmの孔。
9トレ4	木製品	Hi-106	①(10.1)②(3.1)③(3.4)	
9トレ5	木製品	Hi-106	①(6.1)②(1.4)③(2.9)	
9トレ6	木	破片,Hi-106	①(52.8)②(3.5)③(2.7)	三角柱状を呈し腐食により歪曲。

## 第5節 D区の検出遺構

### 1. D区の検出面の概要

当区は南北方向の農道により東西に分けられ、西側調査区をD-1区、東側調査区をD-2区として別年度で調査を行い、遺構番号もそれぞれで付しているため、本稿でも調査区毎に記載する。

当区においても洪水や火山灰等を確認し面調査を行ったが、後世の攪拌により部分的に遺存する面もあり、これらの埋没面は枝番を付して面を数えることとした。

各確認面間にも継続的な人的行為の痕跡が認められ、検出面上層からの掘り込みと考えられる上層被覆層を含む遺構もあり、調査時に面を特定できない遺構については、検出面を優先させた。

各面の検出遺構の概要は以下の通りである。

第1面（近世以降）As-A降灰後 区画・溝・土坑

第2面-1（中・近世）As-A降灰以前 水田・溝

-2 洪水層中 水田・溝・土坑

第3面-1（中世）洪水層下層 水田・溝・土坑

第3面-2（中世）As-B混じり 道路状遺構・溝・土坑

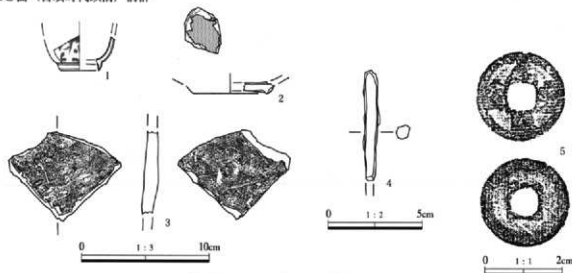
第4面（古代）As-B降灰下 水田

第5面（古墳時代）Hr-FP泥流下 水田

第6面（古墳時代）Hr-FA泥流下 水田

第7面（古墳時代）As-C降灰後 溝群

第8面（古墳時代以前）溝群



第117図 D-1区第1面遺構外出土遺物

### 2. 第1面（近世以降）の検出遺構

#### (1) D-1区 検出遺構

現在の耕作土下で明黄褐色土の広がりを確認し、As-Aを含む耕作痕や溝等を検出し第1面とした。

検出遺構には、傾斜方向に流下する2条の溝とその溝に挟まれた耕作痕を残す区画2枚、座標軸に近似する方向に掘られた溝5条と同方向の段差。更にAs-A廃棄用に掘られた溝状遺構3条を検出した。

#### 1) 区画

調査区南西端で1号・2号溝に挟まれた耕作痕の残る2区画を検出した。この区画はC区9区画からの延長であり、両側を流れる1号・2号溝は同じく、C区4号・7号溝につながる。

区画は約8m程の幅で細長く、耕作痕は全面に広がり長辺方向に耕作される。耕作痕の形態は長さ30～40cm、幅20cm弱の長方形を呈し、6～10cm程の深さで右下がりの痕跡が多く見られる。サク間は接しており、サク切り方向は交互又は2列でサク切りされ、埋没土中に含まれるAs-Aと地山小ブロックを含む。これらの状況から耕作の時期差があるとは考えられず、植え付けに伴う耕作ではなく、As-A降灰後の田起こし時の作業と考えられる。この耕作痕が明瞭なことから田起こし後の作業が中断されたか短期的な耕作の可能性が考えられる。

D-1区第1面 遺構外出土遺物観察表(第117図)

No.	器種 器形	出土位置 存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形状況、器形の特徴
1	磁器 小碗	1区画 底部片	①-②(3.0) ③(2.7)	磁物見えず。重。緑。 還元。	外面に濃い呉泥による施文あり。白磁釉少し残みかか。割れ口消耗あり。19世紀後半。肥前系。
2	灰胎陶器 底部片	Hr-99 底部片	①-②(6.0) ③(1.0)	磁物見えず。やや軽。弱 中性気味。	内外面に貫入の多い厚い淡黄緑の灰釉かかる。底外面にトチン痕あり。使用面内面にあり。割れ口消耗大。16世紀後半。瀬戸・美濃。
3	灰胎陶器 裏	Hq-96 底部片	①-②- ③-	白色磁物含。重。緑。外 面褐色酸化。割れ口還元	外面に割目と擦痕あり。割れ口消耗大。13-15世紀。常滑。
4	鉄製品 釘	1区画 掘根	長(9.6)cm, 幅(0.7)cm, 厚(7.5)cm, 重(7.4)g		茶褐色。縦方向に鋸割れがあるが古代鉄か和鉄か不明。曲がりあり使用釘。東部尖る。19世紀以前。
5	古銭	Ho-100, 完存	直径2.4cm, 孔長0.7cm, 重さ2.9g		判読不能。全面鉄錆色。銭銭か銅銭か不明「元豊?」

## 2) 溝

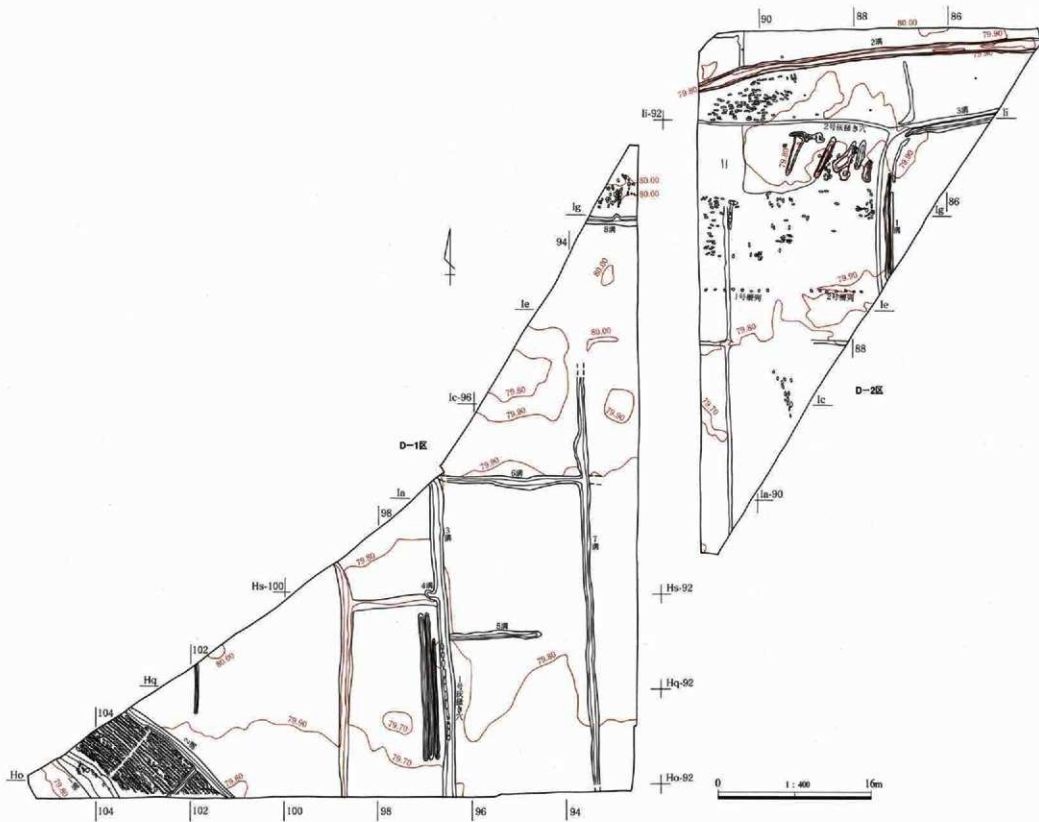
本区の溝は8条検出され、国家座標軸に沿う東西南北方向に開削されている。

1号溝(第119図、PL42・43)・2号溝(第119図、PL43)は調査区西南端の耕作痕を残す区画を扶むように検出され、地形傾斜に沿うようなN-30°~45°-Wに向く。1号溝は高低差は19cmを測り、緩やかな傾斜を持ち、断面形状は逆台形状を呈する。下流延長にC区4号溝があり、同溝はビニールが入るなど圃場整備直前まで使用されていた溝である。2号溝も1号溝に併走し、下流延長上にはC区7号溝がある。2号溝の最終埋没土中の中央部には水流堆積によるAs-A層が堆積している。断面形状は逆台形状を呈する。3号溝(第120図、PL42・43)は、南北方向に伸びる溝であり7号溝と併走する。断面逆台形状を呈し、高低差は17cm程で緩やかな傾斜を持つ。下流延長にC区6号溝があり圃場整備後も使用されていた。3号溝西端にAs-A廃棄用の灰掻き

穴が平行に掘られ、3号溝底面にもAs-Aの入る長方形の掘り込みを確認した。4号溝(第120図、PL43)は、3号溝中央部で東西1m程の長さで検出され、10cm程の段差の端にあり水口状施設とも考えられる。5号溝(第120図、PL43)は、3号溝中央部から東方向に伸びる溝であり、途中で消失する。深さは6cmと浅く断面浅い逆台形状を呈する。6号溝(第120図、PL43)は、3号溝北端と7号溝を東西方向に結び掘り込みは約10cmと浅い。7号溝(第120図、PL43)は、3号溝と併走し南北方向に直線的に伸び高低差は13cm程で緩やかな傾斜を持つ。断面形状は丸底状を呈する。8号溝(第126図、PL43)は、調査区北端を東西方向に伸び、中層にAs-Aを多量に含む層が見られ圃場整備以前に廃棄されている。掘り込みは13cm程であり、中央部がやや盛り上がる。

表31 D-1区第1面溝計測一覧

名称	位置	方位	比高 (m)	規模(長・幅・深さ・cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅		深さ
1	Ho-104-Hn-101	N-60°-W	0.19	6.4	160	64	43	C区4号溝につながる。現代まで使用。1・2号区画と隣する。
2	Hp-103-Hn-101	N-50°-W	0.10	14.6	74	39	29	C区7号溝につながる。現代まで使用。1・2号区画と隣する。
3	Ia-96-Hn-96	N-7°-W	0.17	33.4	110	30	38	C区6号溝につながる。
4	Hs-97	N-54°-W	0.16	1.0	70	32	19	3号溝の途中で検出。水口状を呈する。
5	Hr-94-Hr-98	N-90°-W	0	9.8	82	41	6	3号溝と直交し。6号溝に併走。
6	Ia-96-Ia-93	N-90°-W	0.04	14.3	98	33	10	3号溝末端と7号溝をつなぐように東西方向に伸びる。
7	Ic-93-Ho-93	N-3°-W	0.13	43.0	34	14	8	南北方向に伸びる。
8	If-93-IIf-92	N-87°-W	0.40	5.5	110	50	14	調査区北端、東西方向に伸びる。

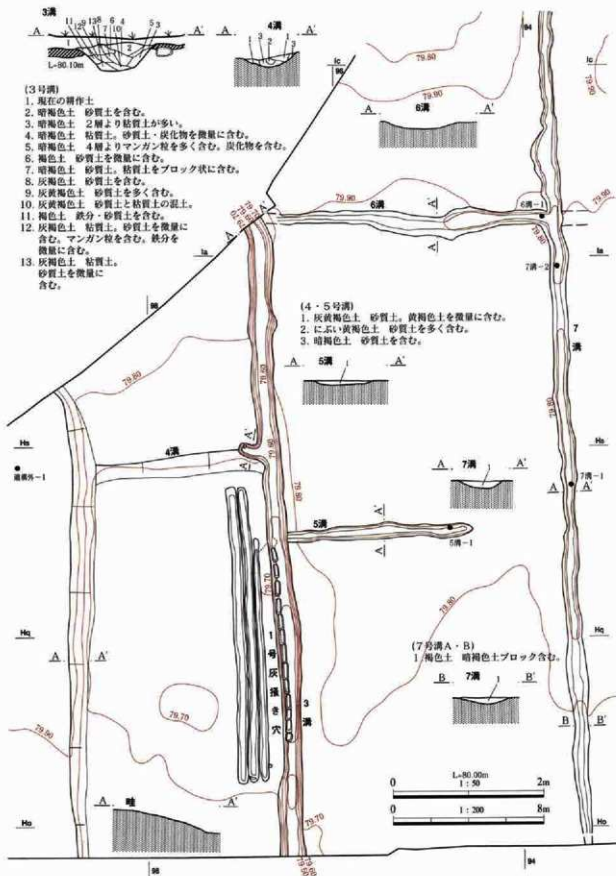


第118图 第1面全体图







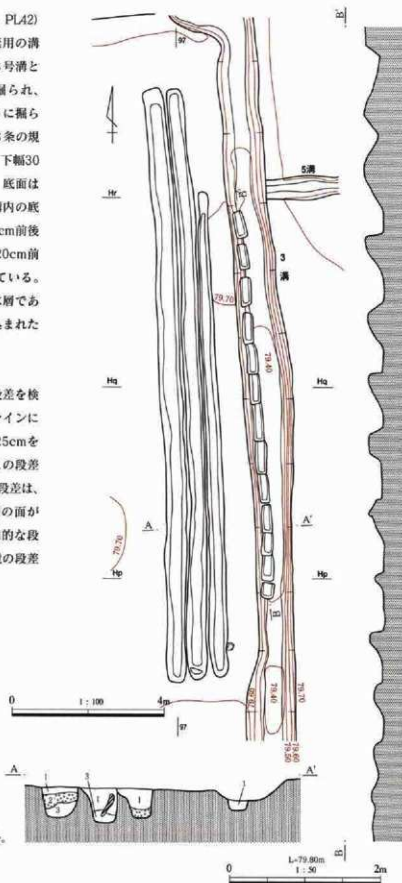


### 3) 1号灰積み穴 (第120・121図, PL42)

3号溝内と西脇にてAs-A廃棄用の溝状遺構を4条検出した。走行は3号溝と同じN-3°-Wの南北方向に廻られ、3号溝内以外の3条は接するように廻られ規模や底面形態が似ている。3条の規模は長さ15m、上幅30~50cm、下幅30~50cm、深さ40cm前後を測り、底面は平坦に仕上げられている。3号溝内の底面掘り方は、長辺40cm、短辺20cm前後の長方形ブロックを単位とし、20cm前後の間隔で連続的に掘り込まれている。両者とも埋没土上層には地山洪水層である黄褐色土があり、中層に埋め込まれたAs-Aが堆積している。

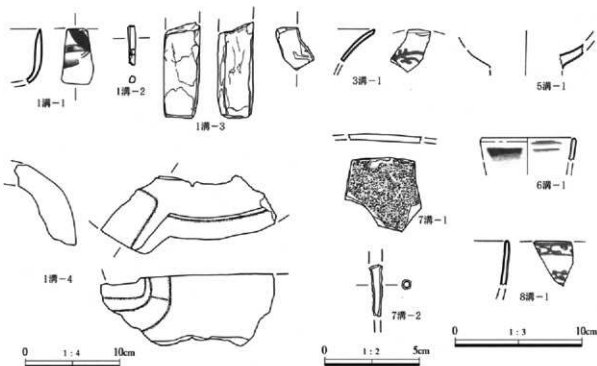
### 4) その他

調査区中央西寄りで2カ所の段差を検出した。南北方向のグリッド99ラインに沿う段差は、西側が高く高低差25cmを測る直線的な段差である。またこの段差と3号溝をつなぐ形で東西方向の段差は、グリッドHsラインに沿い、北側の面が高く高低差は10cm弱を測る直線的な段差である。これらの段差は水田境の段差と考えられる



- (1号灰積み穴)  
 1. 黄褐色土 As-A下層作土。  
 2. 灰黄褐色土 As-Aの二次堆積。  
 3. 灰黄褐色土 積作土ブロック含む。

第121図 D-1区第1面1号灰積み穴



第122図 D-1区第1面溝出土遺物

D-1区第1面 溝出土遺物観察表(第122図、PL82)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1溝1	磁器 色絵小碗	フク土 口縁部片	①-②- ③-	胎物見えず。重。締。還元。	海唇。へろ煎裏須。桃色。締輪とも下輪。図右上が裏須。玉が橙。右2条緑。絵桃色。割れ口シャープ。19・20世紀。肥前系。
1溝2	石製品 石匙	フク土	長2.2cm, 幅0.5cm, 厚0.5cm, 重(1.7)g 石材: 滑石		横断面、ほぼ円形。
1溝3	石製品 砥石	フク土 1/2	長(7.5)cm, 幅3.0cm, 厚2.5cm, 重(97.1)g 石材: 流紋岩		砥沢砥。中砥砥。片小口田時欠張。小口削り目。表・裏・側部の4面使用。図平面左側部が最も使用されているが、各々面浅い。
1溝4	石製品 鉢	フク土 破片	長(18.4)cm, 幅7.5cm, 厚2.5cm, 重650.0g 石材: 粗粒輝石安山岩		片口状注ぎ口あり。内面平滑。
3溝1	磁器 染付皿	フク土 口縁部片	①-②- ③-	胎物見えず。重。締。還元。	桜花深皿。外面染付施文あり。裏須は藍体強く上質。器内薄い。割れ口シャープ。17世紀後～18世紀前半。
5溝1	磁器、青磁? 皿、浅碗?	+1 体部下片	①-②- ③(2.0)	胎物見えず。重。締。還元。	内外面に沈んだ浅いオリブ色の青磁輪薄く施される陶胎染付片の可能性もあり。割れ口消耗大。15～18世紀因産か中国製か不明。
6溝1	陶器 小碗	+7 口縁部片	①(7.6)②- ③-	胎物見えず。重。締。中性 ～酸化気味。	内外面に薄い茶陶輪。割れ口シャープ。18・19世紀前半瀬戸・美濃。
7溝1	軟質陶器 焙烙	+5 底部片	①-②- ③-	白黄色胎物含。紅。並。内面 強。弱酸化～焼。浅黄色。	平底。外面に形狀欠のヒビ目あり。内面強で硬あるが消耗する。割れ口消耗あり。18・19世紀前半。小泉焼。
7溝2	鉄製品 釘	+1	長(2.7)cm, 幅0.7cm, 厚0.5cm, 重(1.0)g		調査時以降の欠陥あり。磁器り跡あり。釘鉄か? 14世紀以降か?
8溝1	陶器 陶胎染付碗	+3 口縁部片	①-②- ③-	胎物見えず。重。締。還元。	外面に裏須による唐草文ほか龍文あり。白磁輪は厚く組貫入あり。割れ口消耗あり。18世紀前半。肥前系。

## (2) D-2区検出遺構

D-1区同様、現在の耕作土下の明黄褐色土面に広がるAs-Aの堆積で第1面とした。本面での検出遺構は、横列2カ所と溝2条、「灰掻き穴」と呼ぶAs-A施棄用の集中心点1カ所と確認面中に散在する長方形を呈するAs-A混じりの耕作痕を確認した。また、確認面中には還元状態と考えられる青みがかった灰褐色ラインを確認し、水田畦畔の残骸と考えた。下層面でも同一地点で畦畔を検出した。

### 1) 横列 (第126図、PL44)

調査区中央でX軸に沿い直線的に並ぶ2条の横列を検出した。両横列の柱間は70~80cm間隔で配置され、埋没土はAs-A混じりの砂質土であった。

1号横列 (第126図、PL44) は、全長6.78m (7間) を測り、円形を呈する柱穴である。柱穴規模は径18cm前後、深さ8cm程であった。

2号横列 (第126図) は、全長5.5m (6間) を測り、円形を呈する柱穴である。柱穴規模は径18cm前後、深さ8cmである。

### 2) 灰掻き穴 (第125・126図、PL44)

調査区中央やや北寄りでは7基のAs-Aを埋め込む短い溝状の掘り込みを検出した。この掘り込みはD-1区で検出された溝状遺構とは異なり、長さ、深さ等の規模は小さく、断面形も逆台形ではなく浅い丸底状を呈し、溝間の間隔も広い。

### 3) 耕作痕 (第126図)

調査区北西端の2号溝南側に集中してみられるがその他は部分的にまとまり区画範囲を想定できるまとまりではなく散在するような状況である。大半の耕作痕はおおよそ長さ50cm、幅20cm程であり、東西方向に切られる物が多い。

### 4) 溝

1号溝 (第126図、PL44) 及び3号溝 (第126図、PL44) は、調査区北東寄りの水田畦畔状の還元筋と併走して検出された。1号溝は深さ約7cmと浅い掘り込みであり埋没土中にはAs-Aを少量含む。3号溝の埋没土は水田耕作土の土質であり、東から西に高低差9cmほどの緩い傾斜を持つ。両溝ともAs-A降灰直前の水田耕作土に覆われ、畦畔際掘り上げ痕の可能性も考えられる。

### 2号溝 (第126図、PL44)

調査区北端を東西方向に直線的に走る。傾斜方向は西から東に高低差15cm程の緩やかな傾斜が見られる。埋没土中にはAs-Aは極少量含まれ、断面丸底状を呈する。



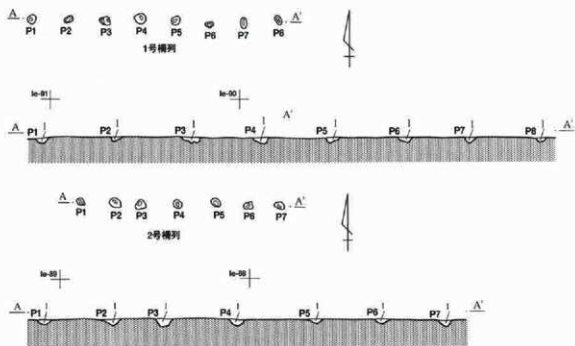
第123図 D-2区第1面3号灰掻き穴出土遺物

D-2区第1面 3号灰掻き穴出土遺物観察表(第123図)

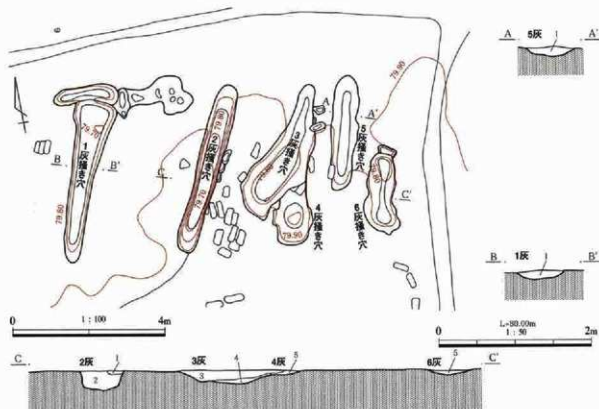
No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	磁器、白磁 小杯か壺口?	フタ土 体部片	①-②- ③-	胎物見えず。重。緑。 還元。	内外面光沢のある白磁器。器内薄汚。割れ口シャープ。19世紀。肥前系。
2	陶器 壺	フタ土 高台部片	①-②(4.4) ③(1.9)	胎物見えず。軽。緑。 中性。	器面に淡黄褐輪かかり。縦貫入あり。割れ口消耗あり。18世紀。美濃?京焼系。

表32 D-2区第1面溝計画一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m,幅・深さ:cm)			備考	
				確認 全長	上幅	下幅 深さ		
1	lg-87 → 1e-87	N-1°-E	0.05	11.0	41	15	7	南北方向に伸び、畦畔筋を併走し、3号溝方向に向く。
2	1i-90 → 1j-84	S-84°-W	0.15	36.5	90	30	14	東西方向に直線的に伸びる。下層に8号溝検出。
3	1h-86 → 1i-85	S-78°-W	0.09	9.6	72	22	23	畦畔筋を併走。1号溝へつながら?



第124図 D-2区第1面1号・2号横列



第125図 D-2区第1面灰掻き穴

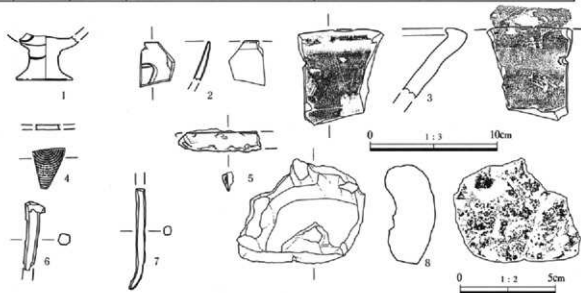




第127図 D-2区第1面2号清出土遺物

D-2区第1面 2号清出土遺物観察表(第127図、PL82)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	陶器 皿	フク土 底部片	①-②(4.8) ③(1.0)	紅物粒見え。重。締。 中性～還元。	全面淡い胎輪調の戻染を施す。高台削り出し。内面と底外面にトチン痕あり。割れ少消耗。17世紀。黒戸・美濃。
2	ガラス クリーム瓶	フク土 底部片	①-②(2.5) ③(1.3)	乳白。気泡不明瞭。	外面に型用のためか若干の凹みあり。内面滑らか。割れ口シャープ。20世紀。
3	鉄器 鉄滓	フク土	長2.3cm, 幅3.2cm, 重11.7g		旧状のまま。鉄固道。軽い。黒紫色。ガラス質多い。不定形。鍛冶関連か? 18世紀以前か?
4	鉄製品 釘	フク土	長(5.3)cm, 幅(0.7)cm, 厚(0.7)cm, 重(5.2)g		片端部調査時以降欠損。和・洋鉄不明。茶褐色錆。割れ口を見ると層状に重なり見える。時期不明。



第128図 D-2区第1面遺構外出土遺物

D-2区第1面 遺構外出土遺物観察表(第128図、PL82)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	磁器 染付仏飯器	1 g-87 脚～底部	①-②(4.5) ③(3.5)	紅物見え。重。締。 還元気味。	底を除き白磁釉。外面に山梨須による染付あり。磁粉少し灰色。割れ口消耗あり。18世紀。肥前系。
2	磁器、青磁 碗	1 j-88 口縁部片	①-②- ③-	紅物見え。重。締。 還元。	内外面に細貫入のある薄い淡オリーブ色の青磁釉かかる内面 藍文あり。割れ口消耗甚。14世紀。泉原系。
3	軟質陶器 火鉢	1 h-90 口縁部片	①-②- ③-	白・黒色紅物多。軽。軟 酸化気味。にぶい褐色。	内外面横割で。外面から内面に向け若干穴1ヶ所穿孔。外面 楕圓方形。割れ口消耗大。14・15世紀。泉内。
4	磁器 碗?	1 j-85 底部片	①-②- ③-	紅物見え。重。 締。還元。	底面外側に絞? 957の印痕。円条痕。鉄粉。内面白磁釉割れ 口少し消耗。20世紀前半。美濃?
5	鉄製品 小刀?	1 i-87	長(4.3)cm, 幅1.4cm, 厚0.6cm, 重(4.0)g		調査時以降の欠損。茶紫色。下方が刃部となり丸棒気味。胎 状にふくらみ刃部となる。全体急な円弧状に曲がる。工具? 層状錆のため和鉄。15世紀以降。
6	鉄製品 釘	1 b-90	長(3.6)cm, 幅0.8cm, 厚0.6cm, 重(3.9)g		先端部調査時以降の欠損。和鉄。縦割錆と層状断面折り曲げ 横断面方形。剥落。赤紫色であり被熱か。15世紀以降。
7	鉄製品 釘	1 i-86	長(5.3)cm, 幅0.5cm, 厚0.5cm, 重(2.3)g		断面調査時以降の欠損。層状剥落と割れのため和鉄。赤紫 のため被熱か。曲がりあり使用鉄。
8	生産関連 鉄滓	1 j-86	長(5.5)cm, 幅6.7cm, 厚2.4cm, 重124.0g		旧照。意識的か? や中厚。酸化進まず。砂底面積を占める 楕形滓。鍛冶滓。18世紀以前。



### 3. 第2面（中・近世）の検出遺構

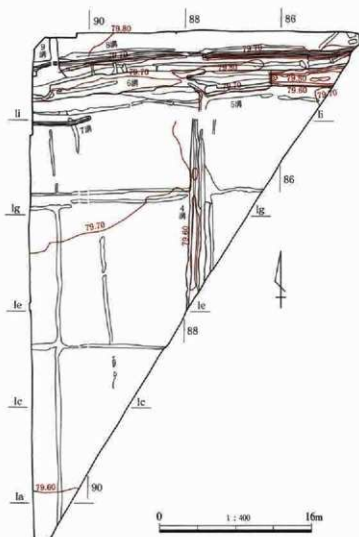
#### (1) 第2面-1の概要

本面はD-2区のみで検出された面であり、第1面から10cm前後掘り下げ、明黄褐色の酸化面として調査を行った。検出遺構は、溝6条の他にこの酸化面に褐灰色の還元気味土壌が筋状に東西南北方向に伸びるのを確認し、還元土壌に囲まれた区画を8面確認した。

#### (2) D-2区の検出遺構

##### 1) 溝

4号溝（第132図）及び5号溝（第132図）とも調査区中央でグリッド南北方向の88ラインに沿って直線的に伸び、脇には褐灰色の筋が併走する。4号溝は北端で5号溝と合流し、深さは10cm程で船底状を呈し、高低差は1cmと水平に近い。東埋没土中には上層水田耕作土状の褐灰色土の堆積が見られた。



第129図 D-2区第2面-1全体図



## (6号溝)

1. 明黄褐色土 やや砂質。上面酸化層。下方還元気味。褐色土層床土含む。
2. 明黄褐色土 やや砂質。上面酸化層。下方還元気味。
3. 褐灰色土 砂質。還元気味。味などを含む。
4. 明黄褐色土 砂質。酸化底層。中世褐灰色土面酸化底層。
5. 灰黄褐色土 砂質。As-B混じる。還元気味。
6. 褐灰色土 3層に近似。畦下の還元頂か。
7. にぶい黄褐色土 砂質〜シルト質。黄褐色シルトブロック多く。人為埋没か。
8. 褐灰色土 3層に近似。砂質でF P泥液中黄色シルトのブロック含み人為埋没か。
9. にぶい黄褐色土 砂質。しまる。道跡。
10. にぶい黄褐色土 砂質。土坑フク土。
11. にぶい黄褐色土 10層に近似。僅か還元気味。砂質。土坑フク土。
12. 褐灰色土 砂質。As-A軽石含む。
- ① 褐灰色土 砂質As-A軽石含む。

\* 1a〜2c層は、14号土坑参照。

## (D-2区基本土層)

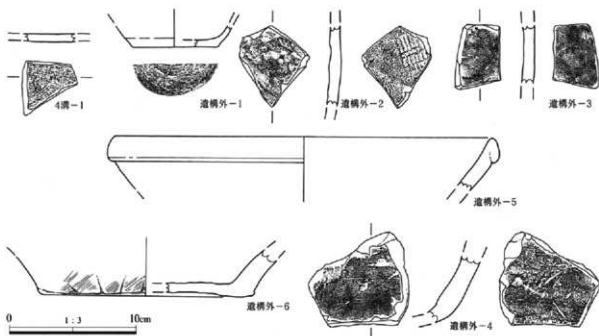
1. 褐灰色土 上面やや酸化。下方還元気味。下方少し粗質。
  2. にぶい黄褐色土 砂質。
  3. 黄褐色土 砂質。
  4. にぶい黄褐色土 砂質。僅か酸化気味。
  5. にぶい黄褐色土 砂質。僅か酸化気味。
  6. 褐灰色土 黄褐色粘性ブロック含み。人為埋没土。
  7. 褐灰色土 砂質。
  8. にぶい黄褐色土 少し砂質。
  9. 褐灰色土 As-B多く含み。粗質。6号溝埋土。
  10. にぶい黄褐色土 砂質。粗質。溝跡か。
  11. にぶい黄褐色土
  12. にぶい黄褐色土 砂質ながら。粘性味あり。
  - 12' にぶい黄褐色土砂質
  13. 褐灰色土 砂質。As-B多く含み。還元気味。
  14. 褐灰色土 As-B混土。
  15. 褐灰色土 As-B混土。
  16. 灰黄褐色土 As-B混土。
  17. 灰黄褐色土 As-B混土。
  18. 褐灰色土 As-B混土。
  19. 黄褐色土 As-B混土。
- \* 1a〜4a層は、基本土層参照。

6号溝(第130・132図、PL45)は、調査区北寄りの東西グリッドのJラインに沿い検出され、傾斜方向は東から西で19cmの高低差を持つ。本面の調査時には上幅1.44m、深さ20cm程の丸底状を呈する溝として調査を進めたが、下層面調査で更に掘り下がる状況があり、本面では埋没途中の最終段階で利用されたと考えられる。この6号溝上層の中央部で4号溝と重複する部分で本溝を横断する硬化面を確認し、更に北側立ち上がり部分で本溝に沿うように下層As-B混土層の硬化した面があり、側溝としての機能が考えられる。7号溝(第130・132図、PL45)は、6号溝の南で検出された浅い小規模な溝である。北側には畦畔痕跡と考えられる還元層が併走する。8号溝(第130図、PL45)は、6号溝と併走し間に道状遺構を挟む。調査区北西端部で9号溝と重なる。本面では埋没途中の段階の状態を調査を行い、下層面で明確な掘り方を検出した。北脇には褐灰色筋が

併走する。9号溝(第130図、PL45)は、調査区北西端部で検出し、6号・8号溝と直交する。下層面調査では6号溝内に1号水溜めとした楕円形状を呈する土坑に流れ込むような状況が見られた。本溝は掘り込みが57cmと深く、掘り方も断面V字形に近い逆台形状を呈し、高低差はほとんど無い。

表33 D-2区第2面-1溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m, 幅・深さ:cm)		備考
				掘認全長	上幅 下幅 深さ	
4	1h-87 - 1e-87	N-0°	0.01	19.0	92 22 11	1号溝と併走した畦畔下より検出。北が狭く、南が広い。西脇に褐色酸化筋あり。
5	1i-86 - 1j-87	N-72°-E	0	8.5	134 - 3	浅い小規模な溝。
7	1i-89 - 1h-91	N-85°-E	0.03	6.4	25 14 4	
8	1j-80 - 1j-84	N-85°-E	0.09	33.4	35 9 23	2号溝下層より検出。埋りかけの6号溝との間に硬化面。南北方向の溝6号・8号溝と直交。
9	1j-91 - 1j-90	N-29°-E	0.01	4.5	74 25 57	



第131図 D-2区第2面-1 溝・遺構外出土遺物

D-2区第2面-1 溝・遺構外出土遺物観察表(第131図)

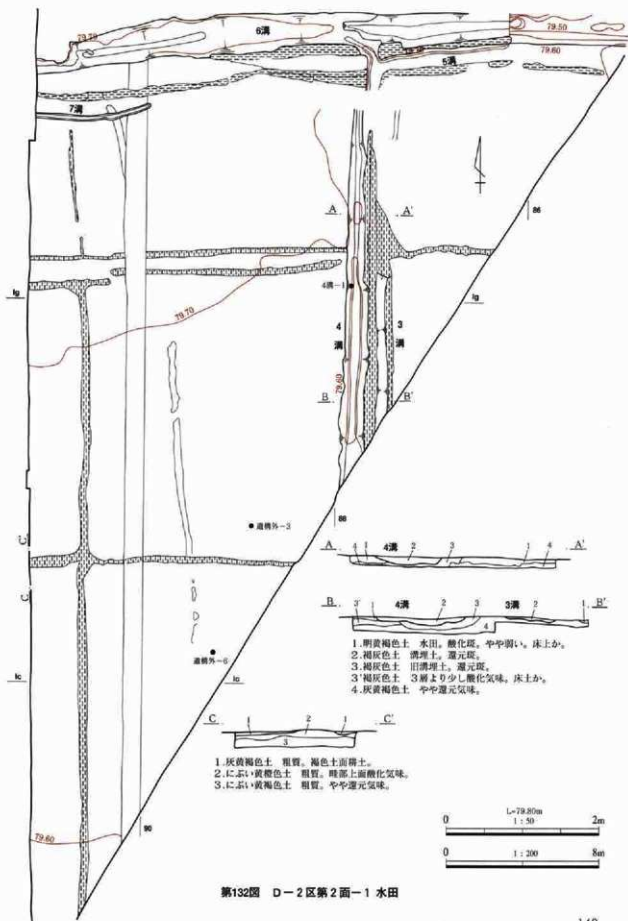
No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
4溝 1	軟質陶器 始輪	+5 底部片	①-②- ③-	白・黒色灰物含。底外横。 中性。芯焼。内面酸化気味	焼成、割れ口は5層下口状態。底面外形整あり。 割れ口僅か消耗。灰褐色。19世紀。小泉焼?
1	土質土器 皿	11-91 底部片	①-②(7.0) ③(1.6)	白・黒色灰物含。やや重 硬。酸化。にぶい褐色。	底面に縦横右回転の糸切痕あり。内外面回転横溝であり。 割れ口消耗少。14~18世紀。泉内。
2	焼締陶器 甕	11-88 体部片	①-②- ③-	白・黒色灰物含。重。締。 還元～酸化。	外面に格子印目あり。内面に擦痕あり。割れ口消耗少。 13世紀常滑。
3	焼締陶器 甕	1e-88 体部片	①-②- ③-	白・黒色灰物含。重。締。 還元気味。	外面に籠整形。内面に撫で痕あり。割れ口消耗少。 13~15世紀。常滑か瀬美。
4	軟質陶器 火鉢	11-84 体部下方片	①-②- ③-	白・黒色灰物含。やや重。 硬。酸化。横。灰色。	内外面に横かか。内外面横溝で。内面整形痕残存。割れ口 消耗大。15世紀。西毛。
5	軟質陶器 鉢	11-87 口縁部片	①(30.0)②- ③(4.2)	白・黒色灰物少。重。硬。 還元。軽硬。灰色。	内外面に深い横かか。横溝であり。割れ口消耗大。縦横上 げの単位は長い。14世紀。西国輸入。
6	焼締陶器 甕	1c-89 底部片	①-②(17.0) ③(3.8)	白・黒色灰物含。重。締還 元～酸化。にぶい褐色。	内面に自然輪。底面に石英を多く含む砂付着。体部外面に籠 削痕。割れ口消耗あり。13~15世紀。常滑。

## 2) 水田 (第132図、PL45)

調査面である明黄褐色酸化面に、幅50cm前後の還元土壌気味の褐灰色土が東西南北に走ることから、畦畔状の高まりは確認できないが区画の痕跡と考え調査を行った。区画内には砂層の堆積が一部で見られ、耕作の痕跡は確認できなかった。この褐灰色筋は上下面でトレースされ、疑似畦畔状の痕跡が継続使用された区画境の痕跡かは不明である。

表34 D-2区第2面-1 水田計測一覧

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(84.2)	(11.4)	9.6	2
2	(21.0)	(7.8)	(5.2)	1
3	135.2	15.5	8.1	1
4	209.4	14.7	14.3	2
5	(90.2)	(17.7)	(10.0)	2
6	(21.0)	(2.9)	9.7	1
7	(39.0)	(3.0)	14.0	1
8	(53.2)	(20.8)	(2.5)	-

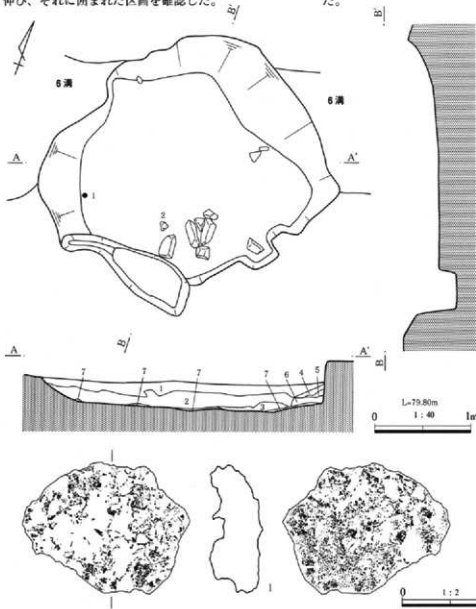


第132図 D-2区第2面-1 水田

#### 4. 第2面(中・近世)の検出遺構

##### (1) 第2面-2の概要

本面はD-2区のみで検出された面であり、第2面-1から10cm前後掘り下げ、明黄褐色の酸化面として調査を行った。検出遺構は、8号・9号溝の延長と掘り方の確認。6号溝内の土坑8基とこの酸化面に褐灰色の還元気味土壌が筋状に東西南北方向に伸び、それに囲まれた区画を確認した。



1. 明黄褐色土 砂質土。やや酸化腐混じり。水性堆積。部分的にラミナ。
2. 黄褐色土 砂質土。1層より強い酸化腐混じり。水性堆積。部分的ラミナ。
3. 褐灰色土 砂質土。還元気味。水性堆積。部分的にラミナ。
4. 明黄褐色土 砂質土。
5. 褐灰色土 A-B混じり。
6. 土にふい黄褐色土 砂質土。5層のプロット入る。
7. 黒褐色土 黒色粘性。人為的掘り付けか?

##### (2) D-2区の検出遺構

##### 1) 1号水溜 (第133・136図、PL45)

6号溝西端部にて検出した。8号溝・9号溝に接し、長辺3.23m、短辺3.0m、深さ55cmの規模を持つ。底面には黒褐色粘土を貼り込んだような痕跡が見られた。埋没土中には、水性堆積によるラミナが見られる砂質の明黄褐色土や黄褐色土が堆積していた。

第133図 D-2区第2面-2 1号水溜

D-2区第2面-2 1号水溜出土遺物観察表(第133図、PL82)

No.	器種・器形	出土位置	残存	法量(cm)①口径②底径③高さ	成・成形技法、器形の特徴
1	生産関連 鉄滓	-3	近完存	①6.9②8.8③2.1④144.1	僅か重。酸化進まず、ガラス質。が底面痕をとどめる楕形洋。鍛冶洋。18世紀以前。
2	生産関連 鉄滓	-3		①(4.9)②(3.5)③1.5④31.9	田畑。僅か重。酸化進まず、ガラス質。が底面痕をとどめる。楕形洋。鍛冶洋。18世紀以前。図平面は表面。

## 2) 土坑

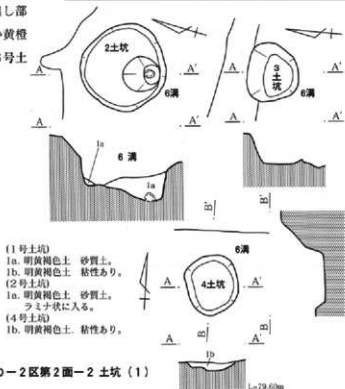
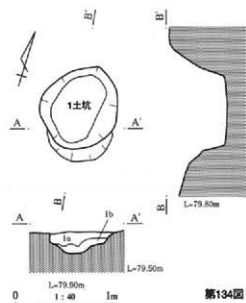
1号～8号土坑については、調査区北側の6号溝埋没途中で溝北側の法面を掘り込むような形で検出された。2号・5号・6号土坑では、細長く煙突状の張り出しが確認でき、平面形状はオタマジャクシ状に見える。

1号土坑(第134・135図、PL46)は、6号溝東寄り底面で検出した。楕円形状を呈し若干肩が削れている。埋没土は、砂質の明黄褐色土が堆積する。2号土坑(第134図、PL46)は、6号溝中央部やや北側法面で検出した。円形を呈し、法面立ち上がり部分に僅かな掘り込みが見られ、5号・6号土坑同様張り出しを持つ形態であったか。底面に磚の入った径40cm程の窪みがある。埋没土は、砂質の明黄褐色土が堆積する。3号土坑(第134図、PL46)は、6号溝中央の北側法面を掘り込み構築している。楕円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。4号土坑(第134図、PL46)は、6号溝中央の北側法面を掘り込み構築している。楕円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。埋没土は、灰黄褐色粘質土が堆積する。5号土坑(第135図、PL46)は、6号溝中央西寄り北側法面を掘り込み構築している。土坑部分は楕円形を呈し、断面逆台形状に掘り込まれ、張り出し部は階段状に立ち上がる。埋没土は砂質のにぶい黄褐色土と下層には灰黄褐色粘質土が堆積する。6号土

坑(第135図、PL46)は、6号溝西寄りの北側法面を掘り込み構築している。土坑部分は楕円形を呈し、断面逆台形に掘り込まれている。張り出し部は階段状に立ち上がる。埋没土は砂質のにぶい黄褐色土と下層には灰黄褐色粘質土が堆積する。7号土坑(第135図、PL46)は、6号溝西寄りで検出した。北側法面立ち上がり部分を掘り込み構築している。楕円形を呈し、断面逆台形に掘り込まれ、掘り込みはしっかりしている。埋没土は砂質のにぶい黄褐色土と下層には灰黄褐色粘質土の堆積が見られた。8号土坑(第135図、PL46)は、6号溝の中央の2号土坑と3号土坑の間で、6号溝底面付近を掘り込み構築している。楕円形を呈し断面逆台形状に掘り込みしっかりしている。埋没土上層はにぶい黄褐色砂質土、下層に褐灰色土が堆積する。

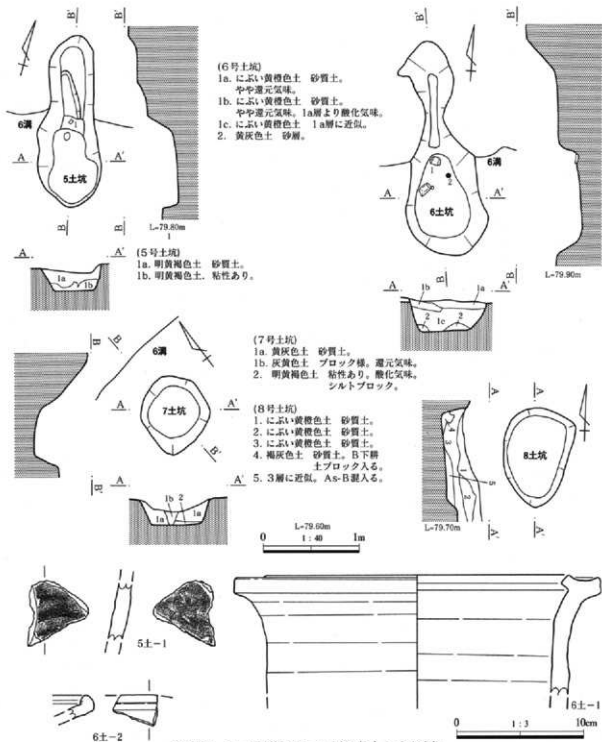
表35 D-2区第2面-2土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	方位
1	11-85	100	70	80	楕円形	N-14°-E
2	11-87	93	90	89	円形	N-82°-E
3	11-88	62	51	32	楕円形	N-82°-W
4	11-88	64	54	46	円形	N-12°-E
5	11-89	180	46	52	楕円長方形	N-12°-W
6	11-89	228	19	60	不定形	N-13°-W
7	11-90	83	74	57	円形	N-36°-E
8	11-87	105	68	44	楕円形	N-4°-E



- (1号土坑)  
1a. 明黄褐色土 砂質土。  
1b. 明黄褐色土 粘性あり。  
(2号土坑)  
1a. 明黄褐色土 砂質土。  
ライナ状に入る。  
(4号土坑)  
1b. 明黄褐色土 粘性あり。

第134図 D-2区第2面-2土坑(1)

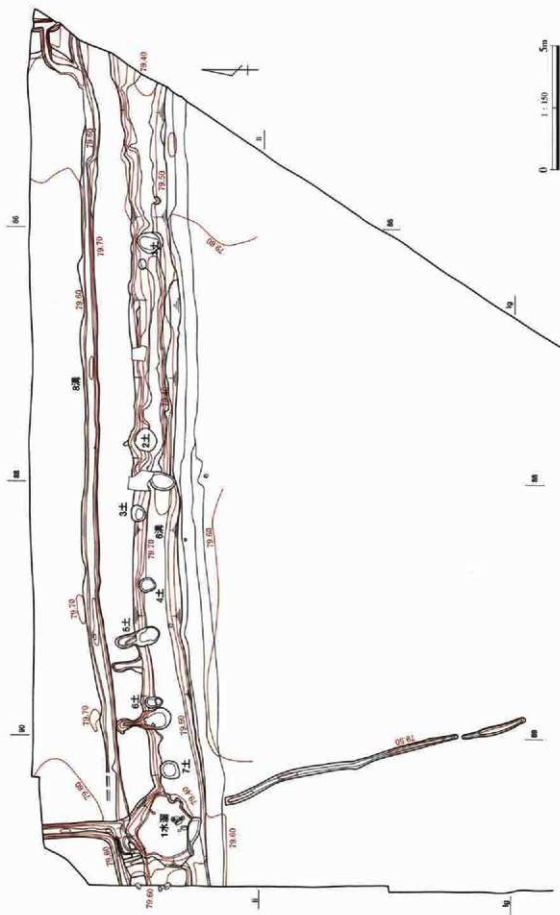


第135図 D-2区第2面-2土坑(2)・出土遺物

D-2区第2面-2 5・6号土坑出土遺物観察表(第135図、PL82)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・成形技法、器形の特徴
5土 1	須恵器 甕	+14 破片	①-②- ③-	黄砂粒含。還元。並。灰 色。	叩き板推で。
6土 1	軟質陶器 短伊予火鉢?	+7 口縁部片	①(29.0)②- ③(9.4)	白・黒色鉱物微含。並。 中性~酸化。浅黄褐色土。	内面上方に被熱酸化あり。外面下方回転痕あり。上方轆轤目 内面轆轤目。割れ口少し磨耗。18・19世紀。鼠内。
6土 2	須恵器 甕	+26 口縁部片	①-②- ③-	黄砂粒含。還元。並。灰 色。	轆轤成形。 外面折り返し。強い踏痕で。



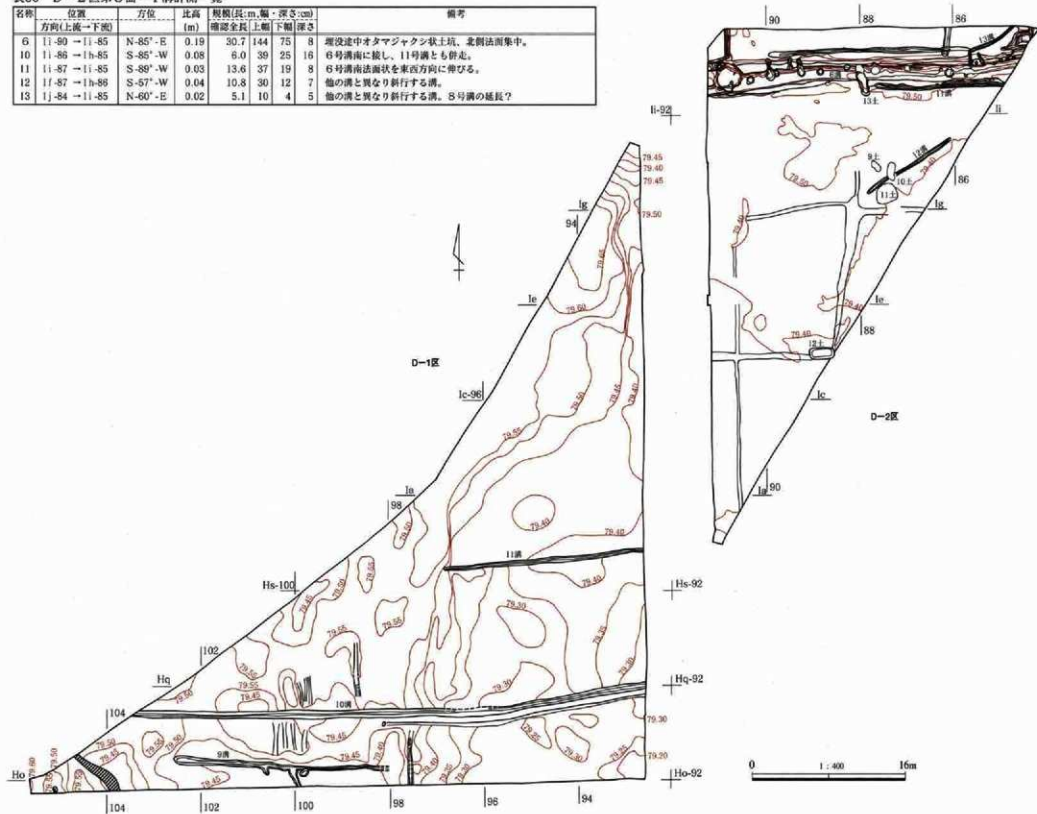


新136區 D-2 區第2面-2 景



表36 D-2区第3面-1 溝計測一覧

名称	位置	方位	比高 (m)	規模(長・幅・深)(cm)				備考
				溝道全長	上幅	下幅	深さ	
6	11-80 → 11-85	N-85°-E	0.19	50.7	144	75	8	埋設途中オタマジャクシ状土塊、北側法面集中。 6号溝南に接続し、11号溝とも併走。 6号溝南法面高さを東西方向に伸びる。 物の溝と貫わり斜行する溝。8号溝の延長?
10	11-86 → 11-85	S-85°-W	0.08	6.0	39	25	16	
11	11-87 → 11-85	S-89°-W	0.03	13.6	37	19	8	
12	11-87 → 11-86	S-57°-W	0.04	10.8	30	12	7	
13	11-84 → 11-85	N-60°-E	0.02	5.1	10	4	5	



第138図 第3面-1 全体図



## 5. 第3面（中世）の検出遺構

### (1) 第3面-1の概要

本面は、明黄褐色の洪水層中の褐灰色土面として調査を行った。検出遺構は、D-1区で畦畔状の高まりと東西方向に平行する溝3条、畝サク状の短く平行する溝群1カ所を検出した。またD-2区では土坑4基、溝4条、道路状の硬化面1カ所と畦畔状の痕跡を検出した。

### (2) D-1区の検出遺構

#### 1) 溝

調査区南半で東西の国家座標軸に沿うように開削された溝3条を検出した。

9号溝（第139図、PL47）は、深さ10cm程の断面丸底状を呈し、埋没土中には灰黄褐色のシルト質土と砂質土が混じり洪水による埋没と考えられる。

10号溝（第139図、PL47）は、調査区を横断し東から西へ12cm程の高低差を持つ。深さは28cmを測り、断面船底状を呈する。中央から東にかけ南側立ち上がり部分に下幅1m程の畦畔が併走する。埋没土は、被覆洪水層に似ているがより粘性の強いにぶい黄褐色土が堆積する。11号溝（第139図、PL47）は、上幅30cm、深さ12cm程の丸底状を呈する。

埋没土中には9号溝同様の灰黄褐色シルト質の洪水層が入る。

#### 2) 畦畔（第139図、PL47）

調査区南端部のHp-98グリッド～Hp-92グリッドにかけて10号溝と併走する東西方向の畦畔と上記畦畔と直交方向に伸びる南北畦畔をHo-97グリッドとHp・Hq-98グリッド内の2カ所で見出した。東西畦畔では上幅約90cm、下幅1.1m、高さ10cm程の規模を持ち、構築土中には下層堆積土の粘質土と砂質土及びAs-Bを含んだにぶい黄褐色土を用いている。

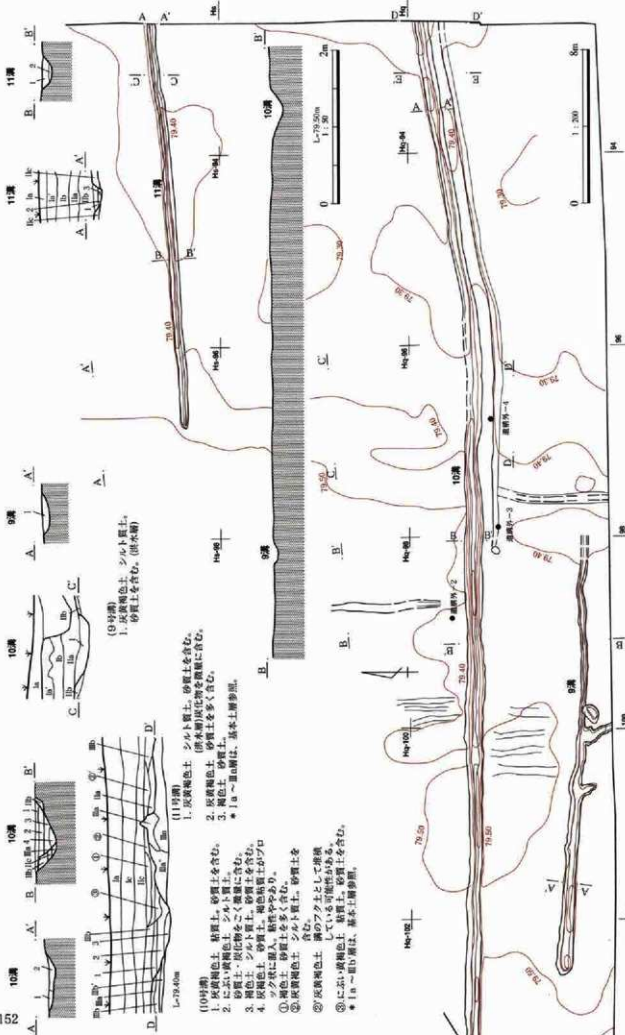
表37 D-1区第3面-1溝計画一覧

名称	位置	方位	比高 (m)	規模(長:m,幅・深さ:cm)				備考
				確認全長	上幅	下幅	深さ	
9	Ho-98 →Ho-102	S-87°-E	0.10	22.0	54	25	11	10号溝と併走する。東西方向に伸びる溝、 東西方向に伸び、壁に畦畔併走。 東西方向に伸びる。
10	Hp-103→Hp-92	S-89°-W	0.12	53.8	100	22	28	
11	Hs-96 →Hs-92	S-84°-W	0.04	21.2	38	12	12	

田面は、10号溝北側面と南側面では平均10cm程南側が低く、調査区中央部の11号溝西端部と10号溝中央を結ぶあたりは、田面の段差が上下層の影響が不明であるが傾斜変換部がある。

### 3) その他（第139図、PL47）

Ho・p-99・100グリッド内にて10号溝を挟み土質の異なる2～4m程の平行気味のラインを確認した。また、2基の小ピットを10号溝西端部と調査区南西端部に確認した。



第159図 D-1区第3面-1溝

- (10号溝)
1. 灰黄褐色土 粘質土を含む。
  2. 灰黄褐色土 シルト質土。
  3. 褐色土 シルト質土、砂質土を含む。
  4. 灰褐色土 砂質土。褐色粘質土がツロツタ状に散入。粘性や少り。
- ① 褐色土 砂質土を多く含む。  
② 灰黄褐色土 シルト質土。砂質土を含む。
- (11号溝)
1. 灰黄褐色土 シルト質土。砂質土を含む。
  2. 灰黄褐色土 粘質土を多く含む。
  3. 褐色土 砂質土。
- \* 1a ~ 1b間は、基本土層参照。
- (9号溝)
1. 灰黄褐色土 シルト質土。
- ① 褐色土 粘質土を多く含む。  
② 灰黄褐色土 粘質土を多く含む。
- \* 1a ~ 1b間は、基本土層参照。

(9号溝)

1. 灰黄褐色土 シルト質土。砂質土を含む。



9溝

10溝

10溝

10溝

11溝



11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

11溝

10溝

9溝

10溝

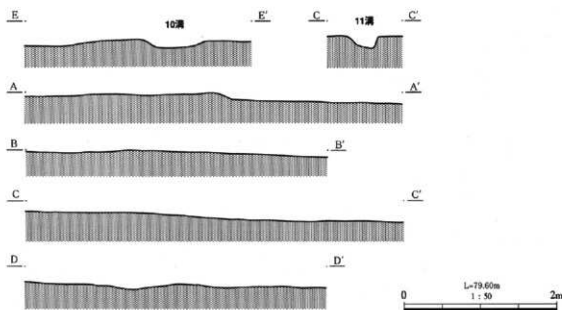
11溝

10溝

9溝

10溝

11溝



第140図 D-1区第3面-1 横断面

### (3) D-2区の検出遺構

#### 1) 溝

調査区北寄り6号溝周辺に集中して検出された。10号溝(第142図、PL47)は、6号溝南立ち上がり部分で11号溝と接し検出され、深さ約18cm程の断面船底状を呈し、西→東に僅かな傾斜を持つ。埋没土は砂質のにぶい黄褐色土が堆積する。

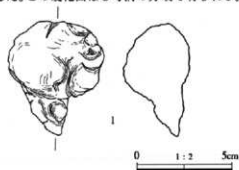
11号溝(第142図、PL47)は、上記10号溝と平行に南接し検出され、深さは約8cm程で断面丸底状を呈する。埋没土は砂質のにぶい黄褐色土が堆積する。

12号溝(第142図、PL47)は、調査区中央北東寄りで検出し、N-23°-Eの方向に傾き、10号土坑を掘り込む。深さ7cm程で断面丸底状を呈し、4cm程の高低差を持つ。埋没土は砂質のにぶい黄褐色土が堆積する。

13号溝(第142図)は、上幅10cm程の小規模な掘り込みであり、深さは約5cm程で断面船底状を呈し、北東から南西に僅かな傾斜を持つ。埋没土は砂質のにぶい黄褐色土が堆積する。

#### 2) 道路遺構(第146図、PL49・51)

調査区北寄りの東西方向に走る6号溝北側立ち上がり部分に褐灰色のAs-B混じりの硬化面を検出した。硬化面は、西壁断面で40cmの厚みを持って第2面-1より確認でき、層中には複数枚の硬化面を隔状に確認し恒常的な使用が認められる。最下層はAs-B混土の上面から始まり、6号溝開削時に盛り上げられた排土が畦道状に作られ、その後何度も盛り上げられ継続的に使われたと考えられる。調査区北東端部では直交方向である南北方向に伸びる硬化面を検出した。この硬化面は8号溝の分岐で切られる。



第141図 D-2区第3面-1 10号溝出土遺物

D-2区第3面 10号溝出土遺物観察表(第141図、PL82)

No.	器種・器形	出土位置	残存	法量(cm)①長さ②幅③厚さ④重さ(g)	成・整形技法、器形の特徴
10溝 1	生産関連 鉄洋	+9		①6.9②6.0③3.4④92.4	旧状のまま。鉄関連。重い、茶褐色に覆われる。鍛冶洋炉底面形状を伴う輪郭形か不明。18世紀以前。





### 3) その他

6号溝中央南から南西方向にかけて若干纏まる灰色から褐灰色の還元気味土壌の広がりが見られ、他の調査面は畦跡と考えられる強い酸化土と田面相当面から小さな耕作痕と黄褐色砂質土ブロック混じり土を検出した。

### 4) 土坑

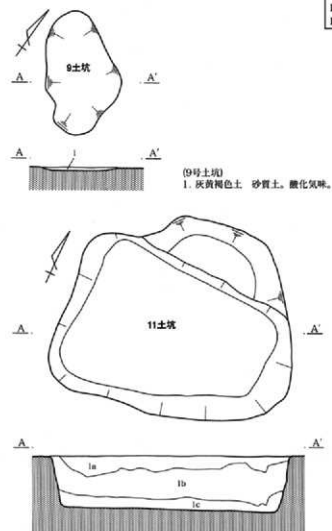
9号土坑（第143図、PL48）は、2～3cm程の浅い窪み状を呈する。埋没土は砂質の灰黄褐色土の堆積である。10号土坑（第143図、PL48）・11号土坑（第143図、PL48）・12号土坑（第144図、PL48）は、2mを越え掘り込みのしっかりした大型土坑である。埋没土中にはAs-Bや下層土のブロックを含む。

む人為的埋土である。10号土坑は、12号溝が上面に走り、深さ84cm程の断面箱形を呈する。11号土坑は10号土坑の南で近接し、深さ60cm程の断面箱形を呈し12号土坑は、調査区中央南東裂隙で検出され、深さ79cm程の断面箱形を呈する。

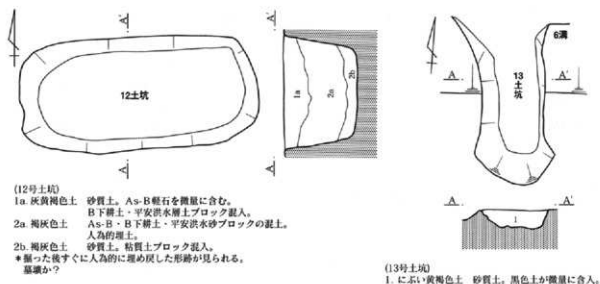
13号土坑（第144図、PL48）は、調査区北寄りの6号溝中央南立ち上がりで検出され、6号溝に切られる。南北方向に軸を持ち2m弱の南端の丸みを持つ土坑である。埋没土中には砂質のふい黄褐色土が入る。

表38 D-2区第3面土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
9	1g-87	130	65	4	楕円形	N-34°-W
10	1g-87	200	80	84	長方形	N-5°-E
11	1g-87	265	220	60	不定形	E-6°-S
12	1d-88	254	118	79	長方形	N-2°-E
13	1i-87	(180)	66	20	長方形	N-6°-W



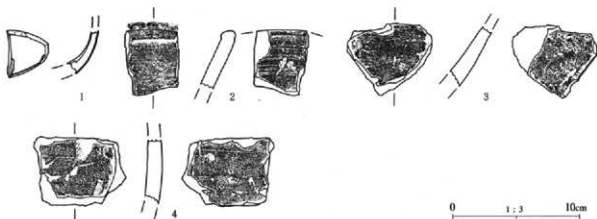
第143図 D-2区第3面-1 土坑 (1)



第144図 D-2区第3面-1土坑(2)及び出土土物

D-2区第3面 11号土坑出土土物観察表(第144図)

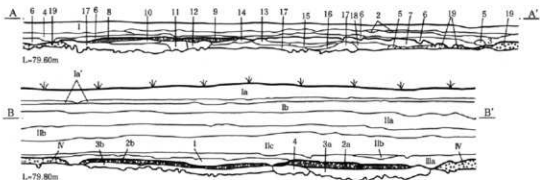
No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	土師器 かわらけ	+11 口縁部片	①(7.7)②- ③(1.7)	細砂粒含。酸化。並。橙 色。	口縁部横溝。内湾。



第145図 D-1区第3面-1遺構外出土土物

D-1区第3面 遺構外出土土物観察表(第145図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	磁器, 青磁 碗	フク土 外部下方片	①-②- ③-	磁物見えず。重。緑。	胎土淡灰色。表面に暗オリブで厚い青磁釉。外面横溝回転の磨り目。割れ口消耗あり。15・16世紀瀬戸産。
2	軟質陶器 鉢	Hp-98 口縁部片	①-②- ③-	白・黒色灰物含。軽。軟。 弱酸化～還元。灰黄色。	口縁部に使用磨耗あり。内外面横溝であり。割れ口の消耗大。15世紀。西毛。
3	軟質陶器 大鉢	Hp-97 体部片	①-②- ③-	白・黒色灰物含。軽。並。 酸化～還元。明褐色。	内面磨耗なし。内面横溝であり。外面器面荒れ整形不明瞭。割れ口消耗大。15～17世紀。西毛。
4	軟質陶器 壺か小甕?	Hp-96 体部片	①-②- ③-	白・黒色灰物含。軽。並。 中性。外面磨耗・還元。	内面に横溝横溝。外面同磨り目。割れ口消耗大。特異器種。黄灰色。15～17世紀。西毛。

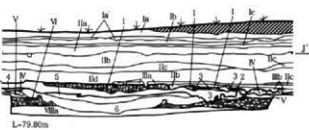
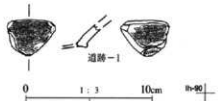


(道路遺構)SPA-A'

1. 褐色土 中埋木田耕作土。
2. 褐色土 粘質土。砂質土を多く含む。
3. 2.にふい黄褐色土。砂質土。褐色土ブロックを含む。
4. 2.にふい黄褐色土。砂質。
5. 黒褐色土。粘質土ブロック。軽石を微量に含む。
6. 褐色土。砂質土。粘質土混入。鉄分を多量に含む。  
(道路面を直接覆う層)
7. 黒褐色土。粘質土。砂質土が微量に混入。鉄分。マンガンを含み込む。(道路面より90cm)
8. 黒褐色土。砂質土。マンガン粒がラミナ状に堆積。非常に固くしめる。(道路面)
9. 褐色土。砂質土。鉄分を多量に含む。固くしめる。(道路面)
10. 黒褐色土。8層に薄く混入。鉄分を含む。
11. 黒褐色土。砂質土。粘質土混入。マンガン多量に含む。As-Bを多量に含む。
12. 暗褐色土。砂質土。粘質土の混入。As-Bがブロック状に混入。
13. 黒褐色土。砂質土。マンガン粒のラミナ。
14. 黒褐色土。砂質土。マンガン多量に含む。
15. 褐色土。砂質土。マンガン粒を微量に含む。
16. 褐色土。砂質土。マンガンがラミナ状に堆積。黄褐色土ブロック混入。
17. 黒褐色土。砂質土。マンガンのラミナ状堆積が微量に見られる。
18. 黒褐色土。粘質土。砂質土が混入。黄褐色土ブロック混入。
19. 暗褐色土。As-B層。

(道路遺構)SPB-B'

- \*Ia~IV層は、基本土層参照。
1. 暗褐色土。砂質土。
  - 2a. 褐色土。砂質土。マンガンが全体にラミナ状に堆積。非常に固く締まっている。(道路硬化面)
  - 2b. 暗褐色土。砂質土。マンガンが全体にラミナ状に堆積。非常に固く締まっている。(道路硬化面)
  - 3a. 褐色土。砂質土。部分的にマンガンがラミナ状に堆積。固く締まっている。
  - 3b. 暗褐色土。砂質土。
  4. 黒褐色土。砂質土。

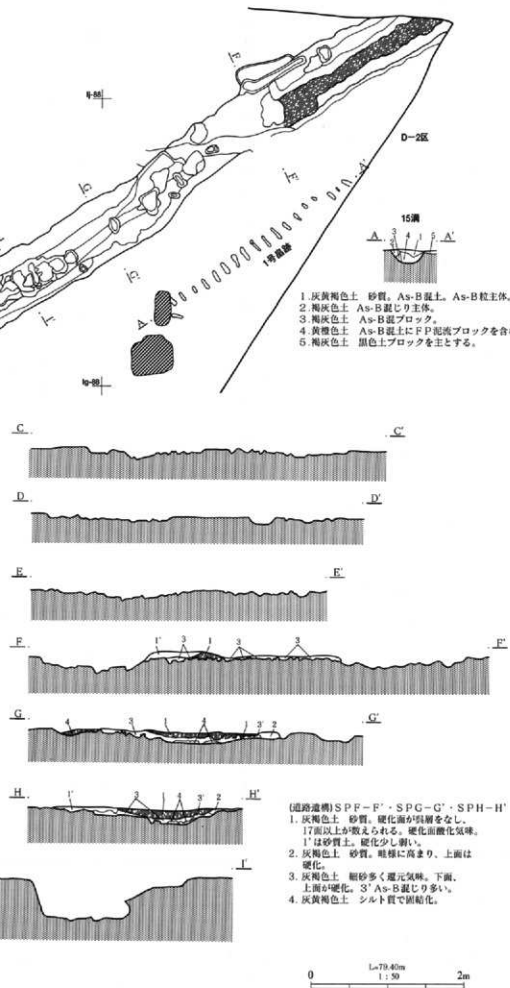


(道路遺構)SPJ-J'

- \*Ia~III層は、基本土層参照。
1. 黒褐色土。砂質土。粘質土混入。As-Bを多量に含む。(道路硬化面)
  2. 黒褐色土。砂質土。2層に似るが、粘質土ブロック多量に混入。固く締まる。(道路硬化面)
  3. 暗褐色土。砂質土。黄褐色土ブロックが微量に混入。
  4. 暗褐色土。粘質土。鉄分微量が見られる。
  5. 褐色土。砂質土。非常に固く締まる。鉄分が換率もラミナ状に見られる。
  6. 褐色土。川砂と平安洪水層粘質土の混入。

(12号溝)

1. 暗褐色土。砂質土。
2. 黒褐色土。砂質土。粘質土ブロック混入。
3. 黒褐色土。2層に似るが、粘質土ブロック多量に混入。
4. 暗褐色土。砂質土。道路硬化面。
5. 灰黄褐色土。砂質土。
6. 暗褐色土。砂質土。しりり締めて強い。
7. 褐色土。砂質土。



1. 灰黄褐色土。砂質。As-B混土。As-B粒主体。
2. 褐色土。As-B混じり主体。
3. 褐色土。As-B混ブロック。
4. 黄褐色土。As-B混土にF.P.泥状ブロックを含む。
5. 褐色土。黒色土ブロックを主とする。

(道路遺構)SPF-F'・SPG-G'・SPH-H'

1. 灰褐色土。砂質。硬化面が厚層をなし。17面以上が取えられ。硬化面酸化気味。17は砂質土。酸化少し強い。
2. 灰褐色土。砂質。暗層に高まり。上面は硬化。
3. 灰褐色土。粗砂多く還元気味。下面。上面は硬化。3'As-B混じり多い。
4. 灰黄褐色土。シルト質で固硬化。

第146図 第3面-2 道路遺構







## 6. 第3面-2 (中・近世) の検出遺構

### (1) 第3面-2の概要

20cm前後の上層褐色土を除去し、洪水層下にはAs-Bが攪拌され均質な砂質土壌化した黒褐色土層がある。洪水層からAs-Bまでの間は継続的に耕作が行われたと考えられ、漸層的土層の変化が見られる。

本面から検出された遺構にD-1区とD-2区にまたがる道路遺構があり、その他にD-1区では溝1条、土坑2基、D-2区では溝1条、土坑3基を検出した。

### (2) 検出遺構

#### 1) 道路遺構 (第146図、PL49・51)

D-1区北寄りからD-2区中央を通り北東端にかけてN-50°-Eの角度で斜行する。確認全長約70m、上幅約6~7mの規模を持つ。

D-1区の掘り方では、As-B混じりの褐色土砂質土からAs-Bまで全体を数cmの浅い溝状に掘り込み、更に両側に上幅1~1.4m、深さ5~7cmの側溝を設け、再度埋め戻しながら踏み締め貼り床の硬化面を仕上げたようである。その後も補修等が行われながら規模が大きくなったものか、硬化面は大きく上下2層に分けられ、部分的に路面が2条に分かれる場所もある。

D-2区では掘り方は深さ20cmほどの溝状に掘り込んだようであり、底面には土坑状の落ち込みが連続して見られる。断面観察ではD-1区同様埋め戻しながら硬化面を作っている。

上層水田耕作土と考えられる灰褐色土の堆積が20cmほどあり、最下層は水田耕作によりフラットに整えられたようである。その下層のAs-B混じりの褐色土砂質土を除去中に確認した。本遺構周辺はAs-B混土を数cm掘り下げるとAs-B層に被覆された水田面が広がる。この水田面の畦畔走行は国家産標軸に近似する東西南北方向に設けられ、検出された道路遺構は畦畔区画を無視して斜行する。

### 2) 溝

#### D-1区

##### 12号溝 (第146図、PL47)

調査区中央北寄りの道路遺構を掘り込む形で検出した。溝の南西端部は直角に屈曲する。埋没土は、As-B混じりの砂質土であり、下層土ブロックが含まれ人為的埋土である。

#### D-2区

14号溝 (第142図、PL45) は、9号溝下層にて検出した。15号溝 (第146図、PL50) は、道路遺構と併走するような位置で検出した。傾斜方向は西から東に12cm程の傾きを持ち、深さ20cmを測り、埋没土はAs-B混土を主体としている。

D-2区第3面-2 遺跡出土遺物観察表(第146図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	土師器	+B 破片	①-②- ③-	細砂粒含。酸化。並。 にふい。橙色。	全体に消耗。

表39 第3面-2溝計測一覧表

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m, 幅・深さ:cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅		
12	1d-93・1b-94	N-36°-E	0	10.8	40	18	17	D-1区。道路状遺構硬化面を切る。
14								D-2区9号溝掘り方。
15	1f-91→1g-86	S-55°-W	0.12	10.0	43	21	17	D-2区。道路状遺構の南で併走する。

### 3) 土坑

#### D-1区

1号土坑(第148図、PL47)は、深さ19cm程の円形を呈し、埋没土はAs-B混じりの砂質土と下層土ブロックが含まれ、人為的埋土である。2号土坑(第148図、PL47)は、深さ10cm程の長方形を呈する。埋没土は1号土坑同様であり、人為的埋土である。

#### D-2区

土坑の大半は調査区北で検出され、埋没土中にはAs-B混じりの砂質土と下層土ブロックが入り混じり、人為的に埋め戻された状況であった。

14号土坑(第148図、PL48)・15号土坑(第148図、PL49)・16号土坑(第148図、PL49)は、6号溝下層で検出され、埋没土は下層土ブロックが入り混じる人為的埋土である。14号土坑は、13号土坑と直交方向に重なる長方形を呈し、深さ40cm程の規模を持つ。15号土坑は円形を呈し、深さ10cm程の規模を持つ。16号土坑は、東西方向に向く隅丸長方形を呈し、深さ78cmと掘り込みの深い土坑である。17号土坑(第150図、PL49)は、東壁で方形の角部分のみ検出した。深さ50cmと掘り込みは深く、埋没土は他の土坑同様人為的埋土である。

18号土坑(第150図)は、深さ12cm程の円形を呈する。埋没土は他の土坑同様人為的埋土である。

19号土坑(第150図、PL50)・20号土坑(第150図、PL50)は、不定型の土坑であり、埋没土は他の土坑同様人為的埋土である。21号土坑(第150図、PL50)は、15号溝東端で検出された円形土坑である。掘り込みは浅く、埋没土はAs-B混じりの砂質土である。22号土坑(第150図、PL50)は、道路遺構内より検出した。上面は道路面の硬化面が見られ、埋没土は他の土坑同様人為的埋土である。

土坑列(第146図、PL48)

調査区北東隅の道路遺構上面で検出され、形状及び間隔は規則性はなく50~60cmほどの楕円形状を呈する土坑状の遺構である。掘り込みは10cm前後と浅く、埋没土中にはふい黄褐色土の砂質またはシルト質土の堆積が見られる。

表40 D-1区第3面-2土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	方位
1	Ht-93	73	61	19	円形	N-83°-W
2	Hq-97	243	103	20	長方形	N-2°-W

表41 D-2区第3面-2土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	方位
14	11-87	187	73	40	長方形	N-88°-W
15	11-89	106	100	10	円形	N-33°-W
16	11-90	237	65	81	隅丸長方形	N-80°-E
17	1c-88 (138)	(77)	50		不定形	N-30°-E
18	1j-86	46	45	15	円形	N-30°-E
19	1h-87	113	41	10	不定形	N-32°-W
20	1f-88	156	21	5	不定形	N-49°-E
21	1g-89	78	67	11	円形	N-80°-E
22	1i-87	69	39	31	不定形	N-74°-E

### 4) 畝状遺構

#### 1号畝状遺構(第146図)

調査区東壁寄り1g-87グリッドから1i-85グリッドにかけて検出された。長さ1m前後、幅12cm前後、深さ2cm程の規模を持ち、短い溝状の掘り込みがN-55°-E方向に40~50cmの間隔で連続している。本遺構上面には10号溝がトレースされる位置にあり、また本遺構臨から北西方向にかけて僅かに段差を持ち地形変換部に位置する。本遺構の形態として、道路下に残る波板状凹凸に似ており道路遺構とも併走することから、道路遺構の可能性も考えられる。

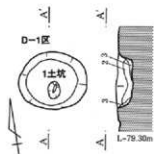
#### 2号畝状遺構

調査区中央道路遺構上面の西端で検出された平行気味の4条ほどの短い筋状の痕跡である。掘り込みはなく色調の違いで検出した。

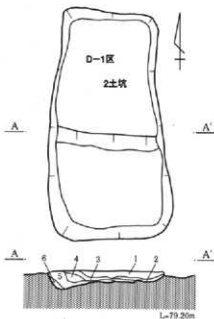
### 5) 水田(第147図、PL51)

調査区中央から南にかけてAs-B混じり砂質土面の色調が硬化面と還元状態の筋に色分けできた。畦畔状の高まりはない。上下面の畦畔とトレースされる筋もあるが、その後の耕作により畦畔が消失した可能性が考えられる。

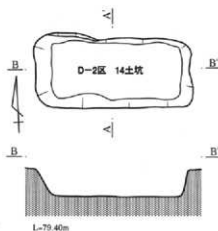




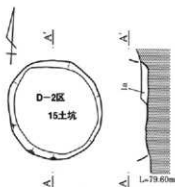
1. 暗褐色土 砂質土を含む。
2. 暗褐色土 黒褐色土ブロック混入。
3. 黒褐色土 粘質土。砂利がブロック状に混入。



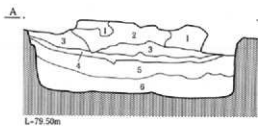
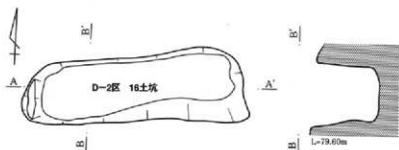
1. にふい黄褐色土 粘質土と砂質土の混入。軽石を含む。黒褐色土ブロックが全体に混入。
  2. にふい黄褐色土 色調明るめ。粘質土。軽石を含む。
  3. 灰黄褐色土 砂質土・黒褐色土・黄褐色土ブロック混入。軽石を微量に含む。
  4. 暗褐色土 砂質土。黒褐色土ブロック混入。軽石を含む。
  5. 褐色土 砂質土。軽石を全体に含む。黒色土粒混入。
  6. 暗褐色土 砂質土。鉄分・軽石を微量に含む。
- \* 1・2号とも、As-B軽石降下以降の遺構であると思われる。



- 1a. 灰黄褐色土 As-B混土。
- 1b. 灰黄褐色土 As-B混土。
- 2a. 褐灰色土 B下階土・HP配道ブロック混入。
- 2b. 褐灰色土 各種ブロック多い。
- 2c. 褐灰色土 各種ブロック多い。



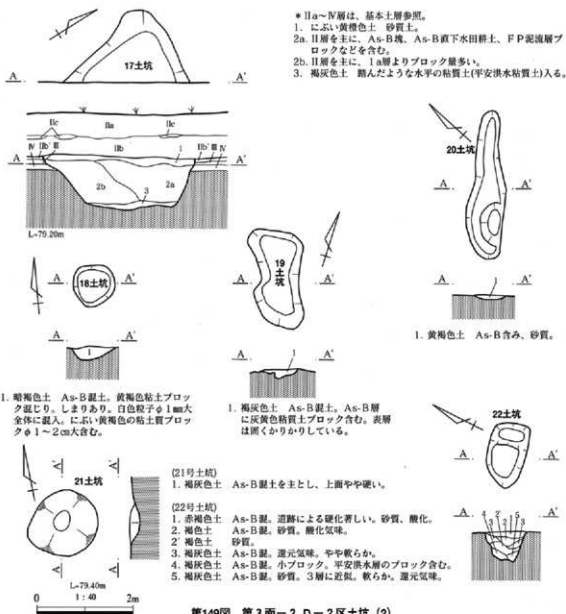
- 1a. 褐灰色土 As-B混り、砂質、粗質。



1. 灰黄褐色土 As-B混土。黒色粘土ブロック含む。
2. 褐灰色土 As-B混土。黒色粘土ブロック多い。
3. 褐灰色土 As-B混土。
4. 灰白色土 シルト水性地層様。還元気味。
5. 褐灰色土 FP配道ブロック多く含む。
6. 褐灰色土 5層に似る。粗質。



第148図 第3面-2 D-1区・D-2区土坑(1)



第149図 第3面-2 D-2区土坑 (2)



第150図 第3面-2 遺構外出土遺物

D-2区第3面-2 遺構外出土遺物観察表(第150図、PL82)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	陶器 鉢	Ij-88 口縁部片	①-②- ③-	白色底物少含。やや軽。 硬。還元。灰白色。	外面に自然輪かかる。口縁部少し磨耗。内外面横襷で。割れ口消耗少。13～15世紀。東海。
2	軟質陶器 鉢	Ie-90 口縁部片	①-②- ③-	白・黒色底物含。軽。 軟。還元。硬。黄灰色。	内外面横襷で。内面下方少し磨耗。割れ口消耗大。14・15世紀。畿内。





## 7. 第4面（古代）の検出遺構

### (1) 第4面の概要

As-Bにより埋没した面である。本区のAs-B層の堆積は上部のアッシュである灰層は無くなっているが10cm前後の軽石層が残し、水田の遺存状態は良好であった。検出遺構は調査区全体に整然と東西南北方向に畦畔配置された水田遺構が36面検出された。

### (2) 検出遺構

#### 1) 水田（第151～159図、PL52）

As-B層は灰層から軽石層にかけて大半が踏み込まれており、畦畔以外の面でも1cmにも満たない場所もあった。また軽石層直下の検出面には青色気味のアッシュが薄い被膜のように覆う。

畦畔配置は条里地割りを意識し、東西南北方向に設けられているが、D-1区では横長長方形の9号水田（85.6㎡）や縦長長方形の19号水田（80.0㎡）、方形の22号水田（94.0㎡）等の様々な水田形状が入り組んで作られているため、畦畔はあみだくじ状に配置される。D-2区では横長長方形に形状が統一され水田面積も大きく31号水田（245.4㎡）や32号水田（245.2㎡）では2倍以上の面積を測る。

こうした水田を画する畦畔の中でD-2区北寄りで見出された国家座標値X=36.345ラインに近接する東西畦畔は、上幅70cm、下幅1.1mと他の畦畔に比べ規模が大きく大畦畔と考えられる。また上記のようにD-1区とD-2区では水田区画が異なることから、現道下に変換ラインがある可能性が考えられる。

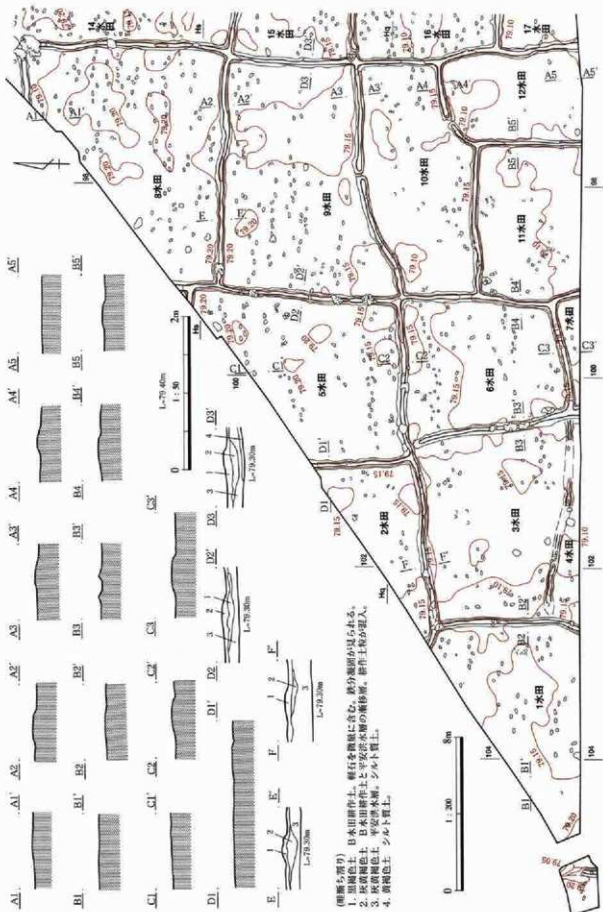
給水方法については、調査区内には給水目的の水路は検出されず、各水田に水口を設け水田から水田への懸け流し灌漑を行っていたと考えられる。

水田面は基本的には平坦面であるが、田面中には足跡や耕作痕のような痕跡が多数見られた。その中で足跡は東西方向に移動したような痕跡が多く見られる。またD-2区北寄りにおいて、水田面に踏み荒らされたような凹凸が見られた。

水田耕作土の層厚は4～10cm前後であり、夾雑物の少ない均質な強粘性の黒色土であり、直下の洪水堆積層と考えられる緑かった灰白色粘土を踏み込み耕土化している。

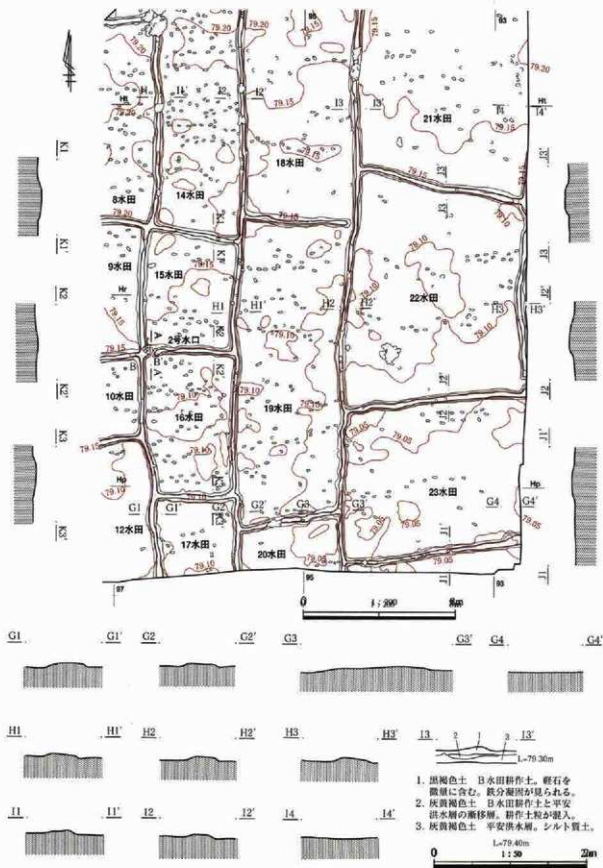
表42 第4面水田計画一覧

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(53.6)	(11.4)	(7.7)	-
2	(24.6)	(9.3)	(4.8)	-
3	66.0	10.4	8.0	2
4	(6.5)	(10.6)	(1.3)	1
5	(64.0)	10.6	8.0	-
6	50.8	8.5	5.3	1
7	(3.8)	5.5	(1.1)	-
8	(82.8)	12.0	10.1	-
9	85.6	12.0	6.4	1
10	54.0	12.0	3.5	2
11	(41.0)	(5.4)	8.0	-
12	(30.6)	(7.7)	4.4	1
13	(3.2)	(1.8)	(3.0)	-
14	56.2	14.9	4.0	-
15	25.2	6.1	4.3	1
16	30.0	7.1	3.7	1
17	(14.4)	(3.9)	3.5	-
18	75.2	13.6	5.4	1
19	80.0	15.8	4.8	1
20	(11.8)	(2.7)	4.9	-
21	(102.4)	12.0	8.5	1
22	94.0	12.1	13.4	1
23	(69.6)	(9.2)	6.9	-
24	(6.6)	(9.1)	(0.4)	-
25	(82.4)	(18.9)	4.0	1
26	(182.8)	(15.2)	16.9	-
27	(22.8)	(5.5)	5.1	-
28	4.0	(2.8)	(1.6)	-
29	(58.4)	(8.2)	12.2	-
30	(138.8)	(15.5)	11.5	-
31	(245.4)	(22.2)	11.7	-
32	(245.2)	(21.8)	8.4	-
33	(100.8)	(22.5)	(4.5)	-
34	(1.2)	(1.2)	(1.3)	-
35	(64.4)	(10.4)	11.0	-
36	(47.2)	(11.4)	(3.7)	-



(断面番号) 日本田新作土。礫石を薄層に含む。部分基岩が見られる。  
 1. 黒褐色土。日本田新作土と平定所水田の新砂層。耕作土が混入。  
 2. 灰褐色土。平定所水田。シルト質土。  
 3. 灰褐色土。シルト質土。  
 4. 黄褐色土。シルト質土。

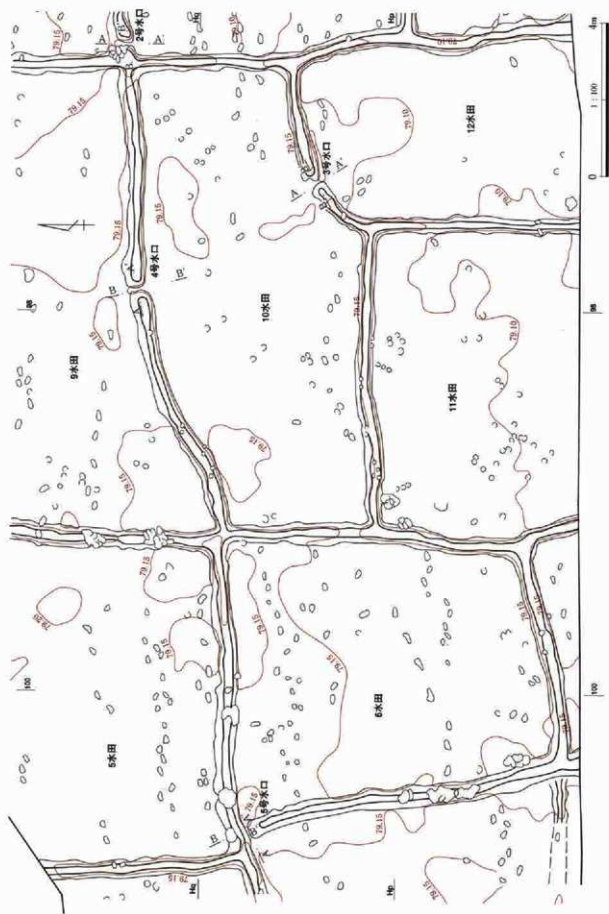
第162図 D-1-1区第4面水田(1)



第153図 D-1区第4面水田(2)

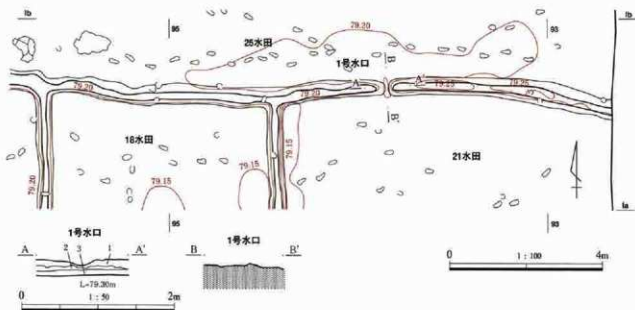






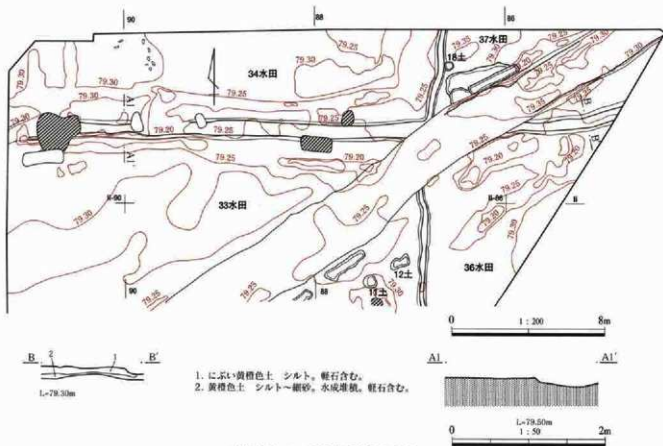
第155图 D-1区第4面水田水口(1)





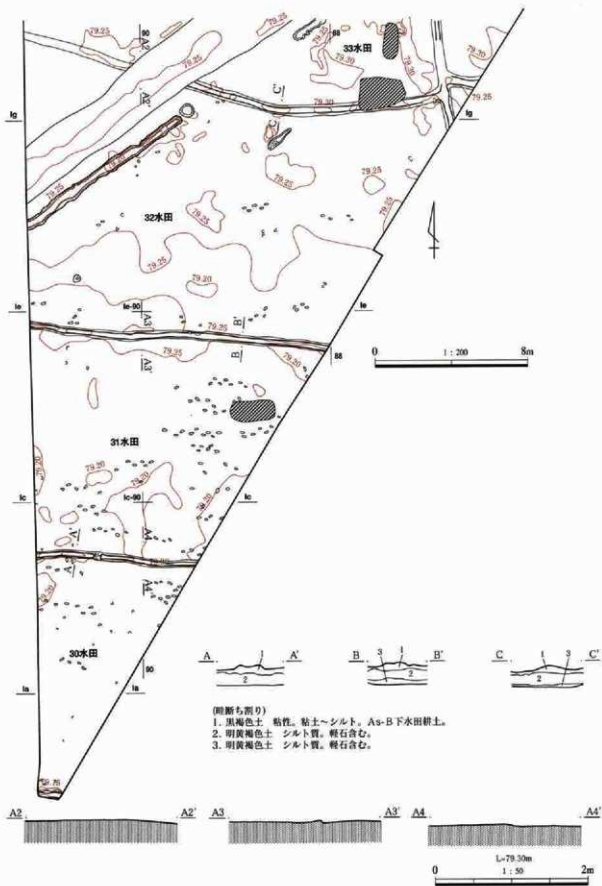
1. 黒褐色土 日本田礪作土。軽石を微量に含む。鉄分凝固が見られる。
2. 灰黄褐色土 日本田礪作土と平安洪水層の漸位移動。耕作土層が混入。
3. 灰黄褐色土 平安洪水層。シルト質土。

第157図 D-1区第4面水田水口(3)

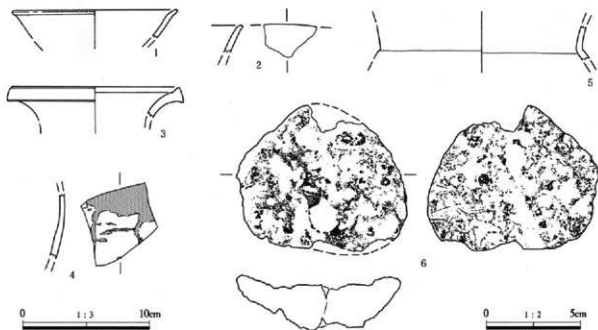


1. にぶい黄褐色土 シルト。軽石含む。
2. 黄褐色土 シルト～細砂。水成堆積。軽石含む。

第158図 D-2区第4面水田(1)



第159図 D-2区第4面水田(2)



第160図 D-2区第4面遺構外出土遺物

D-2区第4面 遺構外出土遺物観察表(第160図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	須恵器 椀	1h-87 口縁部片	①(13.0)②- ③(2.7)	細砂粒混。中性焼。並。 灰色(外)、暗灰色(内)	縦轆整形。
2	須恵器 杯	1a-90 口縁部片	①-②- ③-	細砂粒混。中性焼。並。 灰白色(外)、黒色(内)。	縦轆整形。
3	須恵器 壺	1g-88 頸部片	①(13.4)②- ③(2.7)	細砂粒含。還元焼。瓦。 灰白色。	縦轆整形。口唇端つまみ出し。
4	灰輪陶器 瓶	1f-90 体部片	①-②- ③-	黒物見えず。重。締。 還元。灰白色。	外面上方に灰輪かかる。内面横溝で。外面下方回転削り後 回転削りであり。割れ口シャープ。10世紀。東海。
5	土師器 要	1e-88 頸部片	①-②- ③(3.0)	細砂粒含。酸化。並。 にぶい橙色。	頸部口の字強い割で。
6	生産関連 鉄滓	1a-90	長7.6cm, 幅9.0cm, 厚2.9cm, 重209.4g		調査時以降の小穴眼。2片接合。やや重。酸化進まず。伊底 面積をとどめる椀形滓。鍛冶滓。18世紀以前。

8. 第5面(古墳時代)の検出遺構

(1) 第5面の概要

As-B下水田耕作土下には発掘調査時に平安洪水層と呼んでいた緑がかかった灰黄褐色粘土層の堆積を確認した。層厚は厚いところで20cm、薄いところで10cm前後の堆積が見られた。その下層は水平に平夷されたような状況が見られ、直下からブロック状の明黄褐色のHr-FP泥流層を部分的に調査区内で確認した。

このHr-FP泥流層下の精査を行ったところ、D-2区において極小区画水田の痕跡と16号溝上層土の入ったピットを確認した。

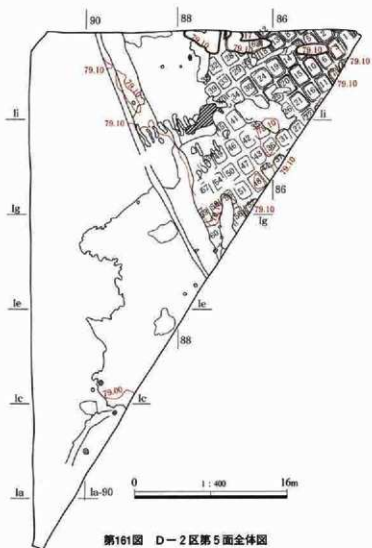
(2) 検出遺構

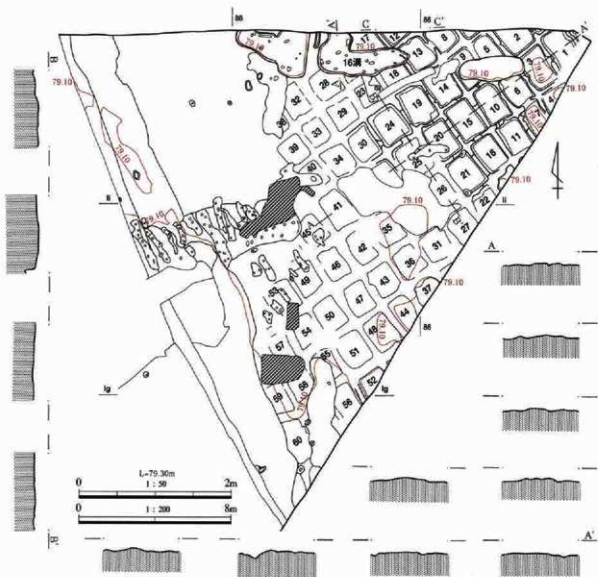
1) 水田(第162図、PL53)

調査区北東寄りのおよそ210m<sup>2</sup>の範囲で60面相当の極小区画水田の痕跡を確認した。畦畔の高まりは北東端寄りが上端16~30cm、下端30~50cm、高さ4~6cmの規模を持ち明瞭であったが、南西寄りは平夷され下層の痕跡のみの確認であった。水田は傾斜方向の北西から南東方向のN-35°-Wに軸を持ち、基盤の目状に配置されている。水田面積は2.0m<sup>2</sup>の広さが平均的である。大畦畔は調査区中央付近をN-30°-W方向に縦断する痕跡を確認した。この大畦畔の痕跡は下層面のHr-FA面でもトレースされる。

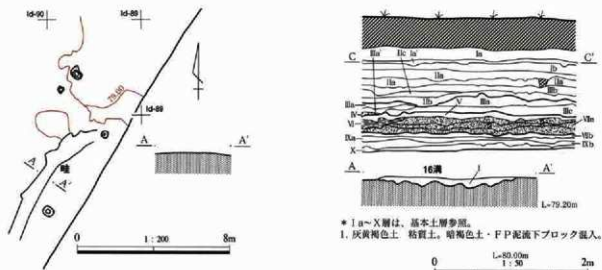
表43 D-2区第5面水田計測一覧

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口										
1	(1.7)	(1.7)	(0.9)	-	21	2.4	1.8	1.3	-	41	2.7	2.0	1.2	-
2	(1.7)	(1.7)	1.4	-	22	(1.0)	0.9	1.2	-	42	1.9	1.8	1.1	-
3	(2.4)	1.8	1.1	-	23	(1.8)	1.3	1.2	-	43	2.0	1.7	1.3	-
4	(0.8)	(0.8)	(1.4)	-	24	2.1	1.6	1.3	-	44	1.7	1.9	1.0	-
5	(1.1)	(1.5)	1.0	-	25	(2.5)	2.0	1.4	-	45	2.0	1.6	1.2	-
6	(1.7)	1.6	0.9	-	26	(1.7)	1.7	(0.9)	-	46	2.0	1.6	1.1	-
7	(1.3)	(1.3)	0.8	-	27	(1.9)	(1.5)	1.4	-	47	2.1	1.7	1.3	-
8	(1.3)	1.4	1.1	-	28	(2.1)	1.6	1.4	-	48	2.5	1.9	1.4	-
9	(2.2)	1.9	1.2	-	29	1.9	1.4	1.3	-	49	2.0	1.5	1.2	-
10	1.9	1.9	1.0	-	30	1.9	1.6	1.2	-	50	2.4	1.7	1.3	-
11	1.8	1.6	1.1	-	31	(2.2)	2.0	1.4	-	51	2.6	1.8	1.4	-
12	(0.5)	0.8	1.0	-	32	(2.1)	1.7	1.2	-	52	(1.1)	(1.0)	1.4	-
13	1.7	1.6	1.1	-	33	1.6	1.4	1.1	-	53	(2.3)	1.7	1.3	-
14	2.4	1.8	1.2	-	34	2.0	1.6	1.2	-	54	(1.8)	1.6	1.2	-
15	2.3	1.9	1.2	-	35	2.4	1.8	1.4	-	55	(1.9)	1.7	1.2	-
16	2.0	1.7	1.1	-	36	2.0	1.5	1.3	-	56	(2.2)	(1.9)	1.1	-
17	(1.5)	(1.1)	(1.6)	-	37	(1.0)	(1.0)	1.2	-	57	(1.7)	(1.4)	1.1	-
18	1.1	(0.9)	1.3	-	38	(0.3)	(0.7)	(0.4)	-	58	(2.0)	(1.3)	1.3	-
19	2.1	2.1	1.3	-	39	1.8	1.4	1.4	-	59	(1.7)	1.7	(0.9)	-
20	(2.1)	1.8	1.1	-	40	(1.7)	1.4	1.1	-	60	(0.5)	(1.0)	(0.6)	-





第162図 D-2区第5面水田



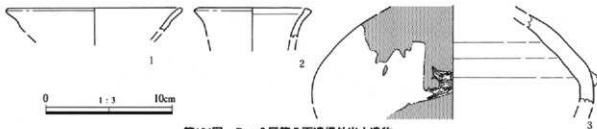
\* Ia~X層は、基本土層参照。  
I, 灰黄褐色土・粘質土, 暗褐色土・FP配流下ブロック混入。

第163図 D-2区第5面畦・溝断面

## 2) 溝

### 16号溝 (第162図)

調査区北端中央部で1j-86グリッド内で検出した。深さ10cm程であり底面は凹凸が激しい。埋没土中には上層の平安洪水層と呼ばれる灰黄褐色粘質土が堆積し、Hr-FP泥流上層での掘り込みである。



第164図 D-2区第5面遺構外出土遺物

### D-2区第5面 遺構外出土遺物観察表(第164図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②縦径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	須恵器 坪	le-90	①(14.0)②- ③(2.4)	細砂粒合。還元焼。並。 灰白色。	輪轆整形。器表面磨耗。
2	須恵器 小型壺	フタ土 口縁部片	①(9.4)②- ③(2.3)	粗。並。暗灰色。	口唇部三角。輪轆整形。
3	須恵器 壺	1j-87 肩部1/4部	①-②- ③(7.1)	粗砂粒混。還元。並。灰 白色。細砂粒合。還元。	輪轆整形。肩部自然輪付着。

## 9. 第6面 (古墳時代) の検出遺構

### (1) 第6面の概要

Hr-FP泥流層下の水田耕作土と思われるにぶい黄褐色土は、南壁で10cm、北壁で20cm近い堆積であり、この層を除去したところHr-FP泥流と同じ明黄褐色のブロック状に入るHr-FAを確認した。Hr-FAの堆積は後世の耕作で攪拌され部分的に窪みに入った状態でしか残らず、ブロック状の堆積の濃淡で水田区画を想定した。この面より検出した遺構は極小区画水田と大畦畔のみであった。

### (2) 検出遺構

#### 1) 水田遺構

##### D-1区 (第166図)

調査区南西端部の300㎡弱の範囲で42面相当の極小区画水田が検出された。畦畔は碁盤の目状の配置であり、傾斜方向に長軸を持ちN-75°-Wに向く。当区で検出された極小区画水田の面積は平均2㎡前後である。水田耕作土は10cmほどの厚みで確認でき、灰褐色の夾雑物の少ない均一な土質である。大畦畔

## 3) ビット

調査区全体に散在する。配置や規模等に企画性はない。大半のビット埋没土中には、上層の灰黄褐色粘質土 (平安洪水層) が堆積し、一部Hr-FP泥流埋没のビットもある。

は検出されなかった。

##### D-2区 (第167図、PL53)、

本区のHr-FA層の堆積は薄く上層の水田耕作により攪拌され、僅かに窪みに残ったHr-FAの粗密により水田区画を想定した。水田区画は、調査区北東寄りの140㎡ほどの範囲で27面相当の極小区画水田が検出された。畦畔は若干不規則な碁盤の目状の配置であり、N-50°-Wに向く。極小区画水田の面積は、平均2㎡前後である。大畦畔は、水田密集部分から僅かに西に離れN-25°-Wに向き検出した。水田耕作土は5cmほどの厚みで確認でき、青灰色の夾雑物の少ない均一な土質である。下層にはAs-C混じりの黒褐色土が堆積する。

### 2) その他

D-2区において、散在するビット及び小円形の窪みを検出した。



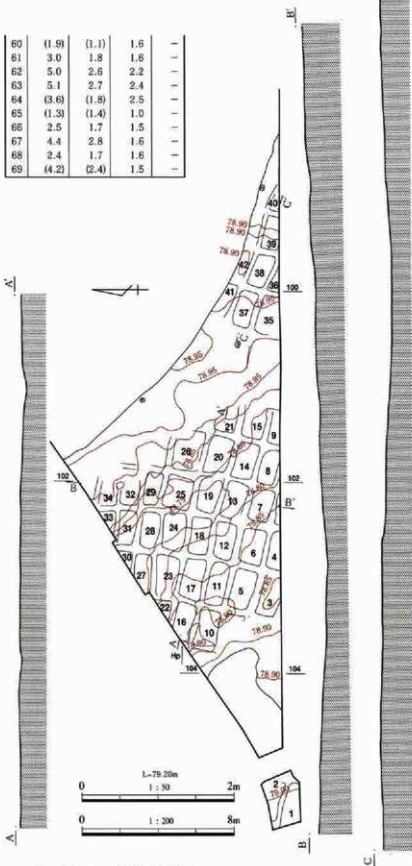




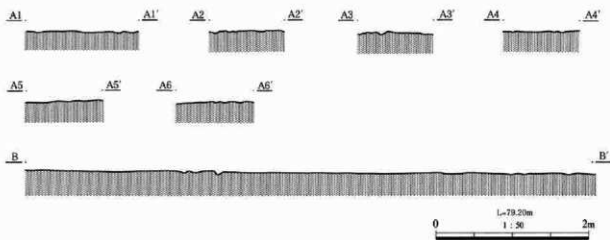
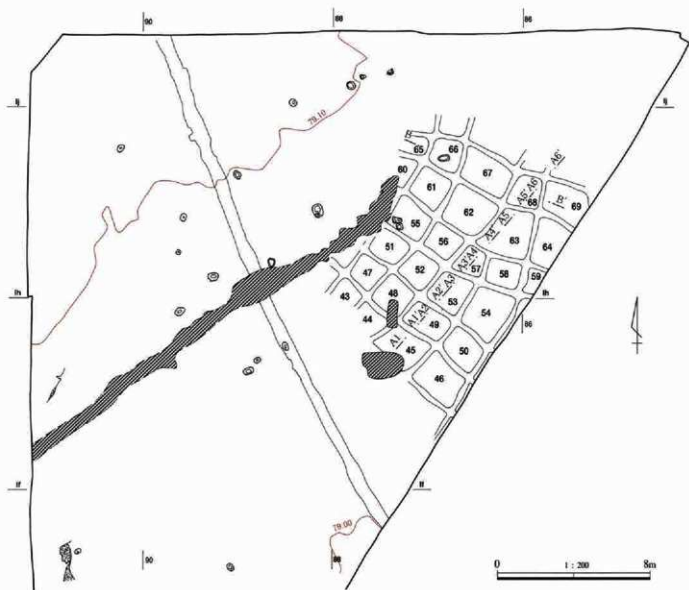
表44D-1区第6面水田計測一覽

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(1.8)	(2.4)	(0.6)	-
2	(1.4)	(2.1)	(1.1)	-
3	(2.0)	(2.1)	0.9	-
4	1.2	(1.9)	(0.7)	-
5	2.3	2.1	1.0	-
6	2.1	1.8	1.1	-
7	1.7	1.5	1.0	-
8	(1.6)	1.8	0.8	-
9	(0.9)	(1.8)	(0.6)	-
10	2.0	1.8	1.1	-
11	2.1	2.2	0.9	-
12	1.9	1.8	0.9	-
13	2.1	1.9	1.0	-
14	2.0	1.8	1.0	-
15	(1.9)	(1.7)	1.1	-
16	(1.9)	2.0	1.0	-
17	2.2	2.3	1.1	-
18	1.9	1.9	1.0	-
19	1.9	1.8	0.9	-
20	2.3	2.0	1.2	-
21	(1.4)	1.5	1.0	-
22	(0.5)	(0.8)	(0.7)	-
23	2.3	2.1	0.9	-
24	2.3	2.0	1.1	-
25	2.3	1.7	1.4	-
26	(3.0)	2.1	1.4	-
27	(1.5)	(2.1)	0.8	-
28	1.7	1.8	0.9	-
29	1.4	1.7	0.7	-
30	(0.4)	(0.9)	(0.7)	-
31	1.6	1.8	0.7	-
32	(1.8)	1.9	0.9	-
33	(0.6)	(1.3)	(0.9)	-
34	(1.2)	(1.3)	0.9	-
35	(2.2)	2.1	(0.9)	-
36	(0.5)	(1.6)	(0.6)	-
37	1.7	1.9	0.9	-
38	1.6	1.7	0.9	-
39	1.3	1.7	(0.9)	-
40	(0.3)	(1.0)	(0.4)	-
41	(1.3)	(1.7)	(0.6)	-
42	(0.9)	1.6	(0.5)	-
43	(1.8)	1.4	(1.2)	-
44	(2.0)	1.7	(1.3)	-
45	4.1	2.4	1.6	-
46	4.4	2.6	1.8	-
47	2.3	1.6	1.6	-
48	3.0	1.8	1.5	-
49	2.9	2.3	1.3	-
50	3.0	2.1	1.3	-
51	2.7	1.7	1.4	-
52	2.7	1.7	1.5	-
53	3.4	2.0	1.7	-
54	5.1	2.7	2.0	-
55	3.3	2.1	1.5	-
56	2.5	1.8	1.4	-
57	2.0	1.6	1.3	-
58	2.3	1.7	1.3	-
59	1.1	(0.8)	0.8	-

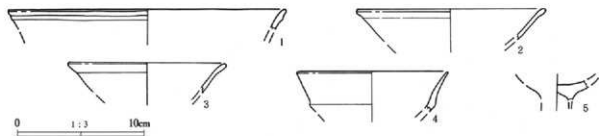
60	(1.9)	(1.1)	1.6	-
61	3.0	1.8	1.6	-
62	5.0	2.6	2.2	-
63	5.1	2.7	2.4	-
64	(3.6)	(1.8)	2.5	-
65	(1.3)	(1.4)	1.0	-
66	2.5	1.7	1.5	-
67	4.4	2.8	1.6	-
68	2.4	1.7	1.6	-
69	(4.2)	(2.4)	1.5	-



第166図 D-1区第6面水田



第167图 D-2区 第6面水田



第168図 第6面遺構外出土遺物

D-1・2区第6面 遺構外出土遺物観察表(第168図、PL82)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	土師器 杯	Ho-100 口縁部片	①(22.0)②- ③-	細砂粒含。酸化。橙色。	轆轤整形。
2	須恵器 杯	Ht-97 口縁部片	①(15.0)②- ③-	細砂粒含。還元。 灰白色。	轆轤整形。
3	須恵器 杯	Hs-93 口縁部片	①(12.6)②- ③-	細砂粒含。還元。 灰白色。	轆轤整形。
4	土師器 杯	Ia-95 口縁部片	①(12.0)②- ③(3.2)	細砂粒含。酸化。良。 橙色。	口唇部シャープ。口縁部横溝で。体部との境界、線を持つ。
5	土師器 高杯	フク土 脚部片	①-②- ③(1.6)	細砂粒僅少含。酸化。並	脚部接合部?

## 10. 第7面(古墳時代前期)の検出遺構

### (1) 第7面の概要

Hr-FA水田耕作土は5~10cmの夾雑物の少ない粘質土を掘り下げ、黒褐色の鉄分凝縮の見られるAs-C混じり土を確認し面調査を行った。調査区内の傾斜は北西から南東に25cmの高低差を持つ。検出遺構にはD-1区で大畦畔の高まり2条、河道状の溝を含め溝6条を検出し、D-2区においては水田区画と大畦畔1条、溝16条を検出した。

### (2) D-1区の検出遺構

#### 1) 畦畔(第171図、PL53)

Hq-101グリッド~Ho-97グリッド内にかけてN-50°-Wに向き南に湾曲する大畦畔状の高まりを検出した。確認全長25m、上端約50cm下端約1m、高さ約14cmを測る。畦畔を挟み南北間の高低差は8

cm程で南面が低い。また、調査区北寄りのI d-94グリッド~I a-92グリッドにかけて検出された畦畔は、確認全長20m、上端約30cm下端約80m、高さ約4cmを測り、N-13°-Wに向き、13号溝に切られる部分よりE-15°-Sに向きを変える。

#### 2) 溝

南北方向に向く13号溝と24号溝の7条の溝を検出した。13号溝(第172図、PL54)は南流しながら途中で方向を変え、その変換部より分岐する形で14号溝(第172図、PL54)が南流する。形態的に一連の溝と考えられる。また、15号溝(第170・172図、PL54)と16号溝(第170・172図、PL54)も同一溝であり、共に深さ5cm程の断面船底状を呈する。17号溝(第172図、PL54)と24号溝(第172図)は、13号溝東縁に併走する短い溝である。

表45 D-1区第7面溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m,幅・深さ:cm)			備考	
				確認全長	上端	下端		深さ
13	Ie-93 ~Hr-92	N-9°-W	0.10	37.2	50	11	11	縦くし字形に曲がる畦畔を切り、14号溝と接近し調査区外へ、13号溝からの分岐か? 南北方向に伸びる。
14	Hs-93 ~Ho-93	N-2°-W	0.10	24.0	50	12	5	13・14号溝と似た方向に流下。途中16号溝に接する。
15	Ia-96 ~Hq-95	N-3°-W	0.10	25.3	39	12	6	15号溝からの分岐か?
16	Hs-95 ~Hq-97	N-29°-E	0.10	19.0	70	28	6	15号溝東縁で検出した短い溝。
17	If-93	N-1°-E	0	2.6	64	22	7	大規模な掘り込み。C区27号溝に続く。田河道。
18	Hp-103 ~Ho-101	N-39°-W	0.06	12.0	738	490	113	13号溝東縁で検出した短い溝。
24	Id-93 ~Ic-93	N-4°-E	0	0.9	9	3	3	

18号溝 (第171図、PL56) は、調査区南西端で確認した上幅10m近い大規模な溝である。この溝はC区北端中央部で検出された蛇行する27号溝につながる。また、下面調査時に検出した23号溝はこの18号溝の掘り方にあたる。本溝は深さ約1mを測り、中層に厚さ8cm程のAs-Cのレンズ状堆積を確認した。埋没土は流水堆積の特徴的なラミナ状堆積は見られず、自然埋没と考えられる。開削時期はAs-C以前であり、Hr-FA下水田耕作時には既に水平面となっていたと考えられる。

## (2) D-2区の検出溝

### 1) 水田 (第173図、PL54)

6cm程のHr-FA下水田耕作土を掘り下げ、As-Cの粗い粒子が混じるザクザクした黒褐色土を耕作土としている。調査区北壁中央からN-20°-Wの南北方向に伸びる大畦畔を検出し、上幅40cm、下幅80cm、高さ8cmほどの規模を持つ。両側に31・32号溝が併走する。この大畦畔東側で22面の水田区画を作る畦畔の痕跡を確認した。畦畔の痕跡はAs-Cの少ない黒褐色粘質土の筋であり、Hr-FA水田耕作時に攪拌され芯の部分が残ったと考えられる。畦畔配置は、南北畦畔は大畦畔に沿い、東西畦畔は等高線に沿うやや湾曲する配置である。水田面積は、小規模な7号水田で11.1㎡、平均的な13号水田で24.3㎡を測り、水田形状は方形を意識している。

### 2) 溝

調査区南西端で検出された17号溝 (第174図、PL55)・18号溝 (第174図)・19号溝 (第174図、PL55)及び20号溝 (第173・174図、PL55) は、北東から南西方向に分岐又は合流し、掘り込みは10cmと浅く上面のHr-FA下水田耕作土である粘性の強い黒褐色土を覆土とするなど上層水田開削時又は耕作時に掘り込まれた溝群である。21号溝 (第173・174図、PL55)・26号溝 (第173図、PL55)・27号溝 (第173図、PL55) は掘り方及び方向に類似性が見られ、同一溝と考えられる。この溝と併走するように掘り込まれた20号溝や23号溝 (第173・174図、PL55) は同一時の開削と考えられ、両者とも脇に畦畔状の高まりを検出した。24号溝 (第174図)・25号溝 (第174図) は平行に17号溝に流れ込み、掘り込みの浅い溝である。28号溝 (第174図、PL55)・29号溝 (第174図、PL56) は調査区東壁際で検出した。

30号溝 (第173・174図、PL56) は、21号溝に南端で併走し、28号溝に接する。

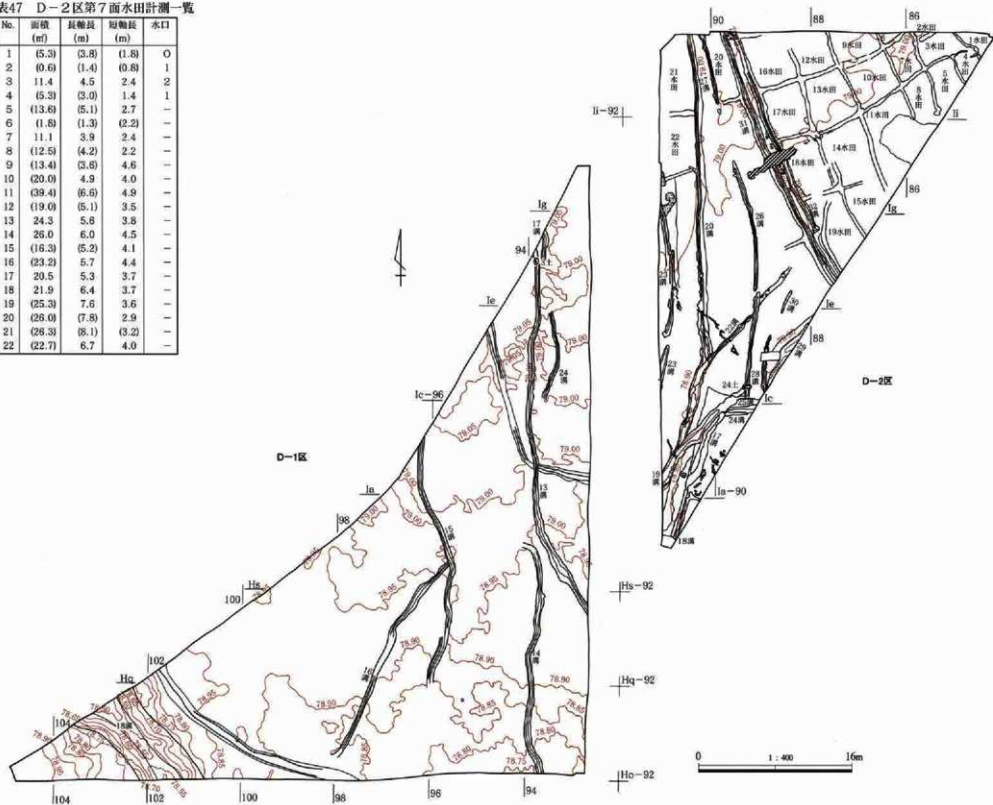
大畦畔伴う31号溝 (第173図、PL56)・32号溝 (第173図、PL56) は大畦畔脇の側溝と考えられ、高低差は10cm程で北から南に流下する。32号溝は南で19号水田から伸びる水口状の切れ込みを確認した。切れ込みから高まりは水田内まで伸び、強制的排水が行われた可能性が考えられる。また大畦畔もこの部分で掘り込まれ消失する。

表46 D-2区第7面溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m,幅・深さ:cm)			備考	
				規模全長	上幅	下幅深さ		
17	1b-89 → Hr-80	N-22°-E	0.09	14.0	25	-	2	浅い掘り込みというより窪みのな溝。
18	Hr-80	S-24°-W	0	5.1	19	-	2	浅い掘り込みというより窪みのな溝。
19	1c-89 → 1a-81	N-41°-E	0.06	13.3	83	25	6	22号溝と合流又は掘り込み。17号溝と接し24・25号溝と重なる。南北方向に伸びる直線のな溝。22号溝と合流する。
20	1j-90 → 1b-90	N-1°-E	0.15	44.2	98	65	10	26号溝南端と接続し、南に伸びる。
21	1c-89 → 1e-89	S-7°-W	0.01	11.3	28	14	7	26号溝南端と接続し、南に伸びる。
22	1d-89 → 1c-90	N-43°-E	0.06	6.7	31	12	5	21号溝途中から分岐か?20号溝と合流し幅広がる。
23	1c-91 → 1f-91	S-0°	0.01	16.9	52	24	7	調査区南端を横切り湾曲で南北方向に流れる。底面礫化鉄。
24	1b-89	N-90°-W	0.03	2.4	25	-	1	浅い掘り込みというより窪みのな溝。
25	1b-89	S-87°-W	0.02	3.0	25	-	1	浅い掘り込みというより窪みのな溝。
26	1h-89 → 1e-89	N-10°-W	0.06	14.0	38	16	11	21号溝の延長か?27号溝方向に湾曲。同一溝か?
27	1j-90 → 1i-89	N-14°-W	0.10	7.4	26	10	5	26号溝方向に伸びる同一溝か?
28	1d-88 → 1c-88	N-5°-E	0.06	5.8	36	19	9	21号溝に併走する浅い溝か?
29	1d-88 → 1c-88	N-32°-E	0.04	8.2	89	33	13	調査区境で、落ち込み状にへりを確認した。
30	1d-88 → 1e-88	S-23°-W	0.01	2.6	19	-	5	掘り込みの浅い短い溝。
31	1j-89 → 1e-87	N-25°-W	0.16	29.2	48	14	2	大畦畔の高まりの上を32号溝と併走する溝。
32	1j-89 → 1f-87	N-23°-W	0.10	22.9	33	7	5	大畦畔の高まりの上を31号溝と併走する。

表47 D-2区第7面水田計測一覧

No.	面積 (m <sup>2</sup> )	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(5.3)	(3.8)	(1.8)	O
2	(0.6)	(1.4)	(0.8)	1
3	11.4	4.5	2.4	2
4	(5.3)	(3.0)	1.4	1
5	(13.6)	(5.1)	2.7	-
6	(1.6)	(1.3)	(2.2)	-
7	11.1	3.9	2.4	-
8	(12.5)	(4.2)	2.2	-
9	(13.4)	(3.6)	4.6	-
10	(20.0)	4.9	4.0	-
11	(39.4)	(6.6)	4.9	-
12	(19.0)	(5.1)	3.5	-
13	24.3	5.8	3.8	-
14	26.0	6.0	4.5	-
15	(16.3)	(5.2)	4.1	-
16	(23.2)	5.7	4.4	-
17	20.5	5.3	3.7	-
18	21.9	6.4	3.7	-
19	(25.3)	7.6	3.6	-
20	(26.0)	(7.8)	2.9	-
21	(28.3)	(8.1)	(3.2)	-
22	(22.7)	6.7	4.0	-

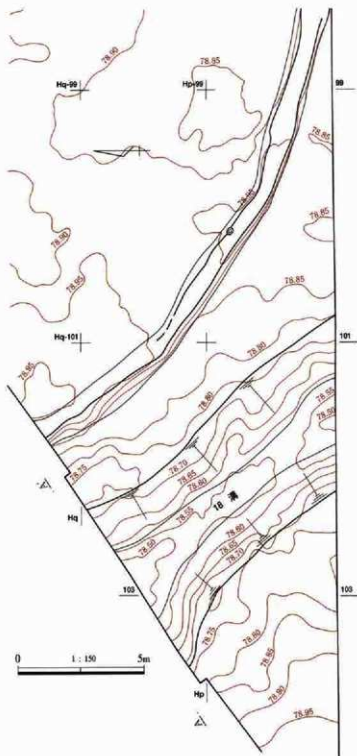


第169図 第7面全体図









(北壁基本土層)

\* Ia~XV層は、基本土層参照。

1. 黒色土 粘質土。下方に樹皮を含む。

2. 黒褐色土 粘質土。砂質土を含む。

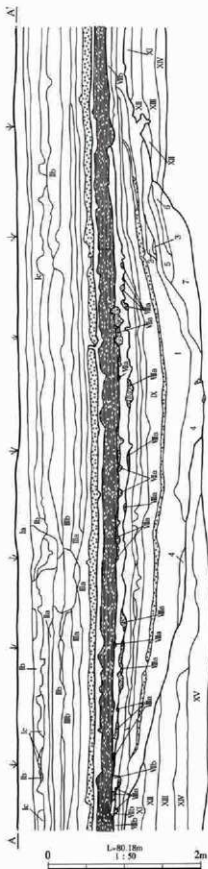
3. にぶい黄褐色土 砂質土。噴砂と思われる。粒子細から。

4. 黒褐色土 粘質土。砂質土・炭化物・礫を含む。

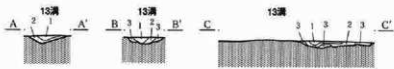
5. 黒褐色土 粘質土。粘性強。

6. 黒褐色土 粘質土。砂質土を含む。

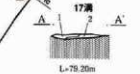
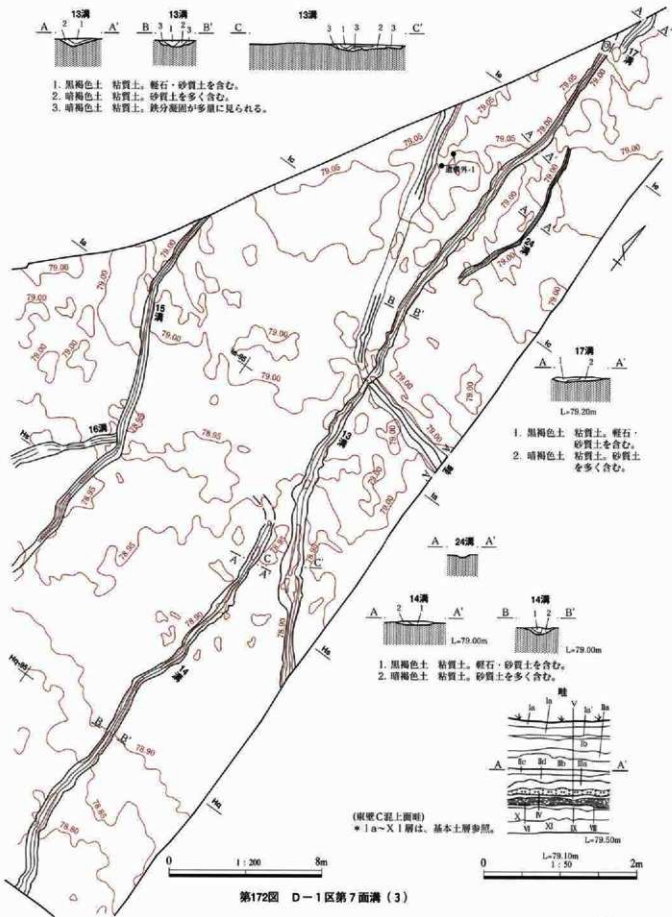
7. 黒褐色土 粘質土。砂質土・軽石・炭化物をごく微量に含む。



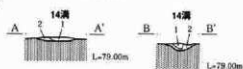
第171図 D-1区第7面溝(2)



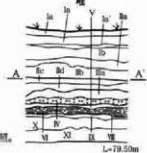
1. 黒褐色土 粘質土。軽石・砂質土を含む。
2. 暗褐色土 粘質土。砂質土を多く含む。
3. 暗褐色土 粘質土。鉄分凝固が多量に見られる。



1. 黒褐色土 粘質土。軽石・砂質土を含む。
2. 暗褐色土 粘質土。砂質土を多く含む。



1. 黒褐色土 粘質土。軽石・砂質土を含む。
2. 暗褐色土 粘質土。砂質土を多く含む。

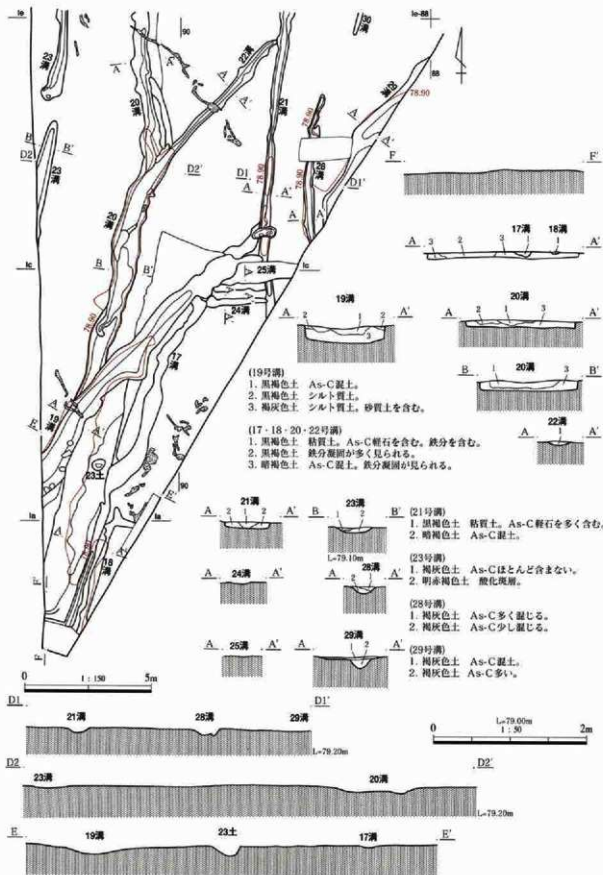


(縦断C面上面位)  
\* Ia-X I層は、基本土層参照。



第172図 D-1区第7面溝(3)





### 3) 土坑

#### D-1区

##### 3号土坑 (第175図、PL54)

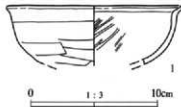
調査区北端西壁際の13号溝上で検出した。円形を呈し、円錐状の掘り方を持つ。埋没土はにぶい黄褐色土中に下層土ブロックを含む。

#### D-2区

23号土坑 (第175図、PL55) は、南端の17号溝脇の高まりで検出された。埋没土中には、上面のHr-F A下水田耕作土である粘性の強い灰黄褐色土が入り、上層からの掘り込みである。24号土坑 (第175図、PL55) は、21号溝と17号溝の合流部で検出され、As-Cを多量に含み不定形のアメーバー状を呈する掘り込みの浅い土坑である。

表49 D-2区第7面土坑計測一覧

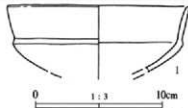
No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
23	1a-90	56	42	15	楕円形	N-50°-E
24	1c-89	100	28	8	不定形	N-75°-E



第176図 D-2区第7面32号溝出土遺物

#### D-2区第7面 32号溝出土遺物観察表 (第176図、PL82)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量 (cm) ①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴 (外面-外、内面-内)
1	土師器 鉢	+7 1/3	①(13.8)②- ③(4.6)	細砂粒含、酸化。並。 褐色。	成・整形技法、器形の特徴 (外面-外、内面-内) 口縁部横溝で、内斜口縁。口唇部僅かにつまみ出し。 外：横位施削り。内：放射状暗文、部分的に見られる。



第177図 D-1区第7面遺構外出土遺物

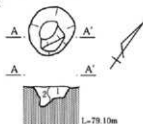
#### D-1区第7面 遺構外出土遺物観察表 (第177図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量 (cm) ①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	土師器 坏	1c-1d-94 口縁部片	①(14.4)②- ③(5.2)	細砂粒、赤褐色小粒含。 酸化。褐色。	口縁部横溝で、横シャープ。内面側で。
2	土師器 甕	フク土 破片	①-②- ③-	砂粒含。酸化。にぶい黄 褐色。	器表面磨耗。

表48 D-1区第7面3号土坑計測一覧

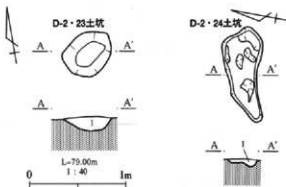
No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
3	1e-93	53	46	20	円形	N-20°-W

#### D-1・3土坑



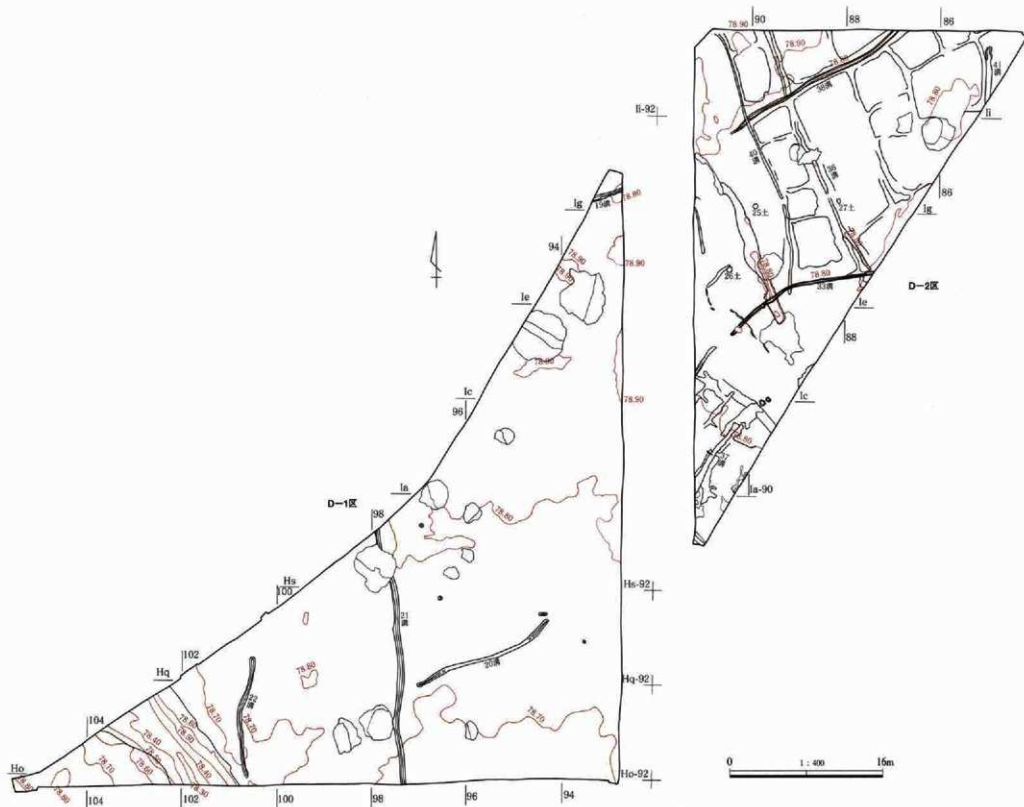
1. にぶい黄褐色土 暗褐色土がブロック状に混入。軽石粒を含む。
2. にぶい黄褐色土 暗褐色土がブロック状に混入。軽石を含む。

\* F A下の遺構。



- (23号土坑)  
1. 灰黄褐色土 F A下水田耕作土ブロック混入。  
(24号土坑)  
1. 黒褐色土 粘質土、As-C軽石多量に含む、鉄分を含む。

第175図 第7面土坑 (D-1・2区)



第178图 第8面全体图





## 11. 第8面（古墳時代以前）の検出遺構

### (1) 第8面の概要

10～20cmの厚みのAs-C混じりのざらついた黒褐色土を取り除き、小さな凹凸が多く見られる黒褐色シルト質土層を検出面とした。

検出遺構には、D-1区で溝4条及び風倒木痕、D-2区では水田区画と溝10条、土坑3基及び風倒木痕を確認した。

この面は、As-C降灰前後の水田耕作などにより攪拌を受けていると考えられる。

### (2) D-1区の検出遺構

#### 1) 溝

19号溝（第178図、PL56）は、調査区北端で検出した。深さ4cmの浅く断面丸底状を呈する。埋没土中には暗褐色シルト土に砂質土混じる。

20号溝（第179図、PL56）調査区中央部で検出し、東西方向に向き、中央部は僅かな窪みとして残る。埋没土中にはAs-C混じりの黒褐色土が堆積する。

21号溝（第179図、PL56）・22号溝（第179図、PL56）の両溝は、併走し南北方向に縦断する。高低差はなく埋没土中にはAs-C混じりの黒褐色土が堆積していた。21号溝は中央部が若干低く、深さ20cm、中央部は30cm掘り込まれ断面逆台形状を呈する。22号溝は高低差はほとんど無く、深さ15cm、断面丸底状を呈する。

### (3) D-2区の検出遺構

#### 1) 水田

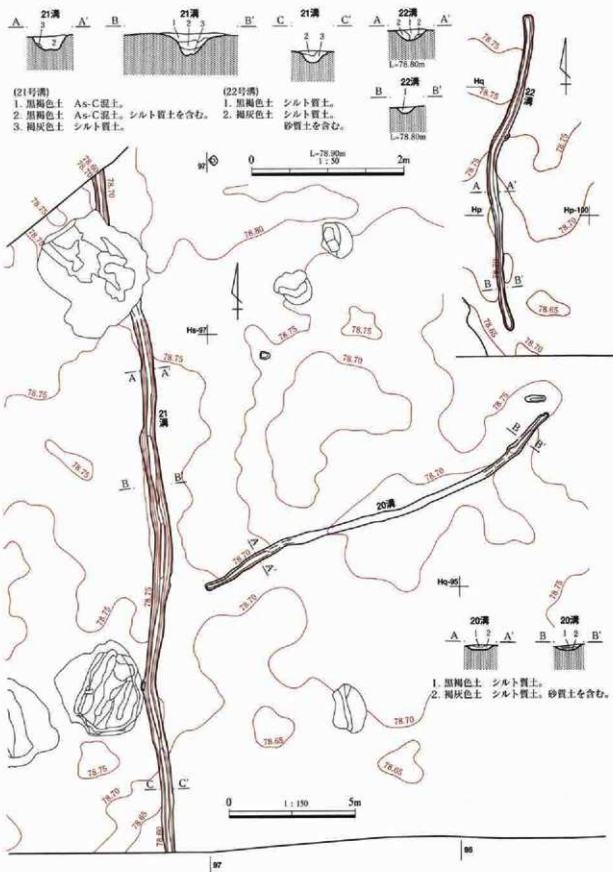
As-C混じり黒褐色土層を掘り下げ時に、鉄分沈着やAs-C混じり暗褐色土面と暗青灰色シルト質土面との広がりやの違いなどで水田の痕跡を確認した。想定される水田区画は、調査区南西端の一部と北半分に21面確認した。形状は四角を意識し面積20㎡前後の区画を作坊うとしているようである。大畦畔状の痕跡は、10号・11号水田脇のN-60°-Eに向く痕跡と12号水田から17号水田を挟む格好で配置されたN-20°-Wに向く2本の畦畔状の痕跡を土質の違いで想定した。3本の畦畔とも中央に溝を伴う。

表50 D-2区第8面水田計測一覧

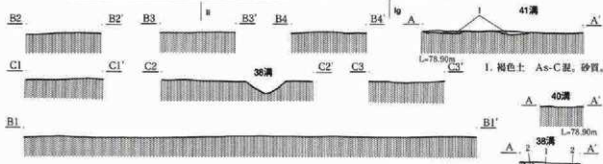
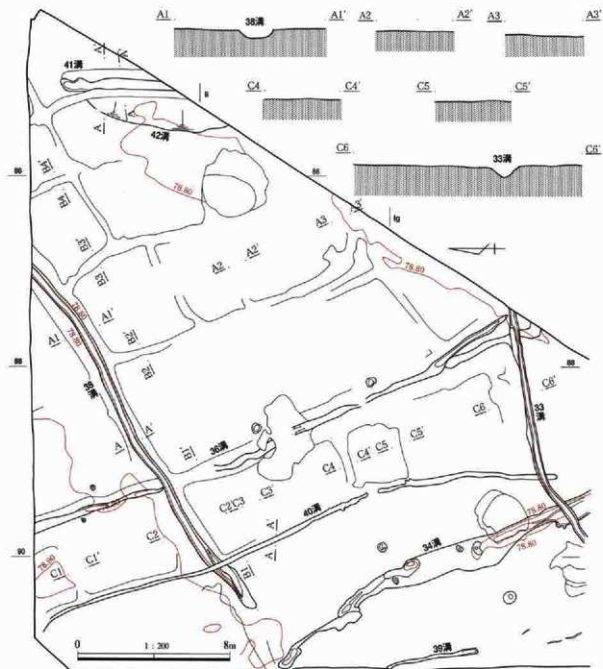
No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(18.8)	(6.8)	(4.5)	—
2	(4.7)	(2.1)	(2.9)	—
3	(14.0)	(4.7)	3.2	—
4	(20.3)	6.5	3.6	—
5	(22.0)	(6.1)	(3.8)	—
6	21.5	5.2	4.4	—
7	14.2	4.7	2.5	—
8	(22.2)	6.0	(4.0)	—
9	86.0	15.6	4.9	—
10	(10.3)	(5.6)	(3.3)	—
11	(25.8)	(5.6)	(5.3)	—
12	(6.1)	(2.0)	3.0	—
13	16.2	5.4	3.3	—
14	9.7	4.2	3.5	—
15	17.1	5.2	3.1	—
16	8.6	3.2	2.7	—
17	20.3	5.2	3.7	—

表51 D-1区第8面溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長・m・幅・深さ・cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅		深さ
19	Ig-92・Ig-93	S-76°-W	0	3.3	28	9	14	調査区北端で検出。
20	Ht-94→Hq-97	N-63°-E	0.08	15.6	36	14	8	新方向に伸び、中央部窪み状となる。
21	Ht-97・Ho-97	N-6°-W	0	27.0	55	10	30	南北方向に伸びる。22号溝と平行気味。
22	Hq-100→Ho-100	N-3°-E	0.05	13.0	40	20	14	南北方向に伸びる。21号溝と平行気味。

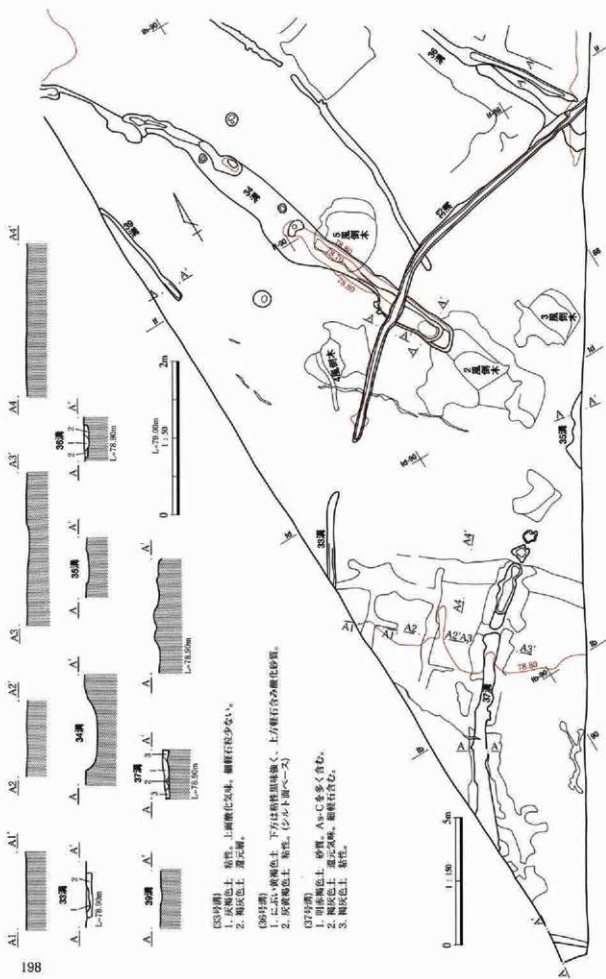


第179図 D-1区第8面溝



(38号溝)  
 1. 暗褐色土 酸化強い。固くかりカリした感じ。  
 2. 暗灰色粘質土

第180図 D-2区第8号溝(1)



(S34号溝)  
 1. 灰褐色土 粘性。上面酸化気味、細粒石较少ない。  
 2. 和灰色土 層元層。

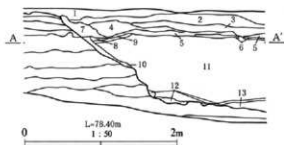
(S6号溝)  
 1. 灰褐色土 粘性。下方は砂質面味強く、上方軽石含む酸化砂質。  
 2. 灰褐色土 粘性。(シルト面ベース)

(S7号溝)  
 1. 明赤褐色土 砂質。A+Bを多く含む。  
 2. 和灰色土 還元気味、細粒石含む。  
 3. 和灰色土 粘性。

第161図 D-2区第8面溝(2)

## 2) 溝

33号溝(第180・181図、PL57)は弧状を呈する溝である。深さ4cm前後と浅く、軽石の少ない灰褐色土で埋没する。34号溝(第180・181図、PL56)は掘り込みが浅く、埋没土中に軽石を多く含む。35号溝(第181図、PL57)は東壁際で検出した窪み状の溝である。36号溝(第180・181図、PL57)・38号溝(第180図、PL57)・40号溝(第180図、PL57)は、水田畦畔状遺構の中央部で検出され、両側には畦畔状の痕跡が見られた。掘り込みは深さ6cmを測り、断面丸底状を呈する。埋没土中にはいふい黄褐色土であり、軽石流を含む。37号溝(第181図)は、上面19号溝下層に当たり、掘り方向か。39号溝(第180・181図、PL57)は調査区西壁寄りで検出した浅い掘り込みの溝である。41号溝(第180図、PL57)・42号溝(第180図、PL57)は、深さ1.2mの流水堆積の見られる河道跡の肩の部分である。



1. 黒褐色土 粘性。上面中酸化。有機質。
2. 褐灰色土 粘性。軽石粒多く、有機質。
3. 褐灰色土 粘性。軽石含む程度。有機質。
4. 褐灰色土 粘性。軽石粒多い。有機質。
5. 褐灰色土 粘性。軽石粒1cm大の粒状多く含む。
6. 褐灰色土 粘性。軽石粒少なく有機質。
7. ないふい黄褐色土 シルト～粘性。軽石含まず。
8. 褐灰色土 16層に近似的。
9. 灰黄褐色土 シルト～粘性。軽石含まず。
10. ないふい黄褐色土 シルト～粘性。軽石含まず。
11. 灰黄褐色土 シルト質。軽石粒1cm大の粒状多く含む。水成堆積。
12. 黒色土 粘性であるが目詰まりしていない。有機質強～泥炭質。
13. 黄灰色土 砂。流水堆。

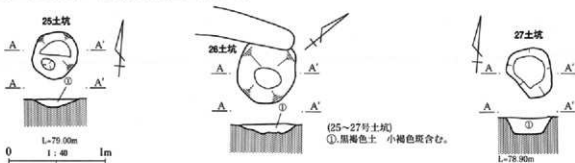
第182図 D-2区第8面42号溝断面図

表52 D-2区第8面溝計測一覧

名称	位置	方位	比高 (m)	規模(長・幅・深さ)(cm)			備考		
	方向(上流→下流)			確認全長	上幅	下幅		深さ	
33	1c-91	→1e-87	S-60°-W	0.09	23.3	33	19	5	等高線に沿うように弧状を呈する。
34	1g-90	→1d-89	N-24°-W	0.21	16.3	106	54	15	掘り込みの浅い幅広の溝。南端は掘り込み深く3号溝に切られる。
35	1c-88		S-30°-W	0.03	2.3	42	-	4	掘り込みが浅く、上層29号溝の掘り方か。
36	1j-89	→1e-87	N-24°-W	0.16	27.8	26	-	7	掘り込みが浅く、上層31号溝の掘り方。
37	1a-90	→1b-90	S-34°-W	0.05	8.2	56	-	7	上層19号溝の掘り方か。
38	1h-90	→1j-87	S-53°-W	0.05	21.0	28	15	21	大畷状の中央に掘り込まれた溝。
39	1g-91	→1f-91	N-12°-W	0.08	4.9	30	18	2	掘り込みが浅く、上層23号溝の掘り方か。
40	1j-90	→1g-89	N-21°-W	0.05	18.8	28	-	2	掘り込みが浅く、上層29号溝の掘り方か。
41	1i-85	→1j-85	S-3°-W	0.03	5.6	6	-	6	調査区北端、幅広の溝42号溝脇で検出。埋没溝か？
42	1i-85		S-0°	0.90	2.5	270	130	115	調査区北端、幅広の溝東へ広がる。河道西辺面を検出。

## 3) 土坑

調査区中央付近で円形を呈する25号土坑(第183図、PL57)・26号土坑(第183図、PL57)・27号土坑(第183図、PL57)の3基の土坑を検出した。各土坑とも埋没土中には黒褐色粘質土が堆積する。



第183図 D-2区第8面土坑

表53 D-2区第8面土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
25	1g-89	51	47	9	円形	N-15°-E
26	1e-90	68	60	11	円形	N-10°-W
27	1g-88	56	40	18	不定形	N-41°-W
	1i-90	323	300	55	不定形	N-73°-E

## 第6節 E区の検出遺構

### 1. E区の検出面の概要

当区は東部幹線と呼ばれる市道の南に当たる。この市道を跨ぐボックス・カルバート建設が先行工事されることとなり、一部工事区域の明け渡しが必要となった。そのため、工事区域の調査を先行して行い、翌年残りの全面調査を行った。その結果調査区内二分することになり、工事先行調査部分をE-1区、その他の調査範囲をE-2区とした。遺構番号もそれぞれで付し、本稿でも調査段階での遺構番号を用いて記載する。

調査面は当区においても洪水や火山灰等を確認し面調査を行ったが、後世の攪拌により部分的に遺存する面もあり、これらの埋没面は枝番を付して面を数えることとした。

各確認面間にも継続的な人的行為の痕跡が認められ、検出面上層からの掘り込みと考えられる上層被覆層を含む遺構もあり、調査時に面を特定できない遺構については、検出面を優先させた。

各面の検出遺構の概要は以下の通りである。

- 第1面-1 (近世以降) As-A降灰後 屋敷跡道路遺構・土坑・溝・水田
- 2 (近世以降) As-A降灰後 溝・土坑・井戸・水田
- 第2面-1 (中世) As-A降灰以前 水田・溝・土坑
- 2 (中世) As-B混じり 水田・溝
- 第3面 (古代) As-B降灰下 水田
- 第4面 (古墳時代) Hr-FP泥流下 水田
- 第5面 (古墳時代) Hr-FA泥流下 水田
- 第6面 (古墳時代) As-C降灰後 水田?・溝
- 第7面 (古墳時代以前) As-C降灰前 水田?・溝。

### 2. 第1面-1 (近世以降)の検出遺構

#### (1) E-1の検出遺構

現在の耕作土を除去しAs-Aを含む明褐色土中で石垣及び杭列の巡る屋敷跡跡の南西隅部を確認し、周辺部の精査をしたところ溝・土坑・井戸等を検出した。本面の検出遺構埋没土中にはAs-Aが混じり、近世以降の遺構群と考えられる。

#### 1) 屋敷跡 (第185・186図、PL63)

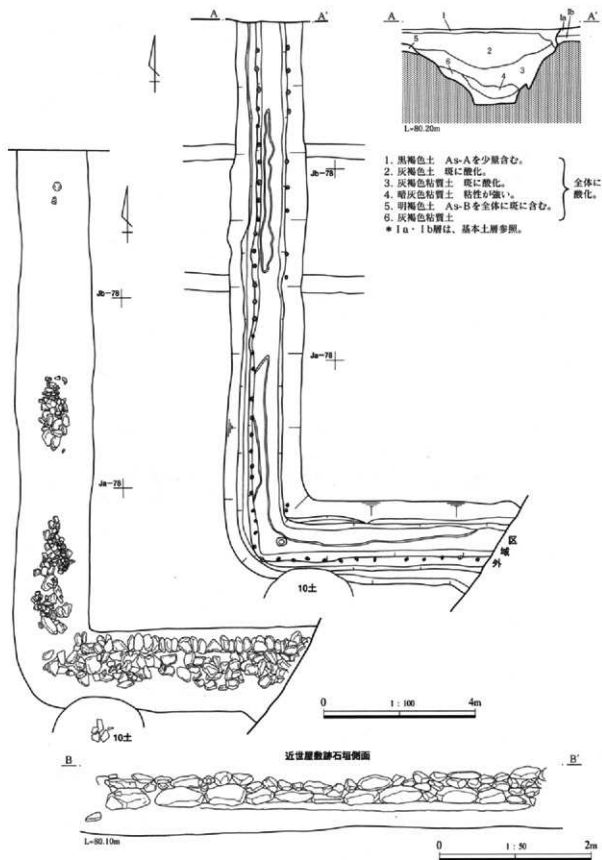
調査区北東寄りで検出し、屋敷地南西部に当たる部分と考えられる。屋敷跡は国家座標に沿う方向に掘り込まれ、直角に曲がる西堀と南堀の一部を検出した。本遺構の続きは北関東自動車関連で調査された同一遺跡のE1-1号溝へつながる。

西堀は確認全長約14m、上端約2m、下端約53m、深さ約63cmの規模を持ち、外側法面は緩やかな階段状を呈し、内側法面は急傾斜となる。堀内法面下方に小ピット列を検出した。ピット列の間隔は外側法面側で45~50cm間隔、内側法面側で60cm間隔であった。この小ピット列は護岸用に打ち込まれた杭列と考えられる。断面観察では護岸用横板の痕跡は認められなかった。

南堀は確認全長約7m、上端2.2m、下端0.6m、深さ77cmの規模を持つ。外側法面下部には西辺から続く柱痕小ピット列を検出し、内側法面中段には石垣基礎の石列を検出した。石垣は40cm前後の大礫を小口積み状に積み上げ構築されたようであり、埋没土中層には礫群が崩落状態で出土している。

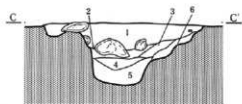
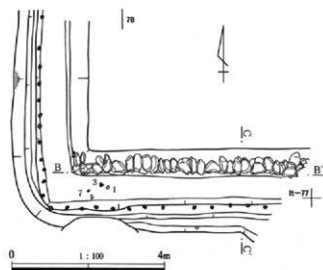
内部施設として、堀内より井戸状の8号土坑や9号・20号・24号・25号溝等が考えられる。





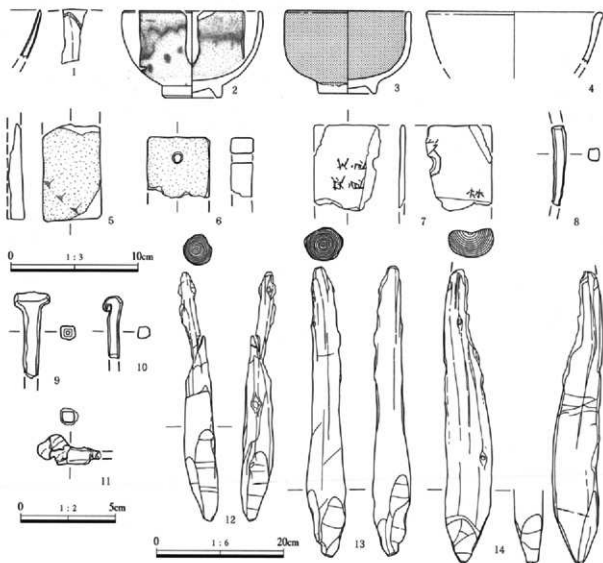
第185図 E-1区第1面-1 近世屋敷(1)





1. 暗褐色沙質土 F Pを壤に含む。
2. 暗褐色土 F P少量含む。下部酸化硬質。
3. 暗灰色土 鉄分沈着。
4. 暗灰色粘質土 As-Bを壤に含む。鉄分含む。
5. 暗灰色粘質土 粘性が強く締まる。鉄分含む。
6. 暗褐色土 As-Bを少量含む。鉄分含む。

第186図 E-1区第1面-1 近世屋敷(2)



第187図 E-1区第1面-1 近世屋敷出土遺物

E-1区第1面-1 近世屋敷出土遺物観察表(第187図、PL83・86)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	磁器・青磁 碗	フク土 口縁部片	①-②- ③(4.0)	紙物見えず。重。締。 還元。	1mmを超える厚い淡色粘土の胎。器内薄い。胎土白色。割れ口消耗少。13世紀。龍泉系。
2	陶器 碗	フク土 1/3	①(10.7)②4.6 ③6.9	紙物見えず。軽。締。中 性。	淡褐色胎。外面の高台部を除いて施釉。外面下方回転施釉。割れ口消耗少。18世紀。美濃。
3	陶器 碗	+21 1/2	①9.8②4.6 ③6.5	紙物見えず。軽。締。 中性。	淡褐色胎。外面の高台部を除いて施釉。外面下方回転施釉。割れ口消耗少。18世紀。美濃。
4	磁器・青磁 碗	フク土 口縁部片	①(13.5)②- ③(4.2)	内外面に暗く薄い青磁胎。 胎土は淡灰。	内外面無文。割れ口消耗少。15~17世紀。龍泉系か同派か不明。
5	石製品 砥石	フク土 破片	長(7.5)cm,幅(4.6)cm,厚1.3cm,重(65.0)g 石材:珪質粘板岩		合磁碗。仕上げ。片小口旧時欠損。材質は軟調の合磁。片小口、両側は縦線目あり。裏は扁平剛性し、僅かな凹面あり。乳白色。上手の砥石。カミソリ砥から手持砥に転ずる。割れ口消耗あり。泉外搬入。
6	石製品 砥石	+9 破片	長(4.8)cm,幅5.0cm,厚1.8cm,重(90.0)g 石材:粗粒輝石安山岩		煎瓦。下腹。片小口旧時欠損。き目ある程度揃う。穿孔があり下腹。使用は割れた片側の小口面を除く5面。泉外搬入?
7	石製品 石版	フク土 隅部片	長(6.8)cm,幅(5.2)cm,厚0.4cm,重(22.0)g 石材:頁岩		耳部に面取りがなされ三稜となる。表・裏に針書きあり。片側は□良□欠、□良□欠。割れ口消耗微。泉外搬入。
8	鉄製品 釘	フク土	長(4.2)cm,幅0.7cm,厚0.6cm,重(2.5)g		下方調査時以降欠損。茶紫色。割れれ少く古代鉄か和鉄か不明。全体に曲がりあり。使用釘。和鉄。19世紀以前。
9	鉄製品 釘	フク土	長(4.6)cm,幅1.9cm,厚0.7cm,重(5.5)g		下方調査時以降欠損。茶紫色。割れれ少く古代鉄か和鉄か不明。和釘。19世紀以前。
10	鉄製品 釘	フク土	長(3.3)cm,幅1.0cm,厚0.6cm,重(3.1)g		下方調査時以降欠損。茶紫色。割れれ少く古代鉄か和鉄か不明。頭部丸まり使用釘。和釘。19世紀以前。
11	鉄製品 釘	フク土	長(3.4)cm,幅1.7cm,厚1.0cm,重(2.5)g		下方調査時以降欠損。茶紫色。割れれ少く古代鉄か和鉄か不明。頭部鈍ふくれのため変形。19世紀以前。
12	木製品・杭	下腹部	長(39.0)cm,径4.5cm		下腹の打込み。先は三角錐形に加工。
13	木製品・杭	下腹部	長(45.3)cm,幅6.0cm,厚5.1cm		下腹の打込み。先は三角錐形に加工。
14	木製品・杭	下腹部	長(45.8)cm,幅7.0cm,厚4.5cm		下腹の打込み。先は三角錐形に加工。

## (2) E-2区の検出遺構

E-1区同様、現在の耕作土下でAs-Aを含む黒褐色土面を検出し、両側に側溝状の溝を持つ道路遺構2条とAs-Aの入る不定形の土坑群、段差や土質の違いで分けられる水田区画等を検出した。

## 1) 1号道路遺構 (第188図、PL64)

調査区中央部の南北方向に走る1号溝と2号溝に挟まれ、直線的にN-3°-Wに向く。溝間は1.2~1.4mを割り、南壁の断面観察では蒲葺状に高まり、上面には細砂混じりの鉄分凝縮の硬化面が確認できた。

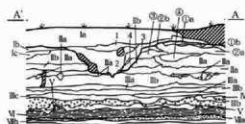
## 2) 溝

1号溝 (第188図、PL64) 及び2号溝 (第188図、PL64) は、道路側溝として機能したものである。1号溝は中央付近で4号溝 (第188図、PL64) を掘り込みながら幅が狭くなる。埋没土中には二次堆積によるものかAs-Aを多量に含む。2号溝は全体が側

溝ではなく一部が埋没途中で側溝として利用されたとも考えられる。3号溝 (第188図、PL64) は、1号溝の東側で南北方向に2カ所に分かれる。周囲にはAs-Aの入る同規模の土坑群が検出されている。埋没土中にはAs-Aの入るざらついた灰黄褐色土を主体とし、地山洪水層の明黄褐色砂質土が入る。5号溝 (第190図、PL64)、6号溝 (第190図、PL64) は、調査区南西寄りで検出され、上端25~35cm、深さ5cm前後の掘り込みの浅い溝であり、埋没土中にはビニールが含まれ開場整備前まで継続的に使われていた溝である。

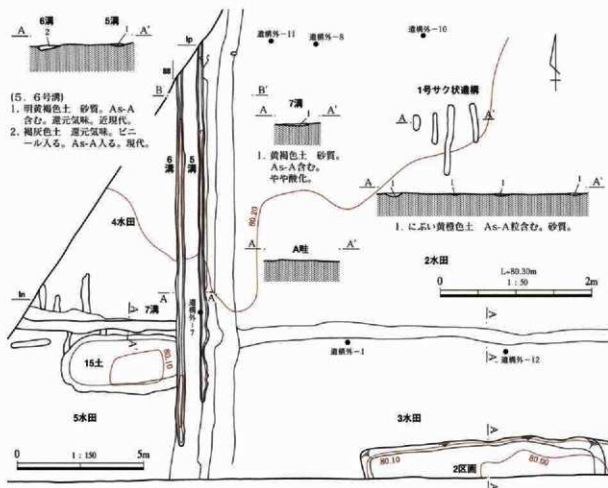
7号溝 (第190図、PL64) は、調査区南西隅で検出され6号溝と直交する。深さは2cmと浅く皿状を呈する。As-Aを含む黄褐色砂質土で埋没し、北壁に畦畔状の痕跡が見られた。





1. 褐色土 砂質土。As-Aを微量に含む。As-A混土。
  2. 灰褐色土 As-A軽石を微量に含む。
  3. にぶい黄褐色土 砂質土。As-A軽石を大量に含む。
  4. にぶい褐色土 砂質土。
  - ①a 褐灰色土 砂質土。(道路硬化面)川砂を多く含む。礫・鉄分を含む。ラミナ。
  - ①b 褐色土 砂質土。(道路硬化面)川砂を含む。ラミナが見られる。
  - ②a 褐灰色土 砂質土。(第2の道路硬化面)鉄分の酸化がラミナで見られる。小礫を含む。川砂がブロック状に散入。
  - ②b 灰黄褐色土 砂質土。
  - ③. にぶい黄褐色土 砂質土。
  - ④. 褐色土 砂質土。鉄分を多く含む。
- ※ 1a~1b層は、基本土層参照。

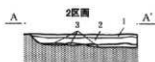
第189図 E-2区第1面-1 土層断面



第190図 E-2区第1面-1 溝(2)

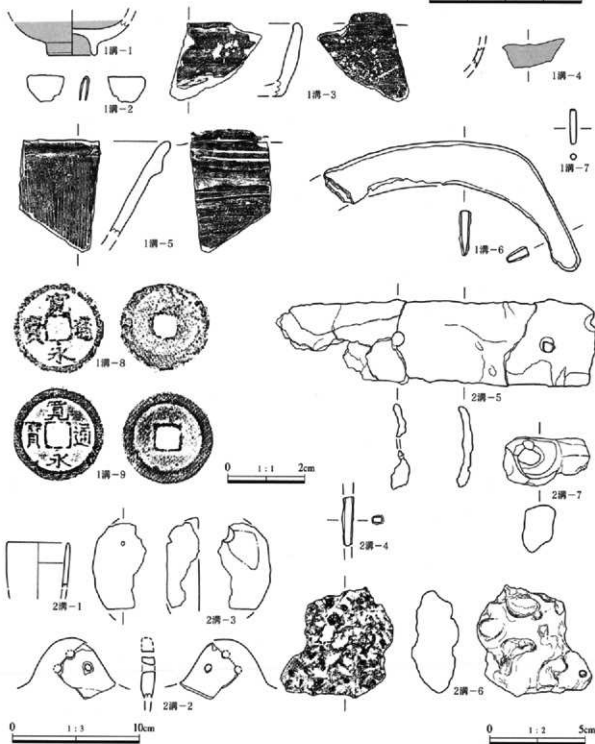
表54 E-2区第1面-1 溝計測一覧

名称	位置	方位	比高 (m)	規模(長:m, 幅・深:cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅 深さ		
1	11-83 → 11-83	N-3°-W	0.18	38.0	64	34	26	1号遺跡の側溝。中層にAs-A主体の層あり。
2	11-84 → 11-83	N-3°-W	0.28	41.5	110	72	18	1号遺跡の側溝。中層にAs-A主体の層あり。
3	1p-82 → 11-82	S-5°-E	0.08	22.5	350	171	30	幅広の途切れた溝。屋敷区画溝?
4	1q-83 → 1p-83	N-6°-W	0.04	11.4	72	50	24	1号溝に切られる。
5	1p-87 → 11-87	N-0°	0.12	17.2	25	12	8	6号溝と平行して走り、側溝状の溝。ピニール等入り現代の溝。
6	1p-87 → 11-87	N-0°	0.14	14.5	30	18	16	5号溝と平行して走り、側溝状の溝。
7	1m-85 → 1m-88	N-86°-W	0.05	6.4	58	42	4	6号溝と下字に交わる。掘り込みの浅い溝。

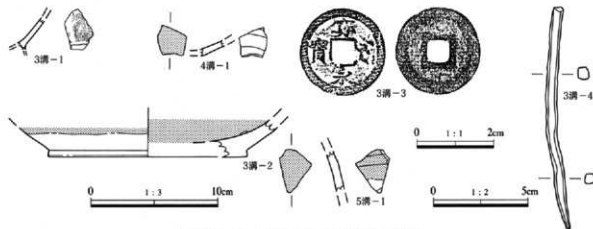


1. 黄褐色土 酸化泥層。As-Aを含む。
2. にぶい黄褐色土 還元気味。
3. にぶい黄褐色土 還元気味。

L=80.30m  
1:50  
0 2m



第191図 E-2区第1面-1 溝横断面・清出土遺物(1)



第192図 E-2区第1面-1 溝出土遺物(2)

E-2区第1面-1溝 出土遺物観察表(第191・192図、PL84)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1溝1	陶器 溝	+6 高台部片	①-②(4.0) ③-	灰物見えず。重。締。 還元。にぶい黄色。	内外面に淡褐色の透明釉あり。縦入りあり。割れ口消耗微。18世紀。京焼系。
1溝2	金属製品 楕円形板	+3 ①-②- ③(2.0)		銅主材。	平分で折れ曲がる。万延あて小判にしては横縦大き過ぎる。刻文など見えず。
1溝3	軟質陶器 浅吻	+16 口縁部片	①-②- ③-	白・黒色灰物含。並。 焼→中性さらに強へ。	外面上方から内面に横溝であり。内面に深ハゼあり。割れ口消耗あり。内耳部欠失。梅灰色。18世紀。小泉坑。
1溝4	陶器 溝	+17 体部片	①-②- ③-	灰物見えず。やや軽。締 中性。	内外面に透明釉。外面輪轆目あり。割れ口シャープ。18・19世紀。美濃。
1溝5	焼締陶器 楕鉢	+21 口縁部片	①-②- ③-	白色灰物含。重。締。 酸化。赤褐色。	内面に11条を単位とする印目あり。図表面左側に片口部の一部あり。割れ口消耗少。内面下方掘り磨耗浅くあり。17・18世紀。信楽。
1溝6	鉄製品 鏝	+9	長(16.0)cm, 幅2.5cm, 厚0.6cm, 重(32.6)g		調査時以降の欠損あり。層状剥落あり和鉄。茶褐錆。茎は酸化大のため。ぜんまい溝か目釘か不明。15世紀以降
1溝7	石製品 石墨	+5	長(2.7)cm, 幅0.5cm, 厚0.5cm, 重(1.1)g 石材・巖ろう石		削欠損あり。片小口は使用時丸みを帯びる。片小口の使用は浅い。横断面は正門に近い。唐薬後二次的な消耗は少ない。18世紀以降。国産。
1溝8	古銭	完存,+7	直径2.4cm, 孔長0.6cm, 重さ2.3g		銅主材。「寛永通宝」背文字なし。初鋳1626年。国産。
1溝9	古銭	完存,+3	直径2.45cm, 孔長0.6cm, 重さ2.3g		銅主材。「寛永通宝」や薄肉。額文字。初鋳1626年。国産。
2溝1	磁器 溝口	フタ土 口縁部片	①(5.0)②- ③(3.5)	灰物見えず。重。締。 還元。	外面緑色下絵輪。内面白磁輪。割れ口シャープ。20世紀。国産。
2溝2	軟質陶器 端	フタ土 耳部片	①-②- ③(3.3)	灰物含。やや重。硬。 還元後焼。灰色。	内外面焼か。内面に珉面の紋あり。割れ口少し消耗。17・18世紀。国産。
2溝3	土製品 鉢型	フタ土 蓋部片	①-②- ③-, 重50g	灰物含。スサ多。軽。 軟。酸化にぶい黄褐色。	外面黒い。内面に白土化粧層かに残存。貫通する2孔あり。割れ口消耗大。時期不明。島内。
2溝4	鉄製品 釘	フタ土	長(2.6)cm, 幅(0.6)cm, 厚(0.5)cm, 重(1.0)g		下方欠損。上方調査時以降欠損。茶褐色。縦方向に磨耗微あるが和鉄か不明。19世紀以前。
2溝5	鉄製品 不明	+10	長17.0cm, 幅4.5cm, 厚1.0cm, 重(53.8)g		割れ込み大きく洋鉄。茶褐錆色。目穴2穴あり。19世紀→現代。
2溝6	生産関連 刷淨	-1	長さ5.9cm, 幅6.1cm, 厚2.5cm, 重94.2g		缸状のまま。鉄固達。重い。茶褐錆色。伊底面形状を伴う楕形淨。厳治淨。18世紀以前。
2溝7	生産関連 洗淨	+10	長さ4.5cm, 幅2.5cm, 厚1.8cm, 重27.7g		胎土。意識的か? 重い。酸化進まず。胸形さいに見えるが、小片のため不明瞭。18世紀以前。
3溝1	磁器 1 染付碗	フタ土 体部→底片	①-②- ③-	灰物見えず。重。締。 還元。	外面に墨刷印あり。内・外白磁輪。割れ口シャープ 19世紀後半。肥後系。
3溝2	陶器 鉢	+2 底部片	①-②(16.0) ③(2.8)	灰物見えず。やや軽。締 中性。オリーブ黄色。	高台部を除き淡褐色釉施す。内面にトチン割。割れ口消耗あり。18・19世紀。美濃。
3溝3	古銭	完存, フタ土	直径2.3cm, 孔長0.6cm, 重さ2.2g		銅主材。「寛永通宝」。やや薄肉。額文字初鋳1626年。
3溝4	鉄製品 釘	+13 完存	長(11.8)cm, 幅0.6cm, 厚0.6cm, 重13.8g		層状剥落と割れのため和鉄。暗褐色。曲がりあり使用釘。良残存。
4溝1	陶器 皿	+14 体部片	①-②- ③-	灰物見えず。重。締。 中性。灰黄色。	内面に白土と淡褐色による施釉あり。割れ口シャープ。18・19世紀。瀬戸・美濃。
5溝1	陶器 皿	フタ土 体部片	①-②- ③-	灰物見えず。重。締。 中性。	外面下方を除き施釉。釉は白土と淡褐色釉。割れ口シャープ。18世紀。瀬戸。

### 3) 水田 (第188図、PL64)

調査区南側で東西に走る色調の異なる畦畔状の痕跡を確認し、その痕跡及び段差から5面の水田区画を想定した。水田区画は調査区外に伸び、形状は不明である。

1号水田は北の区画とでは6cm程低く、境として段差が東西方向に伸びる。またこの段差と1号溝の接する部分に水口があり、1号溝端では色調の異なる畦畔の痕跡が確認できた。

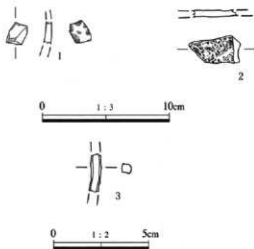
2号水田内には1号サク状遺構を検出した。南北方向に長さの異なる4条の溝状を呈する掘り込みを検出した。深さは2cm前後であり、As-Aの入るにぶい黄褐色土により埋没していた。

3号水田内の南壁際には14cm程の掘り込みを確認した。As-Aを含む酸化層下にAs-Aを多く含むにぶい黄褐色土が入る。

4号水田でも南端部に浅い筋状の掘り込み数条を確認した。

表55 E-2区第1面-1 水田計測

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(57.5)	(10.6)	(10.2)	1
2	(364.0)	(27.5)	16.3	-
3	(87.4)	17.5	(5.6)	-
4	(26.6)	(8.7)	(5.7)	-
5	(50.4)	(10.2)	(6.0)	-



第193図 E-2区第1面-1 水田内出土遺物

E-2区第1面-1 水田内出土遺物観察表(第193図、PL86)

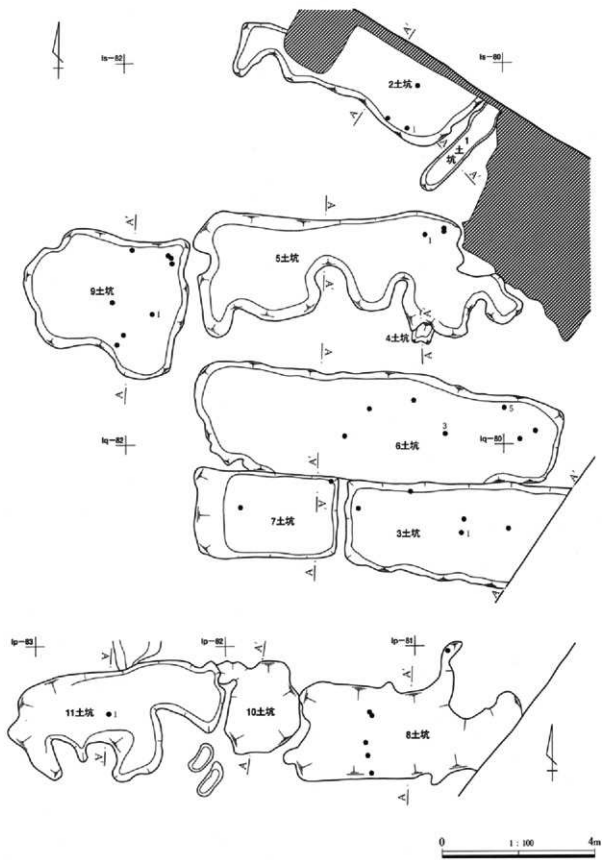
No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	磁器 染付小碗?	1区画,+10 漆部片	①-②- ③-	胎物なし。重。締。還元	内外面に染付施文あり。割れ口消耗較。肥前系。19世紀後半。
2	軟質陶器 内耳浅碗	1区画,+6 漆部片	①-②- ③-	胎物微。軽。並。志還元 外面施。	底部外面に型彫痕。内面に横線で割。割れ口消耗少。小泉 流。18・19世紀。
3	鉄製品 釘	1区画,+11	長径2.0cm, 幅0.6cm, 厚0.5cm, 重(1.0)g		調査時以降欠損。茶紫色。縦方向に磨削れ。古代鉄か相鉄 か不明。全体に曲がりあり使用釘。19世紀以前。

### 4) E-2区土坑

本面で検出された土坑は、1号溝東、1号水田の北に集中して確認されている。1号・13号・14号土坑が長円形を呈し、3号・6号・7号土坑が長方形状を呈し、8号・9号土坑はやや形状が崩れる長方形状をする。その他の2号・5号・10号・11号土坑は不定形である。これらの土坑は掘り込みも浅く、As-Aを多く含む埋没土であり、灰掻きのための土坑の底面の残りとも考えられるが、灰掻き用では他の調査区と形態が異なるため灰掻き用に掘られた物ではないと考えられる。場合に寄れば圃場整備時の重機による作業痕の可能性も考えられる。

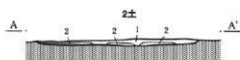
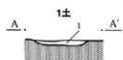
表56 E-2区第1面-1 土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
1	1r-80	(287)	47	6	溝状	N-43°-E
2	1r-80	608	82	5	不定形	N-61°-W
3	1p-80	(532)	224	55	長方形	N-86°-W
4	1q-80	(53)	53	5	不明	N-3°-E
5	1q-80	865	59	4	不定形	N-87°-W
6	1q-80	971	227	4	不定形	N-4°-E
7	1p-81	383	213	9	長方形	N-3°-E
8	1o-81	(529)	218	7	不定形	N-88°-W
9	1q-82	434	260	9	不定形	N-6°-E
10	1o-81	270	145	7	不定形	N-28°-E
11	1o-82	539	123	15	不定形	N-89°-W
12	1n-83	130	125	90	円形	N-87°-E
13	1o-82	79	40	10	楕円形	N-37°-E
14	1o-82	97	37	15	楕円形	N-35°-E
15	1m-88	(463)	214	11	隅丸長方形	N-85°-E

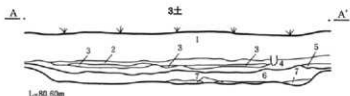


第194图 E-2区第1面-1土坑(1)

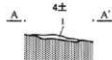




1. 灰黄褐色土 砂質土。As-A軽石を全体に含む。  
2. 褐色土 砂質土。鉄分を多く含む。



1. 現代の耕作土。盛土。  
2. にぶい黄褐色土 砂質土。As-A軽石を微量に含む。  
3. 褐色土 砂質土。酸化層。As-A軽石を微量に含む。  
4. 灰黄褐色土 砂質土。As-A軽石を微量に含む。鉄分を含む。  
5. 黄褐色土 砂質土。酸化層。As-A軽石を微量に含む。  
6. 灰黄褐色土 砂質土。As-A軽石を全体に含む。鉄分を含む。しまりあり。  
7. 褐色土 砂質土。鉄分を多く含む。しまりあり。



1. 灰黄褐色土 砂質土。As-A軽石を全体に含む。



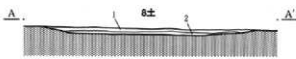
1. 灰褐色土 砂質土。As-A軽石を全体に含む。鉄分を含む。しまりあり。



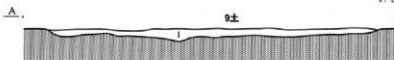
(6号土坑)  
1. 灰黄褐色土 砂質土。As-A軽石を多量に含む。  
2. 褐色土 砂質土。鉄分を多く含む。



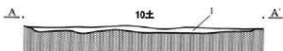
(7号土坑)  
1. 灰黄褐色土 砂質土。As-A軽石を多量に含む。  
2. 褐色土 砂質土。鉄分を多く含む。



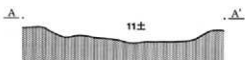
(8号土坑)  
1. 灰黄褐色土 砂質土。As-A軽石を多量に含む。  
2. 褐色土 砂質土。鉄分を多く含む。



(9号土坑)  
1. 灰黄褐色土 砂質土。As-A軽石を多量に含む。



(10号土坑)  
1. 灰黄褐色土 砂質土。As-A軽石を多量に含む。

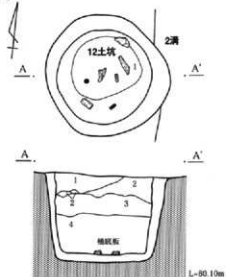


L=80 20m  
0 1:40 1m

第195図 E-2区第1面-1 土坑断面

12号土坑 (第184・196図、PL65)

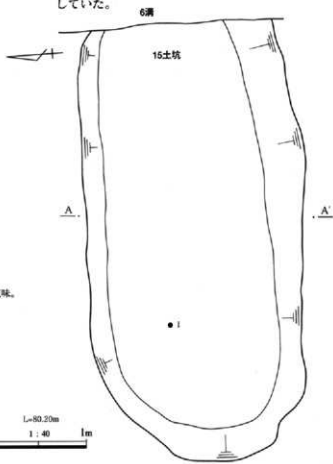
調査区南寄り2号溝脇で検出され、径1.3m、深さ94cmの掘り方を持つ円形土坑である。内部に径1mの桶が埋め込まれ、底面には桶底の一部が出土していた。



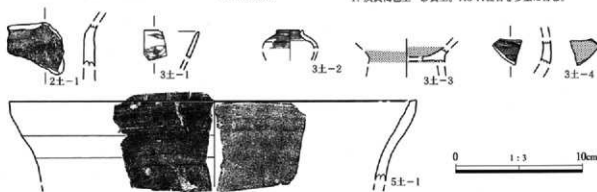
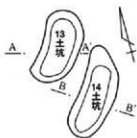
1. 灰黄褐色土 粗質。As-A粒入る。やや還元気味。
2. にぶい黄褐色土 粗質。As-A量多い。やや酸化気味。
3. 灰黄褐色土 粗質。As-A粒入り、やや還元気味。
4. 下層土ブロック凝土(裏込め)。

15号土坑 (第184・196図、PL64)

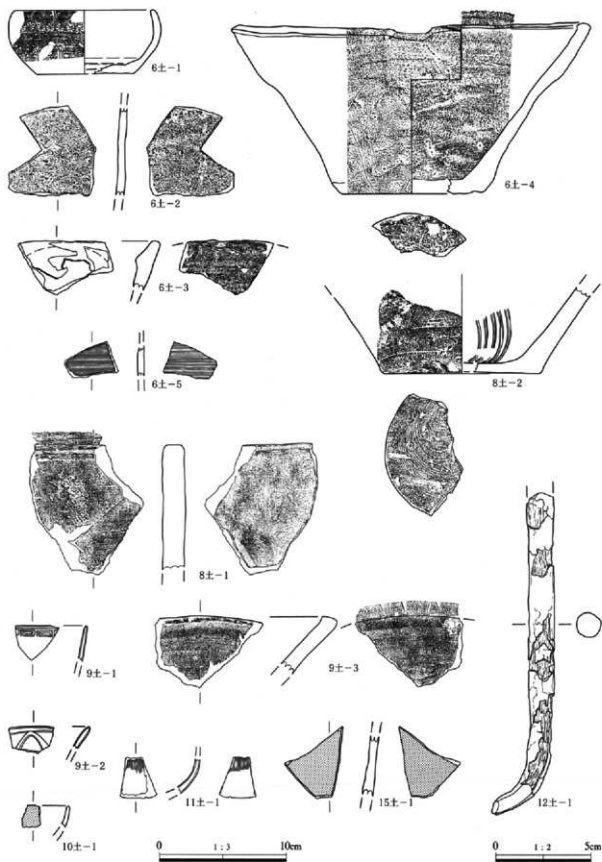
調査区南西隅の6号溝と7号溝が交差する南脇で検出した。長軸が東西方向に向く、長辺4.6m、深さ10cm程の長円形土坑である。底面は凹凸が見られ、埋没土中にはAs-Aを含む砂質の明黄褐色土が堆積していた。



- (13~15号土坑)
1. 灰黄褐色土 砂質土。As-A軽石を多量に含む。



第196図 E-2区第1面-1 土坑(2)・土坑出土遺物



第197图 E-2区第1面-1 土坑出土遗物

E-2区第1面-1 土坑出土遺物観察表(第196・197図, PL85)

No.	器種 器形	出土位置 機 存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
2	軟質陶器 内耳瓶?	+2 体部片	①-②- ③-	黒色紅物合。軽。並。中 性から強へ。黒褐色。	上方の内外面に横溝で。器面離かかる。割れ口消耗大。16 世紀? 胎内。
3	磁器 1 染付小碗	+14 口縁部片	①-②-③-	紅物見えす。重。締。中 性。黒褐(外)灰白色(内)	外面に染め付け蓋文あり。白磁釉は白い。割れ口シャープ。 19世紀。肥前系。
3	鉄輪陶器 2 茶入	フタ土 口縁部片	①(2.2)②- ③(1.4)	紅物見えす。やや軽。締 中性。	外面に濃く薄い輪筋の輪飾あり。内外面横溝で回転糸痕 あり。割れ口僅か消耗。17・18世紀。瀬戸・美濃
3	鉄輪陶器 陶?	フタ土 底部片	①-②- ③(1.2)	紅物見えす。重。締。 焼割酸化。	割れ口を除き全面施釉。釉は黒みおび薄い。割れ口僅か消 耗。17~19世紀。国産。不明。
3	鉄輪陶器 徳利?	フタ土 体部片	①-②- ③-	紅物見えす。重。締。中 性。黒褐(外)灰白色(内)	外面のみ銷蝕。内面輪飾目。割れ口シャープ。18・19世紀。 国産。不明。
4	軟質陶器 1 内耳瓶	+5 口縁部片	①(32.0)②- ③(6.4)	白・黒色紅物少。軽。並 還元へ面離へ。灰黄褐色	内面回転横溝で。外面離かかる。割れ口消耗少。15世紀。 西毛。
6	軟質陶器 香炉	フタ土 1/5	①(11.0)②(7.6) ③5.0	黒色紅物少。やや軽。硬 還元から強へ。暗青灰色	内外面輪飾回転横溝で。外面上方に7弁の印花文あり。さら に小窪ハゼあり。内面整形良残存。割れ口消耗少。15世紀。 胎内。
6	軟質陶器 湯?	フタ土 体部片	①-②- ③(6.8)	黒色紅物合。雲母粒合。 重。硬。還元。灰色。	外面に横溝で。指圧痕。帯付着。内面横溝であり。割れ口 消耗少。15・16世紀。藤原以南。
6	軟質陶器 土 口縁部片	-1 ③-	①-②- ③-	黒色紅物少。軽。並。弱 酸化から弱焼へ。灰色。	内面に内耳付着痕あり。外面上方横溝で。割れ口消耗大。 18世紀後半。小泉焼。
6	軟質陶器 鉢	フタ土 1/4	①(28.4)②(11.4) ③(13.3)	黒色紅物合。白色紅物少 やや重。硬。還元焼。 灰黄褐色。	指1 本分の輪の片口部あり。内面磨耗。底面糸切り痕見 えず外面下方指圧痕。口縁付近内外横溝で。割れ口少し消耗。 15世紀初。飯沼山。
6	胎輪陶器 徳利?	-6 体部片	①-②- ③-	紅物見えす。重。締。 還元。	外面に掻目。内面に工具による輪飾目あり。釉は薄い割れ 口消耗あり。18世紀。不明。
8	瓦 1 粒瓦	フタ土 破片	長(10.2), 幅(9.0) ①(1.6)	白色紅物合。やや重。 硬。還元から強へ。	器面に雲母粒付着。割れ口消耗少。19・20世紀。藤原?
8	陶器 2 擦鉢	フタ土 底部片	①-②(12.2) ③(6.7)	白・黒色紅物。軽。並。 弱酸化から弱焼。灰黄色	内面に5条単位の節目あり。内面使用磨耗あり。底面糸切 り痕。割れ口消耗大。15世紀後半。飯沼山。
9	磁器 1 染付小碗	+10 口縁部片	①-②- ③(2.5)	紅物見えす。重。締。 還元。明青灰色。	外面に染付雲文帯あり。白磁釉は透明。割れ口シャープ。 19世紀後半。肥前系。
9	磁器, 青磁 碗	フタ土 口縁部片	①-②- ③(1.6)	紅物見えす。重。締。 還元。オリーブ灰色。	外面に蓮弁の刷文あり。青磁釉は薄く。発色淡く青白磁色。 14世紀。龍泉窯系。
9	軟質陶器 3 鉢	フタ土 口縁部片	①-②- ③(4.6)	白色紅物合。並。硬。 還元。灰色。	内面に横溝であり。口縁部使用消耗あり。内面側なし。割 れ口消耗少。15世紀。飯沼山。
10	鉄輪陶器 1 小碗	フタ土 口縁部片	①-②- ③-	紅物見えす。やや軽。締 還元。黒褐色。	内外面に薄い黒釉。胎土は白。割れ口消耗少。18世紀。瀬 戸・美濃。
11	陶器 1 小碗	+4 体部片	①-②-③(3.2)	紅物見えす。やや軽。締 還元。灰白色。	内外面の上方に頸須による淡青色の色付けあり。さらに透 明釉。割れ口消耗少。18世紀。美濃。
12	軟質品 1 棒状品	+7 棒状品	長(17.0)cm, 幅1.4cm, 厚1.3cm, 重(66.6)g		調査時以降の小損あり和鉄。芯状と皮状とに分かれ。皮状 が層状にならずに部分残存。15世紀以降。
15	鉄輪陶器 1 壺か壺?	+6 体部片	①-②- ③-	白色紅物合。重。締。 中性。灰黄褐色。	内外面に輪飾目と鉄輪施される。割れ口僅か消耗。 18世紀頃。国産。

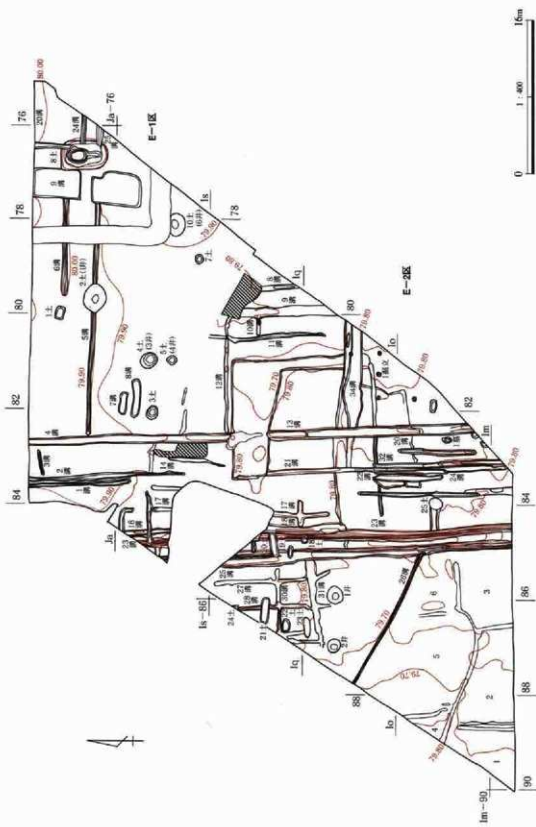
## 3. 第1面-2 (近世以降)の検出以降

本面は、第1面調査後明黄褐色・淡黄褐色砂質土の洪水層を掘り下げ、褐色土面直下で確認し調査面とした。本面では、両側に溝を持つ道路遺構や座標方向の東西南北縦横に掘り込まれた溝や井戸・墓坑や土坑、水田畦畔状の土質の異なる筋や段差を持つ区画などを検出した。

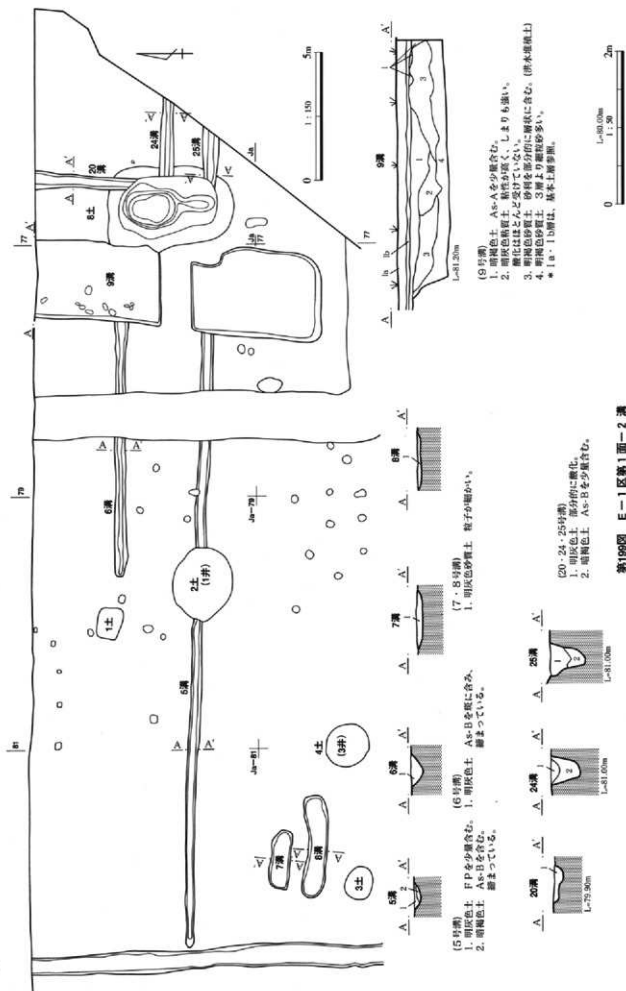
## (1) E-1区の検出遺構

## 1) 溝

調査区西寄りに1号溝(第204図, PL66)・2号溝(第204図, PL66)が接して検出され、その東3m強で同方向の南北方向に平行に伸びる4号溝(第204図, PL67)を検出した。1号・2号溝は接しており、埋没土観察では2号溝が1号溝を掘り込んでいる。各溝ともE-2区へ伸び、1号・2号溝は15号溝及び21号溝と同一溝と考えられ、4号溝はE-2区13号溝へつながると考えられる。2号溝と4号溝



第198号 第1面-2 全体图



の間に短く浅い3号溝(第204図、PL67)が検出された。5号溝(第199・204図、PL64)・6号溝(第199図、PL67)は、調査区中央部で平行して東西方向に伸びる。両溝とも屋敷堀に切られ9号溝と交わる。5号溝は4号溝と直交方向に西端部で近接するが、水口状に間が空き交わらない。中央部で2号土坑とした井戸に切られる。

7号溝(第199・204図、PL67)・8号溝(第199・204図、PL67)は、調査区南西寄りで東西方向に平行気味に検出した。形状は短く、長い土坑状をていする。両者とも掘り込みは浅く10cm弱を掘り、明灰色砂質土により埋没している。9号溝(第199図、

PL63)は、屋敷内の調査区北壁から伸び、幅広い長方形を呈する。断面台形状を呈し45cm前後の掘り込みを持つ。中層に明褐色のラミナ状堆積の洪水層を確認した。20号溝(第199図)・24号溝(第199図)・25号溝(第199図)も調査区北東端部の屋敷内で検出した。20号溝は南北方向に伸び、24号・25号溝は東西方向に平行に伸び、3溝は直交関係にあると思われるが8号土坑に切られ交差部は不明となっている。20号溝は掘り込みは10cm程であり、24号溝は40cm・25号溝は50cm程の深さに掘り込みまれ断面U字形を呈する。

表57 E-1区第1面-2溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長・m、幅・深さ・cm)				備考
				概観全長	上幅	下幅	深さ	
1	Jb-83 → I1-83	N-0°	0.08	10.5	30	18	10	2号溝と併走又は接する。2号溝に切られる。
2	Jb-83 → I1-83	N-0°	0.03	11.0	52	20	17	1号溝を切り、E-2区15号溝へとつながる。
3	Jb-82 → Jb-83	N-75°-E	0.04	2.6	30	20	6	2号溝と4号溝の間をつなぐよう東西方向に掘られた短かな溝。
4	Jb-82 → I1-82	N-0°	0.03	12.8	70	52	16	E-2区13号溝とつながる。5号溝と隙間を持ちT字に接する。
5	Ja-82 → Ja-77	N-88°-W	0.14	24.5	38	22	8	2号井戸・屋敷堀・9号溝に切られる。
6	Jb-77 → Jb-79	N-87°-E	0.08	10.2	42	14	8	5号溝北で併走し、屋敷堀で切られ9号溝と接する。
7	I1-82 → I1-81	N-63°-W	0.03	2.5	79	54	9	土坑状の短い溝。8号溝に近接。
8	I1-82 → I1-81	N-90°-W	0.08	4.0	75	55	6	土坑状の短い溝。7号溝に近接。
9	Ja-77 → Jb-77	S-0°	0.03	5.0	300	280	70	屋敷堀内、長方形の土坑状を呈し、2ヶ所に分かれる。
20	Ja-76 → Jb-76	S-0°	0.01	4.0	50	32	12	井戸状の8号土坑と交わる。
24	Ja-75 → Ja-76	N-80°-E	0.03	3.0	42	18	40	井戸状の8号土坑と交わる。25号溝と平行に走る。
25	Ja-76	N-80°-W	0.01	2.0	49	20	46	井戸状の8号土坑と交わる。24号溝と平行に走る。

## 2) E-1区土坑

### 1号土坑(第199・200図、PL65)

調査区北より中央部で検出した。長方形を呈し断面台形状を呈し、40cm程の掘り込みを持つ。

### 2号土坑(第199・200図、PL65)

調査区中央で検出し、5号溝と重複する。形状は長円形を呈し、深さ1.06mを測る。上方はボール状に掘り込まれ、下半は円筒形に掘り込まれる断面ロート状を呈する。掘り込みの規模・形状から井戸跡と考えられる。

### 3号土坑(第199・201・204図、PL66)

E-2区との調査区境寄りで検出した。形状は、上端やや長円形を呈するが、僅かな中段を持ち下端円形に掘り込まれる。深さは90cm程を測る。井戸跡の可能性も考えられる。

### 4号土坑(第199・201図、PL66)

調査区南寄り中央部で検出した。形状は、上端がやや長円形を呈するが、僅かな中段を持ち下端は円筒形に掘り込まれる。断面偏ったロート状を呈する。中位には大礫が出土している。埋没土中には下層地山ブロックが混在し、東方向から人為的に埋め戻された状況が窺え、形態から井戸跡と考えられる。5号土坑(第198・201図、PL66)

4号土坑南で検出した。形状は隅丸方形を呈し、深さ70cmの掘り込みを持ち、僅かな中段を持つ。4号土坑同様中断から下位は円筒形を呈し、断面ロート状を呈する井戸跡と考えられる。

7号土坑 (第201図、PL66)

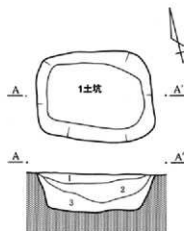
6号土坑南西部で近接して検出された。径95cm程の円形土坑であり、深さ72cmを測る。底面より20cm前後の礫が出土し、礫の中に板碑片も出土している。埋没土は地山ブロックを含む人為的な一括埋没土である。

8号土坑 (第199・202図、PL66)

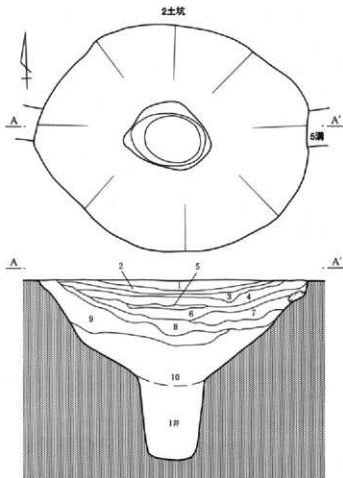
調査区北西隅の屋敷内より検出した。軸はN-3°-Wに向き、規模は長辺4.97m、短辺2.95m、深さ1.14mを測る最大規模の土坑である。中段にテラスを持ち、下部はオタマジャクシ状に張り込まれる。尻尾に当たる部分が底面より一段高く足場のような状況である。

表58 E-1区第1面-2土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
1	Jb-79	124	86	40	長方形	N-79°-W
2	Je-79	293	170	188	楕円形	N-85°-W
3	Jt-81	133	93	92	楕円形	N-68°-W
4	Jt-80	171	168	138	円形	N-85°-W
5	Is-80	105	100	150	円形	N-80°-W
7	Is-78	95	87	72	円形	N-28°-W
8	Ja-76	497	295	112	楕圓長方形	N-71°-W
9	欠番	-	-	-	-	-
10	Is-78	234	(154)	171	円形	N-76°-W

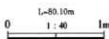


1. 暗灰色土 ブロック状の灰色粘質土を全体に含む。
2. 暗褐色土 A-S-A?軽石を全体に少量含む。
3. 黄褐色砂質土 A-S-B軽石を全体に含む。粒子が細かく粘性が低い。

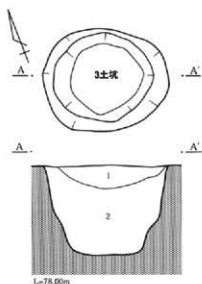


1. 褐色土 φ2~3mmのF.P軽石をまだらに含む。
2. 暗灰色土 φ2~5mm程度のF.P軽石を少量含む。下部は鉄分が沈着しており締まっている。
3. 灰色粘質土 部分的に鉄分が沈着している。粘性が高い。
4. 褐色土 φ5~10mm程度のF.P軽石を少量含む。
5. 黄褐色砂質土 細かい粒子の砂質土。
6. 暗褐色土
7. 褐色土 下部に鉄分の沈着が見られる。
8. 明灰色粘質土 部分的に鉄分の沈着が見られる。粘性が高い。
9. 褐色土 部分的に鉄分の沈着が見られる。締まっている。
10. 明灰色粘質土 部分的に鉄分の沈着が見られる。粘性が高い。

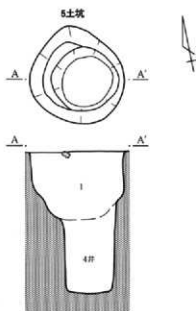
第200図 E-1区第1面-2土坑(1)



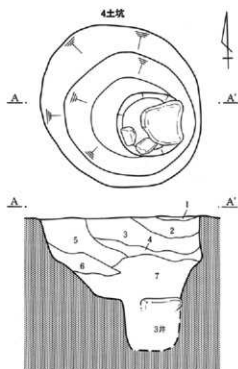




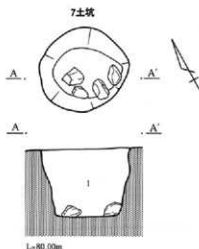
1. 暗褐色土  $\phi$ 10mm程度までのF.P.軽石をわずかに含む。
2. 明灰色土 1層同様、層全体がまばらに酸化を受けており、土質も粒子が細かくさらさらした感触。F.P.軽石も $\phi$ 5mm程度のを僅かに含む。遺構検出面の土と同一のものと見られる。地山?



1. 暗灰色土  $\phi$ 1mm程度のF.P.軽石を少量含む。粒子が細かくさらさらした感触がある。



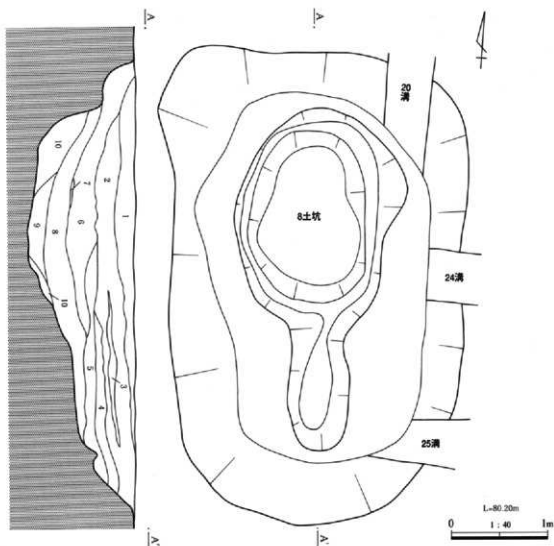
1. 明灰色土 層中にF.A・F.P.を多く含み、黒色粘質土も僅かに含む。
2. 明灰色土 ごく細かなF.A・F.P.配布を少量含む。
3. 黒色粘質土 黒色粘質土ブロック。B層土、F.A、F.P.を概に含む。
4. 灰褐色粘質土 F.Aをブロック状に含む。
5. 明灰色土 F.P.粒も僅かに含む。F.Aをブロック状に含む。
6. 明灰色土 F.A、黒色土を含み、5層よりもみだれている印象を受ける。
7. 明灰色土 1~6層の土より粒子が細かくさらさらした印象。



1. 暗灰色土 一括埋土。F.A、黒色粘質土をブロック状に含む。周囲の地山(遺構検出面)と比べ、さらさらした感触がある。

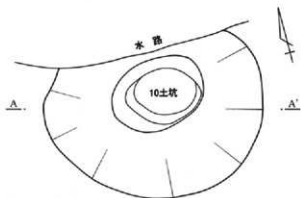


第201図 E-1区第1面-2 土坑 (2)



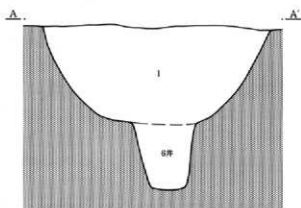
1. 暗灰色土  $\phi$  3mm程度までのF P軽石を多く含む。
2. 暗灰色土 1層と同質だがF P軽石の混入が少量である。
3. 暗灰色土 全体にかなり酸化をうけている。F P軽石の混入も見られる。
4. 暗灰色土 1層と同質だが1・2層に比べ酸化の度合いが強い。しかし、3層ほどではない。F P軽石の混入もごく僅かとなる。
5. 暗灰色粘質土 かなり粘質を持つ。
6. 暗灰色粘質土 5層に比べ粘性は多少弱い。
7. F A泥流土 暗灰色土を含みカラン状に混入している。
8. 暗灰色粘質土 層上部に酸化をまだらにうける。
9. 灰色粘質土 粘性が非常に強い。
10. 暗灰色粘質土 粘性が非常に強い。ただし細かな粒子も層中に含み多少ざらついている。

第202図 E-1区第1面-2土坑(3)

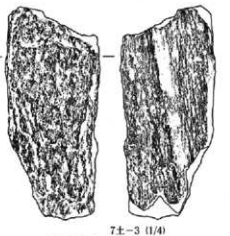
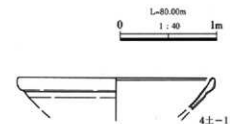


10号土坑 (第203図、PL66)

屋敷跡跡南辺外側に接し検出した。径2.34mの円形を呈し、上方は深さ1m程のボール状に掘り込まれ、下部は円筒形に掘り込まれる。断面ルート状を呈する。



1. 暗褐色土 φ2~5mm程度のF.P.粒石を少量含む。



第203図 E-1区第1面-2 土坑及び出土遺物

E-1区第1面-2 土坑出土遺物観察表(第203図、PL84)

No.	器種 器形	出土位置 埋存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
4土 1	磁器、白磁 碗	フク土 口縁部片	①(15.4)②- ③(2.5)	鉱物見えず。重。締。 還元。灰オリーブ色。	白磁輪は薄く、貫入あり。胎土は少し灰色がかる。割れ口 シャープ。12世紀。中国。
7土 1	歌賀陶器 内耳地	フク土 口縁・耳部片	①-②- ③-	白・黒色鉱物含。やや重 銅酸化~弱燻へ。	内面に内耳胎付凸柄接合か。外面煤付着。割れ口消耗あり。 陶灰色。15世紀前半。巖倉山。
7土 2	歌賀陶器 碗?	フク土 体部片	①-②- ③-	黒色鉱物含。雲母粒含。 重。硬。還元。	E区6土坑5と同一個体か?外面に煤付着。割れ口の消耗少。 15・16世紀。藤岡以南。
7土 3	石製品 飯俵	フク土 下部部	長(22.5)cm,幅(10.1)cm,厚(2.4)cm 重(865)g	石材:緑色片岩	種子等不明。2号井戸出土No2と同一個体。

## (2) E-2区の検出遺構

### 1) 2号道路遺構 (第204・208図)

調査区中央部を南北方向に縦断する。上面の1号道路遺構より1グリッド分西に寄り、両脇には23号溝と25号溝が平行に走る。両溝を側溝として考え、幅員は2.4m、路面幅は1mを測る。本遺構は検出面より23cm前後上位の層より確認でき、23号溝底面より80cm弱の高低差がある。路面の硬化面は複数面あることを確認した。調査区北では18号～20号土坑が路面を掘り込み作られている。

### 2) 溝

調査区北東端で検出された溝群では、8号溝 (第207図、PL69)・9号溝 (第207図、PL69)・11号溝 (第207図、PL69) が南北方向に走る。この3条は掘り込みが浅く褐色土色により埋没している。9号溝北端は攪乱を受けているが、細く浅い12号溝 (第207図) と直角に交わり、また掘り込みの浅い10号溝 (第207図、PL69) も途中から11号溝と接するように直交方向に分岐する。

#### 13号溝 (第204・207・209図、PL69)

南北方向に直線的に伸び、14cmの高低差で南に傾く。深さは16cm前後を測り、褐色及び黄灰色砂質土により埋没し、断面船底状を呈する。南端部で馬骨が出土し頭骨が上流側に1.6m離れ出している。

調査区中央北寄りでは掘り込みが2cmと浅く短い14号溝 (第204図、PL70) を検出した。15号溝はE-1区の2号溝の延長であり、更に南で検出した21号溝と延長上でつながる。16号溝は上面の1号道路遺構の側溝と考えられる2号溝と重なり、南で検出した19号溝と方向的に同じ延長上にある。17号溝 (第204図、PL70)、18号溝 (第204図、PL70) は2号道路遺構東側を南北方向に平行気味に走り、18号溝は南端で西に曲がり、土坑・溝集中区域に入る。

調査区中央南寄りで検出された19号溝 (第204図、PL71) 2cm程の浅い掘り込みであり、16号溝へとつながる。20号溝 (第204図、PL71) 深さ14cm程の断面丸底状を呈し、灰黄褐色砂質土で埋没する。

21号溝 (第204図、PL71) 北側延長部分に前述の15号溝があり、東側にも32号溝を切り検出され、高低差はほとんど無い。22号溝 (第204図、PL71) 21号溝に接するように検出した短く、底面の凹凸のある溝である。32号溝 (第204図、PL71) 21号溝に同一方向に接し、切られている。高低差は29cmと傾斜を持ち途中に2段の段差を持つ。

#### 23号溝 (第204図、PL70)

25号溝と共に2号道路に伴う溝と考えられ、道路遺構に東側を併走しながら南北方向に走る。掘り込みは路面から74cmと深く、断面U字形を呈する。土層観察では幾度かの掘り直しが見られ、底面付近に流水による砂層の堆積が見られた。

#### 25号溝 (第204図、PL71)

23号溝と共に2号道路に伴う溝と考えられ、道路遺構に西側を併走しながら南北方向に走る。掘り込みは路面から44cmと深く、断面丸底状を呈する。土層観察では上層に盛り土状の堆積土が見られ、洪水砂のような黄褐色砂質土の堆積も見られた。

#### 26号溝 (第204図、PL71)

調査区西壁からN-50°-Wの方向に向き、25号溝に合流する。調査区内で唯一の座標方向に向かない溝である。

#### 27号溝～31号・33号溝 (第204図、PL71)

調査区中央西側で検出された溝群であり、方形に区画するような配置になっている。27号・28号・33号溝が2.4m間隔で南北方向に配置され、30号・31号溝が3.2mの間隔で東西方向に配置される。溝群内や周辺部に土坑・井戸が集中する。

#### 34号・36号溝 (第204図)

調査区東壁から東西方向に伸びる溝であり、36号溝は水田区画段差のように北側立ち上がりだけの検出であった。34号溝は深さ7cm程の方形に掘り込まれた溝であり、西端は細まりながら無くなる。37号溝 (第204図) は、34号溝南で東西方向に併走する。







- (1・2号溝)  
 1. 明灰色粘質土  
 2. 灰褐色土 鉄分の沈着が多い。



- (3号溝)  
 1. 明灰色土 多少粘性がある。



- (4号溝)  
 1. 灰褐色砂質土  
 2. 明灰色粘質土 帯状に鉄分沈着が見られる。  
 3. 褐色土 部分的に鉄分の沈着が見られる。



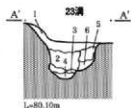
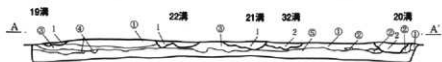
- (14号溝)  
 1. 褐灰色土 砂質。柔らかい。しっとりしている。酸化。



- (13号溝)  
 1. 褐色土 砂質。  
 2. 灰褐色砂質土  
 3. 褐色土 砂質。  
 4. 黄褐色砂質土。  
 5. 褐灰色土 砂質。

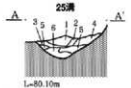


- (19~22・32号溝)  
 1. 褐灰色土 砂質。  
 2. 灰黄褐色砂質土  
 ①. 褐灰色砂質土 淡黄褐色砂質土との混入。  
 ②. 黄褐色土 細砂。  
 ③. 褐色土 砂質。  
 ④. 黄灰色土 砂質。As-B全体に混入。B混入に近い状態。  
 ⑤. As-B混入

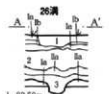


- (23号溝)  
 1. 褐灰色砂質土 柔らかい。酸化程度弱く上から下へ弱くなる。白色粒子(0.5mm大)微量混入。  
 2. 褐灰色砂質土 柔らかい。酸化度全体に弱く中層は強い。白色粒子(0.5~1.5mm大)少量混入。  
 3. 灰褐色砂質土 柔らかい。細砂。酸化度部分的に見られる。  
 4. 下層は砂利がブレンド。白色粒子(0.5mm大)微量混入。  
 5. 褐灰色砂質土 柔らかい。他層に比べて酸化色強く酸化程度弱くに入る。白色粒子(1mm大)少量混入。  
 6. 灰褐色土 As-B混入。酸化影響大。黒褐色に変色見られる。S層ブロック混入。

L=80.10m



L=80.10m



L=80.50m



- (26号溝)  
 1. 黒褐色土 現代の耕作土。  
 2. にぶい黄褐色土 1層よりも粘性や強い。  
 3. 灰黄褐色土 砂質土。鉄分凝固が見られる。軽石を微量に含む。  
 \* 1a~1b層は、基本土層参照。

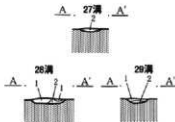
- (25号溝)  
 1. にぶい黄褐色土 砂質。柔らかい。酸化(微細)斑ブレンド。白色粒子(0.5mm大以下)微量混入。  
 2. 黄褐色土 砂質。柔らかい。酸化斑ブレンド。  
 3. にぶい黄褐色土 1層に同じく酸化より強い。白色粒子(0.5~1mm大)全体に少量混入。  
 4. 褐灰色砂質土 酸化色強い。白色粒子(0.5mm以下)多量全体に混入。  
 5. 4層より少し暗い色。As-B混入。白色粒子(1mm以下)多量混入。酸化斑あり。  
 6. 黒褐色土 As-B混入。酸化色強く、B軽石密度高い(上層に比べて)。



- (31号溝)  
 1. 灰黄褐色土 砂質。上下面酸化・還元気味。



L=80.50m



- (27~29・33号溝)  
 1. 灰黄褐色土 還元。粘性。  
 2. 明褐色土 酸化。粗質。砂質。

- (29・30・33号溝)  
 \* 1a~1b層は、基本土層参照。  
 1. 灰黄褐色土 粗砂質。還元味強い。

L=80.00m  
 1:50  
 0 2m

第205図 E-2区第1面-2 溝断面図

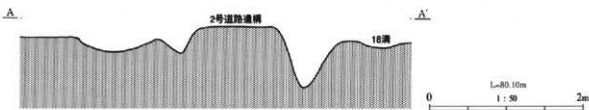
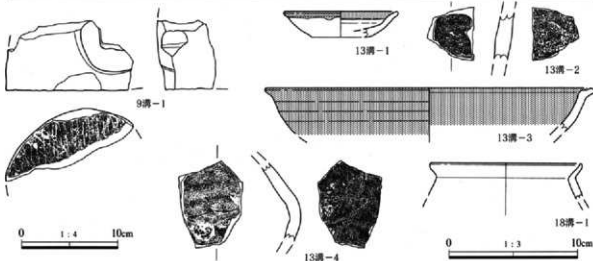


表59 E-2区第1面-2溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長・m・幅・深さ・cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅 深さ		
8	1r-79 → 1q-79	N-12°-W	0.07	4.4	59	15	7	9号溝と併走し、南北に伸びる。
9	1r-79 → 1q-79	N-4°-W	0.07	10.0	85	54	4	幅広い掘り込みの浅い溝。
10	1r-80	N-83°-E	0.08	2.0	30	18	14	9号溝と丁字に交わり、11号溝に接する。両溝をつなぐ様な溝。
11	1p-80 → 1s-80	S-3°-E	0.03	11.4	38	28	7	9号溝と併走する。12号溝に切られる。
12	1r-80 → 1r-82	N-87°-W	0	12.5	32	22	6	3号区西北を東西方向に走り9号溝へとつながる。
13	1t-82 → 1m-82	N-0°	0.13	33.0	110	88	16	E-1区4号溝とつながる。南端で馬骨1体出土。
14	1s-83 → 1r-83	N-11°-E	0.01	6.2	45	40	3	短く浅い掘り込みの溝。
17	1t-84 → 1p-84	N-2°-E	0.04	18.7	38	20	5	18号溝と併走する。
18	1p-84 → 1t-84	S-16°-W	0.19	24.5	60	37	10	2号道の側溝である。23号溝東で併走する。
20	1o-82 → 1m-82	N-3°-E	0.20	8.2	50	22	12	4号区画から発し、南北に走る溝。
22	1o-83 → 1n-83	N-0°	0.03	7.3	70	48	10	32号溝と併走する溝。
23	1t-84 → 1t-84	N-4°-W	0.02	39.4	100	20	48	2号道車側溝として掘られた溝。
25	1t-85 → 1t-84	N-2°-W	0.12	37.2	94	24	30	2号道西側溝として掘られた溝。28号溝が合流する。
26	1p-87 → 1o-86	N-65°-W	0.01	15.5	44	22	15	斜行する溝。25号溝と合流する。
27	1s-85 → 1q-85	N-6°-W	0.05	9.8	30	20	5	28号・29号溝と併走り、30号溝と直交する。区画溝。
28	1r-86 → 1p-86	N-5°-W	0.05	8.5	48	35	7	27号・29号溝と併走り、30号溝と直交する。区画溝。
29	1p-86 → 1q-86	N-6°-E	0.10	3.8	28	20	6	27号・28号溝と併走り、30号溝と直交する。区画溝。
30	1q-86 → 1q-85	S-84°-W	0.03	7.2	42	24	7	併走する27号~29号溝と直交する。区画溝。
31	1p-85 → 1p-86	N-80°-E	0.07	9.1	97	90	14	27~29号溝の南端を結ぶ。
32	1o-83 → 1t-83	N-2°-W	0.29	13.7	48	42	10	37号溝と丁字に交わり、4号区画を掘り込む。
33	1q-86	N-15°-W	0.05	2.8	32	14	6	30号溝と交差し、29号溝と併走する。
34	1o-80 → 1p-83	N-84°-W	0.01	15.0	180	110	11	13号溝に切られる。東側が幅広い溝になる。
36	1o-80	N-84°-E						34号溝北で横断し、4号区画の北辺にあたる浅い溝。
37	1o-81 → 1o-84	S-85°-W	0.04	16.3	32	12	10	4号区画内を横断する。13号・32号溝に切られる。

\*15号・21号溝は、1号溝掘り方とした。16号・19号溝は、2号溝掘り方とした。



第206図 E-2区第1面-2 溝出土遺物

E-2区第1面-2 溝出土遺物観察表(第206図、PL84・85)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・構成・色調	成・成形技法、器形の特徴
9溝	石製品	フタ土	径(13.5)cm, 厚さ・重さ(520.0)g		上白で、茶白色。挽手座・穴あり。
1	臼	破片	石材:粗粒輝石安山岩		



13溝 1	灰軸陶器皿	+6 口~底部片	①(9.1)②(4.6) ③(2.0)	紅物見えず。重。締。 還元。黄灰色。	口縁部周辺のみ灰軸を軸輪。底面未切り痕あり。割れ口消純あり。16・17世紀。瀬戸。
13溝 2	軟質陶器	+14 破片	①-②- ③-	細砂粒混。中性。並。 灰色。	内：模陶で。 外：未調査。
13溝 3	灰軸陶器鉢	+15 口縁部片	①(28.0)②- ③(3.5)	紅物見えず。重。締。 酸化。オリーブ黄色。	内外面に施軸。内面にヒツツキ跡。割れ口シャープ。14~18世紀。美濃。
13溝 4	焼締陶器	+4 体部片	①-②- ③(6.6)	白・黒色紅物少。やや軽 締。還元~酸化へ。灰色	上方に自然軸。内面強で痕と指圧痕。割れ口消純。13~15世紀。群馬。
18溝 1	土器器	+1 小笠部片	①(11.6)②- ③(2.8)	細砂粒僅少含。酸化。並 明赤褐色。	口縁部模陶で。頸部くの字に屈曲。

### 3) 水田・区画

区画 (第207・208図、PL87)

調査区中央において4~6cmの深さで長方形に1段下がった3号・4号区画を確認した。3号区画は長辺12m、短辺4~5mの広さを持つ。4号区画は長辺10m、短辺8mの広さを持つ。両者は東辺で1.2mの溝でつながる。

水田畦畔 (第208図)

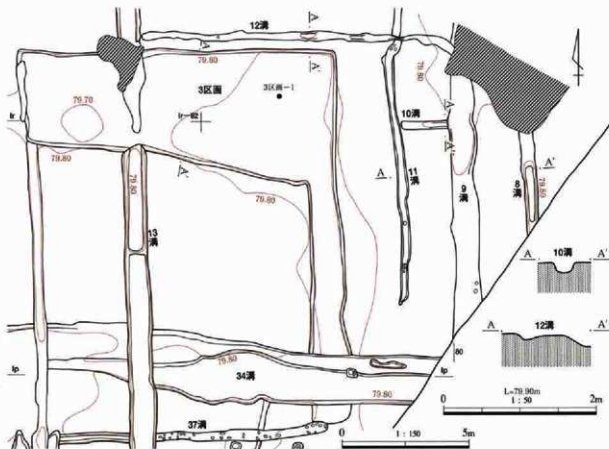
調査区南西隅で数々の土質の異なる畦畔状痕跡を確認した。南北方向の痕跡は座標に沿い、東西方向

の痕跡は湾曲する。

調査面である明黄褐色酸化面に、幅50cm前後の還元土壌気味の褐灰色土が東西南北に走ることから、畦畔状の高まりは確認できないが区画の痕跡と考え調

表60 E-2区第1面-1区画計測一覧

No.	面積 (m <sup>2</sup> )	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(29.4)	(7.3)	(6.4)	-
2	(45.4)	9.8	(6.0)	-
3	(40.5)	7.8	(5.5)	-
4	(6.8)	(4.0)	(2.6)	-
5	(69.8)	10.2	(7.7)	-
6	19.1	5.7	(3.8)	-



第207図 E-2区第1面-2区画・溝



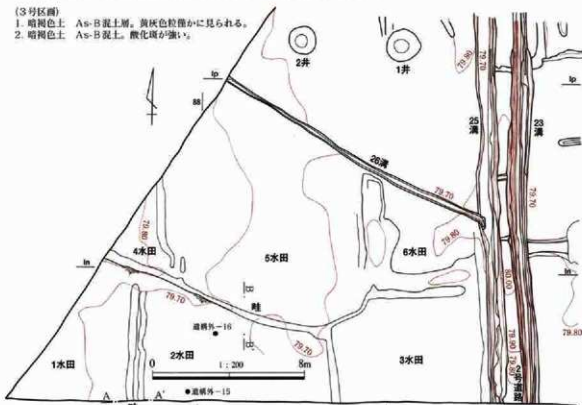
(8・9・11号溝)

1. 褐色土 砂質。A層石散見される。

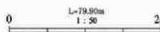
(3号区画)

1. 暗褐色土 A≒B混土層。黄灰色粒層かに見られる。

2. 暗褐色土 A≒B混土。酸化項が強い。



1. 褐色土 砂質。還元気味。
2. 黄褐色土 砂質。
3. 灰黄褐色土 砂質。還元気味。
4. 灰黄褐色土 砂質。還元気味。少し粘性あり。
5. 灰黄褐色土 砂質。酸化気味。
6. 黄褐色土 洪水層。

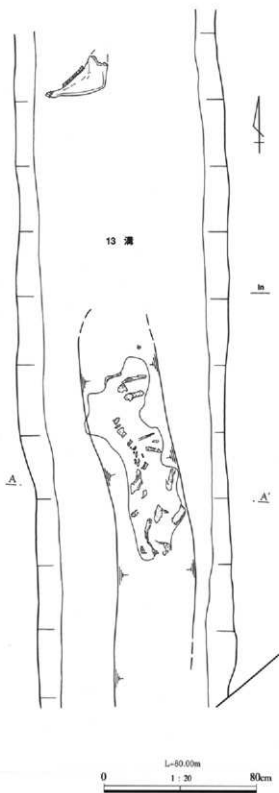
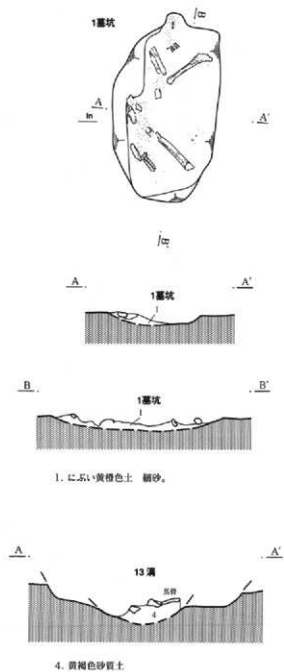


第208図 E-2区第1面-2水田・区画出土遺物

E-2区第1面-1 区画出土遺物観察表(第208図)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	陶器 甕	3区画 体部片	①-②- ③-	灰物含。やや軽。硝。 還元。	外面に淡緑透明調の自然釉。内面に黒てぬ。指圧痕。割れ口消耗少。フタあり。非常器。東海地方。13~15世紀。
2	灰質陶器 火鉢?	4区画 体部片	①-②- ③-	灰物含。軽。並。酸化。 にぶい橙色。	内面横線で痕。外面整形不明。割れ口消耗少。類内産。14~19世紀。

査を行った。区内には砂層の堆積が一部で見られ、耕作の痕跡は確認できなかった。この褐灰色筋は上下面でトレースされ、擬似畦畔状の痕跡が継続使用された区画境の痕跡かは不明である。



第209図 E-2区第1面-2 1号墓坑

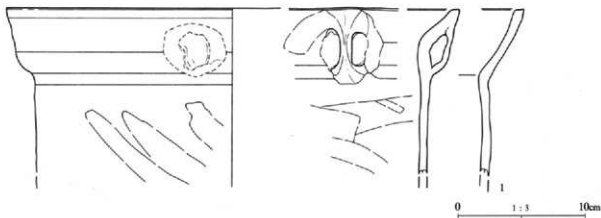
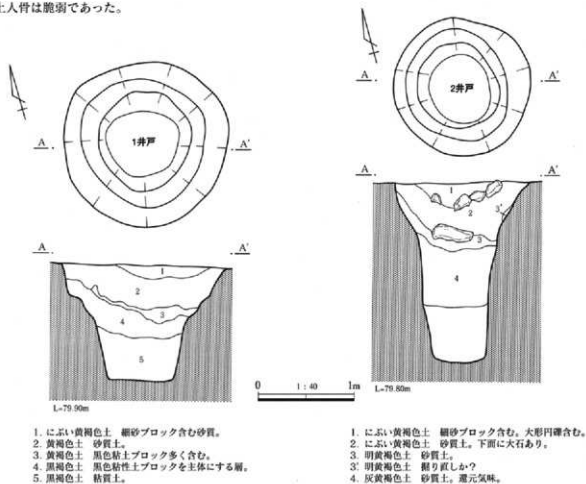
#### 4) 墓坑・井戸・土坑

##### 1号墓坑 (第209図, PL68)

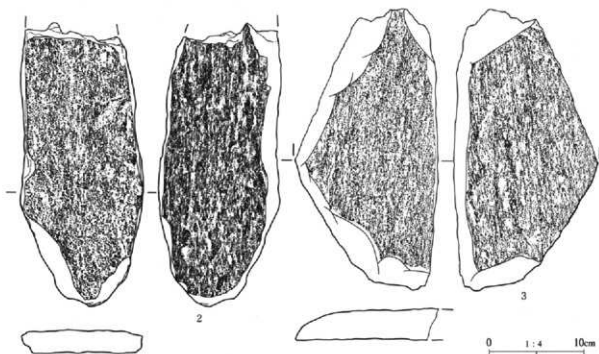
調査区南13号溝と20号溝に挟まれた空間で検出した。南北方向に長い楕円形状を呈し、掘り込みは浅く埋没土中にはふい黄褐色砂質土が見られた。出土人骨は脆弱であった。

表61 E-2区第1面-2井戸計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	方位
1	1p-85	174	172	120	円形	N-17°-E
2	1p-86	148	140	190	円形	N-28°-W



第210図 E-2区第1面-2井戸及び2号井戸出土遺物(1)



第211図 E-2区第1面-2 2号井戸出土遺物(2)

E-2区第1面-2 2号井戸出土遺物観察表(第210・211図、PL85・86)

No.	遺物種類	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②縦径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	軟質陶磁 内耳環	フタ土 1/3	①35.7②一 ③(15.0)	白・黒色磁物含。やや重 硬。還元。黄灰色。	内面耳部1ヶ所残。整形は指による撫でを主とする。耳部は 出柄と有孔接合らしい。外面磨面粗。撫で、煤付着。15世紀 末観音山。
2	石製品 板碑	フタ土 破片	長(29.9)cm, 幅(12.9)cm, 厚(2.5)cm 重1.9kg	石材：緑色片岩	下層部。種子等不明。7号土坑と同一個体?
3	石製品 板碑	フタ土 破片	長(29.7)cm, 幅(15.2)cm, 厚(3.4)cm 重2.31kg	石材：緑色片岩	種子等不明。

#### 1号井戸 (第210図、PL68)

調査区中央西寄りの方形に廻る溝群の南で2号井戸と共に検出された。中段を有し、深さ1.2mの断面ルート状を呈する。埋没土中には上層には洪水砂状のにぶい黄褐色砂質土が堆積し、下層は地山ブロック混土であり、一括埋没土と考えられる。

#### 2号井戸 (第210図、PL68)

調査区中央西寄りの方形に廻る溝群の南で1号溝と共に検出された。中段を有し、深さ1.9mを測り断面ルート状を呈する。埋没土中には上層には大深がレンズ状に確認でき、洪水砂状のにぶい黄褐色砂質土が堆積し、下層は地山ブロック混土であり、一括埋没土と考えられる。

#### 16号土坑 (第212図、PL68)

調査区南の東壁寄りで検出した。東西方向に向き深さ34cmを測り、断面逆台形状を呈する。

#### 17号土坑 (第212図、PL68)

13号溝南端の壁際で検出した。円形状を呈し、深さ20cm、断面逆台形状に覆り込まれている。

#### 18号土坑 (第212図、PL68)

23号溝及び道路遺構中央北寄りで、両者を掘り込む形で検出した。深さ10cmを測り、断面箱形を呈する。

#### 19号土坑 (第212図、PL68)

18号土坑北側で検出した。道路遺構及び25号溝を掘り込む。深さ6cmを測る。

20号土坑 (第212図、PL69)

2号道路遺構中央部に東西方向に横断する長方形の土坑である。深さ32cmを測り、断面側壁の内傾気味に立ち上がる。埋没土中にはふい黄褐色砂質土が堆積する。

21号土坑 (第213図、PL69)

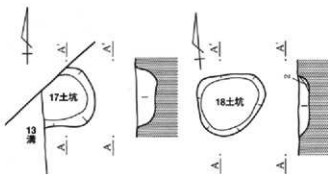
調査区中央西壁脇で検出した。21号土坑同様東西方向に向く隅丸長方形形状を呈する土坑であり、深さ38cmを測る。断面幅広U字形であり、埋没土中には地山ブロック混土の上に、ふい黄褐色砂質土の堆積が見られた。

22号土坑 (第212図、PL69)

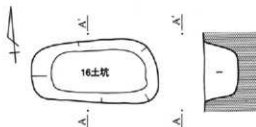
調査区中央西で検出された溝群内の一角に東西方向を向き検出された。深さ8cm程で断面皿状を呈す

表62 E-2区第1面-2土坑計測一覧

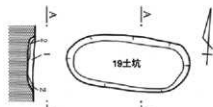
No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
16	1n-81	134	62	36	隅丸長方形	N-82°-W
17	1m-82	(56)	55	22	不明	N-89°-E
18	1p-84	73	63	13	円形	N-9°-W
19	1q-84	131	55	7	楕円形	N-3°-E
20	1q-84	255	71	40	長方形	N-11°-W
21	1q-86	273	83	33	隅丸長方形	N-84°-W
22	1q-86	135	81	8	楕円形	N-87°-E
23	1p-86	212	57	10	楕円形	N-87°-E
24	1r-86	(80)	(41)	83	不明	N-31°-E
25	1n-83	105	99	8	円形	N-73°-W
1墓	1m-82	189	105	15	楕円形	N-7°-E



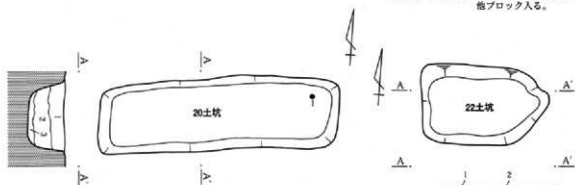
1. 褐灰色土 全体に酸化斑がブレンド(酸化強)。砂質。しっとりしていて軟らかい。



1. 褐灰色土 全体に酸化斑がブレンド(酸化強)。砂質。しっとりしていて軟らかい。



1. ぶい黄褐色土 砂質土。  
2. ぶい黄褐色土 As-B凝ブロックなど、他ブロック入る。



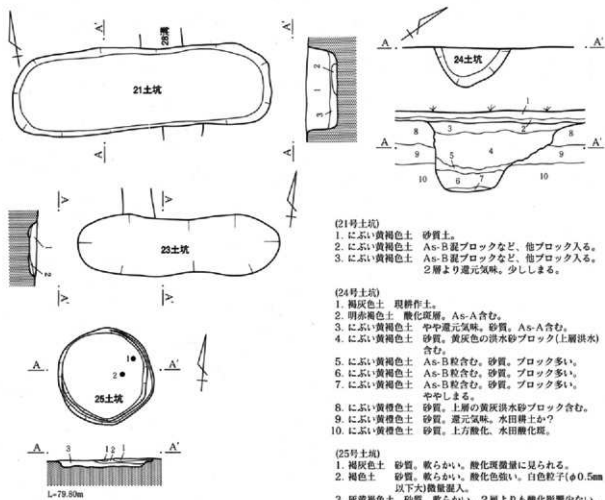
1. ぶい黄褐色土 砂質土。  
2. ぶい黄褐色土 As-B凝ブロックなど、他ブロック入る。  
3. ぶい黄褐色土 As-B凝ブロックなど、他ブロック入る。  
2層より還元気味。少ししみる。

(22号・23号土坑)

1. ぶい黄褐色土 砂質土。  
2. ぶい黄褐色土 As-B凝ブロックなど、他ブロック入る。



第212図 E-2区第1面-2土坑(1)

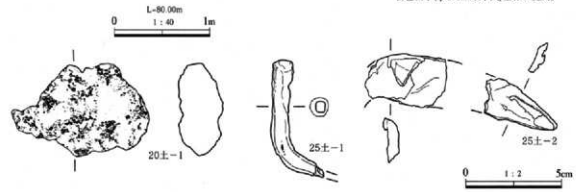


- (21号土坑)  
 1. にぶい黄褐色土 砂質土。  
 2. にぶい黄褐色土 As-B泥ブロックなど、他ブロック入る。  
 3. にぶい黄褐色土 As-B泥ブロックなど、他ブロック入る。2層より還元気味、少ししまる。

- (24号土坑)  
 1. 褐灰色土 現耕作土。  
 2. 明赤褐色土 酸化炭層。As-A含む。  
 3. にぶい黄褐色土 やや還元気味。砂質。As-A含む。  
 4. にぶい黄褐色土 砂質。黄灰色の洪水砂ブロック(上層洪水)含む。  
 5. にぶい黄褐色土 As-B粒含む。砂質。ブロック多い。  
 6. にぶい黄褐色土 As-B粒含む。砂質。ブロック多い。  
 7. にぶい黄褐色土 As-B粒含む。砂質。ブロック多い。ややしまる。  
 8. にぶい黄褐色土 砂質。上層の黄灰洪水砂ブロック含む。  
 9. にぶい黄褐色土 砂質。還元気味。水田耕土か?  
 10. にぶい黄褐色土 砂質。上方酸化。水田酸化層。

- (25号土坑)  
 1. 褐灰色土 砂質。軟らかい。酸化度微量に見られる。  
 2. 褐色土 砂質。軟らかい。酸化色強い。白色粒子(φ0.5mm以下大)微量混入。  
 3. 灰黄褐色土 砂質。軟らかい。2層より酸化影響少ない。白色粒子(φ0.5mm以下大)全体に混入。

第213図 E-2区第1面-2土坑(2)



E-2区第1面-2 土坑出土遺物観察表(第213図、PL85)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①長さ②幅③厚さ④重さ(g)	成・整形技法、器形の特徴
20上 1	生産関連 鉄滓	+21	①5.0②7.2cm③2.2④80.4	やや重。酸化進まず。①底面傾とどめる複形洋。鋸治洋。四平面は表面。18世紀以前。
25上 1	鉄製品 釘	+10	①(6.2)②1.0③1.0④(6.7)	先端部調査時以降の欠損。錆層に覆われ、古代。和鉄不明赤褐色錆。頭部折り曲げ。使用済み曲がりあり。時期不明
25上 2	鉄製品 鏝?	+8	①(9.5+α)②2.7③0.9④(12.0)	調査時以降の欠損大。扇状割傷と割れのため和鉄。尖状の破片は葉片か。片方に刃部があり、腰部が曲がるため鏝?15世紀以降。

る。埋没土はにぶい黄橙色砂質土である。

#### 23号土坑 (第213図、PL69)

調査区中央西で検出された溝群内の一角に東西方向を向き検出された。深さ8cm程で断面皿状を呈する。埋没土はにぶい黄橙色砂質土である。

#### 24号土坑 (第213図、PL68)

調査区中央西壁際で検出された。28号溝北端部にかかる。深さ75cmと深く掘り込まれ、断面U字状を呈する。埋没土はにぶい黄橙色砂質土である。

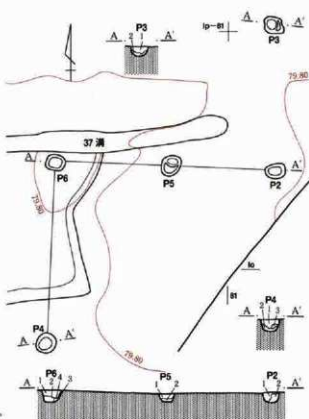
#### 25号土坑 (第213図、PL71)

調査区南寄りの12号土坑脇で検出された。1m前後の円形を呈し、8cmほどの浅い掘り込みをもつ。

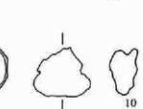
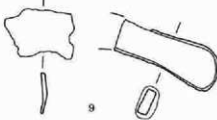
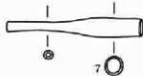
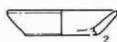
### 5) 掘立柱建物

#### 1号掘立柱建物 (第214図、PL67)

調査区東端36.375-67.500付近に砂いて検出した。東西方向に3本の柱穴が並び南北両端の柱穴から南



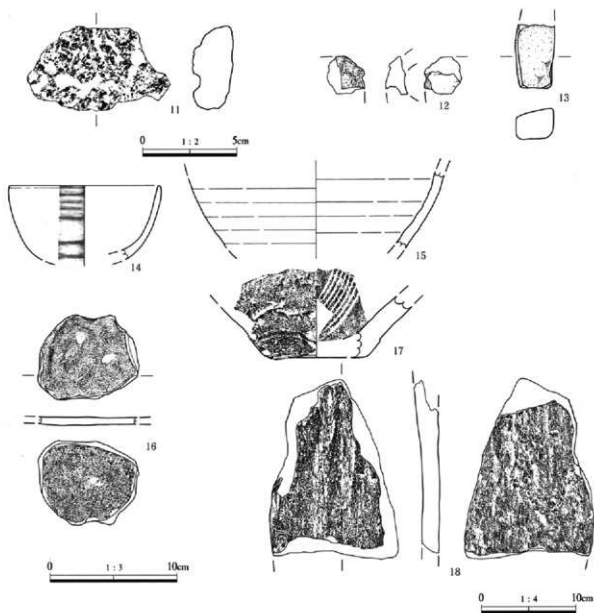
- 1. にぶい黄褐色土 砂質。
- 2. 黄灰色土 砂質。
- 3. 明褐色土 細砂。
- 4. 2層より、やや明るい色。



第214図 E-2区第1面-2 1号掘立柱建物

第215図 E-2区第1面 遺構外出土遺物(1)





第216図 E-2区第1面 遺構外出土遺物(2)

E-2区第1面 遺構外出土遺物観察表(第215・216図、PL86)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	磁器 色絵小碗	1m-86 口縁部片	①-②- ③-	磁物見えず。重。締。 還元。	外面染付一条。緑色下絵の施文。割れ口消耗少。 20世紀前半。肥前系。
2	土師質土器 皿	フタ土 口~体部片	①(8.8)②(5.8) ③(2.0)	磁物見えず。軽。並。酸化。 にぶい橙色。	内外面横撫で。割れ口消耗少。県内産。15~18世紀。
3	磁器、青磁 浅皿	1n-83 高台部片	①-②- ③-	磁物見えず。重。締。 還元。	高台端部を除き、やや良い青磁釉。胎土は、幾分灰色。高台 端部は鉄足状に酸化。割れ口消耗少。13・14世紀。龍泉窯。
4	陶器 德利	1t-63 体部片	①-②(9.0) ③(2.0)	磁物見えず。軽。締。 中性。	内外面に縦縞目あり。割れ口消耗少。18世紀。美濃。
5	石製品 石板	1q-82 小片	長(2.8)cm,幅(1.9)cm,厚0.3cm,重(3.0)g 石材：頁岩		黒色。表・裏平滑。割れ口消耗少。県外搬入。
6	軟質陶器 内耳埴?	フタ土 体部片	①-②- ③-	白・黒色磁物含む。並。 硬。外面焼。芯酸化気味	内面回転撫で。外面回転染付あり。割れ口消耗少。17世紀。 黒毛か?
7	銅製品 煙管	1m-87 吸口部	長7.2cm,幅1.0cm,厚1.0cm,重9.0g		銅土材。歯部に縦縞目あり。厚く下手。18・19世紀。

8	鉄製品 コマ	1p-86 完存	長3.0cm,幅3.0cm,厚1.1cm,重25.3g		クラック割れあり錆鉄。暗茶黒味のある錆。べい色茶。裏面左色き目。表面不明文様あり。19世紀後半以降(明治)。
9	鉄製品	1r-84	長(15.0+α)cm,幅(3.7)cm,厚(1.0)cm		重(36.9)g
10	生産関連 鉄滓	1p-85	長(2.6)cm,幅(3.0)cm,厚1.5cm,重15.2g		旧痕あり。鉄関連。重い。茶褐色錆化に覆われる。底部が床痕の丸みを残す塊形洋で鍛冶洋。18世紀以前。
11	生産関連 鉄滓	1o-87	長4.4cm,幅7.6cm,厚2.1cm,重97.3g		旧状のまま。鉄関連。重い。茶褐色錆化に覆われる。底部に少床痕の丸みを残す塊形洋で鍛冶洋。18世紀以前。
12	土製品 端部片	1m-84	①-②- ③(3.0)	白・黒色磁物含。軽。部 分分離。酸化気味。	
13	石製品 砥石	1r-82	長(5.0)cm,幅3.1cm,厚2.3cm,重(60.0)g	石材:砥沢石	中砥粒。片小口は旧時欠損。き目細う。手持親としてのクセ磨耗は左向き。使用は5回。
14	陶器 碗	11-83	①(12.0)②- ③(4.5)	磁物なし。重。締。還元	内外面磨蝕。割れ口消耗。瀬戸・美濃。18世紀。
15	磁器、白磁 耳壺	11-88	①-②- ③-	磁物なし。重。締。還元	磁胎は灰色。内外面に暗灰色厚手の白磁施。外面に回転長柄り内面に磨蝕目。内面に有機質汚れ付着。中国。13世紀。
16	軟質陶器 内耳壺	1m-87	①-②- ③-	磁物含。重。硬。芯外散 化。内面磨。にぶい黄粉	底面外に細砂付着。内面微で薄。磨作。割れ口消耗少。割れ口は打ちちぎ。二次加工か。西毛。15世紀後半~17世紀。
17	軟質陶器 摺鉢	11-83	①-②(8.6) ③(4.5)	磁物多。軽。差。還元。 外面磨。黄灰色。	内面に8条を単位とする節目あり。外面粗粒。底面の切り離し技法不明。内面下方使用磨耗。割れ口消耗大。西毛。15世紀中~後半。
18	石製品 板碑	表拝 基礎突起	長(18.9)cm,幅(13.7)cm,厚(2.7)cm 重975g	石材:緑色片岩	種子等不明。

北に1間の柱穴が伸びるが方形に圓わない。柱間は東西方向で2間、2.5mを測る。柱穴は隅丸又は円形を呈し、長辺30cm、深さ12cm前後の規模をもつ。

#### 4. 第2面-1 (中・近世) の検出遺構

##### (1) 第2面-1の概要

本面は、第1面から10cm前後掘り下げ、明黄褐色の酸化面として調査を行った。検出遺構は、溝・土坑の他、酸化面に褐灰色の還元気味土壌が筋状に東西南北方向に伸びるのを確認し、還元土壌に開まれた区画を確認した。

#### (2) E-1区 の検出遺構

##### 1) 溝

本調査区で検出した溝は10号から21号溝の11条であった。溝の走行は東西南北方向を基本とし軸線が延びるが、確認全長はどれも短く、浅い。埋没土中には明灰色の砂質土が堆積している。

##### 2) 土坑

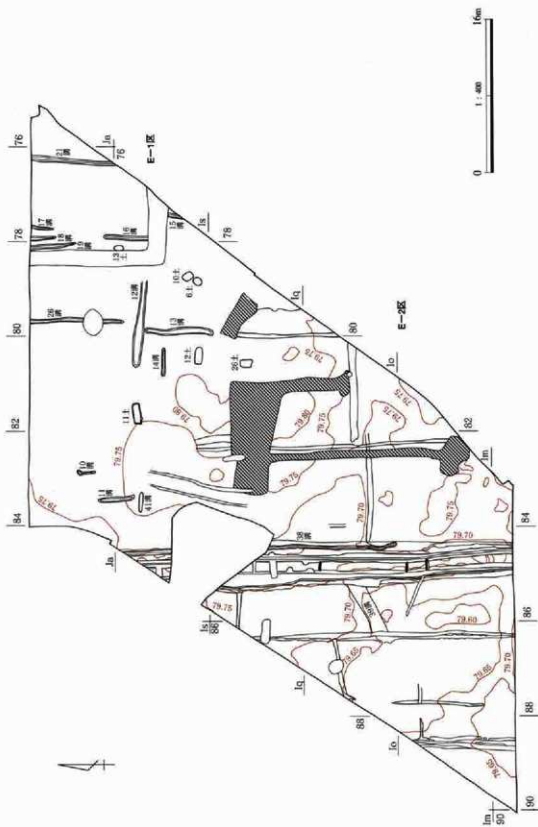
散在する4基の土坑を検出した。

##### 6号土坑 (第219図)

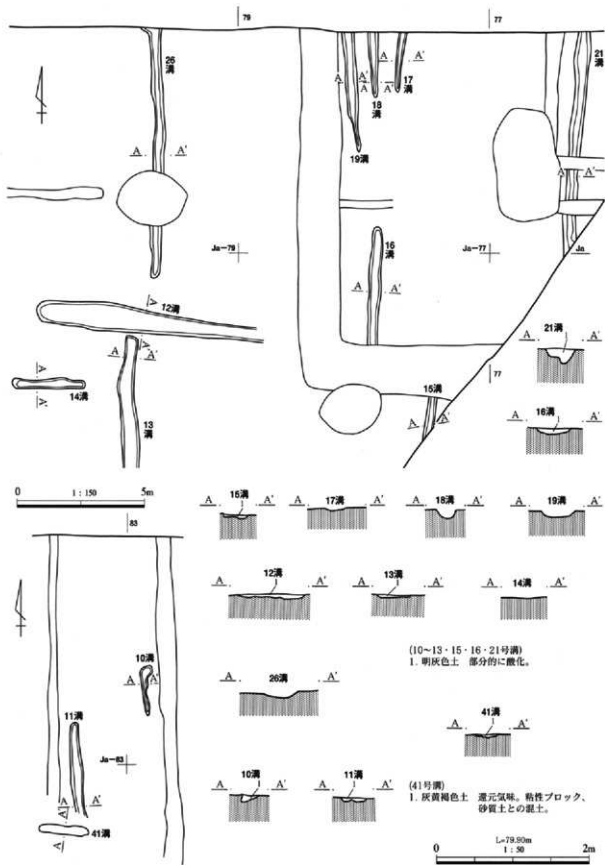
調査区南東寄り、7号土坑と接し検出した。N-30°-Wに向く墓坑である。形状は隅丸長方形を呈し、長辺1.8m、短辺9.8m、深28cm程の規模を

表63 E-1区第2面-1溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長・m,幅・深さ・cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅/深さ		
10	Ja-82	N-0°	0.05	2.2	24	12	短く浅い溝。	
11	Ja-83 → 11-83	N-0°	0.01	3.8	48	30	短く浅い溝。	
12	11-78 → 11-80	N-83°-W	0	9.0	90	70	6	13号溝とT字に接する。
13	11-79 → 11-79	N-2°-E	0	6.8	42	30	5	12号溝とT字に接する。E-2区側で畦状の痕跡と重なる。
14	11-80	N-90°-W	0.04	3.0	32	22	2	13号溝と直交方向の短い溝。
15	11-77	N-13°-E	0.01	1.4	39	20	5	屋敷南西隅から落ちる。
16	Ja-77 → 11-77	N-0°	0.01	4.8	46	30	8	屋敷南西隅内側で検出。短い溝。
17	11-77	N-8°-E	0.03	2.4	24	12	3	屋敷西側内側で18号・19号溝と平行に検出。
18	11-77	N-5°-W	0.04	2.6	40	20	10	屋敷西側内側で17号・19号溝と平行に検出。
19	Ja-78 → 11-78	S-7°-E	0.01	5.8	48	25	9	屋敷西側内側で17号・18号溝と平行に検出。
21	11-76 → Ja-76	N-0°	0.06	8.5	40	14	18	屋敷内で検出。20号溝と併走し、24号・25号溝に切られる。
26	11-79 → 11-79	S-0°	0.02	10.0	40	22	11	2号井戸に切られる南北溝。



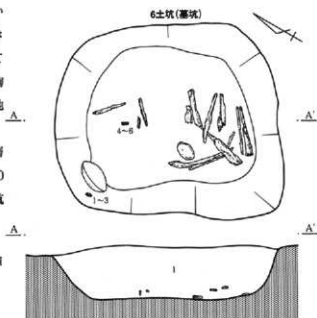
第217号 第2面-1 全体图



第218図 E-1区第2面-1 溝

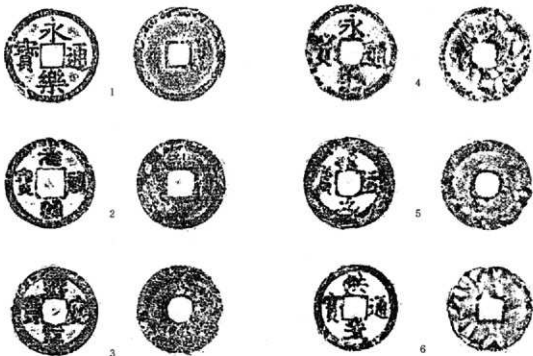
持つ。遺構内からは、人骨と古銭6枚が出土している。人骨は頭骨が北西隅で出土し屈葬状態で西向きに埋葬され、中央付近に径20cm程の円礫が出土している。古銭は永楽銭を含む3枚単位で頭骨部分と胸部当たりの2カ所でも出土している。埋没土は下層地山ブロックを含む一括埋没土である。

11号土坑(第220図、PL72)は、上面8号溝下層に当たり、東西方向に向く長方形を呈し、深さは10cm程と浅い。埋没土中にはAs-Bを含む。12号土坑



1. 暗灰褐色土 As-B軽石を微量に含み、灰色粘質土・黒色粘質土の小ブロックを混在する。

L=80.00m  
1:40  
0 1m



第219図 E-1区第2面-1 6号土坑及び出土遺物

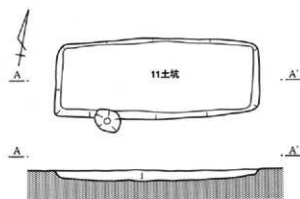
E-1区第2面-1 6号土坑出土遺物観察表(第219図、PL83)

No.	器種・器形	出土位置	残存	法量(cm)①直径②孔長③重さ(g)	成・整形技法、器形の特徴
1	古銭	+15	完存	①2.5②0.6③3.3	銅主材。「永楽通宝」。初鑄1408年。文字鮮明。中国。
2	古銭	結合	完存	①2.4②0.7③3.2	銅主材。「元符通宝」。初鑄1098年。中国。
3	古銭		完存	①2.3②0.65③3.1	銅主材。「應寧元宝」。初鑄1072年。中国。
4	古銭	+7	完存	①2.5②0.6③2.1	銅主材。「永樂通宝」。初鑄1408年。中国。
5	古銭	結合	完存	①2.4②0.6③2.7	銅主材。「元〇〇宝」。文字不明。中国か。
6	古銭		完存	①2.3②0.55③2.6	銅主材。「洪武通宝」。初鑄1368年。中国。

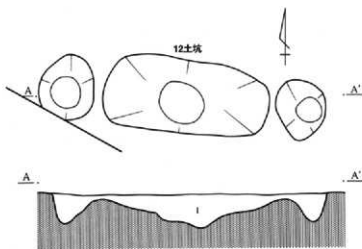
(第220図、PL72) は両側に径50cm、深さ30cmほどの円形状を呈するピットを持つ。形状は隅丸長方形形状を呈し、中央部に向かい30cm程の深さに窪む。

#### 13号土坑 (第220図、PL73)

屋敷西脇の内側立ち上がり部分で検出された墓坑である。南北に長い楕円形を呈する。深さは9cmと浅い。土坑内からは骨片が出土している。埋没土中にはAs-Bや黒色土ブロックが混じる。



1. 明褐色土 As-B軽石を全体に少量含む。



1. 暗灰色土 ブロック状の灰色粘質土を全体に含む。

L=79.90m  
1:40  
0 1m

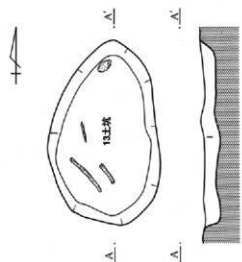
#### (3) E-2区の検出遺構

全体には平坦であり、その中に東西南北方向に還元土壌気味の直線的な畦畔状の筋を確認した。

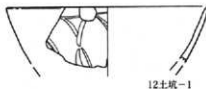
本面の中で3号道跡下層には硬化面が続き、確認面である褐灰色土面より10cmほど高く残り、両側に

表64 E-1区第2面-1土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
6	1s-78	120	98	28	隅丸方形	N-5°-E
11	1t-81	216	70	10	長方形	N-83°-E
12	1s-80	176	72	35	楕円形	N-89°-W
13	1t-78	98	45	9	楕円形	N-1°-W



1. 灰褐色粘質土 As-B軽石を全体に含む。黒色土のブロックを少量含む。



12号土坑-1

0 1:3 10cm

第220図 E-1区第2面-1土坑

E-1区第2面-1 12号土坑出土遺物観察表(第220図、PL84)

No.	遺物 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・成形技法、器形の特徴
12 1	磁器、青磁 襷	フタ土 口縁部片	①(16.0)②- ③(4.5)	紅物見えず。重。締。 還元。灰オリブ色。	胎土は灰色。釉調は淡褐色を呈し、沈み、縦貫入あり、表面に劃文による略した蓮弁あり。割れ口シャープ。14世紀。龍泉窯系。

は酸化した筋が併走する。また道路遺構周辺で溝2条を検出した。その他に調査区北寄りに土坑1基検出した。

### 1) 畦畔状遺構 (第222図)

本面では水田畦畔状の高まりは検出できず、調査区内に国家座標と同方向に直線的に伸びる還元土壌気味の筋を確認した。これら筋状の痕跡は水田畦畔の残骸あるいは下層畦畔の盛り上がりかは不明である。しかし、3号道跡西側の南北方向の2条については、中央部にAs-B混土層が確認でき、下層As-B混土面の調査に於いて畦畔を検出できたことから畦畔の盛り上がりと考えられる。

### 2) 溝

#### 38号溝 (第222図)

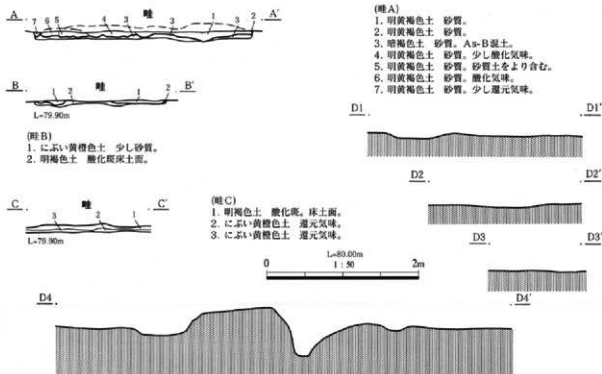
2号道路遺構東側溝である23号溝に併走するように検出された。埋設土中には黄褐色洪水砂が入る。下層のAs-B混土面で検出された43号溝と同一溝と考えられる。

#### 39号溝 (第222図、PL71)

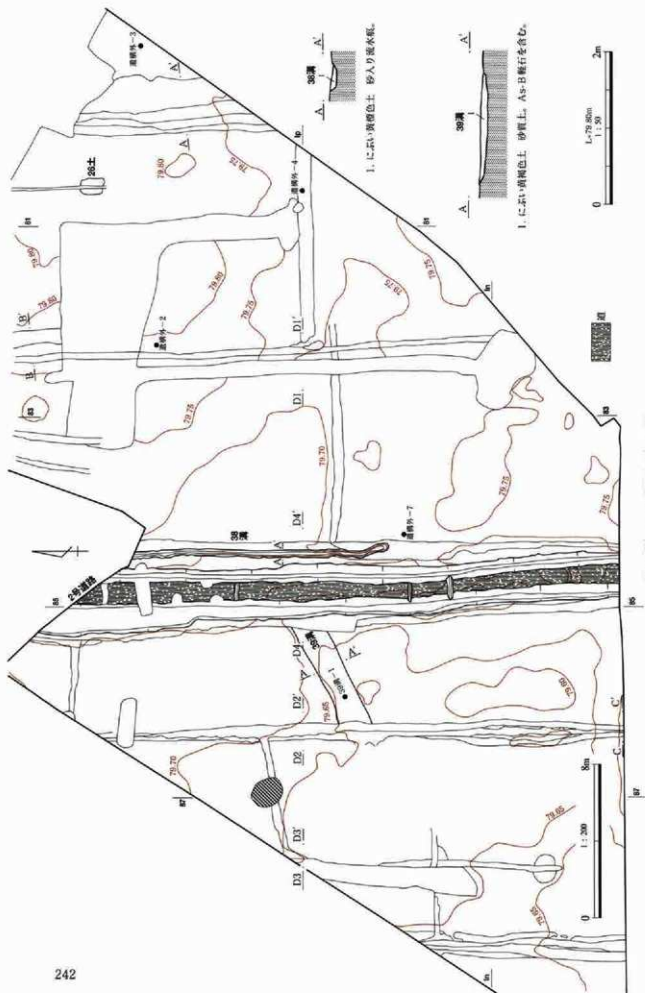
3号道跡西側から還元土壌気味の南北ラインまでの間で両者を繋ぐように掘り込まれた溝である。

表65 E-2区第2面-1溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m,幅・深さ:cm)				備考
				確認全長	上幅	下幅	深さ	
38	1r-84 → 1o-84	N-3°-W	0.17	28.7	40	18	5	上面2号道の東側溝23号溝跡で検出。 レンズ状の掘り込みを持つ幅広の溝。 浅い掘り込みの短い溝。
39	1p-85 → 1p-86	S-60°-W	0.06	5.2	150	130	10	
41	1r-83	N-80°-W	0.01	2.1	38	-	5	



第222図 E-2区第2面-1 畦畔・溝断面



第222図 E-2区第2面-1 様



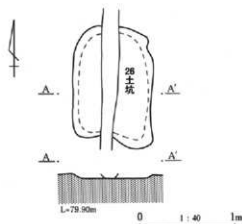
### 3) 土坑

#### 26号土坑 (第223図)

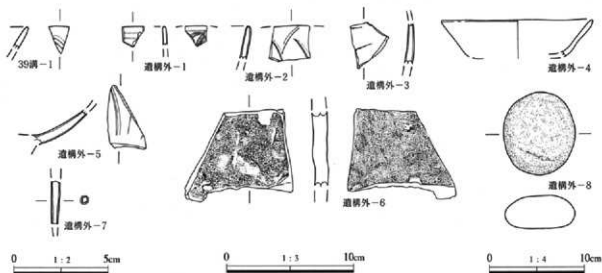
調査区北寄りで検出できたが、深さは5cmと浅く形状も不明瞭であった。中央部を細い溝に切られ褐色の砂質土により埋まっていた。

表66 E-2区第2面-1 26号土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
26	1r-80	126	80	5	長方形	N-3°-W



第223図 E-2区第2面-1 土坑



第224図 E-2区第2面-1 溝及び遺構外出土遺物

E-2区第2面-1 溝及び遺構外出土遺物観察表(第224図、PL86)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・成形技法、器形の特徴
39調	磁器、青磁 1 碗	+17 口縁部片	①-②- ③(2.0)	磁物見えず。重。締。還元。	外面に蒨花による浅い蓮弁あり。内外面に淡緑色青磁釉を施す。磁胎灰色。14世紀。龍泉窯系。
1	磁器 そば猪口?	フタ土 口縁部片	①-②- ③-	磁物なし。重。締。還元。	外面に呉須施文あり。内外面に白磁釉。割れ口消耗少。肥前系。18世紀。
2	磁器、青磁 2 碗	1 q-82 体部片	①-②- ③-	磁物なし。重。締。還元 磁胎灰色。	内外面に発色良くない暗オリーブ色の薄青磁釉。外面に蓮弁蓮弁。内面に使用部。割れ口消耗少。中国龍泉窯系。13世紀。
3	磁器、青白磁 3 碗	1 q-79 体部片	①-②- ③-	磁物なし。重。締。還元	外面無文。内面に蓮文。内外に貫入あり。青白磁釉の発色良好。割れ口消耗少。内面使用部。中国景徳鎮窯系。12・13世紀。
4	土師質土器 4 皿	1 p-80 口縁部片	①(12.0)②- ③(2.8)	シルト質。磁物なし。軽硬。橙色。	内外面横撫で。割れ口消耗あり。西毛製。16世紀前半。
5	磁器、青磁 5 碗	フタ土 口縁部片	①-②- ③-	磁物なし。重。締。還元 磁胎淡灰。橙色。	内外面に発色の良い明るいオリーブ色の青磁釉。やや厚く施す。外面に蓮手蓮。弁施文。内面使用部。全体消耗少。中国龍泉窯系。13世紀。
6	焼締陶器 6 甕	フタ土 体部片	①-②- ③-	磁物含。重。締。酸化。 にぶい橙色。	外面に煎割り痕。内面煎割痕。割れ口消耗少。常滑。13~15世紀。
7	鉄製品 7 釘	1 n-84	長(2.3)cm, 幅(0.5)cm, 厚0.4cm, 重(0.8)g		上・下端調査時以降欠損。赤褐色のため二次被熱。縦割れあるが古代鉄か和鉄か不明。19世紀以前。
8	石、磨石	フタ土	長さ8.8cm, 幅7.5cm, 厚さ3.5cm, 重さ340g		石材：かんらん岩。

## 5. 第2面(中・近世)の検出遺構

### (1) 第2面-2の概要

本面はE-2区のみで検出された面であり、第2面-1の褐灰色土面を10cmほど掘り下げ、As-Bを含む黒褐色土面で遺構を検出した。面中には2面-1で検出した還元土壌気味の東西南北の座標方向に向く畦畔状の痕跡下層より畦畔を確認した。

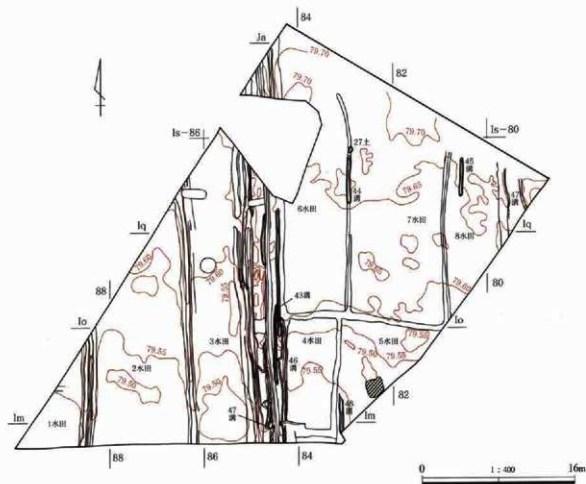
### (2) E-2区の検出遺構

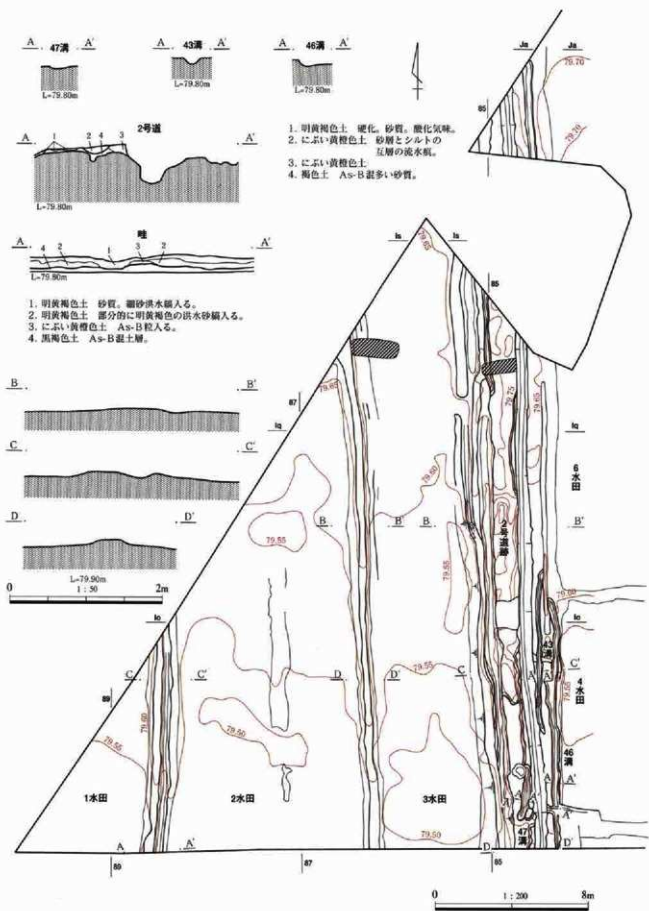
#### 1) 水田(第226・228図)

本面の水田耕作土は他の調査区同様、下層堆積層であるAs-B層を掘込んだ所謂B混土であり、ざくざくした砂質土となっている。また田面上面は黄褐色洪水層とB混土の混じり合った漸層的な土質であり、畦畔の遺存状態から洪水層埋没後の継続的な耕作により攪拌を受けていると考えられる。検出水田

枚数は畦畔検出状況から南北に長い長方形を呈する水田区画が9面想定できたが、完結する水田区画は検出できなかった。また、明確な畦畔は3号道跡西側南北畦畔2条だけであり、その他の畦畔については残骸と思われる断続的な高まりと色調及び土質の違いによる確認であった。

畦畔 2号道路遺構西側で残りの良い南北畦畔を2条検出した。国家座標軸と同一方向に配置され、西端の南北畦畔は上端50cm削、深さ6cm程の溝を伴い、下幅は1.5mを測る。3号道跡東側の畦畔は高まりとして確認できず、上記のように色調及び土質の違いによる確認であった。これらの畦畔は下層面のAs-B面で検出された畦畔配置と一部同一であり、2号道路遺構東側にて唯一検出したOライン上にある東西畦畔などから継続耕作と考えられる。



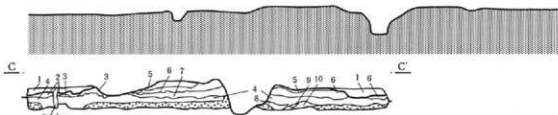


1. 明黄褐色土 硬化。砂質。酸化気味。
2. にぶい黄褐色土 砂屑とシルトの互層の流本状。
3. にぶい黄褐色土。
4. 褐色土 A>B 層多い砂質。

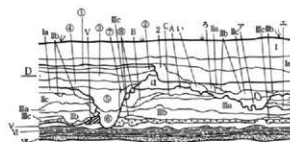
1. 明黄褐色土 砂質。細砂洪水流入。
2. 明黄褐色土 部分的に明黄褐色の洪水砂流入。
3. にぶい黄褐色土 A>B 粒入る。
4. 黒褐色土 A>B 混土層。

第226図 E-2区第2面-2 2号道跡・畦畔・溝

B. 2号道路 B'

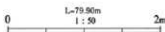


1. にぶい黄褐色土 砂質～シルト。洪水の明褐色砂混入。
2. にぶい黄褐色土 砂質～シルト。
3. にぶい黄褐色土 砂質～シルト。As-B粒多い。
4. 黒褐色土 砂質。As-B混土層。
5. 褐色土 砂質。砂質土と土との互層的混土。全体に還元気味。硬化的酸化層入る。
6. 褐色土 砂質。As-Bを多量に含む。
7. 褐色土 As-B近純層で、下面には灰色アッシュあり。
8. 暗褐色土 土壌分強く、As-B粒少。
9. 灰黄褐色土 砂質土。洪水砂。
10. B層に近似的土壌分強層。



1. 褐色土 砂質土。礫を多く含む。(2号区画)
2. 灰褐色土 砂質土。軽石を微量に含む。(2号区画)
- ① 褐色土 砂質土。
- ② 灰黄褐色土 砂質土。As-A軽石を多量に含む。
- ③ にぶい黄褐色土 砂質土。
- ④ にぶい黄褐色土 砂質土。

- ⑤ にぶい黄褐色土 砂質土。
- ⑥ 灰黄褐色土 砂質土。As-B混土。黄褐色土が混入。ラミナが見られる。
- ⑦ にぶい黄褐色土 砂質土。
- ⑧ 灰黄褐色土 砂質土ブロック。
- A. 黒褐色土 砂質土。As-B混土。道路硬化面。
- B. 褐色土 砂質土。As-Bを含む。
- C. 暗褐色土 砂質土。
- \* I a～V a層は、基本土層参照。
- い. にぶい黄褐色土 砂質土。
- ろ. 褐色土 砂質土。鉄分凝固が見られる。
- は. 灰黄褐色土 砂質土。軽石粗い。ラミナが見られる。川砂が混入。道路硬化面。
- ア. 灰黄褐色土 砂質土。鉄分を全体に含む。軽石を微量に含む。
- イ. にぶい褐色土 砂質土。As-Bを含む。
- ウ. 褐色土 砂質土。As-Bを含む。川砂がブロック状に混入。
- エ. 褐色土 砂質土。As-Bを多く含む。川砂がブロック状に混入。



第227図 E-2区第2面-2断面

表67 E-2区第2面-2溝計測一覧

名称	位置	方位	比高 (m)	規模(長:m,幅・深さ:cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅		深さ
42	1q-79-1r-79	N-90°	0	5.6	180	140	10	幅広の掘り込みの浅い溝。
43	1o-84-1m-84	N-3°-W	0	8.7	30	12	15	38号溝から分岐するような縦い溝。
44	1r-82-1q-82	N-0°	0.01	5.0	28	14	5	畦状の酸化層の掘り込みの浅い短い溝。
45	1q-80-1s-80	S-0°	0.01	4.0	29	15	4	掘り込みの浅い短い溝。
46	1o-84-11-84	N-2°-W	0.06	13.3	34	16	10	38号溝南端で分岐するように南流する溝。
47	1m-84-11-84	N-12°-E	0	3.2	42	12	4	2号道下面で検出。23号溝と接する。
48	1m-83-11-83	N-0°	0	3.8	30	15	4	畦状の酸化層の掘り込みの浅い短い溝。

2) 溝

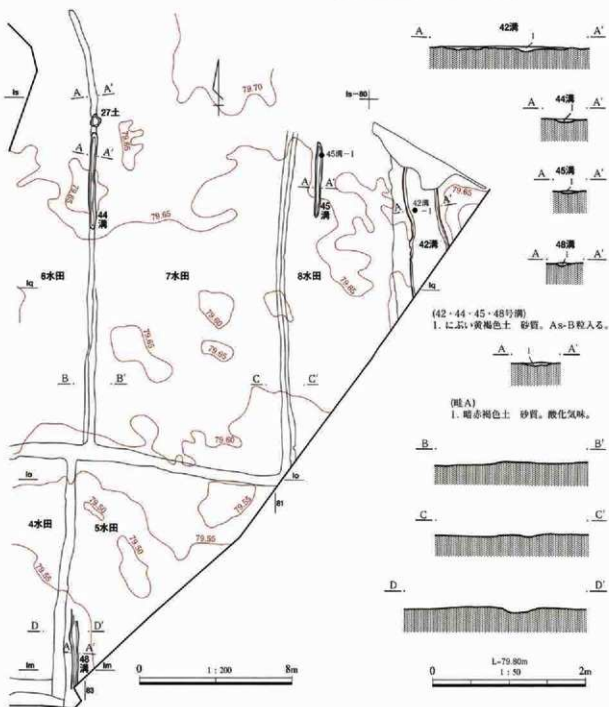
水田畦畔は位置と同じ南北方向に走行を持つ溝42号～48号溝の7条を検出した。各溝とも上面検出溝の掘り方であったり、下面の埋設溝の痕跡であったり上下面の影響が窺える。42号溝(第228図)は調査区北西端部で検出した南北方向に向く溝である。

規模は上幅1.6m、深さ5cm程を測る。43号溝(第226図、PL73)は、第2面-1の38号溝と同一地点で同一走行で検出されたことから、38号溝掘り方と考えられる。46号溝(第226図、PL73)と47号溝(第226図、PL73)もまた38号溝の残骸の48号溝(第

228図)が同一走行で検出されている。44号溝(第228図)は確認全長5.0mと短く、畦畔痕跡上にある。また南延長部分には類似性も見られる。また南の45号溝(第228図、PL73)もまた確認全長は短くAs-B下層面では水田畦畔と重なる。

表68 E-2区第2面-2水田計測一覧

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(36.0)	(9.8)	(6.5)	-
2	(150.6)	(24.5)	10.1	-
3	(128.3)	(25.7)	5.8	-
4	53.1	12.3	5.0	-
5	(83.4)	(11.0)	(10.5)	-
6	(144.6)	(22.7)	6.4	-
7	(206.5)	(23.0)	9.7	-
8	(68.9)	(16.7)	5.8	-



第228図 E-2区第2面-2溝・水田

### 3) 土坑

#### 27号土坑 (第229図)

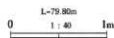
調査区北寄りで44号溝北側延長にあり、深さは4cmと浅く形状は楕円形であった。橙色の砂質土により埋まっていた。



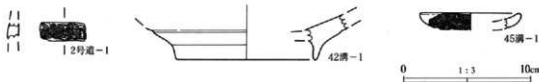
1. 橙色土 洪水黄色細砂。へこみの深まりか?

表69 E-2区第2面-2 27号土坑計画一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
27	1r-82	67	25	4	楕円形	N-1°-W



第229図 E-2区第2面-2 土坑



第230図 E-2区第2面-2 出土遺物

E-2区第2面-2 出土遺物観察表(第230図)

No.	器種 形状	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
2道 1	軟質陶器 不明	フタ上 体部片	①-②- ③-	鉱物含、軽。並。酸化気 味。にふい橙色。	香などが直径の少ない器種。肉厚。割れ口消耗大。泉内。14 ~18世紀。
42溝 1	軟質陶器 鉢	+10 高台部片	①-②(11.3) ③(4.1)	白色鉱物多。重。締。 還元。黄灰色。	内面磨耗。外面回転度削り痕あり。割れ口消耗あり。13・ 14世紀。知多か?
45溝 1	土師質土器 皿	+13 口縁部片	①(8.0)②- ③(1.8)	雲母粒含。鉱物少。並。 酸化。にふい褐色。	肉厚。手取か?内面の器面消耗大。整形不明瞭。割れ口消耗 あり。13世紀。泉南部以南。

## 6. 第3面(古代)の検出遺構

### (1) 第3面の概要

As-Bにより埋没した面である。本区のAs-B層もまた灰層から軽石層にかけて降灰以降上層からの耕作により踏み込まれており、畦畔以外の面でも1cmにも満たない場所もあった。また軽石層直下の検出面には青色気味のアッシュが薄い被膜のように覆うのが確認できた。

検出遺構は、調査区外まで広がる水田遺構が22面検出された。

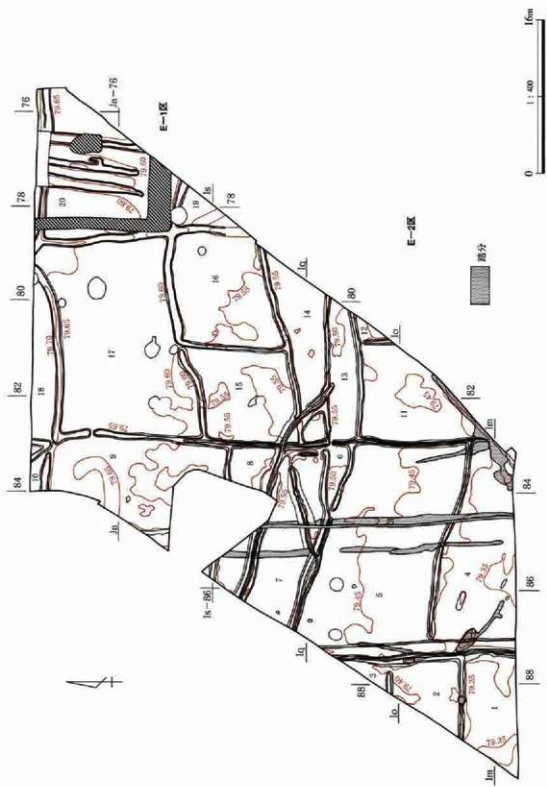
### (2) 検出遺構

#### 1) 水田 (第233~236図、PL73・74)

畦畔配置は采里地割りを意識し、東西南北方向に設けられていると考えられ、南北方向を軸として横

長方形又は方形を意識した形状と考えられるが、中央部の南北畦畔に向かい東西畦畔が傾斜して接続し、これによりほとんどの水田形状が変形または平行四辺形気味に見られる。

本調査区で確認できた水田の中で最大面積は5号水田の260㎡や18号水田の258㎡であり両水田とも縦長長方形を呈する。また中央付近の三角形状を呈する6号水田は最小面積を測り、水口が集まり分水機能有する区画と考えられる。また隣接する13号及び14号水田は幅の狭い横長長方形を呈し特異な形である。



第3面全体图

畦畔 検出された畦畔は上幅20~30cm、下幅30~50cm、高さも5~10cmの規模のものが大半を占める。その中で調査区南西部の国家座標値Y=-67.530ラインに近接する南北畦畔は、上幅50cm程の水路状の溝を伴い最大2m、下幅2.5m、高さ6cmの規模を有し、他の畦畔に比べ規模が大きく大畦畔と考えられる。

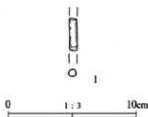
給水方法については、大畦畔に伴う水路は検出されたが多くの水田へは、水口を開け水田から水田への懸け渡し灌漑を行っていたと考えられる。また、調査区中央部において水田内を斜行し、両側に排土による畦畔状の高まりを持つ溝が検出されている。

水田面は基本的には平坦面であるが、田面中には足跡や耕作痕のような痕跡が多数見られた。その中で足跡は東西方向に移動したような痕跡が多く見られる。また水田面に踏み荒らされたような凹凸が見られた。

水田耕作土の層厚は4~10cm前後であり、夾雑物の少ない均質な強粘性の黒色土であり、直下の洪水堆積層と考えられる緑がかった灰白色粘土を露き込み耕土化している。

表70 第3面水田計測一覧

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	(61.2)	(12.3)	(5.6)	-
2	(39.3)	(7.8)	6.9	1
3	(8.3)	(2.4)	(4.5)	1
4	(138.4)	20.7	(7.8)	1
5	(269.8)	20.8	12.2	2
6	9.6	6.2	1.8	2
7	(95.8)	(17.4)	5.5	1
8	(48.5)	(15.0)	4.2	-
9	(160.8)	(21.2)	(15.2)	2
10	(4.6)	(3.7)	(1.2)	1
11	(83.4)	(11.8)	10.1	1
12	(4.1)	(2.6)	(2.4)	1
13	(39.2)	(14.5)	3.1	1
14	(57.2)	(17.6)	5.3	-
15	(88.1)	10.0	9.6	-
16	(110.1)	11.6	9.4	-
17	258.2	20.5	14.5	2
18	(39.2)	17.8	(2.2)	1
19	(10.6)	(5.0)	(2.6)	-
20	(115.8)	(13.8)	(13.5)	-
21	(11.4)	(15.7)	(0.7)	-



第232図 第3面遺構外出土遺物

E-2区第3面 遺構外出土遺物観察表(第232図、PL86)

No.	遺物 形状	出土位置 残存	法量(cm)①長さ②幅 ③厚さ④重さ(g)	成・整形技法、器形の特徴
1	石製品 石墨	フタ土 破片	①(2.5)②(0.6) ③-④(1.8)	石材：黒ろう石。白色に近い石墨片で、欠損は旧時。消耗は微。18~20世紀。

## 2) 溝 (第233図)

E-1区北端で南北に伸びる27号溝・28号溝・29号溝の平行する3条の溝を検出した。この3条の溝は、As-B下の20号水田面を掘り込んでいる。

27号溝は幅1mを測り、平底状を呈する。28号溝は幅55cm、深さ16cmを測り、断面逆台形状を呈する。

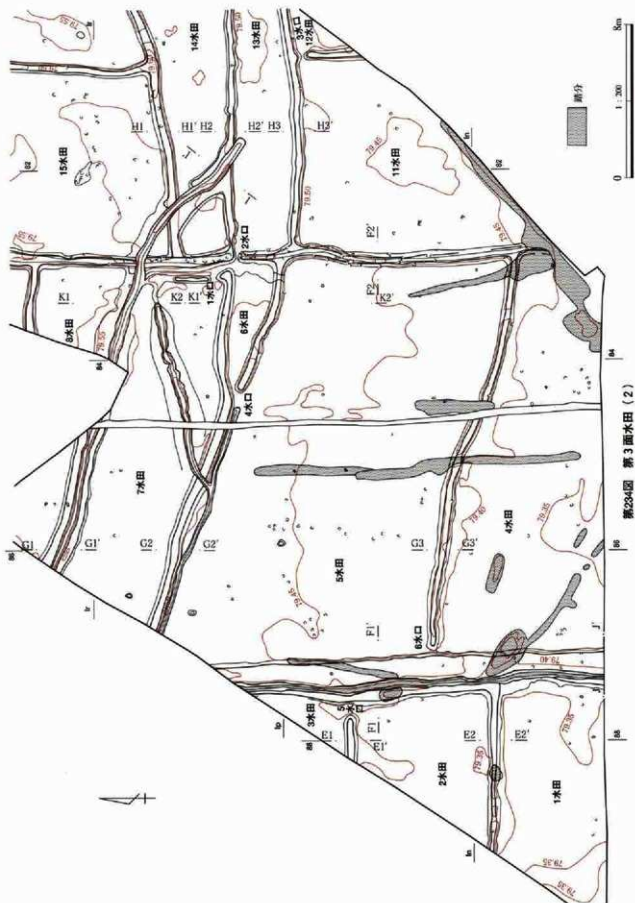
29号溝は北側は幅広、南側が細く掘り込みは25cmを測り丸底状を呈する。

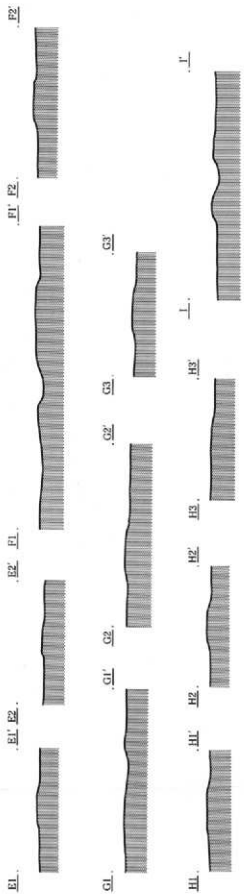
表71 E-1区第3面溝計測一覧

名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長・m、幅・深さ・cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅		
27	1t-77 → Jb-77	S-8°-W	0.03	10.2	100	80	13	20号水田内で検出。幅広で掘り込みの浅い溝。28・29号溝と平行
28	Jb-77 → 1t-77	N-6°-E	0.02	9.5	68	55	16	20号水田内で検出。27・29号溝と平行
29	Jb-76 → 1t-76	N-10°-E	0.01	10.0	64	34	25	20号水田内で検出。北側幅広、南側細くなる。27・28号溝と平行

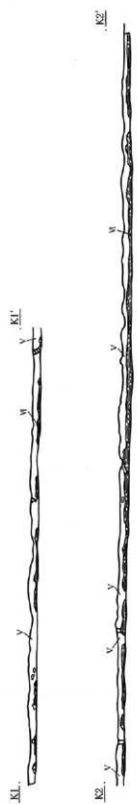




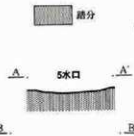
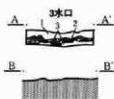
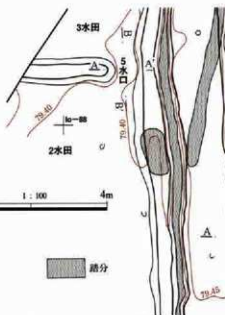
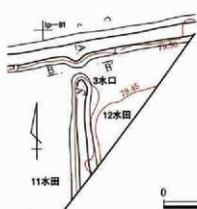
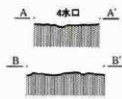
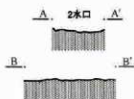
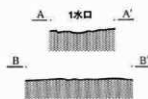
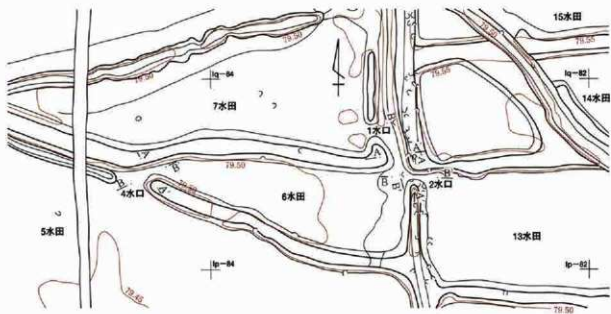




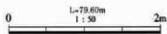
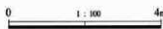
\* IIa-V層は、基本土層参照、



第235回 第3面水田横断面



- (3号水口)  
 1. 褐灰色土 水田耕土。  
 2. にぶい黄褐色土 平安洪水層。FP  
 泥炭ブロック凝土。  
 3. 明黄褐色土 平安洪水層ブロック含む。



第236図 第3面水田水口

## 7. 第4面（古墳時代）の検出遺構

### (1) 第4面の概要

As-B下水田耕作土下には発掘調査時に平安洪水層と呼んでいた緑がかかった灰黄褐色粘土層の堆積を確認した。層厚は厚いところで20cm、薄いところで10cm前後の堆積が見られた。その直下からにぶい黄橙色のHr-FP泥流層を確認し、下層の精査を行い調査区全面において2.5m前後の極小区画水田を確認した。

### (2) 検出遺構

#### 1) 水田（第240図、PL74・75）

調査区で検出された極小区画水田は489面を数え碁盤の目状に配置されている。極小区画水田の規模は、長辺2m前後、短辺1.3m前後の傾斜方向に沿うような縦長長方形形状を呈する。

大畦畔は、調査区内を蛇行しながら縦断する1号大畦畔とこの大畦畔に直交方向に接続する2号・3号大畦畔の計3条の大畦畔を検出した。大畦畔の配置は地形傾斜の影響を受けるような配置であり、極

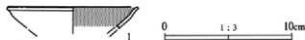
小区画水田のように整然とした碁盤の目状配置とは異なる。これらの大畦畔により調査区内は4つの大区画に分けられる。

1号大畦畔の規模は、上幅40cm、下幅1m、高さ10cmを測り、水口として所々分断される。3号大畦畔はN-25°-W方向に直線的に伸び、規模は上幅50cm、下幅1.2m、高さ7cmを測る。また2号大畦畔はN-41°-W方向に直線的に伸び、規模は上幅80cm、下幅1m、高さ5cmを測る。

調査区内では給排水用の水路は無く、各水田へは田から田への掛け流しにより水を回している。この方法を行うに当たり、1号大畦畔東側の横長の水田区画は長辺2.5m前後、短辺1.5m前後と極小区画水田に比べ1.5倍程の広さを持つ区画を設け、極小区画水田の2列分への分水用に配置されている。

表72 E-2区第4面溝計測一覧

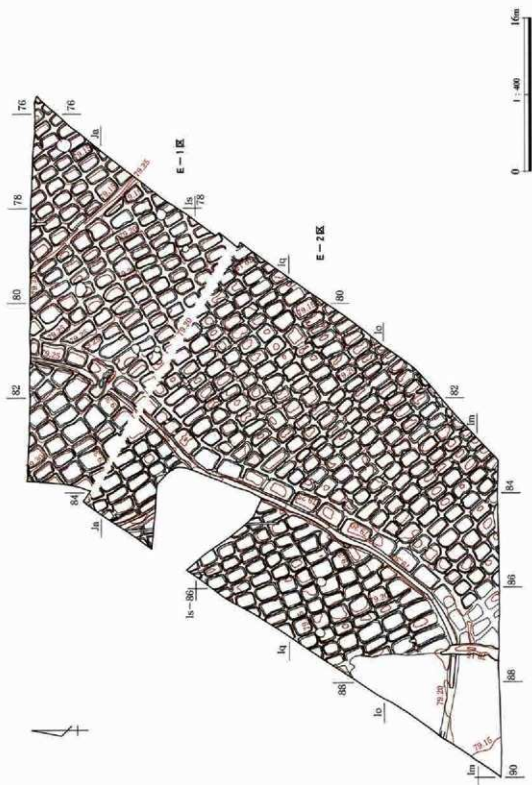
名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長:m,幅・深さ:cm)				備考
				確認全長	上幅	下幅	深さ	
49	1m-87・11-87	N-0°	0	5.8	130	100	5	大畦南西端で検出。流水で削り込まれたような形状。



第237図 E-2区第4面出土遺物

E-2区第4面 出土遺物観察表(第237図)

No.	遺物 形態	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	灰輪陶器 皿	フタ土 口縁部片	①(10.4)②- ③(2.0)	肥物なし。重。締。 還元。灰白色。	内面に灰輪かか。外面輪なし。割れ口消残少。東海。 10世紀。



第238图 第4面全体图

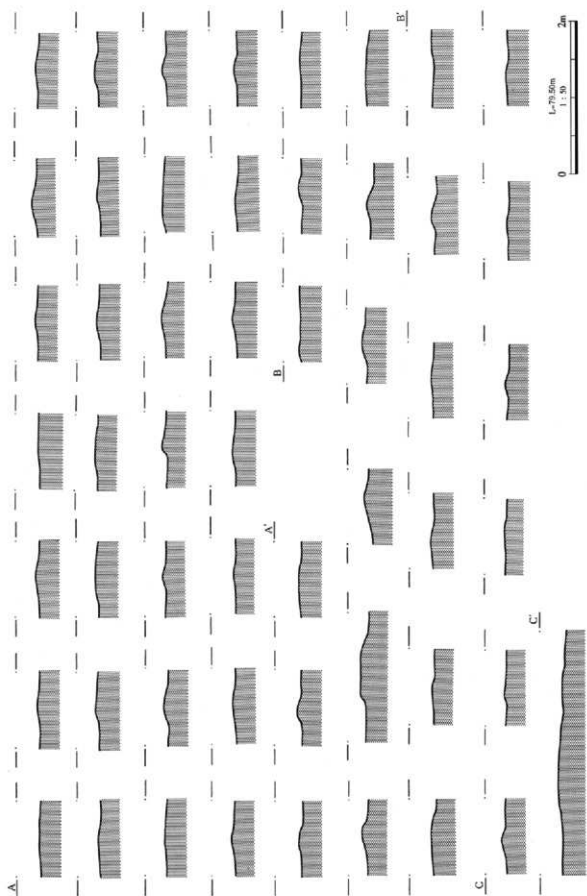
表73 第4面水田計測一覽

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口	60	(2.3)	1.7	(1.2)	-	122	1.7	1.4	1.2	2
1	(2.0)	1.7	1.3	-	61	1.6	1.6	1.1	1	123	2.6	1.8	1.4	1
2	1.2	1.6	0.8	-	62	2.2	1.9	1.2	3	124	3.5	2.4	1.5	1
3	(1.0)	(1.2)	1.1	-	63	1.6	1.3	1.2	3	125	2.6	2.2	1.4	3
4	2.0	1.9	1.2	-	64	2.3	1.8	1.1	-	126	3.6	2.9	1.5	4
5	2.5	2.0	1.4	-	65	2.2	1.8	1.3	-	127	(1.3)	1.5	0.9	-
6	(3.2)	2.1	1.5	-	66	(0.4)	(0.7)	0.6	1	128	(1.6)	1.9	1.0	-
7	3.6	2.3	1.6	-	67	1.4	1.8	0.8	4	129	2.1	2.4	0.9	-
8	4.3	2.6	1.6	-	68	1.7	1.9	0.9	2	130	1.8	2.2	0.8	-
9	(1.0)	(0.9)	(1.1)	-	69	1.3	1.7	0.8	3	131	3.1	2.9	1.1	1
10	2.4	2.1	1.2	-	70	1.6	1.5	1.1	2	132	(1.4)	2.2	(0.9)	-
11	3.3	2.4	1.3	-	71	2.0	1.7	1.0	1	133	(2.2)	(2.1)	(1.4)	-
12	1.7	1.6	1.1	-	72	2.6	2.7	0.9	1	134	3.0	3.1	1.1	-
13	1.8	1.7	1.0	1	73	(1.9)	1.8	1.2	3	135	(3.4)	(3.2)	(1.3)	-
14	(3.2)	2.2	1.6	-	74	2.3	1.9	1.2	3	136	(1.1)	(1.3)	1.0	-
15	3.7	2.0	1.5	-	75	2.4	1.8	1.3	4	137	2.6	2.2	1.2	-
16	3.8	2.4	1.8	-	76	1.5	1.4	1.2	2	138	3.4	2.3	1.5	1
17	4.0	1.8	1.8	-	77	2.0	1.9	1.2	2	139	3.5	2.3	1.6	1
18	2.9	1.8	1.7	-	78	2.2	1.9	1.4	1	140	4.0	2.4	1.7	1
19	3.1	2.2	1.0	-	79	1.3	1.4	1.0	1	141	3.6	2.2	1.4	2
20	2.8	2.3	1.1	-	80	(0.9)	(1.1)	1.0	1	142	4.4	2.8	1.7	2
21	2.6	2.4	1.0	-	81	1.7	1.8	0.9	1	143	3.8	2.5	1.6	2
22	1.7	1.7	1.0	-	82	2.1	2.1	1.0	1	144	3.6	2.3	1.6	2
23	(2.7)	2.0	1.4	-	83	1.5	1.6	1.1	-	145	4.2	2.8	1.6	1
24	(1.0)	(1.5)	(1.4)	-	84	1.9	1.7	1.1	1	146	3.1	2.2	1.5	2
25	3.3	2.0	1.6	-	85	2.3	2.2	1.0	3	147	3.4	2.4	1.5	2
26	4.5	2.4	1.8	-	86	1.5	1.6	0.9	5	148	3.7	2.2	1.9	3
27	4.0	(2.1)	(1.3)	-	87	(2.2)	1.8	1.3	-	149	3.8	2.4	1.6	3
28	(5.4)	2.5	(1.7)	-	88	2.8	2.1	1.4	-	150	1.5	1.4	1.1	1
29	(1.7)	(1.6)	(1.4)	-	89	2.1	1.8	1.5	-	151	1.5	1.4	1.1	1
30	(2.0)	(1.2)	(0.8)	-	90	1.7	1.5	1.4	-	152	4.2	2.5	1.5	-
31	2.2	2.2	1.0	-	91	2.9	2.2	1.5	2	153	3.3	2.4	1.4	-
32	1.5	1.4	1.1	-	92	2.4	1.7	1.5	3	154	3.6	2.3	1.5	1
33	1.1	1.4	1.3	-	93	2.7	2.0	1.9	2	155	2.9	1.9	1.3	-
34	(0.8)	1.2	(0.7)	-	94	(1.2)	1.0	1.0	-	156	3.5	2.4	1.6	-
35	(2.5)	2.2	1.3	-	95	2.6	2.4	1.4	3	157	(1.3)	1.5	(0.8)	-
36	(2.7)	2.2	1.1	1	96	2.0	1.8	1.2	1	158	(0.4)	(0.6)	(0.4)	-
37	2.4	1.6	1.1	1	97	2.1	1.6	1.4	2	159	(1.2)	(1.1)	(1.1)	-
38	1.7	1.3	1.2	-	98	2.6	2.0	1.4	3	160	(0.5)	1.0	(0.6)	-
39	1.3	1.2	1.0	1	99	2.5	1.8	1.5	3	161	(1.7)	1.5	(0.7)	-
40	2.0	2.2	0.9	1	100	3.2	2.6	1.4	3	162	(1.4)	1.0	(0.8)	-
41	1.8	2.4	1.0	-	101	(1.8)	2.2	0.9	2	163	(1.5)	(1.2)	1.0	-
42	1.8	1.6	1.0	1	102	2.0	1.9	1.1	1	164	2.2	1.7	1.1	-
43	1.6	1.5	0.8	-	103	1.9	1.5	1.2	3	165	(1.7)	1.3	1.1	-
44	(0.8)	(0.9)	0.9	1	104	2.2	2.0	1.0	4	166	1.7	1.5	0.9	-
45	2.5	2.1	1.1	1	105	2.3	1.9	1.2	3	167	(1.2)	1.1	1.0	-
46	(3.1)	2.4	1.3	1	106	2.0	1.9	1.1	4	168	(1.3)	(0.8)	0.9	-
47	(0.7)	(1.1)	0.5	2	107	1.2	1.3	1.2	3	169	(0.9)	0.9	1.0	-
48	(0.8)	(1.6)	0.9	-	108	(1.6)	(1.5)	(1.2)	-	170	1.9	1.7	0.9	-
49	(1.0)	(2.7)	0.5	-	109	2.6	1.6	1.6	2	171	1.3	1.5	1.1	-
50	(1.2)	(2.1)	0.7	-	110	2.4	1.7	1.6	2	172	2.2	2.1	1.0	-
51	(1.4)	(1.3)	(0.9)	-	111	2.9	2.0	1.5	1	173	(1.8)	1.9	1.1	-
52	(1.5)	(1.4)	(1.1)	-	112	3.3	2.1	1.7	2	174	1.9	1.8	1.1	-
53	(0.2)	(0.6)	(0.3)	-	113	3.0	1.9	1.6	4	175	1.6	1.4	1.1	-
54	(0.6)	(1.1)	(0.6)	-	114	3.1	2.2	1.7	3	176	2.3	1.9	1.0	-
55	(1.6)	1.8	(1.3)	2	115	1.9	1.7	1.2	-	177	(0.5)	0.9	0.5	-
56	(1.1)	1.9	(0.6)	-	116	2.0	1.6	1.1	-	178	(0.4)	(0.7)	(0.5)	-
57	(1.2)	1.2	1.0	2	117	1.8	1.8	1.0	2	179	1.9	1.7	1.1	-
58	2.4	2.6	0.8	2	118	2.3	2.4	0.9	4	180	2.2	1.8	1.1	-
59	(1.1)	(1.2)	(0.6)	-	119	2.2	2.3	1.0	5	181	1.8	1.6	1.1	-
					120	2.6	2.4	0.9	3	182	2.4	1.9	0.9	-
					121	(1.1)	(1.1)	(1.0)	1	183	(0.9)	(0.9)	1.0	-

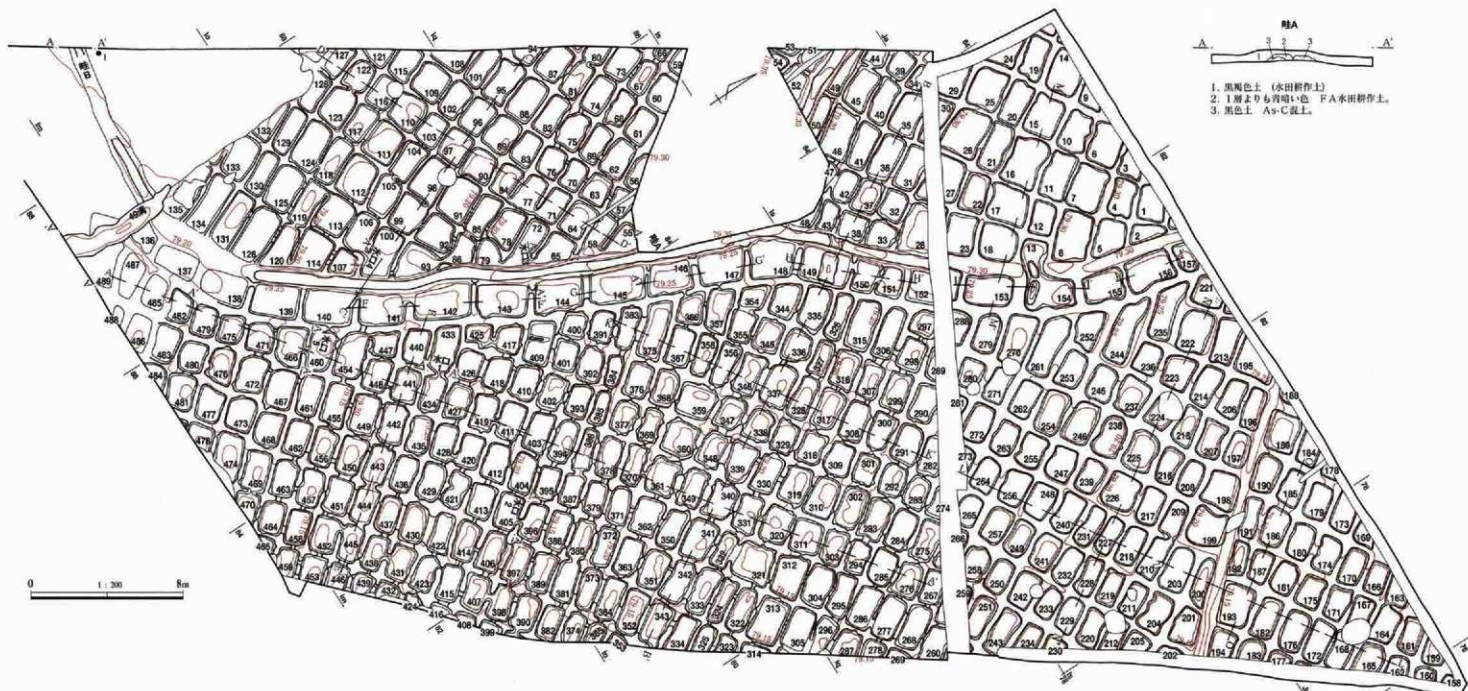
184	1.4	(1.5)	1.0	-	247	1.6	1.7	1.3	-	310	2.9	2.0	1.3	1
185	1.6	1.7	1.0	-	248	2.2	1.8	1.2	-	311	2.4	1.6	1.4	-
186	2.4	1.9	1.2	-	249	2.0	1.9	1.1	-	312	2.7	2.1	1.5	1
187	1.6	1.5	1.0	-	250	1.6	1.8	1.0	-	313	3.0	2.3	1.4	1
188	(0.4)	(0.4)	(0.3)	-	251	2.0	2.1	1.0	-	314	(0.7)	(0.4)	(1.5)	-
189	2.7	2.0	1.4	-	252	2.2	2.1	1.2	-	315	3.4	2.5	1.2	1
190	2.1	1.9	1.2	-	253	1.9	1.9	1.1	-	316	1.9	1.7	1.1	3
191	(1.4)	2.0	0.8	-	254	2.2	2.2	1.2	-	317	2.0	1.9	1.1	1
192	1.3	1.7	0.7	-	255	2.0	1.6	1.2	-	318	1.5	1.5	1.1	-
193	3.2	2.1	1.5	-	256	2.1	1.8	1.3	-	319	2.2	1.7	1.3	2
194	(1.4)	(1.4)	1.1	-	257	1.9	1.9	1.1	-	320	2.3	1.8	1.2	-
195	(2.2)	(1.7)	1.8	-	258	1.9	1.6	1.2	-	321	3.1	1.9	1.8	2
196	1.6	2.0	0.7	-	259	(2.1)	(2.1)	(1.0)	-	322	2.0	2.3	0.9	3
197	1.3	1.7	0.9	-	260	(1.7)	(1.8)	1.2	1	323	(0.9)	(0.9)	0.8	1
198	2.6	1.8	1.6	-	261	3.3	3.2	1.2	-	324	1.7	2.3	0.7	3
199	2.7	1.9	1.7	-	262	2.4	1.9	1.0	-	325	(1.5)	(1.4)	0.8	1
200	1.5	2.3	0.6	-	263	1.2	1.6	1.1	-	326	1.7	2.3	0.7	-
201	1.9	1.8	1.2	-	264	1.9	1.8	1.1	-	327	1.5	1.6	0.8	2
202	(0.9)	(1.0)	(0.4)	-	265	(1.4)	1.6	1.1	-	328	2.1	2.2	0.9	2
203	2.5	2.3	1.3	-	266	(2.5)	(2.0)	(1.0)	-	329	1.7	1.6	1.0	-
204	2.0	2.0	1.1	-	267	(1.4)	1.6	0.9	1	330	2.0	1.8	1.0	3
205	(1.2)	(1.1)	1.2	-	268	2.2	2.3	1.1	3	331	2.1	1.8	1.1	1
206	1.7	1.9	1.0	-	269	(0.7)	(1.1)	0.4	-	332	1.5	1.8	0.8	2
207	2.1	1.8	1.1	-	270	(2.8)	(2.4)	1.4	-	333	2.3	2.4	1.0	4
208	1.9	1.7	1.0	-	271	(1.7)	(1.7)	1.0	-	334	(1.9)	(1.8)	0.9	2
209	2.0	1.7	1.1	-	272	2.6	1.9	1.1	-	335	2.5	2.2	1.2	-
210	1.9	2.1	0.9	-	273	(0.6)	(0.7)	(0.5)	-	336	1.6	1.6	1.3	1
211	1.7	1.7	0.9	-	274	(0.7)	(1.3)	(0.7)	-	337	2.3	2.1	1.3	3
212	(1.5)	(1.6)	0.8	-	275	(2.0)	2.0	0.9	-	338	1.8	1.5	1.2	-
213	(2.5)	2.3	1.1	-	276	2.1	1.7	1.0	2	339	2.2	1.9	1.2	3
214	1.9	2.0	1.1	-	277	2.5	2.2	1.1	4	340	2.1	1.8	1.2	2
215	1.8	1.9	1.0	-	278	1.2	1.0	0.8	1	341	2.5	1.9	1.3	2
216	1.6	1.6	1.0	-	279	2.2	2.0	1.1	-	342	2.0	2.0	1.0	4
217	1.8	1.9	1.1	-	280	(1.7)	1.4	1.1	-	343	(2.4)	2.1	1.1	4
218	1.9	1.9	0.9	-	281	(0.8)	(0.6)	(0.5)	-	344	1.9	1.7	1.1	1
219	1.8	1.7	0.9	-	282	(1.6)	1.8	(1.0)	-	345	1.9	1.5	1.2	1
220	(1.7)	1.8	1.0	-	283	1.6	1.6	1.0	-	346	2.0	2.0	1.1	1
221	(1.4)	1.6	1.4	-	284	2.3	2.0	1.2	1	347	1.6	1.5	1.1	1
222	3.0	2.2	1.5	-	285	2.2	1.7	1.2	3	348	1.8	1.6	1.0	2
223	1.9	1.7	1.5	-	286	2.4	2.1	1.1	3	349	2.0	1.9	1.0	-
224	(1.3)	(1.2)	1.2	-	287	(1.7)	(1.3)	1.2	1	350	1.8	1.9	1.0	1
225	2.6	2.0	1.4	-	288	(1.2)	1.6	0.9	-	351	2.1	1.9	1.2	1
226	2.8	1.7	1.7	-	289	(0.8)	(1.3)	(0.5)	-	352	2.3	2.2	1.1	3
227	1.7	2.0	0.8	-	290	(1.9)	1.8	1.0	-	353	(0.6)	(0.5)	0.7	1
228	1.7	2.0	0.7	-	291	2.6	1.8	1.2	1	354	1.4	1.3	1.4	2
229	1.6	1.8	1.0	-	292	1.9	1.6	1.2	1	355	1.7	1.6	1.1	3
230	(0.6)	1.0	0.7	-	293	2.2	2.1	1.1	1	356	2.0	2.2	0.9	1
231	1.5	2.2	0.9	-	294	1.4	1.6	1.0	3	357	2.3	2.3	1.2	2
232	1.8	1.9	1.1	-	295	1.9	2.2	1.0	4	358	1.6	2.1	0.9	1
233	1.4	1.6	0.9	-	296	(1.2)	2.0	0.9	3	359	2.3	1.8	1.5	-
234	(1.2)	1.3	0.8	-	297	(1.2)	1.2	1.2	1	360	2.2	1.6	1.6	-
235	2.8	3.2	1.2	-	298	1.9	1.5	1.1	3	361	2.4	1.8	1.3	2
236	1.5	1.5	1.2	-	299	2.0	1.8	1.0	2	362	2.3	1.7	1.2	4
237	2.4	1.8	1.4	-	300	1.6	1.8	1.0	1	363	2.0	1.9	1.0	1
238	2.6	2.1	1.3	-	301	1.5	1.5	1.1	-	364	1.9	2.2	0.9	3
239	1.8	1.7	1.2	-	302	2.3	2.1	1.2	-	365	(0.7)	(0.9)	0.7	2
240	1.7	2.1	1.2	-	303	1.9	1.7	1.0	1	366	1.7	1.5	1.2	3
241	2.2	1.8	1.2	-	304	2.3	2.0	1.3	2	367	1.9	1.9	1.1	1
242	2.1	1.8	1.1	-	305	2.4	2.1	1.1	2	368	1.6	1.7	1.0	1
243	(2.3)	2.4	1.0	-	306	2.3	2.6	1.7	2	369	1.4	1.6	0.8	1
244	3.2	3.5	1.1	-	307	2.1	1.7	0.9	2	370	1.8	2.0	0.9	2
245	1.9	1.8	1.2	-	308	1.9	2.0	1.1	1	371	1.6	1.8	0.9	4
246	2.8	2.1	1.3	-	309	2.2	1.6	1.3	-	372	1.8	1.9	0.8	2



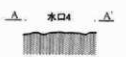
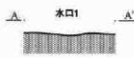
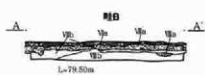
373	1.7	2.0	0.9	4	436	2.0	1.8	1.2	1
374	(1.2)	(1.6)	0.8	2	437	1.6	1.8	1.0	2
375	3.2	3.0	1.1	1	438	1.7	1.8	0.9	3
376	1.7	1.6	0.9	-	439	1.0	(0.9)	0.9	2
377	1.6	1.5	1.1	-	440	2.0	1.7	1.2	-
378	1.9	2.0	1.0	1	441	1.9	1.6	1.2	2
379	1.4	1.6	0.9	3	442	2.2	2.0	1.1	3
380	1.8	2.0	0.9	2	443	2.1	2.0	1.2	3
381	1.9	2.0	1.0	3	444	1.8	1.7	1.0	2
382	1.8	1.7	0.9	1	445	1.9	1.9	0.9	3
383	1.7	2.2	0.9	2	446	(1.2)	(1.2)	0.9	1
384	1.0	1.6	0.7	2	447	1.4	1.1	1.1	-
385	1.4	1.7	0.7	2	448	1.9	1.6	1.1	2
386	1.5	2.1	0.8	2	449	2.2	1.9	1.2	3
387	1.4	1.6	0.9	2	450	2.1	1.9	1.1	3
388	1.7	1.9	0.9	3	451	2.2	1.8	1.1	2
389	2.0	1.9	1.1	3	452	2.1	1.8	1.1	3
390	1.9	1.8	1.1	3	453	(1.6)	(1.3)	1.1	2
391	1.7	1.6	1.0	-	454	2.8	2.4	1.3	2
392	1.8	1.6	1.1	-	455	2.3	2.2	1.2	3
393	1.7	1.6	1.0	1	456	1.9	1.8	1.1	4
394	2.0	2.1	1.0	2	457	1.8	1.9	1.1	3
395	1.7	1.6	0.9	3	458	1.7	1.7	1.0	4
396	1.7	1.8	1.0	4	459	(1.1)	(1.4)	0.9	2
397	1.9	2.0	1.0	5	460	2.2	2.0	1.3	1
398	1.7	1.8	1.0	4	461	1.9	2.0	1.0	2
399	0.5	(0.4)	0.9	1	462	1.8	1.7	1.1	3
400	1.3	1.1	1.0	2	463	1.8	1.8	1.1	3
401	1.7	1.6	1.0	1	464	1.7	1.6	1.1	2
402	1.8	1.7	1.1	1	465	(0.6)	(0.7)	(0.6)	-
403	2.1	2.0	1.1	3	466	2.5	2.0	1.4	2
404	2.0	1.9	1.1	3	467	2.4	1.9	1.3	2
405	2.0	1.8	1.1	3	468	2.0	1.7	1.3	-
406	2.2	2.0	1.0	4	469	2.2	1.8	1.1	1
407	1.7	1.7	1.1	3	470	(1.2)	(1.5)	1.1	1
408	(0.6)	(0.4)	(0.9)	-	471	1.6	1.4	1.3	3
409	2.4	2.1	1.3	1	472	2.3	1.7	1.4	2
410	2.0	1.7	1.2	2	473	2.0	1.7	1.4	-
411	2.2	1.9	1.2	4	474	2.2	(2.1)	1.3	-
412	2.1	1.8	1.2	2	475	1.5	1.3	1.1	1
413	1.9	1.7	1.1	3	476	1.7	1.7	1.0	-
414	2.1	1.9	1.0	3	477	1.8	1.7	1.3	-
415	1.6	1.8	1.0	4	478	(1.3)	(1.1)	1.3	-
416	(0.7)	0.9	(0.4)	1	479	1.7	1.5	1.2	-
417	1.5	1.4	1.2	2	480	1.9	1.4	1.3	1
418	1.8	1.7	1.1	4	481	(2.1)	1.7	1.4	1
419	1.9	1.7	1.2	2	482	1.5	1.5	1.0	-
420	1.8	1.7	1.1	2	483	2.0	1.8	1.2	-
421	1.5	1.7	(0.9)	3	484	(0.8)	(1.0)	(1.0)	-
422	1.7	1.9	0.9	2	485	1.9	1.7	1.2	-
423	1.6	1.8	1.0	2	486	2.0	1.9	1.2	-
424	(0.4)	(0.5)	0.7	1	487	2.2	2.2	1.2	-
425	1.2	1.3	1.1	1	488	(0.4)	(0.8)	0.5	-
426	1.6	1.5	1.2	2	489	(2.5)	(2.2)	1.8	-
427	1.8	1.7	1.3	2					
428	1.9	1.8	1.0	3					
429	1.9	1.8	1.1	3					
430	2.0	1.9	1.2	3					
431	1.9	1.7	1.1	3					
432	(0.8)	(0.9)	1.0	3					
433	2.5	2.3	1.3	1					
434	1.6	1.7	1.1	1					
435	1.7	1.8	1.0	-					



第239図 第4 函水田橋断面 (1)



- 明A
- 
1. 黒褐色土 (水田耕作土)
  2. 1層より浅青色土、F A水田耕作土。
  3. 黒色土、A~C段上。



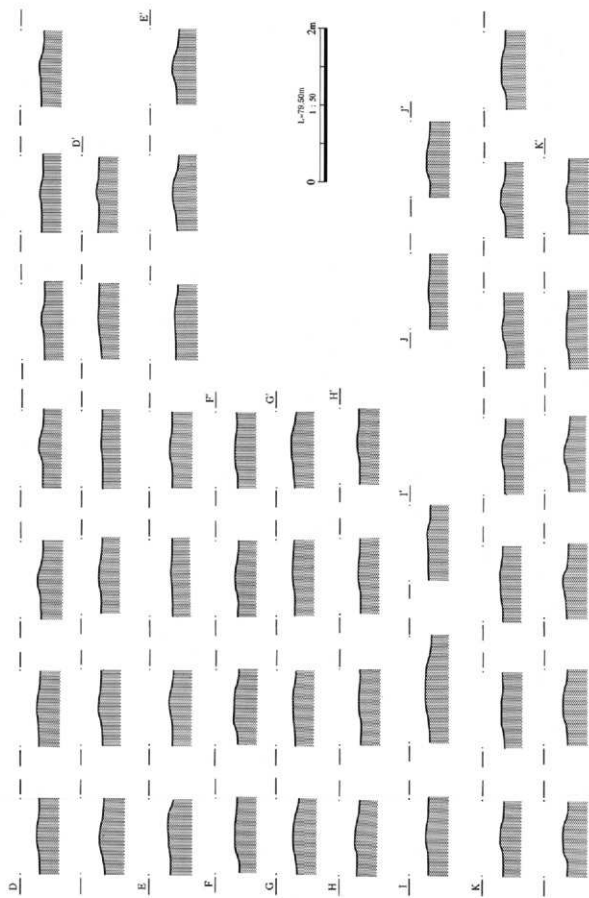
1. 黒褐色土、粘性、平安田水層であるが、黒褐色土と混じり合う(踏み込み)。
2. にぶい黄褐色土、砂質シルト、F P層を含む。

\* Via~明B層は、基本土層参照。

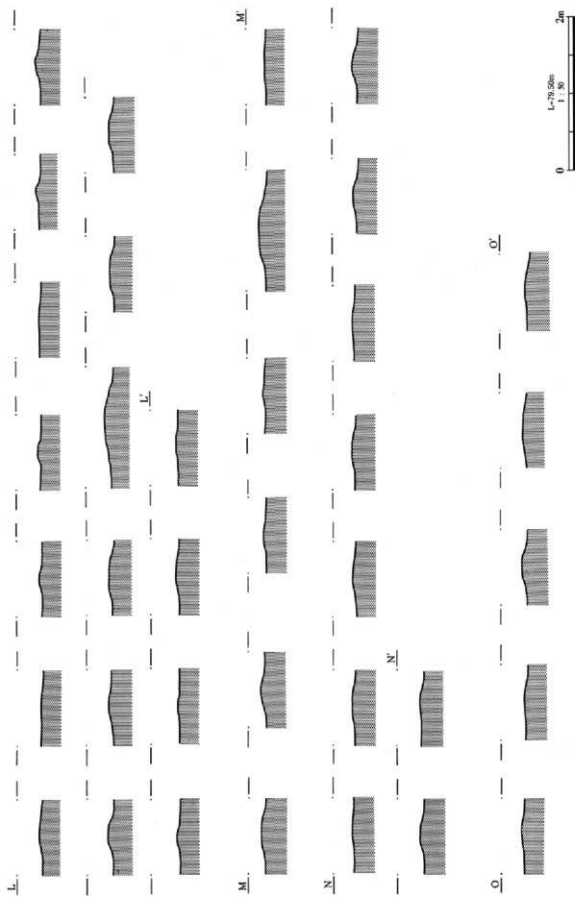
\* Via~明A層は、基本土層参照。

第240図 第4面水田





第241圖 第4面水田横断面(2)



第242図 第4面水田横断面(3)

## 8. 第5面（古墳時代）の検出遺構

### (1) 第5面の概要

第4面Hr-FP泥流下水田の耕作土を10cm程下げ、僅かに軽石の混じる褐色還元土壌中に明黄褐色微細シルト質のHr-FAが小楕円形の窪みに入る状況を確認し精査を行った。

Hr-FA堆積層は、降灰後の再耕作で攪拌されたと考えられ、小楕円形の窪みに残るHr-FAは耕作の及ばない範囲、または上層からの踏み込みにより残ったとも考えられる。この小楕円の凹は畦畔部分には少ないと判断し、集中する部分を耕作面、分散する部分を畦畔と考え水田区画を想定した。

この面より検出した遺構は大畦畔と水田の痕跡のみであった。

### (2) 検出遺構

#### 1) 水田（第244・245図、PL75）

1号・2号・3号の3条の大畦畔を検出した。この大畦畔は、Hr-FP泥流下面の調査時において確認できた大畦畔と同一畦畔であり、更に下層のAs-C混土面においても確認している。このことから、As-C混土面耕作時に構築され、その後継続的に使用され

ていたと考えられる。

水田区画は降灰後の継続的な耕作によりHr-FA直下の面は大半が消失したと考えられ形態は不明であるが、上記のようなHr-FAの入った小楕円形の濃淡により区画を想定した。

E-1区で検出されたHr-FAの入る小楕円は、上面のHr-FP泥流下層小楕円面積に近似した2㎡前後に集中する傾向が見られ、この範囲を水田区画と想定した。また、想定水田区画の間には線状の空白部分が伸び、この部分に畦畔が存在したと考えられる。畦畔ラインは大畦畔に平行又は直交方向に設けられている。

E-2区でもHr-FAの入る小楕円のまとまりと線状の空白部分が検出されたが、小楕円の集中部分はE-1区に比べ20～35㎡と大きく下層As-C混土面の水田痕跡とも考えられる。

#### 2) 溝

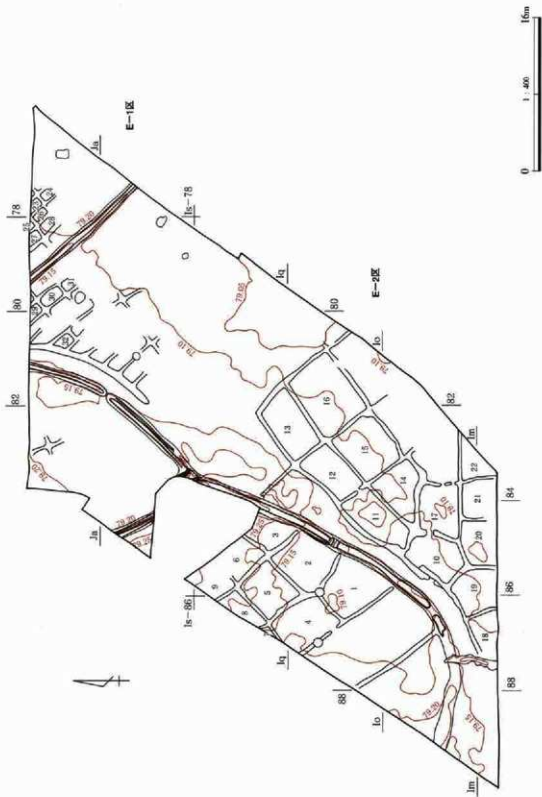
1号大畦畔中央付近、3号大畦畔との合流部にと考えられる部分において、1号大畦畔を横断する50

表74 第5面水田計測一覧

No.	面積 (㎡)	長軸長 (m)	短軸長 (m)	水口
1	28.3	6.0	5.0	—
2	24.4	5.3	5.0	—
3	(12.1)	(3.7)	3.0	—
4	24.9	5.9	4.4	—
5	20.6	4.8	4.3	—
6	(11.3)	3.8	(3.3)	—
7	(0.8)	(1.2)	(0.6)	—
8	(8.0)	4.7	(1.8)	—
9	(11.3)	(3.7)	(2.9)	—
10	19.2	5.6	3.7	—
11	24.3	7.4	3.4	—
12	19.8	6.0	3.6	—
13	18.4	6.3	3.5	—
14	18.0	4.8	4.7	—
15	28.2	6.0	5.0	—
16	39.8	7.4	5.6	—
17	20.2	5.4	4.2	—
18	(9.2)	(3.6)	(3.3)	—
19	(18.8)	4.7	(4.2)	—
20	(14.7)	4.6	(3.7)	—
21	(13.6)	3.9	(3.7)	—
22	(10.0)	(4.3)	(3.5)	—
23	(1.3)	(1.4)	0.9	—
24	(1.2)	(1.3)	(1.0)	—
25	(0.5)	(0.7)	(0.6)	—
26	(1.4)	1.6	0.9	—
27	(1.6)	(1.6)	1.2	—
28	(1.9)	(1.5)	1.1	—
29	(1.6)	(1.9)	1.1	—
30	3.0	2.5	1.2	—
31	(1.2)	(1.2)	1.1	—
32	2.0	1.8	1.3	—

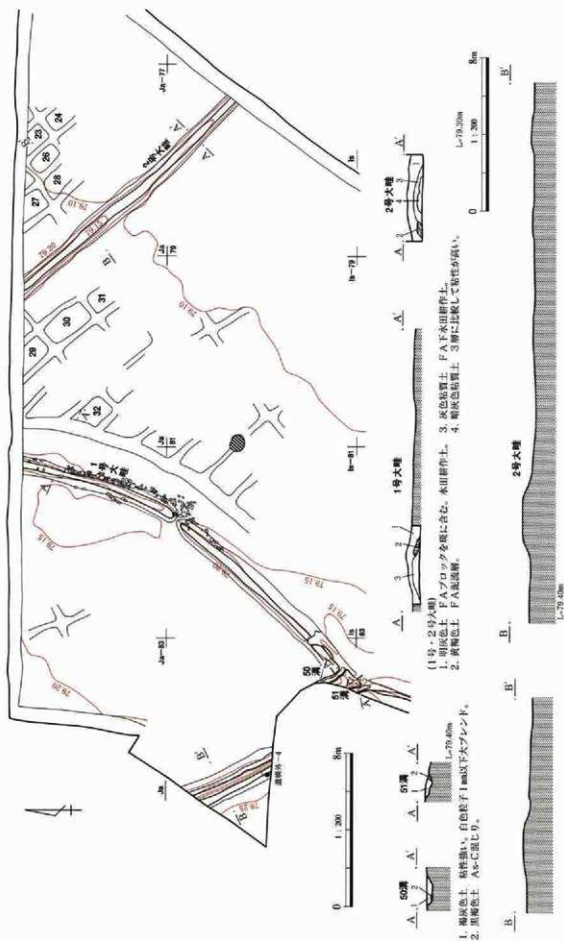
表75 E-2区第5面溝計測一覧

名称	位置	方位	比高 (m)	規模(長:m,幅:深さ:cm)	備考				
				確認全長	上層	下層	深さ		
50	1s-83	N-30°-W	0.02	1.5	32	18	8	51号溝と大畦交叉部を切るように検出され、水口状の溝?	
51	1r-83	S-20°-E	0.02	0.9	36	20	8	50号溝と大畦交叉部を切るように検出され、水口状の溝?	



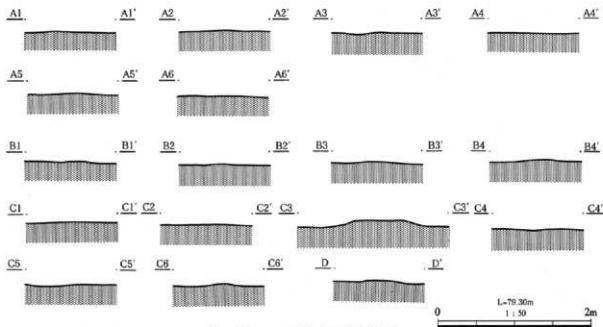
第243图 第五面全体图



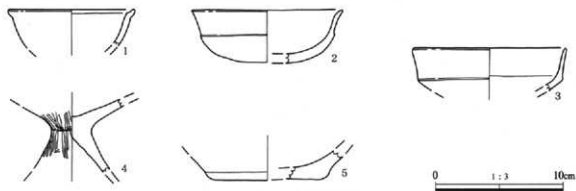


新244図 E-1区第5面水田(1)





第246図 E-2区第5面水田横断面



第247図 第5面遺構外出土遺物

E-2区第5面 遺構外出土遺物観察表(第247図、PL86)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	土師器 坏	I r-83 口縁部片	①-②- ③-	細砂・赤褐色粒含。 酸化。ふい・橙色。	口縁部内斜。内外面撫で。
2	土師器 坏	I q-84 1/5	①(12.0)②- ③(4.2)	赤褐色小粒・細砂僅少含 酸化。並。橙色。	器表面磨耗。口縁部横撫で。
3	土師器 坏	I q-83 口縁部片	①(12.0)②- ③(2.7)	細砂・赤褐色小粒僅少含 酸化。良。橙色。	内外面横撫で。
4	土師器 高坏	I t-84 胴部片	①-②- ③(5.7)	細砂粒混。酸化。良。に ふい・橙色。	くの字に開脚。外：縦位磨き。
5	土師器 甕	I m-88 底部片	①-②(9.5) ③(2.3)	砂粒含。酸化。良。にふ い・黄橙色。	内外面撫で。

号溝(第244図、PL76)・51号溝(第244図、PL76)の2条を検出したが、攪乱により壊された部分と両溝の延長部分が見られないことから、水口状の施設とも考えられる。

### 3) 遺物(第247図、PL86)

E-2区において調査面の精査において、1号大畦畔上及びIq-83・84グリッド周辺で土師器坏・高坏・甕等の破片が散在して出土した。

## 9. 第6面（古墳時代前期）の検出遺構

### (1) 第6面の概要

Hr-FA水田耕作土は、5～10cmの厚みで堆積し、灰褐色又は青灰色の夾雑物の少ない粘質土である。この層下から黒褐色の鉄分凝縮の見られるAs-C混じり土を確認し、面調査を行った。調査区内の傾斜は北西から南東に10cmの高低差を持つ。検出遺構には上面まで継続される1号～3号大畦畔と溝2条を検出した。

### (2) 検出遺構

#### 1) 水田（第250・251図、PL76）

E-1区では水田面の痕跡は大畦畔2条のみであ

り、畦畔や耕作痕などの痕跡は検出できなかった。

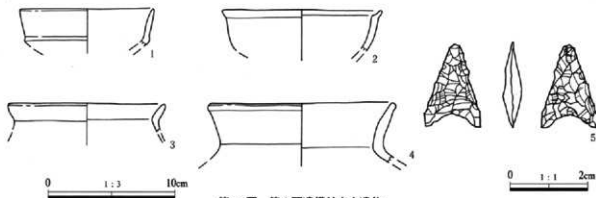
E-2区では、やはり2条の大畦畔の他に畦畔の高まりは残っていないが、直線的又は直交方向に伸びる土質の異なる帯を確認した。これらの帯状の痕跡は畦畔痕跡と考えられる。

#### 2) 溝

E-2区北東端部において平行気味の2条の52号溝（第253図、PL76）と53号溝（第253図、PL76）を検出した。両溝とも5～8cm程の掘り込みであり、途中で消失する。

表76 E-2区第6面溝計測一覧

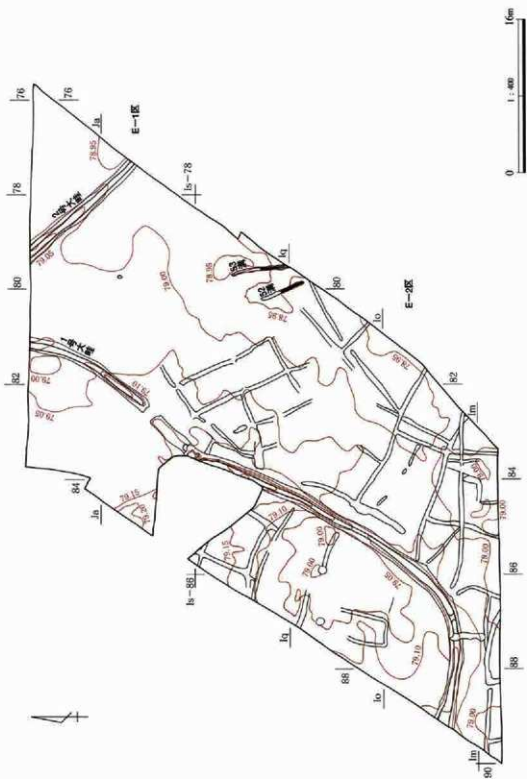
名称	位置		方位	比高 (m)	規模(長・m・幅・深さ・cm)				備考
	方向(上流→下流)				確認全長	上幅	下幅	深さ	
52	1q-80・1p-79		N-22°-W	0	4.9	27	15	6	畦状の痕跡帯で検出。
53	1r-79・1q-79		N-13°-W	0	6.0	35	5	8	掘り込みの浅い短い溝。



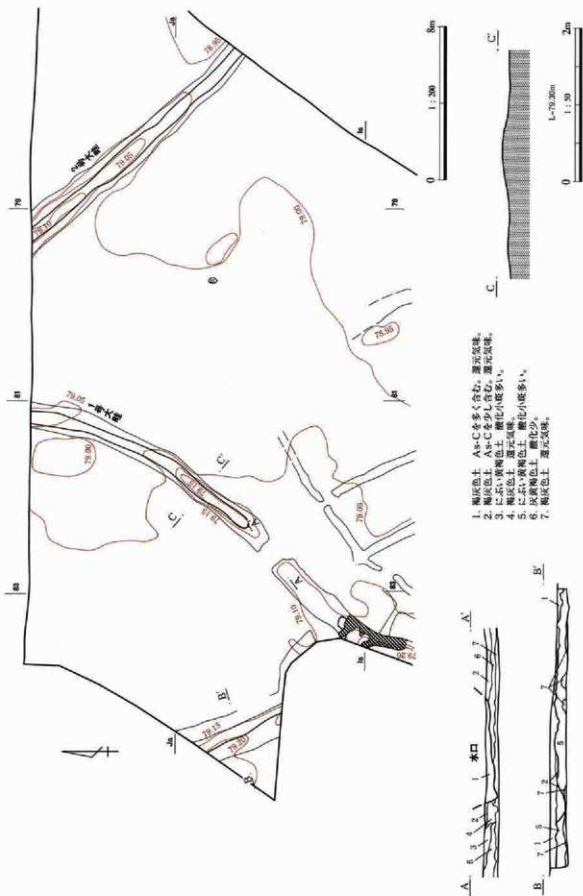
第248図 第6面遺構外出土遺物

E-2区第6面 遺構外出土遺物観察表(第248図、PL86)

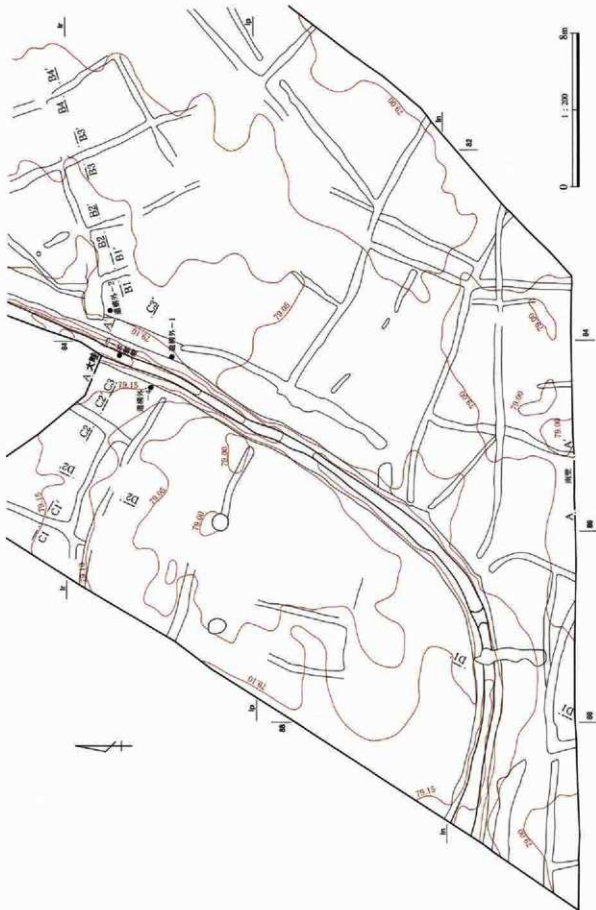
No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法, 器形の特徴
1	土師器 杯	1p-84 口縁部片	①(10.6)②- ③(3.0)	細砂・赤褐色粒塵少含。 酸化。良。褐色。	口縁部横断面で。
2	土師器 杯	1q-83 口縁部片	①(12.6)②- ③(3.2)	細砂・赤褐色粒含。酸化 良。ふよい褐色。	口縁部内斜。横断面で。内外面側で。
3	土師器 甕	1q-84 口縁部片	①(12.4)②- ③(2.0)	細砂含。酸化。明褐色。	口縁部横断面で。
4	土師器 甕	1q-84 口縁部片	①(14.8)②- ③(4.7)	砂粒混。酸化。並。ふよ い黄褐色。	口縁部横断面で。
5	石 石鏃	フタ土 完形	長2.2cm,幅1.5cm,厚0.5cm,重0.9g 石材:チャート		三角鏃。



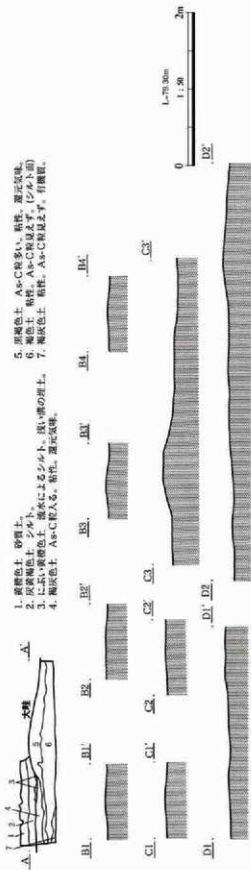
第2-99回 第6面全体図



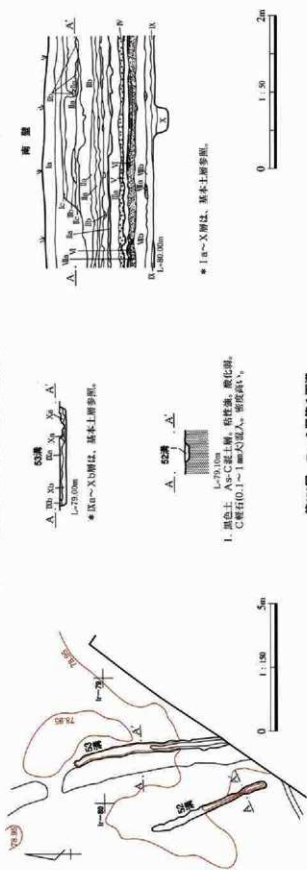
第250図 E-I区第6面水田(1)



第251图 E-2区第6面水田(2)



第252図 E-2区第6面水田横断面



第253図 E-2区第6面溝



### 3) 遺物 (第248図、PL86)

1号大畦畔中央付近及びTr・Iq-86グリッド内より土師器坏・甕破片が散在し出土した。

### 10. 第7面 (古墳時代前期) の検出遺構

#### (1) 第7面の概要

E-1区ではAs-C混じりの黒褐色土を取り除き黒色粘質土面にて水田畦畔状の痕跡と溝2条を検出し面調査を行った。調査区内の傾斜は北西から南東に10cmの高低差を持つ。

#### (2) 検出遺構

##### 1) 水田 (第255図、PL76)

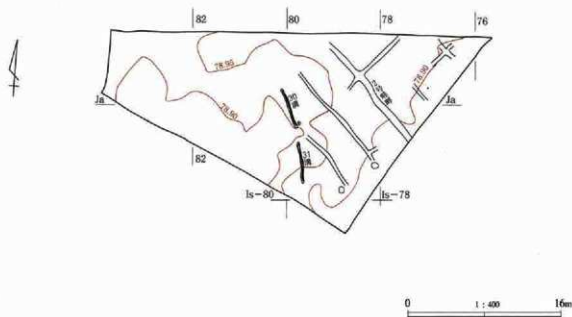
調査区東寄りで上面2号大畦畔の同一位置でN-40°-Wに向く畦畔痕跡を検出した。畦畔は2号畦畔と平行に走る数条の痕跡を検出した。

##### 2) 溝

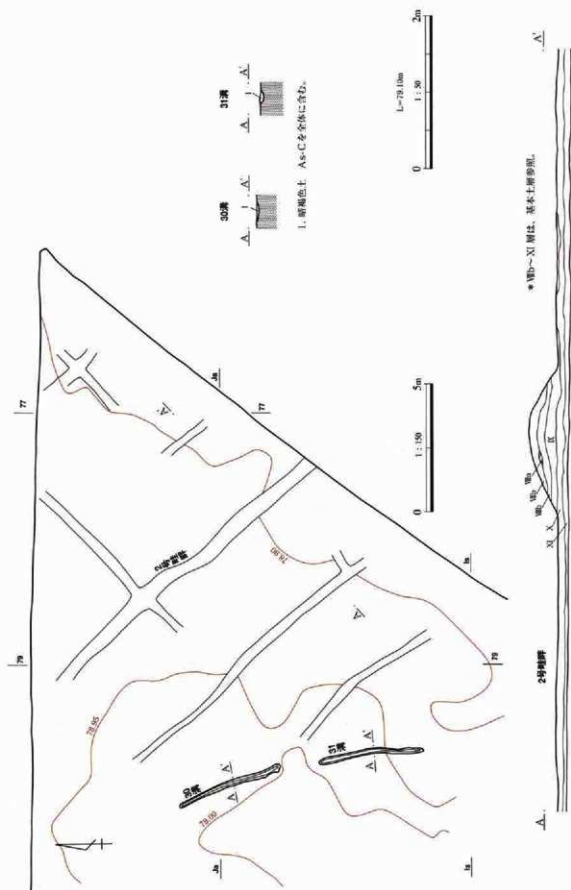
30号溝 (第255図、PL77)、31号溝 (第255図、PL77) と番号が付されているが、方向規模とも近似した値であり、同一溝と考えられる。

表77 E-1区第7面溝計測一覧

名称	位置	方位	比高 (m)	規模(長・幅・深さ:cm)				備考
	方向(上流→下流)			確認全長	上幅	下幅	深さ	
30	I t-79 → J a-79	S-13°-E	0.04	4.4	24	12	3	31号溝と同一か? 短く浅い溝。
31	I s-79 → I t-79	N-10°-W	0.05	4.2	20	10	8	30号溝と同一か? 短く浅い溝。



第254図 E-1区第7面全体図



附256図 E-1区第7面水田・溝

## 11. 第8面（古墳時代）の検出遺構

### (1) 第8面の概要

本調査区の最終面である。As-C等の軽石を含まないすんだ黄褐色又は灰褐色土面である。本面では人為的な遺構としては溝4条を確認した。その他風倒木痕や耕作痕の掘り方又は耕作痕下層の土質が酸化・還元などにより変色した部分等が入り混じり確認できた。

### (2) 検出遺構

#### 1) 溝

32号溝 (第258図、PL77) E-1区北端部の1号

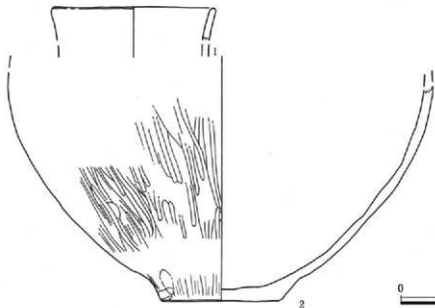
大畦畔下部から検出した。走行は大畦畔とほぼ同じであるがE-2区では検出できなかった。掘り込みは浅く、のり面はだらけ形状は不明瞭であった。溝北端寄りで壺型土器の胴下半部が出土した。

33号溝 (第258図、PL77) と34号溝 (第258図、PL77) は蛇行しながら合流し、33号溝はE-2区の54号溝 (第258図) へ、また35号溝はE-2区の55号溝 (第258図) へ、X字状に交差しつながらる。

56号溝 (第259図) 調査区中央東壁より発する。掘り込みは窪み程度と浅く、砂層の堆積が見られた。

表78 第8面溝計測一覧

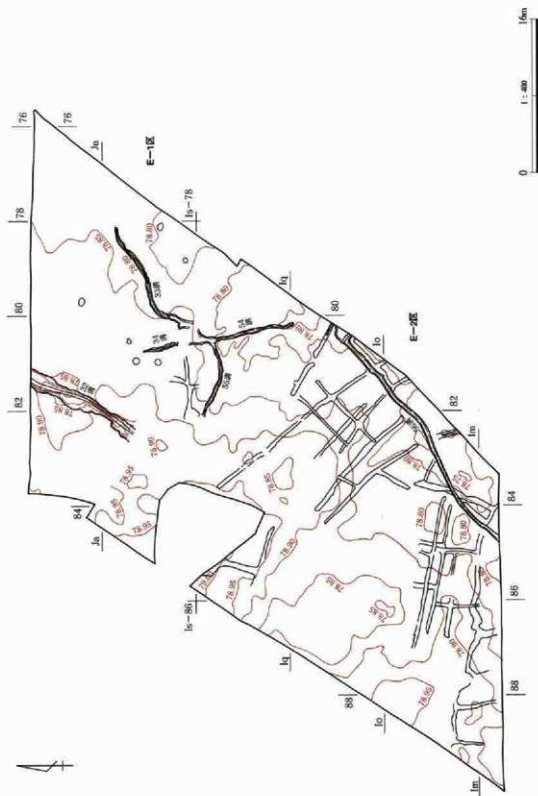
名称	位置 方向(上流→下流)	方位	比高 (m)	規模(長・m・幅・深さ・cm)			備考	
				確認全長	上幅	下幅		深さ
32	1t-82 → 1b-81	S-27°-W	0.05	12.2	158	40	13	E-1区。だらけた浅い溝。
33	1t-78 → 1s-80	N-54°-E	0	14.0	42	20	10	E-1区。E-2・55号溝とつながる。X字状に交差する。
34	1t-80 → 1s-80	N-15°-W	0.01	3.4	40	20	2	E-1区。E-2・54号溝とつながる。X字状に交差する。
54	1r-80 → 1q-80	N-10°-W	0	10.5	50	30	5	E-2区。E-1区34号溝とつながる。
55	1r-80 → 1r-82	N-83°-W	0	9.0	32	10	5	E-2区。E-1区33号溝とつながる。X字状に交差する。
56	1o-79 → 1l-84	N-52°-E	0	28.4	54	30	5	E-2区。54号溝の延長か? 難く走行する浅い溝。



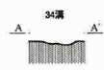
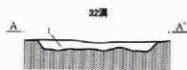
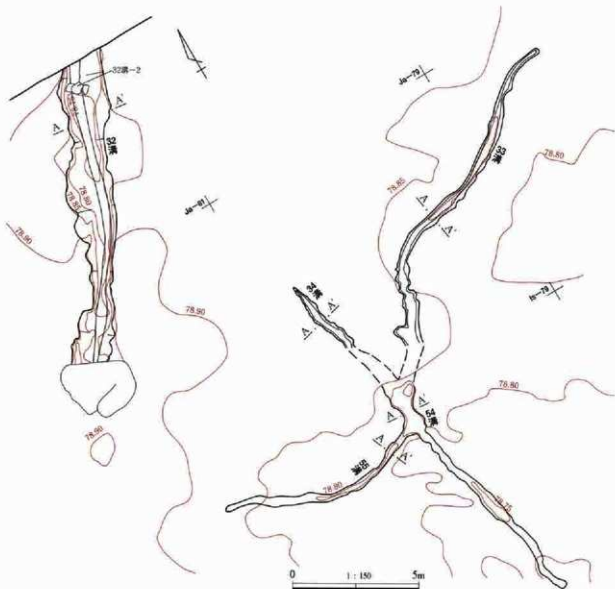
第256図 E-1区第8面32号溝出土土物

E-1区第8面 32号溝出土土物観察表(第256図、PL83)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	土師器 甕	フタ土 口縁部片	①(13.0)②- ③(2.6)	砂粒混。酸化。黄、灰黄色。	口縁部横断面。
2	土師器 甕	-7 胴~底部	①-②9.5 ③(18.0)	砂粒混。灰白色。	外面、微で後縦位置磨き。 内面、微で。



第257图 第6面全体图



(32・33号溝)

1. 赤褐色砂質土 鉄分比着。As-Cを含む。
2. 暗褐色土 鉄分比着。粘性強い。

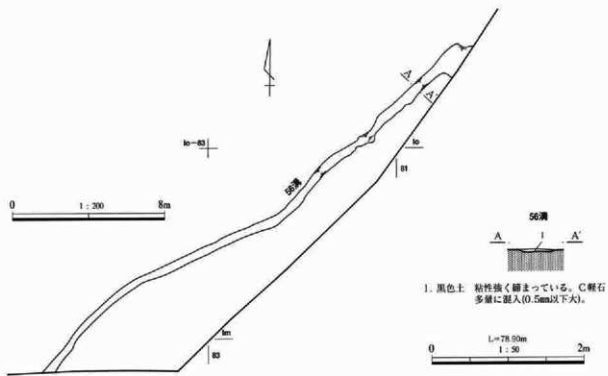


(54・55号溝)

1. 黒色土 粘性強く締まっている。C軽石多量に混入(0.5mm以下大)。



第258図 第8面溝



第259図 E-2区第8面56号溝

## 第三章 西横手遺跡群

### 第1節 調査の経過

西横手遺跡群は、高崎市東部の利根川右岸の堤防下から市道東部幹線までの間にあり、西横手町に位置する。東部幹線を境に宿横手三波川遺跡E区と接する。路線は北関東自動車道の西側を併走し、利根川を渡河し前橋市に至る。遺跡内の路線全長は140mを測り、S T No.203～211の間である。

調査対象地周辺部は住宅地となっており、用地等が解決した部分より順次発掘調査を行い、また工事工程の中で優先区間があれば緊急対応行うこととした。最初の調査は平成10年1月からB区より開始した。

発掘調査面や検出遺構については、先行して調査が行われていた北関東道の成果である。浅間山や榛名山の噴火火山灰の降灰やその後の泥流層の堆積、更に利根川変流後の氾濫洪水層等の広がりを想定し、多面調査として調査工程を組んだ。

### 第2節 A区の検出遺構

#### 1. A区の検出面の概要

当区は遺跡南端部に位置し、宿横手町の宿横手三波川遺跡E区と接する。当区は宿横手三波川遺跡同様、火山灰や洪水層の堆積が見られ、それらの下層より遺構を検出した。調査面数は6面を数え、各面の概要は以下の通りである。

第1面（近世以降） 溝・土坑・井戸

第2面（中世） 溝・土坑群。

第3面（古代） As-B層埋没水田、

第4面（古墳時代） Hr-FP、Hr-FA下面水田・溝

これらの遺構確認面間の間層中にも耕作や遺構の掘り込みなど継続的な生活の痕跡があり、掘り込み面の特定は困難であり、洪水層や火山灰層下の遺構検出面と同時調査がなされた。

#### 2. 第1面（近世以降）の検出遺構

##### (1) 第1面の概要

天明3年浅間山の噴火に伴う火山灰がこの地域一帯を覆い、利根川には泥流が押し寄せ多大な被害をおよぼした。当区では、As-A混じりの表土を除去し、As-Aを含む褐色土面を第1面として調査を行い、土坑・溝・井戸を中心として、竪穴状遺構・サク状遺構などを検出した。

##### (2) 検出遺構

###### 1) 溝

本面では16条の溝を検出した。溝の走行は主に国家座標と同方向の東西南北方向に走る。

調査区北東端部において1号溝から6号溝を検出した。1号溝（第261図、PL89）は、2号井戸を掘り込み、溝内には大礫が投げ込まれた状態で出土した。掘り込みはしっかりしており断面U字状を呈する。西端は4号溝方向に向かいながら収束する。2号溝（第261図、PL89）及び3号溝（第261図、PL89）は平行気味に近接する細長い溝である。4号溝（第261図、PL89）・5号溝（第261図）・6号溝（第261図、PL89）を含め近接し東西方向に併走する。4号溝と6号溝は規模もほとんど同じであり、短く収束する。5号溝は、船底状に掘り込まれ、西端及び中央付近に南法面立ち上がり部分に大礫を1列に並べたような状態で検出した。

7号溝（第261図、PL89）は、調査区北東部よりやや斜行しながら中央部付近で南にクランク状に屈曲する。北東部では東西方向に走る14号溝（第261図、PL90）・15号溝（第261図、PL90）と重なるが、重なり部分で暗渠と思われる礫群が出土し、新旧関係がわからない。

西端は、9号溝（第261・263図、PL89）を掘り込み西隣の10号溝（第261・263図、PL89）と交わる。

14号溝・15号溝上には石垣として大礫が別状に数段組み上げられており根石を埋め込むために掘り込

まれた溝である。8号溝(第261図、PL89)は東西方向に掘り込まれた丸底状の溝であり、4号・5号土坑を掘り込み、西端で7号溝に交わる。また13号溝(第261図、PL87)も東西方向に伸び、中央部で1号土坑に掘り込まれ、西端部では7号溝に接する。

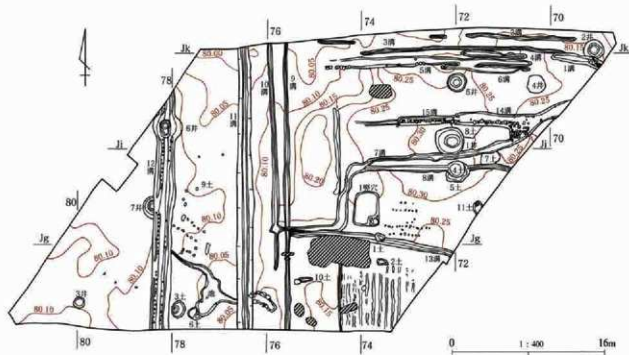
9号溝～12号溝は、南北方向に平行に向く溝群である。9号溝(第261・263図、PL89)・10号溝(第261・263図、PL89)は2～3m程の間隔で併走し、規模及び断面形状も似ている。9号溝は7号溝に掘

り込まれ、10号溝は7号溝と交わるが、調査区内で収束してしまう。11号溝(第263図、PL89)は築研状に1m近く掘り込まれた溝である。

12号溝(第263図、PL90)は調査区最大の溝であり、11号溝と平行する。掘り込みも深く断面ルート状を呈する。上層から中層にかけて大礫が出土した。また、明瞭な掘り込みではないが、調査区中央部の7号溝のクランク部分の北側延長9号溝の間に帯状溝と呼ぶ幅広の窪みを検出した。

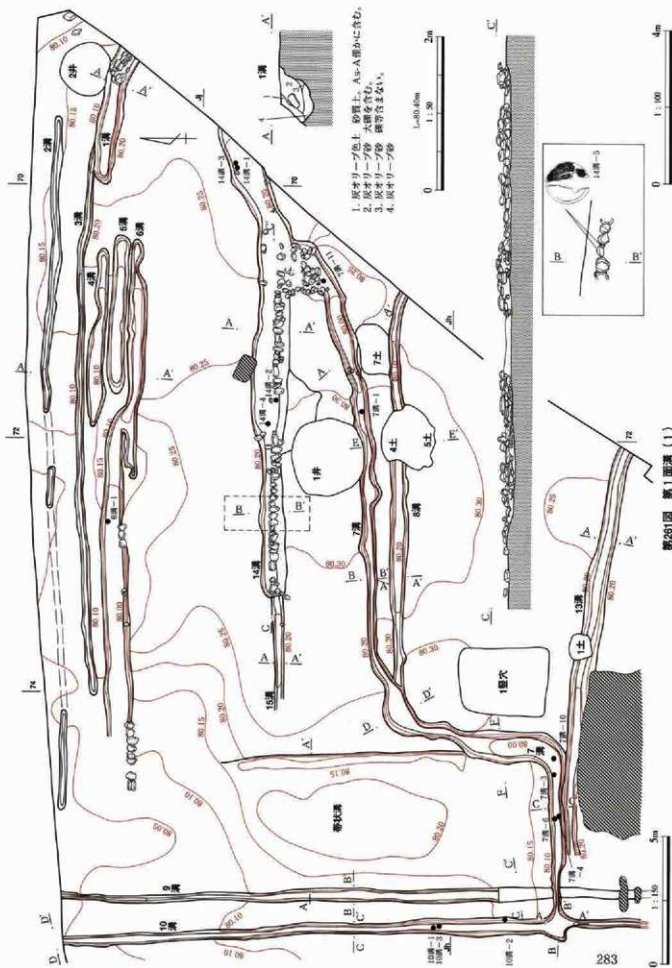
表79 第1面溝計測一覧

名称	位置		方位	比高 (m)	規模(長・幅・深さ・深さ) (cm)				備考
	方向(上流→下流)				幅	深さ	上層	下層	
1	Jj-69	N-80°-W	0	3.6	90	40	45	1号井戸に切られる。大礫が投げ込まれる。	
2	Jk-71 → Jj-69	N-87°-W	0	11.8	50	30	6	3号溝と併走する。	
3	Jk-73 → Jk-69	N-90°-W	0.10	22.0	30	10	15	2号溝と併走する。	
4	Jj-70 → Jj-71	S-88°-E	0.03	7.1	70	40	13	3号溝と5号溝に挟まれた短い溝。	
5	Jj-70 → Jj-74	N-88°-E	0.08	20.0	115	75	21	4号溝と6号溝に近接併走する。礫が並べられる。	
6	Jj-70 → Jj-72	S-88°-E	0.02	9.5	80	40	20	5号溝に近接。短い溝。	
7	Ji-69 → Jj-75	N-67°-E	0.27	39.0	120	75	23	14号溝より浅しクランク状に折れ曲がり、10号溝と合流。	
8	Jh-70 → Jh-73	N-89°-E	0.03	15.7	70	43	14	下層より16号溝重複。同一溝とする。7号溝と合流。	
9	Je-75 → Jk-75	S-1°-E	0.05	30.4	55	30	14	南北軸方向に直線的に伸び、7号溝に切られ10号溝と併走する。	
10	Ji-75 → Jk-75	S-3°-E	0.08	24.0	40	20	15	南北軸方向に直線的に伸び、7号溝と合流する。	
11	Jk-76 → Je-76	N-1°-E	0.15	29.8	185	60	85	南北軸方向に直線的に伸び、築研状の掘り方。一括埋土。	
12	Je-78 → Jj-78	S-4°-W	0.05	55.0	235	40	67	南北軸方向に直線的に伸び、逆台形の掘り方。一括埋土。	
13	Ji-72 → Jg-75	S-83°-E	0.09	16.3	87	35	42	東西方向の溝。7号溝と合流する。	
14	Ji-70 → Ji-73	N-89°-E	0.02	14.6	105	55	43	東西方向の溝。石堀が掘られる。7号溝との合流部に暗渠あり。	
15	Ji-73 → Ji-74	N-87°-E	0	4.3	50	25	14	14号溝の西端より発し、途中消失する。	



第260図 第1面全体図





第201図 第1面溝(1)



(2~5・6号溝)

1. 灰黄褐色土 砂質土。As-Aを若干含む。
2. 灰黄褐色砂
3. にぶい黄褐色砂
4. 暗灰黄色砂

5. 黒褐色砂
6. 暗灰黄色土 As-A、黄色小粘土ブロックを含む。
7. 褐色砂 全体に砂層で、しまりなくさらさらしている。
8. 褐灰色土 粘土質で、固くしまる。



(7号溝・7号土坑)

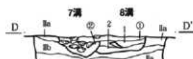
- ①. 暗褐色土 砂質土。軽石を微量に含む。
- ②. 灰褐色土 砂質土。軽石を微量に含む。
- ③. 灰黄褐色土 砂質土。川砂を含む。
- 1a. 灰黄褐色土 砂質土。軽石を含む。しまりあり。
- 1b. 灰黄褐色土 砂質土。軽石を含む。炭化物をごく微量に含む。
- 2a. 褐灰色土 砂質土と粘質土の混生。
- 2b. 褐灰色土 砂質土。細粒砂混じり。
3. 灰黄褐色土 砂質土。軽石を含む。
4. にぶい黄褐色土 砂質土。川砂を多く含む。

\* 1b~1b層は、基本土層参照。



(7号溝)

- ①. にぶい黄褐色土 小粒の白色軽石を含み、固くしまる。
- ②. にぶい黄褐色土 1層より軽石の量が極めて少ない。

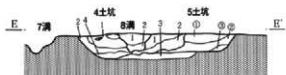


(7・8号溝)

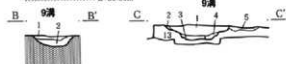
- ①. 褐色土 小粒の白色軽石を多量に含む。
- ②. 灰黄褐色土 小礫含む。炭化物を若干含む。

1. 褐色土 As-Aを含む。固く締まった層。
2. 灰黄褐色土 砂質土。

\* 1a・1b層は、基本土層参照。  
\* 4・5号土坑は、土坑の土層参照。(第271図)



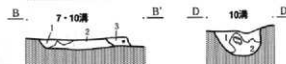
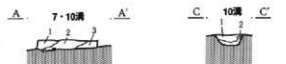
L=80.50m



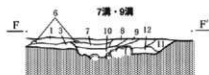
(9号溝)

1. 灰褐色土 砂質土。As-Aを微量に含む。
2. 黒褐色土 砂質土。軽石多い。

\* 1a~1b層は、基本土層参照。



L=80.50m



(7・9号溝)

1. 灰黄褐色土 砂質土。黄褐色シルト質土ブロックが多量に混入。
2. 褐灰色土 砂質土。
3. 灰黄褐色土 砂質土。
4. 褐灰色土 砂質土。
5. 黒褐色土 砂質土。As-Aを含む。炭化物をごく微量に含む。
6. 灰黄褐色土 砂質土。洪水層。
7. にぶい黄褐色土 砂質土。軽石・鉄分を含む。
8. 灰黄褐色土 砂質土。
9. にぶい黄褐色土 砂質土。軽石ブロック状に含む。炭化物を含む。
10. 黒褐色土 砂質土。
11. にぶい黄褐色土 砂質土。
12. 暗褐色土 砂質土。
13. にぶい黄褐色土 砂質土。鉄分を全体にラミナ状に含む。炭化物含む。

(7・10号溝)

1. 褐色土 砂質土。浅面の軽石・炭化物をごく微量に含む。
2. にぶい黄褐色土 砂質土。軽石を微量に含む。
3. 灰黄褐色土 砂質土。軽石少ない。

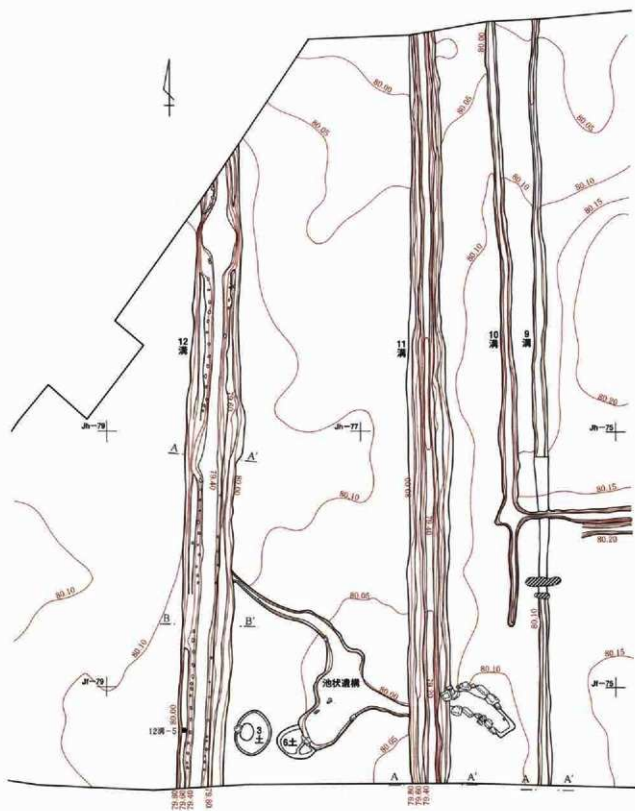


L=80.40m

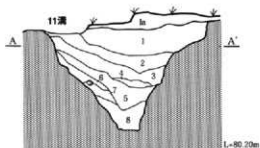
1:50

2m

第262図 第1面溝断面

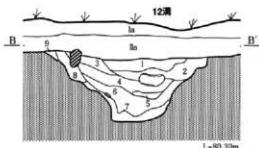
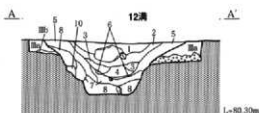


第263区 第1面溝(2)



\* 1a層は、基本土層参照。

1. 灰黄褐色土 砂質土。
2. 灰黄褐色土 砂質土。暗褐色土ブロックが混入。
3. 灰黄褐色土 砂質土。黄褐色土ブロック混入。
4. 灰黄褐色土 砂質土。
5. にぶい黄褐色土 砂質土と粘質土の混入。
6. にぶい黄褐色土 砂質土。
7. 褐灰色土 砂質土。
8. 褐灰色土 砂質土。粒子粗かく、ややシルト質。



(12号溝)

1. にぶい黄褐色土 砂質土。
2. にぶい黄褐色土 砂質土。
3. にぶい黄褐色土 砂質土。
4. 灰黄褐色土 粘質土。砂質土をブロック状に含む。
5. にぶい黄褐色土 砂質土。

6. 灰黄褐色土 砂質土。
7. 褐灰色土 粘質土。砂質土が混入。FP配面ブロック混入。
8. にぶい黄褐色土 砂質土。
9. にぶい黄褐色土 砂質土。
10. 褐灰色土 砂質土。As-Bを含む。

\* 1a～重b層は、基本土層参照。



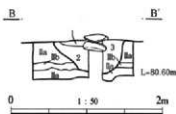
(13号溝)

1. にぶい黄褐色砂 全体にさらさらしている。



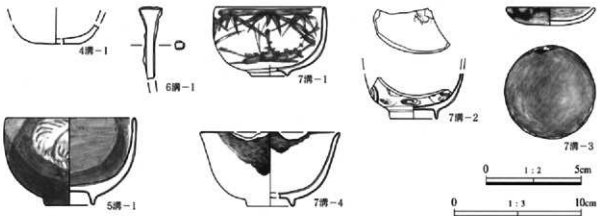
(15号溝)

1. 褐色土 砂質土。黄褐色土が混入。
2. 灰黄褐色土 砂質土。粘質土が混入。

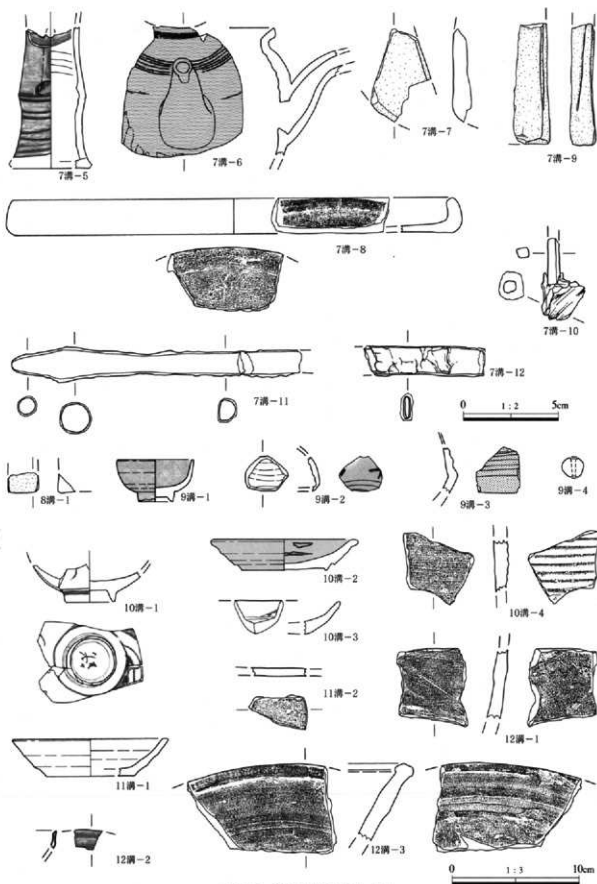


(14号溝)

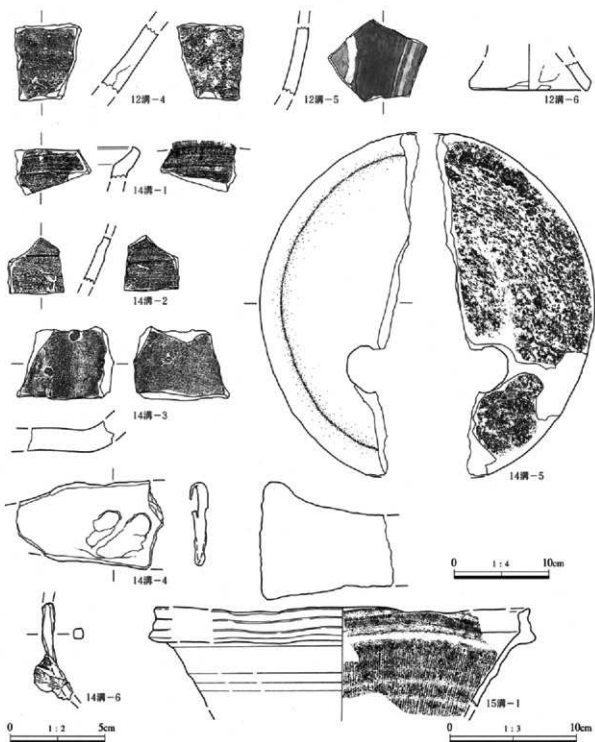
1. 褐灰色土 砂質土。黄褐色土がブロック状に混入。炭化物を含む。
  2. 灰黄褐色土 砂質土。礫を微量に含む。炭化物を含む。
  3. にぶい黄褐色土 砂質土。黄褐色土が混入。
  - ① にぶい黄褐色土 砂質土。
  - ② 灰黄褐色土 砂質土。
  - ③ 黒褐色土 砂質土。
  - ④ にぶい黄褐色土 砂質土。
  - ⑤ 暗褐色土 砂質土。
  - ⑥ 灰黄褐色土 砂質土。川砂が混入。
- \* IIa・IIb・VIIa層は、基本土層参照。



第264図 第1面溝断面及び溝出土遺物(1)



第265図 第1面溝出土遺物(2)



第266図 第1面溝出土遺物(3)

第1面 溝出土遺物観察表(第264~266図、PL120・121)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
4溝 1	炊飯陶器 かわらけ	フク土 底部片	①-②(3.8) ③(1.4)	砂粒含。酸化。にぶい黄 褐色。	高台部剥落。
5溝 1	陶器	フク土 1/2	①(10.2)②(3.8) ③(6.9)	鉱物見えず。重。細。弱 酸化。オリーブ褐色。	内外面に白土施文あり。透明釉が高台端部を除き施される割 れ口消耗あり。18世紀。磨津系。
6溝 1	鉄製品 釘	±0	長(3.8)cm, 幅1.3cm, 厚0.5cm, 重(1.5)g		調査時以降欠損。茶葉。層状剥落あり、和鉄。錆ぶくれあり 19世紀以前。

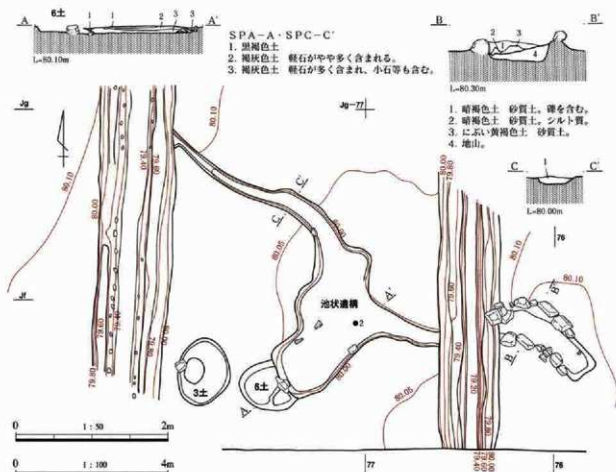
7 陶器 1 染付碗	+14 2/3	①(8.6)②(3.0) ⑤(5.4)	磁物見えず。重。締。 還元。灰色。	2片接合。内外面に竹文と界線を施す。土少し灰色がかかる 割れ口シャープ。湯呑。19世紀。肥前系。瀬戸。
7 陶器 2 染付碗	フク土 底へ体部片	①-②(3.6) ③(3.5)	磁物見えず。重。締。 還元。灰白色。	内外面に染付施文。白磁物少し青みがかかる。割れ口消耗あり。 湯呑。19世紀前半。肥前系。
7 陶器 3 鉄胎陶器 燗火皿	+8 口縁部小欠	⑦(7.0)②(2.0) ⑤(1.9)	磁物見えず。重。締。弱 還元へ酸化へ。褐色。	底面右回転戻り。底を除き施釉。油煙の付着見えず。割れ 口少し消耗。18・19世紀。常滑か?
7 陶器 3 緑・鉄胎陶 器・碗	+16 1/4	①(9.0)②(3.6) ⑤(5.8)	磁物見えず。やや軽。締 弱還元。灰白色。	内外面と口縁部に緑と口縁の施釉あり。長石釉は細買入あり。 割れ口消耗少。18世紀。美濃。
7 陶器 5 鉄胎陶器 花生	フク土 1/2	①-②(6.1) ⑤(11.2)	磁物見えず。重。締。中 性から弱酸化へ。褐色。	竹筒形花生。底部は粘土板。鉄胎は褐色がかかる。割れ口シャ ープ。18・19世紀。産不明。
7 陶器 6 鉄胎陶器 注口徳利	+14 1/3	①-②-③ ⑤(10.3)	磁物見えず。やや軽。弱 酸化。にぶい黄色。	肩部に4+4本の沈線あり。注口部は被熱色変と吸込あり割 れ口消耗あり。18世紀。美濃。燈火具か?
7 陶器 7 石製品 砥石	フク土 欠損あり	長(7.3)cm,幅(4.3)cm,厚(1.5)cm,重(40)g 石材:硬質泥岩		中砥級。自然石砥で同平面左下に用原石面あり。右側部と表 面が使用され、裏面は割られた面。消耗少。
7 陶器 8 軟質陶器 燈台	フク土 口縁部片	①(3.8) ②(3.8)③(2.7)	黒・白色磁物含。軽。並 酸化。にぶい黄褐色。	外面に彫付文。底面に型状と砂付着あり。内外面横線で割 れ口消耗少。19世紀。小泉焼。
7 陶器 9 石製品 砥石	フク土 欠損あり	長(9.5)cm,幅(2.8)cm,厚1.8cm,重(70)g 石材:変質デイスサイト		中砥級。片小口と片側部時欠損。使用片側部と表・裏面の 3面。割れ口消耗少。部分吸込あり。砥面は右利き
7 陶器 9 鉄製品 釘	+18	長3.9cm,幅0.7cm,厚0.5cm,重(4.1)g		茶釜。上方調査時以降欠損。下方旧欠。使用釘で木質着上 方は銅線直線の欠損。肩状剥落あり。和鉄。19世紀以前。
7 陶器 11 ノミ	+18	長15.5cm,幅1.9cm,厚1.7cm,重(57.4)g		刃先旧時欠損。茶釜。刃部欠。茎に木質なし。縁の磨削ある もの古代鉄か和鉄か不明。釜口部、局部高丸長方形の横断面。 19世紀以前。
7 陶器 12 小瓶と蓋片	フク土	長6.5cm,幅1.6cm,厚0.6cm,重(11.1)g		茶釜。上方調査時以降欠損。下方旧欠。全体に曲げられる和 鉄。蓋部片残存。錆ぶられ。照鏡目不明。19世紀以前。
8 陶器 1 砥石	フク土 破片	長(1.6)cm,幅1.4cm,厚(1.3)cm,重4g 石材:変質デイスサイト		角部の小片。欠損は旧欠。使用は4面。消耗少。
9 陶器 1 小坏	フク土 1/2	①(6.0)②(2.8) ③(3.3)	磁物見えず。やや軽。 締。灰色。	2片接合。高台部を除き内外面に透明釉を施す。外面下半回 転施釉あり。割れ口消耗。18世紀。美濃。
9 陶器 2 染付小徳利	フク土 体部片	①-②-③-④	磁物見えず。重。締。 還元。明青灰色。	外面下方回転施釉あり。外面上方に透明釉と染付施文。内面工 具による磨目。割れ口シャープ。19世紀。肥前系。
9 陶器 3 徳利	フク土 体部片	①-②-③-④	磁物見えず。重。締。還 元へ酸化。にぶい赤褐色。	内外面施釉。体部片あり。外面隆部3条。割れ口シャープ。 18~20世紀。産不明。
9 陶器 4 ガラス 燗玉・赤	フク土 完存	長・幅・厚・重5g		グエネチア玉の金発色を思わせるほど赤い。縁が細く裏表に 見える。穴部中央に彫れなく直孔。18~19世紀。国産?
10 陶器 1 染付碗	+5 下半部	①-②③.9 ④-	磁物見えず。重。締。 還元。灰白色。	外面に染付施文あり。割れ口シャープ。18世紀。肥前系。
10 陶器 2 皿	+7 1/2	①(11.2)②(6.8) ③②.4	磁物見えず。やや軽。締 中性へ弱酸化。	明オリブ灰色。高台部を除き。内外面に長石釉を施す。内 面目録とひつつきあり。割れ口消耗あり。17世紀。美濃。
10 陶器 3 徳利	+6 口縁部片	①-②-③(2.6)	磁物見えず。重。締。 還元。灰白色。	内面に染付施文と肥前部あり。波佐見くろわんか皿。割れ口 少し消耗。18世紀前半。肥前系。
10 陶器 4 燗	フク土 体部片	①-②-③-④	磁物見えず。重。締。還 元気味。明赤褐色。	外面に9+4本の隆部あり。内外面に施釉。18~20世紀。産 不明。
11 陶器 1 皿	フク土 1/3	①(12.0)②(7.0) ③②.9	黒・白色磁物多。軽。並 酸化。にぶい赤褐色。	2片接合。内外面に施釉あり。底面は糸切焼。割れ口少し 消耗。14・17~18世紀。呉内。
11 陶器 2 焙烙	フク土 底面片	①-②-③-④	黒・白色磁物多。軽。並 酸化。にぶい黄褐色。	底面に型状と砂付着あり。割れ口シャープ。19世紀。 小泉焼?
12 陶器 1 燗	フク土 体部片	①-②-③-④	白色磁物含。軽。並。弱 酸化。黒褐色。	内耳溝か。外面に彫付文。内面に横で痕。 割れ口消耗あり。15世紀。西毛。
12 陶器 2 燗	フク土 口縁部片	①-②-③-④	磁物見えず。重。締。 還元。褐色。	内外面に濃施釉。割れ口シャープ。17世紀。瀬戸・美濃。
12 陶器 3 軟質陶器 鉢	フク土 口縁部片	①-②-③-④	黒・白色磁物含。軽。吸 還元から弱酸化へ。灰色。	外面に彫付文あり転用か。口縁部内面側部使用消耗あり外 面工具磨目。割れ口消耗少。15世紀。西毛。
12 陶器 4 軟質陶器 鉢	フク土 体部片	①-②-③-④	白色磁物含。軽。硬。 還元。灰色。	内面使用磨耗少。外面指圧痕と下方に回転痕で痕あり。割れ 口消耗少。15世紀。西毛。
12 陶器 5 燗	+11 体部片	①-②-③-④	白色磁物多。重。締。還 元から酸化へ。灰白色。	外面に自然かぶり輪流あり。割れ口シャープ。 13~15世紀。常滑。
12 陶器 6 高台付杯	フク土 細片	①-②(9.0) ③(1.8)	黒・白色磁物含。軽。吸 酸化。にぶい褐色。	長脚の高台部か。シルト質。内厚。内外面に回転痕で痕あり。 11世紀。西毛。
14 陶器 1 燗	+1 口縁部片	①-②-③-④	白・褐色磁物含。軽。硬 還元から強へ。灰色。	内耳を設けない燗片。内外面横線で。割れ口シャープ。 14世紀。西毛。
14 陶器 2 鉢	+1 体部片	①-②-③-④	磁物見えず。やや軽。締 中性。灰赤色。	内外面に施釉あり。割れ口消耗あり。17・18世紀。美濃。

14溝 3	瓦 残瓦	+1	長さ-、幅- 厚さ1.8	白色鉛物・空母粒含。やや重。硬。還元から酸化へ	断面に雲母粒あり。さらに燻炭あり。割れ口磨耗少。19-20世紀。深谷か?
14溝 4	鉄製品 不明	-12	長7.8cm、幅4.7cm、厚0.9cm、重(28.4)g		調査時以降欠損。茶葉。片側に刃部があり、折り折りと二次転用の個体らしい。錆ぶくれ部分的にあり。和鉄か古代鉄か不明。19世紀以前。
14溝 5	石製品 臼	フク土 1/2	径(36.0)cm、厚(12.3)cm、重(7.7)kg 石材：秋野石		ものくぼりは見られるが、目は磨滅。
14溝 6	鉄製品 釘	フク土	長5.2cm、幅2.0cm、厚0.6cm、重(3.3)g		調査時以降の欠損。茶葉で二次被熱か? 木質残存。曲がりあり使用釘。層状剥落あり和鉄。和釘。19世紀以前。
15溝 1	陶器 標鉢	フク土 口縁部片	①(29.6)②- ③(5.8)	白色鉛物多。重。硬。 還元から酸化へ。	内外面の黄色は、輪か自然か不明。内面に6+α条跡目。使用磨耗少。割れ口シャープ。17世紀。信楽。

## 2) 池状遺構 (第263・267図、PL91)

11号溝・12号溝に挟まれた南側で斜めに両溝を繋ぐような状態で溝があり、そのほぼ中央部に長辺3m、短辺1.5m、深さ20cm程の規模を持つ、隅丸長方形が重なったような掘り込みである。頂部には6号土坑が重なる。埋没上下層には軽石層や大礫混じ

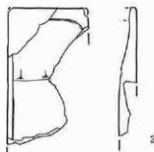
りの層である。また11号溝を挟み長辺2.5m、短辺60cm、深さ10cm程の規模を持つ長方形の土坑状の掘り込みを検出した。この周りには大礫が圍うように並べられていた。







第268図 第1面池状遺構出土遺物

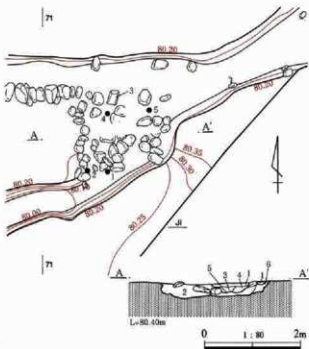


第1面 池状遺構出土遺物観察表(第268図、PL123)

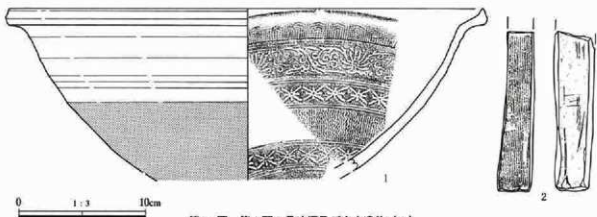
No.	器種 器形	出土位置 機 存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	軟質陶器 内耳端 方形碗	フタ土 破片	①-②-③-	黒・白色磁物含。並。並 酸化気味。にふい橙色。	底外面に空肌状の痕跡と砂付着。割れ口消耗少。19世紀。 煎内。
2	石製品 方形硯	-14 1/3	長(10.7)cm,幅6.4cm,厚1.5cm,重100g 石材：珪質粘板岩		造部隅丸方形。縁シャープな立ち上がり。両部中央僅かに 凹む。

3) 1号暗渠 (第269・270図、PL91)

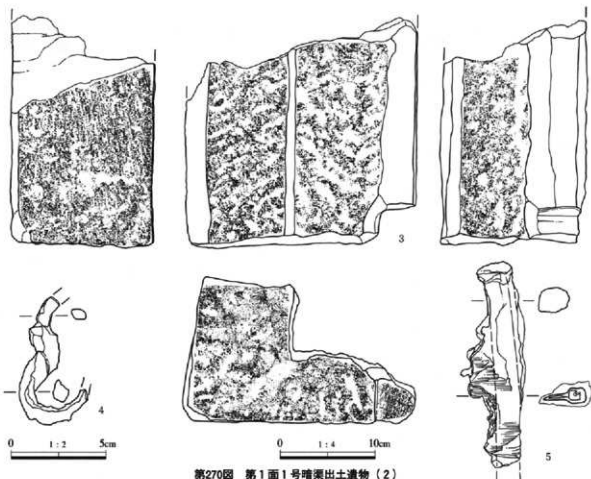
上面は、近世面である。石組みは、1辺約2.3mの方形の掘方四辺に2石前後で組み上げられ、乱雑に人頭大の川原石が内部に多数あった。さらに石材間には部分的に空洞箇所も認められた。そして周囲の溝遺構が、この場所で合流・分岐していることなども考慮すると、暗渠的な施設と考えられた。群馬県内の民家建築は、台所の北～北東隅側に排水溝が多い。出土遺物は、第269図1に見る18世紀代の陶磁器片が主で、下限は同図2の19世紀初頭頃の製品がある。



1. にふい・黄褐色土 砂質土。
2. にふい・黄褐色土 砂質土。
3. 暗褐色土 砂質土。
4. 褐色土 砂質土。
5. 暗褐色土 砂質土。礫を含む。
6. にふい・黄褐色土 砂質土。石組裏込め。



第269図 第1面1号暗渠及び出土遺物(1)



第270図 第1面1号暗渠出土遺物(2)

第1面 1号暗渠出土遺物観察表(第269・270図、PL123・124)

No.	器種 器形	出土位置 残存	法量(cm)①口径 ②底径③高さ	胎土・焼成・色調	成・整形技法、器形の特徴
1	陶器 鉢	-4 口~体部片	①38.0②— ③12.8	胎物見えず。重。締。 酸化。	内面に印文と白土による藍文。外面に炭灰軸上半と黒輪軸下半との輪掛け分けあり。割れ口シャープ。18世紀。唐津。
2	石製品 砥石	-20 片小口欠損	長12.5cm,幅3.2cm,厚2.8cm,重(160g) 石材：砥沢石		中底でも目つき、やや硬質、上等。片小口欠損、片小口榫目両側部榫目あり。表面が使用面。表面一部使用で僅か榫目残る。割れ口シャープ。19世紀前半。
3	石製品 マス?	-9 1/2	長24.5cm,幅(24.3)cm,厚15.3cm,重(9.9)kg 石材：粗粒輝石安山岩		内面斜方向のノミ痕明顯。 外面平滑。
4	鉄製品 不明	-7	長6.7cm,幅1.6cm,厚1.2cm,重(13.6)g		調査時以降の欠損。茶葉。本来的か二次的の歪曲が不明。全体的に錆ぶくれあり粗製を思わせる。和鉄。19世紀以前。
5	鉄製品 釘	-11	長10.7cm,幅3.4cm,厚1.3cm,重(49.5)g		下方旧損。暗茶葉。中央部に旧時の木質あり。大形。使用釘痕状剥落あり和鉄。犬釘より小形。19世紀以前。

#### 4) 土坑

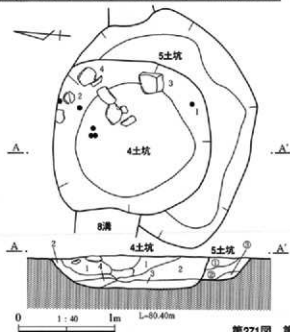
本区では11基の土坑を検出した。形状及び規模等の揃いは見られない。1号土坑(第271図、PL93)は13号溝中央部で溝を掘り込み構築され、灰黄褐色砂質土で埋没している。2号土坑(第271図、PL93)はそのすぐ南に位置し、As-Aを多量に含む。3号土坑(第271図、PL93)は12号溝南端に位置し、掘り込みの深くない平底状を呈する。4号土坑(第271

図、PL93)と5号土坑(第271図、PL93)は重複し、4号土坑が5号土坑を掘り込み、4号土坑は8号溝に掘り込まれている。4号・5号土坑とも掘り込み断面は台形状を呈し、地山ブロックの入り混じる人為的埋没土で埋まっている。4号溝中より陶磁器や石臼等が出土している。6号土坑(第272図、PL93)は、11号溝と12号溝の間の南端で検出された池状遺構に掘り込まれる。掘り込みは浅く底面は池状遺構

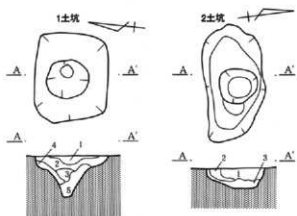
と水平であり、埋没土も類似することから同一遺構の可能性が考えられる。7号土坑(第272図、PL94)は7号溝と8号溝により挟まれ7号溝に切られ、8号溝を切っている。埋没土は地山の混土が主体であり、人為的埋没土と考えられる。出土遺物には軟質陶器銅破片が出土している。8号土坑(第273図、PL94)は、14号溝や1号井戸に切られ形状は不明瞭である。一部残っている断面では丸底状を呈し、埋没土中には川砂等が混入している。9号土坑(第272図、PL94)は、12号溝東側で検出した円形土坑。10号土坑(第273図、PL94)は、9号溝東側で検出した細長く掘り込みの浅い溝状の土坑である。11号土坑(第273図)は、調査区中央東壁にかかる状態で検出した。埋没土上層は大礫と地山ブロックも含まれ人為的な一括埋土か。

表80 第1面土坑計測一覧

No.	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	軸方位
1	Jg-73	95	77	43	方形	N-90°
2	Jf-73	126	62	21	不定形	N-80°-W
3	Je-77	169	163	29	円形	N-3°-W
4	Jh-71	185	156	36	円形	N-35°-E
5	Jh-72	255	190	23	不定形	N-11°-W
6	Je-77	162	120	15	楕円形	N-40°-W
7	Jh-71	(163)	198	41	楕円形	N-16°-W
8	Ji-71	-	-	-	-	-
9	Jg-76	70	65	34	円形	N-3°-W
10	Je-75	(130)	30	4	不定形	N-7°-W
11	Jg-71	(195)	24	38	不定形	N-12°-E



第271図 第1面土坑(1)

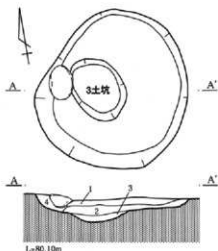


(1号土坑)

1. 灰褐色土 砂質土。
2. 灰褐色土 砂質土。若干の白色軽石を含む。
3. 灰褐色土 白色軽石若干を含む。
4. 灰褐色土
5. 褐灰色砂

(2号土坑)

1. 灰褐色土 砂質土。As-A軽石を多量に含む。
2. にぶい黄褐色土 砂質土。底部にAs-A軽石が多く堆積。
3. にぶい黄褐色土 砂質土。As-A軽石を微量に含む。



(3号土坑)

1. 灰褐色土 白色軽石・炭化物も若干含まれる。
2. 灰褐色土 白色軽石も若干含まれる。固くしめる。
3. 褐色土 B凝層の主になる砂で全体にさらさらしている。
4. 灰褐色土 1層に似るが軽石は含まれない。

(4号土坑)

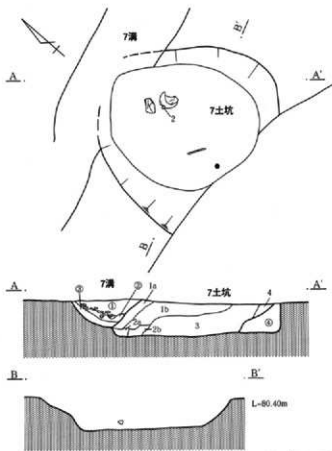
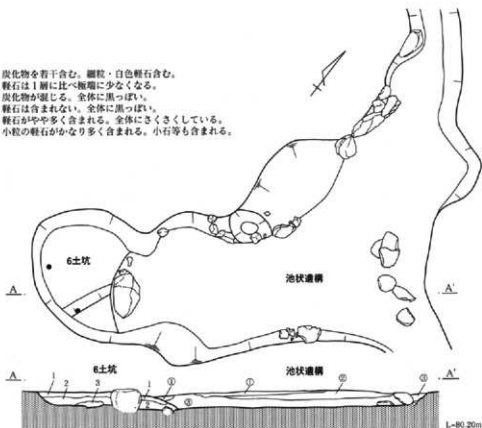
1. 褐灰色土 砂質土。明黄褐色・褐灰色砂の混土。
2. 黄灰色土 砂質土。
3. 灰色土 砂質土。明黄褐色土を粒・ブロック状に含む。黒褐色・灰色砂粒を微量含む。
4. 黄灰色土 明黄褐色土を多く含む。

(5号土坑)

- ① 黄灰色土 砂質土。明黄褐色土を均一に多く含む。
- ② 灰色土 砂質土。明黄褐色土を粒・ブロック状に含む。
- ③ 灰色土 砂質土。

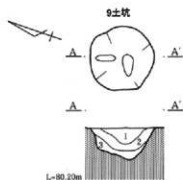
(6号土坑)

1. 灰黄褐色土 炭化物を若干含む。細粒・白色軽石含む。
2. 灰黄褐色土 軽石は1層に比べ極端に少なくなる。
3. 黒褐色土 炭化物が凝じる。全体に黒っぽい。
- ① 黒褐色土 軽石は含まれない。全体に黒っぽい。
- ② 褐灰色土 軽石がやや多く含まれる。全体にさくさくしている。
- ③ 褐灰色土 小粒の軽石がかなり多く含まれる。小石等も含まれる。



(7号土坑)

- ① 褐褐色土 砂質土。軽石を微量に含む。
- ② 黒褐色土 砂質土。軽石を微量に含む。 } (7号溝
- ③ 灰黄褐色土 砂質土。川砂を含む。 } フク土)
- ④ ぶい黄褐色土 川砂を多く含む。(8号溝フク土)
- 1a 灰黄褐色土 砂質土。軽石を含む。しまりあり。
- 1b 灰黄褐色土 砂質土。炭化物を微量に含む。
- 2a 褐灰色土 砂質土と粘質土の混り。
- 2b 褐灰色土 砂質土。細粒砂混じり。
3. 灰黄褐色土 砂質土。軽石を含む。
4. ぶい黄褐色土 砂質土。川砂を多く含む。



(9号土坑)

1. 褐灰色砂質土 白色粒子混入。
2. 褐灰色砂質土 明黄褐色土ブロック含む。
3. 褐灰色砂質土 鉄分の赤みが増す。白色粒子減少。

0 1 : 40 1m

第272図 第1面土坑(2)